ここで、めぐり逢う
～二十人の旅物語～

ここで、めぐり逢う　～二十人の旅物語～

相逢此地　～　二十人的旅日故事

編集:　　華通文友会
日期:　　2012 年 4 月 30 日

URL: http://hk.myblog.yahoo.com/cuhk-alumniee
Email: hkgculture@yahoo.co.jp

---本文集に関する内容及び背景---

本文集の作成、編集、発行は完全なボランティア活動です。

内容は、著者たちの生活に関する文章です。主に、日本に来た華僑・外国人の経歴や生活上の出来事です。

経費を除いた全ての収益を中国本土の小学校の建設のために寄付致します。

著作権について。

１）本文（文章及び関連ドキュメントを含める）の著作権は、
華通文友会（華通文友会、Huatong Club）及び著者個人に帰属します。
２）华通文友会、華通文友会、Huatong Clubという名称は、同一のものです。

（＊）テキストファイルは、暗証保護を実施してから公開いたします。もし、暗号の解除が出来ない場合、個別に対応いたします。

ここで、めぐり逢う　～二十人の旅物語～

相逢此地　～　二十人的旅日故事

编辑:　　华通文友会
日期:　　2012 年 4 月 30 日

URL: http://hk.myblog.yahoo.com/cuhk-alumniee
Email: hkgculture@yahoo.co.jp

目次

挿絵リスト

前書き

「ここで、めぐり逢う　～二十人の旅物語～」

前書き

　華通会が編集した「ここで、めぐり逢う　～二十人の旅物語～」文集は、チャリティー活動の一環として、在日中国人の経歴や日常生活などさまざまな内容が含まれています。作者と編集委員はほとんど中国人ですが、中に中日友好関係に対して関心を持つ日本人友人もいます。

　編集し始めてから一年の間に、われわれはたくさんの友人から励ましとご支援を受けまして、非常に嬉しく思います。これからもわれわれの成長のために、皆様の積極的なご参加とご提案をお待ちしております。

– 八代目会長の李東昇さんのスピーチは、華通会の過去の活動成果をまとめ、将来への展望を述べてくれました。

– 十一代目会長の俞祥游さんの活動記録は、現場の雰囲気を丸ごと記述してくれました。

– 張放さんをはじめメンバー７名が書いた新年会の記事は、洗練された内容に読者は魅了されるでしょう。

– 鄭夢豊さんは、我が華通会メンバーの先輩で、現在は外資系企業で幹部職をされていて、会社の中心メンバーとなっておられます。鄭さんは自分の経歴及びグローバル社会に通用する蓄積したノウハウを若者に伝えてくれました。

– 仕事のため、徐航さんは祖国と日本の間を行ったり来たりすることが多くあります。筆者はこの経験から自分の感じたことを伝えてくれました。それだけではなく、両国人民の仕事や生活での強いコントラストを分かりやすい言葉で説明してくれました。

– 漆昭義さんは日本で四年間仕事をしている間、中国人の友達と登山や宴会を楽しんでいました。中国へ帰国後は、シンセン市で電子製品会社を経営しています。休日には、郊外の山に出かけています。

- 鎌田孝昭さんは、65 年前の中国黒龍江省の事を語ってくれました。半世紀前の風景が目の前に映し出されたように、戦後に生まれた世代に、命と平和の大切さを感じさせてくれます。

- たどたどしい日本語で北海道を旅行した張子誠さんは、誤って雪山を登ってしまいました。当時（１９９０年代）は携帯電話を持っていないにもかかわらず、彼はどうやって窮地から脱出できたのでしょう？

- WINNIE CHAN さんの『生命進行曲』に、蚕が胡蝶へ羽化する事を『成長』と例え、自分の体験を語ってくれました。

- JAMES LI さんは友達のホームパーティに参加した時、面白いエピソードがあって、「私はどこから来た？」という面白い疑問を連想させました。

- CARRIE CHAN さんは留学生と社会人二つの身分で京都に生活し、閑静な古都を描きながら、日中文化の違いも述べてくれました。

- 林美児さんは偶然の機縁で来日し、彼氏と出会いました。困難を乗り越えて、国際カップルになりました。『縁があればどんなに離れていても、いつか巡りあえる』という諺を連想させました。

- 趙亜寧さんは来日して僅か一年しか経っていませんが、母国の習慣との違いをふまえて東京での経験をまとめてくれました。

- 華通会メンバーA さんは、退社時に電車で二度『不愉快』な事件に遭いました。被害者を助けられなかった事をずっと残念に思い、文章で遺憾の意を述べてくれました。

- 香港は人々に『コンクリートの森』というイメージを与える事が多いのですが、劉 Lu さんが描いた香港中文大学のキャンパスはまるで『桃源郷』のようです。香港で生まれ育った人間も脱帽しました。

- 劉軼さんが描いたバスケットコート内外にあるストーリーは、留学生たちの生活を映していて、人生の『サムネイル（縮図）』その物です。

- EMILY　CHAN さんは、日本に二度留学して、アルバイト先で友達がたくさん出来ました。生活面の体験から、東京という大都会の繁栄とエネルギーを実感しました。

- 関中中さんは学生時代から日本の漫画に夢中でした。高校の時に来日して、その後大学に進学しました。企業で勤務してからは、新聞社のインタビューまで受けた事があります。

-　2008年の北京オリンピックは中国人にとって感動的な夏でした。喬靖玉さんは終始観戦し、自分のチームを声援したり、好きな選手の勝敗に気を配ったり、競技場の内外で人々の反応を見たりして、普段のスポーツ観戦では体験できない感動を味わいました。

- 今井美樹さんの歌「PRIDE（プライド）」を聞いた喬靖玉さんは、幼い頃に英語の先生が PRIDE という単語を「傲慢（骄傲）」と解釈したことを思い出した。ところが、日本語の「プライド」は、「傲慢」で表現できない意味が含まれていると思われる。いったいこの「プライド」の単語は、中国語と日本語の中に、何種類の解釈と翻訳があるでしょうか？

- 古徳明さんはフリー・ミュージシャン[1]として日本語の歌２曲を創作し、東京の路上で演奏しました。努力と「チャレンジ精神」は、観客に認めてもらって、素晴らしい思い出になりました。

- 旅行好きの徐爽さんは、旅で撮った写真と心に残った風景を詩文に綴り、詩文も写真も輝かせました。読者の皆様には本文を読んでいただくだけで、徐さんと一緒に時空を渡り、日本と東南アジアの情景を全部鑑賞できるでしょう。

- Zhou LJ さんと DENNY　HO さんの写真集は、日本の「春の花・夏の林・秋の葉」を紹介してくれました。

[1] 「自由音楽家」のこと。

数日前の同僚の歓送会で、ある記念カード（色紙）にこういうふうに書かれていました。

「今日知り合ったばかりなのに、ByeBye としか言えない。
だが、ByeBye と言ったからこそ、明日会う時に Hi と言えるのよ」
このお便りを見た私も深く同感しました。

われわれが知り合った友人の中に留学生もいれば、会社員もいます。又は日本生まれ、日本育ちの中国人の第二世代、第三世代もいます。どうして日本にやってきたかと言うと、「日本の自然環境が好きだから」とか、「日本の文化や次文化に興味があるから」とか、「日本の科学と技術に感心するから」など、在日理由はさまざまですが、皆様は「道は違っても行き着くところは同じ」、日本に集まってきました。あなたはここを通る旅人だろうかここに住む（住み着いた）住民だろうか、かつてどんなに苦しんでいても楽しんでいても、私たちは今、ここに、出会いました。それは縁というものでしょう。

編集委員：張 子誠（代表）
吉田 真惠
日高 由美
川田 剛
山田 茂
葛 毅
鄭 明燮
于 珊珊
丁 勁松
滕 怡慷
顧 天姿
張 Y.（匿名希望）
薛 飛
写真撮影：徐 爽

相逢此地　～　二十人的旅日故事

前言

『相逢此地　～　二十人的旅日故事』文集由华通会编写，文集的制作，编辑和发行都是以做慈善活动为目的。

本文集的内容包括华人华侨的来日经历，在华和在日的生活点滴等各个方面。作者和编辑委员主要是在日的华人华侨，和心系中日两国友好和睦的日本朋友。

在编辑此文集的一年里，我们收到了来自很多朋友的鼓励和支持，对此我们感到非常感激。同时我们也希望大家踊跃参与此慈善活动，提出宝贵意见和建议，让我们可以及时改善并能够迈出崭新的一步。

下面简单介绍一下此文集的内容：

- 华通会第八届会长李东升的讲话。李东升用短短一席话，总结过去，展望将来，对华通会的工作起到了承前启后的作用。

- 华通会第十一届会长俞祥游的两段活动纪事。通过对活动的生动描述，让读者有如身临其境之感。

- 张放等人的新年会纪实。情感质朴，酒后真言，可为新年会的盛况作证。

- 郑梦丰曾是“在日华人名人录”中收录的华人团体之一的代表，也是一位成功的科技界领导。由于他工作繁忙，未能为本文集亲自执笔。田洪涛通过采访，记录了他讲述的“在日本ＩＴ科技公司的工作经验和心得”。

- 由于工作需要曾多次往返于中日之间的徐航用文字深入浅出地描写了两国人民在工作和生活习惯上的差异，抒发了自己的真实情感。

- 喜欢登山的漆昭羲在日本工作的4年里，结识了不少爱好登山的华人朋友，他回国后在深圳经营电子产品公司，繁忙工作之余也不忘和朋友分享登山的喜悦。

- 镰田孝昭追忆了65年前在黑龙江省的一段往事。这段半个世纪以前的情景至今依然历历在目，让我们更加体会到了生命的宝贵以及和平的来之不易。

- 张子诚在日语不精的情况下单闯北海道大雪山，在没有手机的当年，且看误打误撞的他如何脱险（九死一生）？

- WINNIE CHAN用蚕的“脱茧化蝶”来比喻自己的成长历程，用文字来奏响在日的「生命进行曲」。

- JAMES LI 在参加朋友的派对时，发生了美丽的小误会。这个小误会不但活跃了气氛，还让我们不禁提出一个发人深省的问题：「我从何处来？」。

- CARRIE CHAN曾因学习和工作在京都生活，她在文中不仅介绍了闲静而细致的日本古都，还道出中日文化的异同。

- 林美儿因机缘巧合来到日本，在此地她幸遇男友，排除万难，终成眷属，认证了「有缘千里来相会」这句古话。

- 虽然赵亚宁来到日本仅仅一年，已把在东京各处的见闻感想记录成文，将大家平日看到的情景与自己祖国的事物作一比较。

- 华通会会员A在下班乘电车途中，两次遇见「不愉快」的事件。由于未能为受害者提供任何帮助而一直耿耿于怀，希望能通过此文章表达自己万分遗憾的心情。

- 香港给人的往往是一个水泥森林的印象，但在刘璐笔下，香港中文大学简直是一个「世外桃源」，让土生土长的香港人也惊叹不已。

- 刘轶在文章中描述的篮球场内外的情景，既反映了留学生的真实生活，也是人生的一个缩影。

－EMILY CHAN两次来到日本留学，学习之余她也在打工的地方认识了很多朋友，更体会到了东京这个大都市的繁华与活力。

－ 闵中中在学生时代就喜欢日本的音乐、电视剧和漫画。高中的时候来到日本上学，其后考进大学并进入日本企业工作，让我们来翻开他的故事。

－2008年北京奥运曾让每一个中国人雀跃不已，乔靖玉声援中国队，观战十余日，亲身体验运动场内外的喜怒哀乐，感受人生百态。

－ 在听了日本歌手今井美树的歌曲「PRIDE」以后，乔靖玉回想起小时候的英语老师曾把Pride一字解释为「骄傲」的往事。但他发现，单凭「骄傲」这一种解释不能完全诠释歌词和现代生活中的用法。到底「PRIDE」在汉语和日语中能有多少种解释呢？

－ 古德明以自由音乐人的身份创作了两首日语歌曲，并在东京的路上演奏，他的努力不懈的精神得到了知音们的欣赏，也为自己的人生创造了不少美好的回忆。

－ 喜欢旅行的徐爽将心中所感用自己的文字描述了旅途中所拍摄的照片，让读者在文字中穿梭时空，用心去体会美丽的日本和东南亚风光。

－ 周LJ和DENNY HO的照片集，为读者介绍了日本的「春花，夏林，秋叶」。

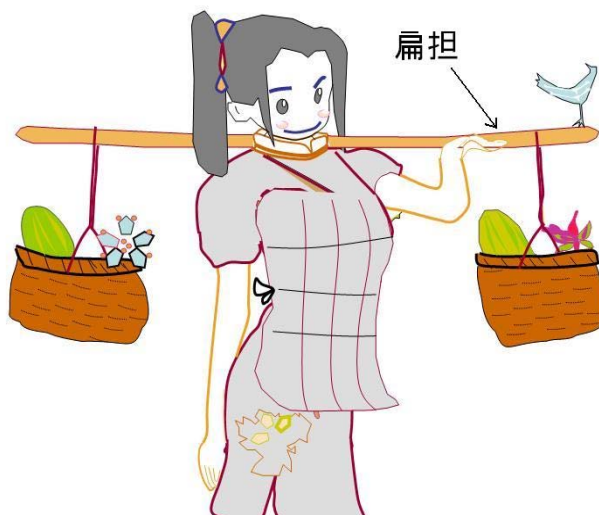
几天前参加一位同事的欢送会，欢送卡上的其中一个留言写到：「刚认识你便要说“再见”，但说了再见是为了明天可以再说“哈罗”」。看到这句话让人顿时感同身受。

我们认识的朋友中有留日学生，有在日本的就职人员，也有在日本出生的第二代或第三代华侨华裔。他们当中，有些朋友喜欢日本的自然环境，有些朋友喜欢日本的「文化」或「次文化」，也有些朋友喜欢日本的「科技」或其他的东西。我们相信无论是匆匆的过客还是久居的东道，大家能相逢此地，能够分担彼此的辛酸，分享彼此的欢乐，就是一种缘分。

编辑委员代表：张 子诚
编辑委员：吉田　真惠
日高　由美

川田　刚
山田　茂
葛　毅
郑　明燮
于　珊珊
丁　劲松
滕　怡憬
顾　天姿
张　Y[2]
薛　飞
插图摄影：徐　爽

[2] 希望以匿名身分为中国农村教育出力。

小扁担とは何か？

1　　小扁担とは何か

香港中文大学校友会联会教育基金会有限公司[3]
翻訳：　張 子誠、丁 勁松
校正：今村直美、吉田真恵

小扁担とは何か？

「小扁担奨学活動」は「香港中文大学同窓会連合会教育基金会有限公司」に属する「中国教育発展基金」により設立及び管理されており、現在の名誉顧問（賛助人[4]）は香港中文大学長の劉遵義教授[5]及び前学長の金耀基教授です。

「中国教育発展基金」は 1995 年に成立されました。香港中文大学同窓会連合会により組織され、1966 年に「小扁担奨学活動」へと正式に展開しました。2010 年現在、すでに奥地の貧困な田舎町の基礎教育を扶助しています。広東省、湖南省、四川省を中心に活動している以外、中国の北西部（甘粛省）や必要があると思われるその他の地区でも広く展開する計画です。発足以来、主催者や献金希望者、早期からの同窓会生に係わらず、多くの方のご参加を歓迎いたします。

「小扁担」の名の由来は、小扁担が我が国の農村で最も原始的かつ簡単、常用されて来た工具であるため。両方が均一であることから、中国本土と香港の平等を比喩しています。

「小扁担奨学活動」には、宗教や政治的な背景がなく、教育サービスに専念しています。全ての国内海外ボランティア成員は無償でサービスを提供し、中国本土への交通費、食事費用及び宿泊費用を自己負担している。寄付金より人件費[6]をまかなう事は全くなく、全額を教育サービスのために使用する事を決めています。

---

3 香港中文大学同窓会連合会教育基金会有限公司
4 刘遵义教授、沈祖尧教授
5 刘遵义教授
6 行政費用

「小扁担」の特徴

寄付金より活動費を差し引く事は絶対認めず、寄付の全額を直接に教育支援に使用します。ボランティア成員や活動参加者の旅費は全て自己負担になっています。

「小扁担」の支援内容：

1. 校舎の建設　　学校校舎の建設．教師の派遣・トレーニング

広東省、湖南省、四川省の農村に学校校舎の建設を進めました。農村の非正規学校の多くは正規の小中学校におきかえられ、就学率が向上しました。

2. 小学校への「奨励金」

貧困学生が学費を払えないことが深刻な問題となり、学校の運営に影響を及ぼさないために、各学校の奨学金の定員数に上限を設けず、幼稚園から六年生までの学生を需給範囲とし、中でも極めて貧しい中途退学をする危機の有る者（例えば、孤児、片親、親族が深刻な身体障害で労働力を喪失した者）を中心に申請できるようにしてあります。同一家庭でも、定員を定めず、1名以上の申請も可能とした。ただし、小扁担奨学金申請表に、同一家庭であることを明記する必要があります。

写真 1 : 学校に寄付する図書、教具、文具(肇慶市広東廣寧縣石咀鎮小学校）[7]
2007 年 12 月 10-12 日
照片 1：验发捐赠学校图书文体用品

7　肇庆市广东广宁县石咀镇小学　（驗發捐贈學校圖書文體用品）

まず先生が家庭訪問を行い、小扁担奨学金申請表に書かれていることとの事実確認を行います。それから学校の推薦名簿を作成し、学校と関連村民委員会にて公示を行います。公示確認後に小扁担奨学金審査委員会に許可審査に提出します。

学校が書類を受領後、事前に妥当な家庭訪問方案（道路状況を明記して、距離および経路略図、学生の名簿、隊を率いる先生の携帯電話番号、注意事項など）を用意しなければなりません。

先生をグループに分けて、小扁担奨学金ボランティア成員と同伴して、申請中又は奨学金を受けている貧困学生の家庭を訪問します。

もし詐欺行為等が発覚した場合、奨学金の受け取り資格を取り消す以外に、場合によっては該当学校または該当県の小扁担奨学金の受け取り資格を取り消す可能性も有ります。もし学校の管理実績と先生の教育成果が良好であれば、定額以外寄贈する物資あるいは育成訓練の指標を得ることができます。もしこの県の各学校と先生のすべての成果が良好であれば、県に定額金以外に学校を建てる、物資を寄贈する、あるいは育成訓練の指標を得られる、またはその他の協力計画があります。中学奨学金の実施細則を検討しています。

3. 小学生への「奨学金」：

奨学金は、受給対象となる学校の優秀な学生が不安なく学習できることを目標にしています。

全学年の全ての科目の総得点を計算し、幼稚園から六年生まで、各学年の成績上位 3 人の学生が、奨学金を得ることができます。第一位は人民元 150 元、第二位は人民元 100 元、第三位は人民元 50 元となっています。

写真 2：奨学金を配布する儀式(肇慶市広東廣寧縣石咀鎮小学校[8])

2007 年 12 月 10-12 日

照片 2：颁发奖学金仪式(肇庆市广东广宁县石咀镇小学)

小扁担が受給対象となる学校を訪問する時、寄付者あるいはボランティアからの代表が、自ら奨学金を受章する学生に与えます。受章する学生と保護者は学校に戸籍簿を参持し、署名して受け取ります。受章する学生は少なくても一通の手紙を自ら書いて、寄付者に感謝の意を表わさなければなりません。中学奨学金の実施細則は検討しています。

4. 「教師育成訓練と交流」：

必要な寄付金額は案件の性質によります。範囲は学校の管理、教育の技巧、英語の教育、学生の補習などを含みます。農村の教師が職場をしっかりと守り、教育の質を上げるために、小扁担は深センで「中港教師交流キャンプ」を行いました。香港中文大学と香港理工大学の教授、講師を組織して、広東省韶関市乳源県、肇慶市広寧県にて、現地の中小学校の英語先生を対象に育成訓練しました。二校の大学生を組織して現地の小学校にて、模範活動で法律と英語を教え、また中学生のための思春期に関する一般講座も行いました。かつて広寧県教育局を援助して、小学校の英語先生の訓練クラスを対象に三回開催しました。

8　肇庆市广东广宁县石咀镇小学

小扁担は定期的に学校を訪問し、良好な学校を選抜して、すべての校長、教師が定期的に訓練を受けられるように出資援助しています。北京師範大学管理学院教育部の小学校校長訓練センター、上海閘北第八中学校の劉京海校長の『成功教育研究所』などを含んでいます。

5. 「定期的な図書、教具、教材の買い入れ」：

すべての学校での毎年最低人民元 2000 元、学生人数が多く、学校が小扁担との協力が良い場合、最大毎年人民元 5000 元に達することができます。小扁担は毎年援助を受けている学校を訪問して、定期的に学校の図書、英語、音楽、美術の教具、教材、教養娯楽のスポーツの用品などを買い入れます。また一部の学校の需要および実績によって、テレビ、ビデオ、コンピュータと周辺設備、ファックスなどを寄贈します。

6. 「暖かい援助」：

寮に住む小学生の一人一人に寝具一式と生活用品、例えば綿入りの掛け布団、フェルト、かや、ござ、枕、水桶、ご飯の杯、うがい用のコップなどを寄贈します。寮生の生活条件を改善し、冬と夏の睡眠を確保し、授業を受けるのに十分な体制を整えられるようにします。

学校が管理責任を負うことで、寄贈物品を管理し、きれいにします。寝具と生活用品は学校内の宿泊時にのみ使用するだけでなく、小学校卒業後は家に持ち帰って使うことができます。

7. 「先生への尊敬・敬意を表すために」[9]：

寮に住む農村学校の先生は、生活条件が厳しいです。小扁担は「敬师暖流行動」計画内の学校の各先生に、寝具一式と生活用品を贈ります。内容と規格は学生に贈呈するものと同じもので、先生に尊敬の意を表します。

8. 「特別なケースについて」[10]

---

[9] 中国語は、「敬师暖流」。

毎年調整して、限度がありません。奨学金を受けている学生の中で、例えばひどく貧乏で、特殊な困難が有る者、孤児、学生あるいは保護者が頑固な病気を患ったり、あるいは深刻な身体障害などがある者に対して、奨学金は勉学援助の維持に不足するため、特別援助専案を設けて、これらの学生と家庭を援助して、難関を乗越えるようにする。各特別援助専案の選択設立は、先ず、学校と教育局に報告を提出するように求めます。小扁担ボランティアが自ら家庭訪問をして、出資援助の事実を確かめてから評価することで、全ての援助寄付が目的に合った使い方が出来るようにします。

9. 「特別貧困学生の寮に住む食事の補助金」

一人が毎年の人民元 500 元、奨学金を受けている学生の中で、特別な貧困者には、学校の寮に住むために必須な食事費用を補助します。

『小扁担奉仕（サービス）』活動とは？

『小扁担』の中国大陸にある協力パートナーは、援助を受けた学校以外にも、中国政府に関連ある企業があり、また中国大学生のボランティアもある。2006 年から、小扁担は北京、四川、甘粛のいくつかの大学生ボランティア団体と協力して経験を積み、お互いの補助をすることで奉仕の向上に繋がっています。

小扁担は中国の大学生を『低賃金労働者』[11]と見るだけでなく、仲間であることのほかにサービスを受ける対象でもある。小扁担の卒業生が中大学生の小扁担を育成したように、中国の大学生が結成した農民生活支援組織を育成する。更なる大きな期待があるからだ。これらの新社会人は直接中国の各地の様々な業種に行くことになる。中国にはまだごくわずかな人しか高等教育受けることができない。この世代の大学生は未来の四十年において多くのチャンスがあり、社会貢献に更なる大きいな力を発揮することでしょう。

---

10 中国語は、「特別需要専案」。

11 中国語は、「廉価労働者」。

北京の中国青年政治学院学生組織である（西部[12]の窓口）（ブログ：xbzc.blog.sohu.com,アドレス：www.5jia1.com/g/xbzc）には200人あまりのメンバーがいる。理論と実践を同時に重んずる（農民支援社会団体？）です。2006年夏休みで小扁担四川天全県の寄付で建てられた小学校開幕時に初めて共同活動しました。北京と香港のボランティア達が成都で合流し、7日間は川西にある援助を受けた学校を巡回訪問をした。小扁担の活動基準で任務を遂行し、新しい奉仕エリアを考査しました。第８日目、香港のボランティアが香港に帰り、北京のボランティアが新しい学校に行き、泊まりで15日間教育支援を行いました。

夏休みのクラスは高中低学級に分かれ、漢詩、国学、歴史や英語など授業があって、演芸の練習、運動会の他に儀仗隊（チアリーダー隊）も開設しました。新疆、内モンゴル、四川省、貴州省、湖北省、海南省、江西省と北京市の大学生達は、250あまりの山地の子供たちに新しく充実した夏休みを与えました。

小扁担は「西部の窓口」四川活動の旅費の八割を負担し（残りは学生各自負担）、サービスの質を検査し、「西部の窓口」のボランティア申請と教育支援の方針と教材と財政予算を審査した。また県庁、役所、学校の協力内容や安全保障、奉仕の徹底を確保しました。

最初の共同活動はとても成功したと両側とも感じました。香港と海外の卒業生は年齢近い子供を連れてきて、中国の青年達との共同活動を尊重し、交流を深めました。

三年間において、冬休みと夏休みであわせて6回共同活動を行った。四川省天全県、宝興県、甘粛省泾川県[13]の教育支援以外、定西、平涼、慶陽、天水４市、11県にある百近くの学校を考査した。「西部の窓口」は小扁担の質素な風習と無報酬、まじめな仕事ぶりについて認めました。小扁担は次から次へと真面目に応募してくる中国の大学生を大事にしています。

12 中国の西部は、北西部の新疆、西部のチベット、南西部の四川省、雲南省などの地域のこと。
13 甘粛省泾川县

2008年7月に、四川省大震災の災害地の夏休みボランティア活動の折に、小扁担は申請者に対し体が丈夫で自分のことは自分でできることが条件だった。災害地に負担をかけないために。6月審査試験終わるとすぐに北京の学生たちは訓練を始めた。泳げない人はすぐ習いはじめ、毎日朝1600メートルのランニング、歌や遊びや教える練習などなど。このような一所懸命な団体の信念について、香港のボランティアも尊敬するばかりです。

あるＯＢ（校友）は、「中国の学生たちから中国の希望が見えた」、「中国本土の大学生の皆さんは器用（頭がいい）ですね。私も頑張りたいと思っています。」と言いました。

奉仕を持って若者の成長を鍛えることは、実は生命教育のひとつであり、また奉仕は架け橋であり、都市と農村を結び、中国と香港を結び、年寄りと若者を結びつけました。

歴代の校友と皆様の支援に感謝している。小扁担は親子団の設立から、中学生の教師と学生の団体、香港の中大学生の小扁担、中国大陸の大学生まで広がりました。この歩みをみても小扁担の「農村教育に寄付すると同時に若者の成長を鍛える」という主旨を裏切っていません。

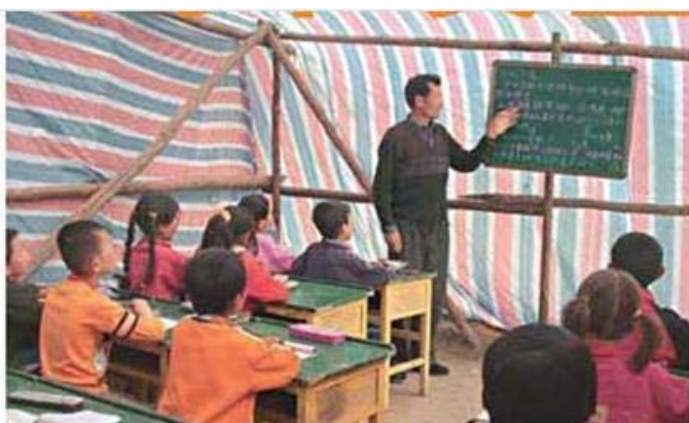
写真とコメント

写真：北京、香港と海外の青年ボランティアが山地の貧困学生を訪問している。

照片：北京、香港和海外青年义工，在山乡家访贫困学生。

写真（上）：甘粛省の子供たちが始めてこんな綺麗な絵本をもらう。

写真（左下）：北京と香港のボランティアが四川省災害地の什邡市富新鎮にいる。

写真（右下）：真面目に活動したボランティアが証書を手に入れた。

学生在临时搭建的帐篷里上课

四川雅安市天全县两路乡马泽小学地震后无恙（下图）

宝兴县中学初三复课 ，两班八十多名学生挤在多媒体教室上课

原定7月开幕的四川雅安市天全县两路乡马泽小学 ，震后无恙(鸣谢林康祺建筑师协助跟进)

写真（右上）：学生たちは、臨時的なテントで授業を受けていた。（四川大震災の直後）

写真（左中）：宝興県中学校は旧暦の七月三日に授業が再開された。二つのクラスの八十数名の学生は一つの教室で授業を受けていた。

写真（右下）：2009 年 7 月開校を予定していた四川省雅安市天全県両路郷馬澤小学校の校舎。震災の後、校舎建物は無傷だった。（建築士の林康祺氏に検定・確認済み）

右上图：学生在临时搭建的帐篷里上课。

左中图：宝兴县中学初三复课，两班八十多名学生挤在多媒体教室上课。

右下图：原定2009年7月开幕的四川雅安市天全县两路乡马泽小学，震后无恙(鸣谢林康祺建筑师协助跟进) 。

『夜桜』
横浜市桜木町（2010 年 9 月）

『夜櫻』
橫濱市櫻木町（2010 年 9 月）

華通会篇

李前会長のご就任挨拶

2　李前会長就任ご挨拶　（李東昇）

李東昇
2004年1月10日

会員の皆さん。新会長として就任いたします。
張Y会長、長老たち、そして華通会の皆様,
皆さん、こんにちは！

あけましておめでとうございます。李東昇と申します。皆様が猿の年に「吉祥、如意」になるよう願っております。

張Y会長、元老の方々よりご推薦をいただき、心より感謝いたします。

浅学非才の身ではありますが皆様の信任を得ることができ、心より感謝いたします。 華通会の同郷たち、皆様の力になれる事が私の願いです。

華通会の目的は、主に以下の三つで構成されています。

１）グループ交流
F公司(会社とか企業)にも、さまざまな部門（製品開発、ソフト＆サービス、インフラ、デバイス等)
があることは皆様もご存知かと思います。
華通会メンバーはどこにもいます「無処不在」[14]。各分野の専門家「各路英雄豪杰」[15]によるグループ交流（自発で良い）によって、お互いの視野をまず広めることが期待されます。そのうち、中国本土でも 「わが会」を現地化（「土化」[16]）できることに貢献できるのではないかとも思っております。

14　**無処不在：中国の慣用語。どこにも居る意味。話題の“ユビキタス (Ubiquitous)”、つまり「いつでも、どこでも、だれでも」存在感があり、それらの恩恵を受けられるという意味。**
15　中国の慣用語：　ここには、各分野の技術的に先鋭な人材のことを指す。
16　中国語の「土」の字は、現地の意味を持つ。「土化」は、国際化の一環として、まず

２）メーリングリストによる情報交流

生活、ビジネス両方の面で積極的にメーリングリストを活用し、交流を深めましょう。

３）集団活動

「独在異郷為異客，毎逢佳節倍思親」[17]**。**どなたにも、寂しいと感じてしまう時はあると思います。色々な団体活動（新年会、スポーツ大会、ハイキング、レジャー等）を通し、少しでも華通会メンバーの寂しさを紛らわせることに役立てることができれば幸いです。

今年も、以上の三つのことをベースにして華通会の活気を生かしましょう。
皆様の支持に応えられるよう頑張って行きたい所存でございます。

（春季の集合「年頭聚会」は別途メールでお知らせ致します）

李　東昇

は現地の環境や習慣に合わせること（現地化）するという意味です。

[17] 中国唐朝詩人王維の詩句（中国の諺）：　「他郷にいる時、特に祭りや祝日（めでたい日）に、家族や親戚を想い、寂しいと感じる時がある。」の意味。

２４名の参加者が出席した夕食の集合写真（２００７年秋）

前の列にいる番号を付けたメンバー：

①Xu会長、②李会長、③Zhang会長、④兪会長

著者紹介:

李　東昇 （8代目会長）

1978 年華東工学院（現在の南京理工大学）に入学し、卒業後同学院の大学院に進学する。

1985 年大学院卒業後に講師として勤務。

その間は、論文博士として在籍。専門分野は CIMS(Computer– Integrated Manufacturing System)、コンピュータ統合製造システムである。

前期課程を終えた後に、日本に就職するため博士課程を中退。

1991 年来日。ソフトウエア開発会社の職を経て大手日本 IT 企業（日本 F 社）に転職。

現在中国の関連会社への委託開発管理システムを担当している。

主に、海外の子会社で展開・開発できるようなシステムを日本で設計する。

2009 年（株）Fシステムソリューションズに出向中。

PMI 認定 PMP

２００4年李东升新会长就任讲话　（2004年1月10日）

各会员，新会长上任了！

张Y 会长、各位长老、华通会的各位同仁，
大家好！

我是李东昇，在此给大家拜年。
祝愿大家猴年吉祥，万事如意！

曾蒙张Y 会长的推荐和诸位元老的厚爱，尽管本人才疏学浅，却能得到大家如此的信任，不胜感激。

能为华通会的各位父老乡亲尽本人的一点微薄之力，是我的心愿。

我认为华通会的活动主要有以下三项事宜：

１）公司内外的交流
我们公司内、有各种各样的部门（产品开发，软体，顾客服务，内工化服务，电子元件等）。

华通会会员无处不在。各路（各专门）英雄豪杰可以在内部作自发式交流、以扩大视野。同时可以为「我们公司」在中国大陆进行「土化 (国际化的一环)」作出贡献。

２）用邮件列作资讯交流
无论在 生活和商务方面，请积极使用邮件列作交流。

３）集体活动
「独在异乡为异客，每逢佳节倍思亲」。身处他乡，难免有寂寞的时刻。通过各种各样的集体活动（新年会、体育运动聚会、郊游等），希望多多少少能减轻会员的寂寞感。

今年，希望通过上述三项事宜，为华通会加点活力。

希望大家多々支持我，不甚感谢！　稍后组织年头聚会，另行电邮通知。

李　东升　　（2004年1月10日）

笔者介绍：
李东升(第八任会长)
1978年考入华东工学院（现南京理工大学），后直接考入同院研究生。
毕业后，留校任讲师。
其间，也考取了在职博士，方向是CIMS计算机集成制造系统。
博士课程修了后因来日本工作而中退。
1991年来日本后，先是在某软件开发公司工作，后转入日本某IT大手企业。
现在，主要负责面向中国关联公司的外包开发管理。
即把在日本设计好的文档拿到这些子公司去开发。

華通会花見大会記事、結婚式の二次会記事

3　華通会花見大会記事、結婚式の二次会記事　（兪祥游）

2007.3.31 華通会花見大会記[18]

著者：　兪祥游

校正：　川田剛

１．期日と場所

今年度（2006 年度）の最終日 3/31（土）、神奈川県立三ッ池公園で華通会[19]の花見大会を行いました。

２．参加者

来場者は陳 YongJ、李 DongS とその末息子、劉 Y とそのお連れの湯さんと王 L、それから姜 H、元 Q、梁 H、Hidaka、喻 Q 夫婦と子供二人、劉 YaQ とその息子、私と後に来た子供および親戚三人を合わせて、総勢二十人でした。

３．天気

[18] 2010 年 7 月執筆

[19] 華通会は在日中国人及び華僑同士の集まり会である。

- 主旨及び歴史：
- 中国人同士の交流を介して、日本における生活をより豊かに、社会・職場における仕事をより楽しくするものです。
- １９９７年より、在日中国人及び華僑同士の華通会が発足され、１９９８年より、交流手段としてメーリングリスト（ML）が稼動いたしました。
- ML は加入者のリフレッシュ、健康を目的とする懇親会、映画鑑賞会、スポーツ、旅行などの連絡手段として提供するものです。
- 華通会には会長ポストがあり、活動の旗振り役です。過去には１２名の会長がいました。
- 本文集は、文化交流のために、メンバーが書いた自分の来日・在日の生活上の出来事を記録したものです。
- 本文は、１１代目会長兪 XiangYou さんによるものです。

朝起きたときに予報通り、晴れでもなく、雨でもないひんやりとした天気でした。その後（花見の途中）、遅れてきた劉Ｙとその子供のおかげか、日が差しました。ほんの一瞬でした。
午後遅い時間、つまり帰えろうとしたときにパラパラと雨が降ってきました。それは我々を見送ってくれたような気がしました。

４．事前準備

４－１　待ち合わせ

朝私は、事前準備を手伝ってくれる劉Ｙさん、姜Ｈさんと元Ｑさんを車で定刻通り、矢向駅に迎えにいきました。

前日のお酒のせいか、それともテレビ討論会を見すぎたせいか、９時３０分の集合時間に対して「１０分ほど遅れる」と劉Ｙさんから連絡が入りました。

車の中で待っている私は、駅周辺の人々の行動、表情を楽しみながら、劉Ｙさん達を待っていました。

そのとき、ある若い人が、最初は何気なく何かを待っていることに気づきました。しかし、時間の経過につれて、この若い人はイライラし始めました。私のほうを見たり、電車を降りた人をうかがったりした。落ち着かずに、さらにその次の電車時刻を確認したりしました。

「すみません、遅くなりました。」予定時刻を１０分すぎたころ、やっと劉Yangさんがきました。

挨拶しているうちに、他のメンバーもぞろぞろと来ました。

全員が揃ったとき、定刻より３０分過ぎた頃でした。
さすが皆、若いからすぐ気を直してテキパキ車に乗りました。
突然、あの、ずっと誰かを焦りながら待ちくたびれた人が車の傍に来て、“私も三ッ池公園で花見をしたくて、車に乗せてください”とやっと重い口を開いた。

皆が爆笑しました。

実は彼は劉Yさんのお連れで、今年4/2に入社する予定の湯さんでした。劉Yさんの遅刻のせいで、湯さんは自分が待ち合わせ時間、または場所を間違えたのではないかとばかり考えて、劉Yさん達が車に乗ったことにも気がつきませんでした。

湯さんは車が動く寸前にやっと我慢の限界で、車の傍にきました。

４－２　場所取り

三ッ池公園についたときには、既に周りの駐車場に車が一杯で、すぐ場所を取らないとやばいと嫌な感じがしました。公園の東門の前で二つのグループに分かれて行動することにしました。場所取りと食料確保の二グループです。

場所取りについて劉Y、元Qと湯さんの男女三人に任せました。
場所取りの奮闘記を三人の誰かが書いたものを別途参照ください。
ただし、場所が二転三転したことを聞いたので、大変苦労したことを想像できました。

その場所取りの中に、一つ付け加えることがあります。それは、遠方から来る参加者にこの広大な公園（約３０ヘクタール、一周すると１５００メートル）のどこかの指定集合場所を伝えるのも技が必要です。

今回の花見の中にはこの意味での奇材と思われる喩Q家族がいます。喩Q家族は初めて、このような集りに参加しました。当然華通会メンバーの一人も知らなかったのです。この広さ、また、数万人の観光客の中に僅か数人を見つけようという難問を喩Qさんが私に電話で投げてきました。

「一番ハンサム、優しい人達を探せ」と私が逆のクイズを突っ返しました。
さすが、広大なアメリカで二年の生活経験があったせいか、この広大な大きさの三ッ池公園をものともせず、喩Qさんはすぐ上記の「謎々」クイズが解けました。まもなく喩Q家族が劉Y、元Qと湯さんと合流したとの連絡が来ました。

私にとってはいまだに「何で直ぐ分かったか」ということは謎です。

４－３　買い物

姜Hさんと私が買い物に行きました。

近くのドンキホーテに飲み物と食べ物を買いだしに行きましたが、渋滞などを含め、予想よりかなり時間がかかりました。「食い物まだか」という催促電話が何回もかかってきました。花見の気分を早く味わいたいなという気持ちはしみじみ感じました。

５．本番の花見

食べ物と場所を確保したときに既に正午１２時でした。漸く、皆が座れて、話せる状態でした。　　皆がビールを飲みながら、さくらをはじめ、公園内の樹木、頭上の桜の花を観賞し始めました。

飛び入り参加したいという電話があり、鶴見駅に出迎えに行かなければならなかったのですが、バスを利用してくれたので、すぐ到着しました。李DongSとその末息子でした。

お酒がお腹に入ると、少し酔い始めて、心も打ち解けました。

５－１子育て編

高校三年生の子を持つ親、李DongSさんは、どれぐらい子供に苦労したかを明らかにしました。自分の異国の価値観で子供を育て、よい人生の道を拓こうとしたが、この価値観はどれぐらい日本社会に認められるかは全く未知である。そのせいか、子供との心のずれは日が経つにつれて、ひどくなる、ということです。一方、その悩みは自分の考えを深めた側面もあります。

私もこれから、高校三年生の子を持つ親になります。彼の経験が私には参考になり、力になります。私は「平凡な人生、野望のない道を歩むために、本で勉強するのは一つの簡易な方法である」と娘によく言ったが、なかなか聞いてくれず、遊びばかりです。李 DongS さんが「私は君の気持ちがよく理解できます」と私を慰めてくれました。

幼い子を持つ喩 Q さん、劉 YaQ さんがいて、子供を可愛がっています。この様子を見て、ちょっと前までの私自身の姿が映ったのです。そのような過去もあったかな、しかも一瞬だったなと感嘆しました。

劉 YaQ さんは、仕事が忙しくて、日本に来て親としての責任が果たせなくて、子供に「負債」を感じたという。これから命をかけて、この「債」を返し、喜んで子供の世話、などに「無私奉献」すると決心しました。

きっと模範なママになることでしょう。

子供への愛情に関してはまた別途劉 YaQ さん達からコメントがあるだろう。

５－２　入社一、二年生の青春編

今回花見大会の特徴は若い人が多いということです。入社一、二年の人もいれば、これから入社する湯さんと王 L さんもいます。

素朴な談笑をしながら、将来への夢、新しい世界を開こうという野望を、迫力をもって堂々と述べました。一回り上のわれらの世代を圧倒します。本当に輝く未来が彼達を待っていると感じます。

ところが、忙しいせいか、勇気が欠けているせいか、それとも躊躇するせいか、自分の目の前の恋については口を堅く閉ざしていました。

彼らは成人になったばかりで来日した人もいれば、日本で生まれ育った二世か、三世の人もいます。本当に恋盛りの時期であると思います。

「早くフリーエージェント（FA）-つまり独身であることを早く宣言して自分をアピールしたほうがよいのではないか」と若い人達を口説きましたが、黙って聞き流している様子でした。

今回、陳 YongJ さんが積極的に合コンを紹介してくれるそうで、若い人に「是非ご利用ください」と薦めました。

逆に「年寄り」達は盛り上がりました。このような「合コンを利用したい」、「私はもう遅かったか？」、「相見恨晩」[20]などと連発、冗談を交えながら、笑いを誘ったりして盛り上げました。

５－３　スポーツ編

劉 Y さんを初め、若い人達は子供に囲まれて、ジュニアサッカーを始めました。

劉 Y さん達の真剣さ、熟練さと熱心さは幼稚園の先生よりランクが上ではないかと感心しました。一瞬職業が間違っているのではないかと疑いました。一時間たたないうちに一部の若い人達が、疲れはてました。「自分が遊ぶより、子供を相手にするほうが疲れる」と誰かが悟ったようです。

子供が疲れて、休んだ頃に、若者達が自分達のバレーボールをし始めました。厚手の服を徐々に脱ぎ、10℃の寒気の中でシャツ１枚しか残らないほど激しい運動をしました。

「普段溜まったストレスはこの一日だけで発散できたでしょうか？」と傍に見る私は呟きました。

５－４　桜の花の鑑賞

忘れてはいけないのはやはり花見である。

---

[20]「相見恨晩」：中国語の慣用語。意味は、初対面の人に対して、「もっと早く会えばよかった」という気持ちを表す言葉です。「相逢恨晩」ともいいます。

三ッ池公園は日本さくらの会による「さくら名所 100 選」に選ばれています。

桜を鑑賞しながら公園一周を回ると二時間は軽くかかります。

中には丘あり、渓谷あり、緑地あり、三つの池があるこの公園はあちこち桜の木があります。どれも美しく咲いています。
「満開という言葉を今時使えば一番適切だ」と独り言に。ピンク色があれば、橙色もある。一番多いのはやはり白である。純白で心の美しさを表しています。

一年の内、夏、秋、冬の静かな苦労を経てやっと春に咲き、皆を圧倒させてくれます。

桜木の真下に座って、お酒を飲むと、酒よりきっと桜の花に酔い、自分がコントロールできなくなるだろうと感じました。

賢い（聡明な）華通会の皆が少し離れているところに集まって、じっくり鑑賞できるようにしました。それでも美しい花に引かれ、時々近づいて見たりして、桜木の真下にいってわざと酔わせたりしました。そのうち心が溶け込んでいきました。

５－５閉会
予定時間（午後 3 時）が既に一時間オーバーしてしまいましたが、皆さんはなかなか離れたくありませんでした。

「時間の流れは早いですね」と感じました。物理学者アインシュタインの相対理論が実証されました。「楽しく過ごすと時間が短く、つらい仕事をすると時間が長く感じる」ということです。

そのとき、空も懐いてくれまして、パラパラと涙（雨）を流し始めました。桜の花びらは風とともに我々の後ろをついてきて、漂いながら、無言で静かに地面にゆっくりと沈んでいきました。

「食べ物、飲み物が口の中に入ると、いつかなくなる」、また、「桜の花もそのうちに散ってしまう」という現実ですが、華通会は友情と愛情の塊と魂は永遠に続くだろう。

神奈川県立三ッ池公園。2007 年 3 月 31 日。

結婚式の二次会記事

2010 年 7 月

著者：　兪祥游

校正：　山田　茂

各位

兪です。

６月２６日（土）の夕方、東京都立川市柴崎町 3-5-11 柴崎ソシアルビル 1 階楓ダイニングで閔中中さん結婚式の二次会を華通会[21] メンバーの一人として出席しましたので、皆様にご報告いたします。

１．出席準備

正式な披露宴より、二次会では少しラフな格好でもよいかなと思って、「平服」で出席しようと考えましたが、事前情報を収集不足で、相談相手も見つからなかったので失礼のないようにフォーマルなスーツで（白でない）普通のネクタイを付けて出席しました。

日本にきてから２０年以上経ち、何回も二次会に出席したが、フォーマルなスーツを着たのは初めてです。[22]

---

[21] 華通会は在日中国人及び華僑同士の集まり会である。

・　本文は、華通会の１１代目会長兪祥游（XiangY）さんによるものです。

[22] 「平服」について、筆者は「念のため」にフォーマルなスーツを着用しました。しかし、「平服」の一般の意味は、フォーマルなスーツに限りません。下記は、参考例です。

『この場合（結婚式）の“平服”については、既に回答があるように、“普段着”という意味ではなく“正装ではなくても良い”という意味です。

会員制のレストランウェディングでしたら、それなりにカジュアルな披露宴だろうとは思いますが、そうはいっても“お祝い”の席ですから、それなりに“華”を添える装いで行かれた方が宜しいと思います。お化粧もそうです。全くのノーメークは相応しくないと思います。』インターネットの「教えて！goo」

http://oshiete.goo.ne.jp/qa/310477.html より。

また二次会なので､特に｢お礼｣とか祝儀は深く考えなくてもよいということで､気楽に参加できるのではないかと考えました。

２．会場の雰囲気

立川駅から三分ぐらいの距離のバーのような外形の会場です。

この場所は、私にとって電車一本で行けるので、とても便利です。

２６日夜の東京は少しの風と小雨が､夏の暑さを和らげてくれました。中国語ではこの程好い天気が「風水到来」[23]を連想させます。

会場に着いたのは１９：００前でした。玄関の前には既に沢山人がにぎわって、入場を待っていました。

玄関では会場運営者がお祝いを兼ねた「会費」を集めました。

中に入ると長方形の会場で、ライトを少し薄暗くしていました。

長方形の長辺の一辺は飲み物を出すカウンタで､一段ぐらい低くなっていました。

カウンタの前にスピーチできるようなテーブルを置いて､新郎新婦が低いところから､高いところに向かって挨拶できるように礼儀作法も考慮していると思われました。

会場に入ると、カメラマンが一人ひとり、インスタント写真を取り、「記念の一言を写真の下に書いてください」といってくれました。

この一枚の写真は新郎新婦にとっても、二次会出席者、また会場運営者にとってもかなり意味のあるものです。

---

[23] 「風水到来」:中国の古代語。もともと｢風水宝地｣はよい住まい、いいところなどを指しているが、現代人では「風水」が幸運、財宝を意味し、「風水到来」は幸運を運んでくる、財宝を集結することを意味する。

細かいところに配慮していると感心しました。

記念の一言を書いた後に、年寄りの私は一番奥の隅を選んで、座って待っていました。

その内、劉さん、楊 SouD さん（部長）、梁 H さんなどが次々と到着し、楽しくなりました。

３．二次会本番

１９：３０頃、司会者は二次会を始めますと宣言しました。

アナウンサーのような流暢な日本語で今日の二次回の流れと注意事項、参加者のすべきことをも説明しました。

この説明を聞くと、参加者は快く、楽しみに次の展開を待ち望みました。

「新郎新婦、ご入場」と司会者が興奮しながら大きな声で叫びました。
音楽を流し始めました。

参加者の目線が司会者からカウンタ右の玄関に移りました。

玄関のライトが徐々に明るくなってきて、白い礼服とウェディングドレスを着た新郎新婦が手を繋ぎながら現れました。

大きな拍手の中、音楽のメロディに合わせて、新郎新婦が会場カウンタ前のテーブルにゆったりと歩いてきました。

ライトが新郎新婦の動きに合わせて、テーブル近辺に落ち着きました。

新郎の閔さんが強烈なライトの下で、別人のように「興高采烈」[24]、「精神煥発」[25]、入場してからずっとニコニコしていました。

---

[24] 「興高采烈」：中国語の慣用語。意味は、わいわいして、楽しいことです。宴会などの

優雅な妻は傍にいて安心している様子でした。

「それでは、新郎新婦からのご挨拶。まずミン　チュンチュンからです。」と司会者が、歓声の中に、言い出しました。

会場は一瞬静かになって、参加者が新郎関さんの動きを注目した。

関さんが胸の中のポケットから丁寧に一枚紙を出して、皆にお辞儀してから、感謝の言葉を読み始めました。不慣れな日本語ながらも、一言、一言は皆の心を打つものでした。

続いては、流暢な日本語で挨拶をした奥さんでした。

そのとき、会場の客は、異国の二人はきっと末永く幸せなカップルになれると確信したでしょう。

その後、二次会の進行通り、食事しながら歓談をしたり、新郎新婦と一緒に記念写真を撮ったりした。

一段落したところで、ゲームが始まりました。
ジャンケンとか、競技、また変わった抽選の仕方で、豪華かつ高価な賞品がもらえます。
・東京湾ヘリコプター　ペアチケット
・東京湾 クルージングディナー　ペアチケット
・ディズニーリゾート　ペアチケット
・ホームプラネタリウム

私は東京湾 クルージングディナーに招待されたことがあるので、上記の賞品の価値がよく分かります。なんという豪華な賞品でしょう。

喉から手が出る程欲しいが、今回は若者中心であることと、新郎新婦の気持ちを込めたペアチケットなので、ゲームを若い人たちにお任せししました。私は後ろの隅

イベントで出来事を期待している雰囲気を意味します。
[25] 「精神煥発」：中国語の慣用語。意味は、見た目にも精神的にも、元気でフレッシュな状態であること。

に戻って、ひたすら楽しんでいる参加者を見たりして、今日の流れなどを振り返ってみました。

①ざっと見ると参加者は60人ぐらい、関さんと近い年が殆どです。

②私の知っている華通会のメンバーは楊SouD部長、梁Hさんをはじめ、8名います。
その中に久しぶりのジョレイさんもいました。

③二次会の全体進行は映画シーンのようにスムーズに流れていることを考えると、事前にかなり綿密に計画していると思われます。

推測ですが、今回の二次会を専門業者に頼んですべてアレンジしてもらったのではないかと勝手に思い込みました。

20年前に私の結婚式ではすべて自分でやって大変苦労したことを今でもはっきり覚えています。そのとき、このようなサービス業があればいいと思いました。

④異国にいる関さんは、異国の彼女と結婚式を挙げたときに、同じ文化、同じコンテキストを持っている華通会メンバー数人が参加できたことで、お互いに支え合い、精神的に刺激しあうことが出来たのではないかと考えています。

更に披露宴(いわゆる一次会)にも華通会メンバー何人かが参加していたと聞いて、華通会は単なる会社同士の交流する「場」だけではなく、日本の社会に溶け込んでいく踏み台でもあるように感じます。

⑤一部の強烈なナショナリズムの存在する世の中に、関さんが先行してグローバルで融合していく世界をこれから作っていこうと決意しているよう見えます。

突然歓声が沸きました。私は「深思」から現実に連れ戻されました。

「最後のゲームが終わった」のだと直感しました。歓声は賞品に当たった人への祝福です。

「これから二人の出会いから、結婚するまでの歩みをビデオでご覧ください」と司会者が言った直後に、ロマンチックな音楽をバックに、二人の北京、西安、九寨溝[26]など、中国各地の旅行での二人の姿がカウンター前のスクリンーに映し出されました。

参加者が感心したり、拍手を送ったりして二人の幸せな旅に共感しました。

「最後に、新郎から新婦への秘密の手紙を読み上げます」と司会者が言いました。

関さんが声をふるわせながら、新婦への思いを述べました。

その内容はここで省略しますが、家内に話したら、「女の人としては、誰が聞いてもしびれます」とコメントするようなものでした。

二時間があっという間に過ぎてしまいました。

二次会は新郎新婦の玄関での見送りで終わりましたが、その光景は今でも頭に残っています。

[26] 九寨溝は、中国の四川省北部にある自然風景として知られる観光名所。アバ・チベット族チャン族自治州九寨溝県にある自然保護区であり、ユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録されています。

著者紹介：

兪祥游（Xiang.Y）

1989年末来日、1994年3月に名古屋大学で博士号をとって、そのまま大学で4年間を助教（Assistant Professor）として勤務。1997年度に日本の大手メーカの研究所に就職、2002年度主任研究員とマネージャとして事業部に移動。2008年からディレクタとして企業の事業改革に携わった。

専門は磁気物性。

2010年華通会新年会記事

4　2010年華通会新年会記事　（会員七名）

2010年1月31日
執筆：華通会会員七人
編集：吉田真恵、張子誠

開催日：2010年　1月15日　華通会新年会
場所：東京都蒲田にある香港料理店

(1)ZhangFangさんの感想文：

Cheung さんが、私を含めみなさんに感想をというので、乱筆ながら思うままに書いてみたいと思います。

まずはCheungさん、ご多忙の中、新年会の準備に奔走していただき大変ありがとうございました。食べ放題やら飲み放題やら準備には、各所に走り回ることも多く、文字通り骨がおれたものと思います。

会のあと、蒲田の駅に向かう途中、会場の様子を思い出しては余韻に浸り、このまま解散するのはもったいなく感じ、もう一軒立ち寄り、会話に花を咲かせました。

今年の新年会は、いくつかの点で、まさに私たちを元気づけ、また心休まる場所であったと思います。

まずは若い人が多かったこと。活気に満ち溢れ、明るい笑い声や歓声が常に鳴り響いている様子が印象的でした。例えて言うならば光輝く朝8､9時の太陽のよう、異郷の夜は暗くとも、華通会は大盛り上がりといった様子でした。これに負けじと我々も盃を何度も掲げたものです。飲み放題ですから！！

二つ目に、私たちの会が多方面の人々を引き寄せていたことです。一人ひとり順番に自己紹介をしては「○省出身です」「○市の生まれです」と様々な地方からの出身者がおり、本当に興味深かったですね。

三つ目には「旧友」が多く参加したことです。バラバラになった友人たちが一堂に再会したのは、これも Cheung さんの人望ゆえでしょう。その中には以前、華通会の会長に当たられた方もいらっしゃいましたが、そうした垣根を感じることなく楽しむことができました。ですから、仲間と楽しい時間を過ごしたいと思って、CQ さんがカンツォーネを歌ってくれました[27]。

そして最もおもしろかったのは馬さんの自己紹介でした。「人の名前ではなくて、馬の名前です」などとおっしゃり、誰の耳にも残るおもしろい自己紹介でした。参考に値するものだと思います。「ごくつぶしの範統（中国語の「飯桶」（＝ごくつぶし）と同音）」とか「病気の費彦（同「肺炎」と同音）」などという昔から中国にあるようなあだ名などよりも余程、品がありました。

いずれにせよ、30 名以上もの仲間が集まったというのは最近ではあまりなかったことです。そして、お国言葉や同郷の仲間、故郷への思いなど懐かしさを感じることばかりでした。会社の中に中国出身の同胞がますます増えたことで、こうした集まりの開催がますます難しくなることと思います。そのため、参加できたことは喜ばしいことであり、みなさんとお会いできるのは本当に嬉しいかぎりです。

最後に、もう一度。Cheung さんのご尽力に感謝するとともに、会を盛り上げてくださった皆様にも感謝したいと思います。

付記：先日、社内のエレベーターで偶然にも馬さんと顔を合わせました。一目で彼とわかったのですが、年寄り風を吹かせて彼が「いななく」のを待っていたのですが、結局こちらから挨拶をしました。すると彼は「（気付かずに）すみません」と言うや「（エレベーターを降りるので）すみません」と続けました。ついにいななく声は聞こえませんでした。こちらは馬さんゆえの「いななき」を期待してもあちらはそうはいかないものですね。

（2）兪 XY 前会長は、「感想がいっぱいあります。メンバーたちは、自分にプラスになる情報なら誰からでも貪欲に吸い上げる・・って感じかなぁ。」

27　新年会参加者の二人は、この日が誕生日だったので、ベテラン・メンバーの CQ さんは、即興でイタリア名曲の“わが太陽”を歌ってくれました。

「他にもあります。ちょっと時間をください。」　とおっしゃいましたので、この欄は、兪前会長の感想文のために取って置きます。

（3）張Q前会長は、「（写真を）帰宅後に見て、感想を書きます。」とおっしゃいましたので、この欄は、張前会長の感想文のために取って置きます。

『我が会の更なる発展は皆様の手と努力にかかっています。　十年後の華通会を楽しみにしております。』

（4）許JICOさんの感想文：
久しぶり華通会の集まりに出て、大変楽しかったです。
華人同士の集まりと日本人の集まり、やはり違います。
もっとリラックスできた感じでした。
友人を連れて来ましたが、我が社と関係ない方でも非常に暖かく受け入れてくれてとても嬉しいです。

（5）JiangJinさん：今年の新年会は本当に盛り上がりました。テーブルが足りなくなってさらにテーブルを追加するなどという場面を初めて見ました。華通会のメンバーはますます増えているようです。

（6）　周LJさん：先週の新年パーティ、大変楽しかった。

（7）ジェイムス・リーさん：　本当に楽しく過ごせました。Cheungさん、誘っていただきありがとうございます。感想を簡単に英語で書きましたので送ります。（以下、原文は英語。）
昨年は本当に忙しく、しばらく華通会の活動に参加していませんでした。新年会では昔ながらの友人たちの話題についていくことができ、また、新たな友人を作ることができました。私は2009年に入社した4人の方とテーブルを同じくしたのですが、とても楽しい時間を過ごすことができました。話題は盛りだくさんで、日本での経験だとか、なぜ産業革命がイギリスで発生したのかとか、五つの味覚についても話題が移り、非常に面白かったです。幹事の方にはこのようなすばらしい会を開いていただき、とても感謝したいと思います。

(8)会員X：金庸[28]の武侠小説の中に「不戒和尚」[29]という人物が登場しますが、平気で酒を飲み、肉を食べるような僧侶です。しかし、人にそれについて咎められると「酒や肉は胃腸を通って外に出てしまうが、仏を思う気持ちは心に刻まれる」と答えました。今回の新年会は永遠に私の心に刻まれることでしょう。

(9)主催者Cheung：今年の新年会は、昔馴染みの顔に加え、新たなメンバーとも顔見知りになることができました。出席した会員の中には、瀋陽や大連など東北地方出身の方が特に多かったですが、みなさん、技術やその裏付けとなる理論、高度な専門知識を身につけており、それに加えて日本語も大変お上手でした。さらには、中国語、日本語に加え韓国語にも通じた方がおり、みなさんの優秀さには本当に驚くばかりです。

閔ZZさんの新聞報道によると、我が社は100人以上の中国人を雇用しているといいます。ですが、この数字はあくまでも海外の華僑や日本国籍を有する中国出身者を含まない数字です。

写真や感想文などの秘密保持技術に関しては、丁さんに大変お世話になり、写真にはパスワードがかけられています。文字や個人情報に関しては、その保護方法を目下思考錯誤しております。

ショウガは古いほど辛いと申しますが、果たしてその通り。まずはChenQさんが歌われた、イタリアのカンツォーネ「オーソレミオ」[30]を復唱しましょう。

今回の集まりの前、何人かの会員の方は、みなさんが働く川崎市中原区や汐留、蒲田から近いところを会場に選んだほうが多く集まり、盛り上がるのではないかと提案してくださいました。

---

28 金庸（きんよう）は香港の小説家。香港の『明報』とシンガポールの『新明日報』の創刊者。武侠小説を代表する作家で、その作品は中国のみならず、世界の中国語圏（中華圏）で絶大な人気を誇ります。数多くの作品が中国でドラマ化されました。多数の小説が日本語に翻訳されています。

29 「不戒和尚」:『笑傲江湖』に登場。いわゆる破戒僧ですが、武術に達者です。

30 わが太陽（O Sole Mio）：　イタリアの名曲。

今回は華通会の会員の他に、何人か大事なお客様をお迎えしており、昨年、「広東語座談会」を開いた際に講師を務めてくださったRaymondさんもいらっしゃいました。

高錕前学長のお蔭で、昨年12月、私の母校であります、香港中文大学の校友により、『桜花縁—中大人在日本』と題した著作が出版されました。初版が早々に売り切れたとのことで、現在増刷が行われています。このことを私がお世話になった日本語の先生や日本人の友人に話したところ、彼らは大変興味を抱いたようで、同書の日本語版を望んでいます。在日華人（香港人や外国籍の華僑を含む）がどのように日本を見ているのか知りたいとのことです。そのことからも華通会の事跡が受け入れられるものと信じています。

春には「餃子を食べる会」など開催してもよいでしょう。また、登山の時にでもお会いしましょう。

この場をお借りして、電子メールのリストを管理していただき、新年会や各種のイベントの成功を支えてくださる葉山さんに心から感謝したいと思います。

兪 XY、張 Q 両前会長の原稿がまだ届いておりませんが、初代元老で、歴代の会長交代の「見届け人」でもある林軍さんの退職のご挨拶を伺いましたため、早速初版を配布いたします。

写真をご提供してくださった張Qさん、許JICOさんに感謝いたします。

照片由张Q前会长，JICO先生提供。谢谢。

華通会創立以来の会長をここに紹介いたします。

歴任	華通会歴代会長、幹事		在任年度
1	白GuangY	1997前華通会の創立者	-1997
2	陳B	幹部(後来Mailing list的提唱者)	1997
3	山本D	幹部(会長相当)	1998
4	徐GuoW	会長	1999
	毛Y	副会長	1998-2002
5	趙Waki	会長	2000
6	王ZhiQ	会長	2001
7	張Y	会長	2002-2003
8	李DongS	会長	2004
9	高Y	会長	2005
10	張Q	会長	2006
11	兪XiangY	会長	2007-08
	楊ShouD	顧問	2007-09
12	江J	会長	2009-

华通会新年会后记

2010年1月31日

作者：华通会七位会员

时：2010年1月15日

地点：东京都蒲田的香港料理店

(1)　张 F 先生：Cheung 先生叫大家写感想。响应号召。胡乱写点儿随想。
首先对 Cheung 先生的忙前忙后，为促成新年会的成功，又是食放题，又是饮放题，鞠躬尽瘁，劳苦功高。这厢先有礼了。

会后，在去蒲田车站的路上，回味着会上的林林总总，又高兴又兴奋。余兴未尽，又和几位找了一家儿，聊了一会儿。

今年的新年会，有几个叫人提精神，畅心情的地方。

一是，年轻人多。朝气蓬勃，笑语欢声，熙熙攘攘。跟一群“早上八，九点的太阳”们欢度，真有一种 他乡窗外夜蒙蒙，华通会上乱哄哄（担心用词不当）的感觉。老当益壮，频频举杯，反正是饮放题，管它呢。

二是，叫我们的会来的人多。一个个站起来自我介绍，开口 A 省，闭口 B 市，让人乐的不行。

三是，老家伙来的不少。以往零零散散，这次凑了一桌。可见 Cheung 先生的威望所在。卸任会长也多，掺匀了老家伙们的整体地位。有了信心，才引出了意大利素唱。

最让我叫好的是，马氏的自我介绍。 “，，，不是人名，是“马名”，，，”。效果绝好！让人过“耳”不忘。甚得启发，比起范统[31]，费彦[32]之类要有品位。

---

[31] 化名：不受器重之人。

[32] 化名：身体不好的人

总之，一下子来了三十多位，这在近年不多见。可见大家对乡音，乡亲，乡情的向往和怀念。公司里的华人越来越多，像这样的聚会，搞起来也好像越来越不容易了。所以，机会难得，能参加是荣幸。与大家见了面更满足。

最后，再次谢谢 Cheung 先生的努力，也谢谢大家的捧场。

补记：前日，在公司电梯里，与马氏不期而遇。一眼便认出了他。倚老卖老，等他先“鸣”[33]。最后还是我鸣在先。愣了一会儿，他方急鸣了两声，第一声是对不起，另一声还是对不起（此时电梯已到站）。看来，此法效果是单向的。

(2) 俞 XY 前会长

俞XY前会长说过：「有很多感想。其中之一是觉得很多会员都为得到想要的讯息而追根究底。」

「还有别的。请给我一点时间整理一下。」

这一栏是留给俞前会长的感想文的。

(3) 张Q前会长

张Q前会长说过：「回家看过照片后，再写感想吧。」　这一栏是留给张前会长的感想文的。

『我们的会的发展还需要大家的努力。希望十年后的华通会更热闹。』

(4) JICO先生的感想：
很久没有参加华通会的聚会了，这些非常高兴。
华人的聚会到底跟日本人的聚会不一样，感觉特别轻松。

33 “鸣”: 動物などが鳴くこと。この文章では、人が挨拶すること。「鳴く」の言葉を使う理由：著者は、相手の馬氏に馬を例え、挨拶してくれると思っていました。結局は、著者が先に挨拶することになった。

跟我一起来的朋友虽然和我们公司没有关系,也融入于温暖的气氛中,不亦乐乎。

(5) JiangJin 小姐：我的感想是：今年的新年会真的是很热闹，第一次看到桌子不够要加桌子的。可见华通会的朋友是越来越多了。

(6) 周LJ小姐：参加了上星期的新年会，真是很高兴。

(7) James Li (李)先生: 真是非常高兴。谢谢Cheung先生的邀请。我用英文把感想简单的记述一下。

Last year (2009) was quite busy, so it had been a while since I attended a Huatong event. At the New Year Party, I was able to catch up with some old friends and made some new friends as well. I was sitting at a table with four new employees who joined Company A in 2009, and we had a great time. We talked about some of our experiences in Japan, why the Industrial Revolution happened in England, and the 5 tastes of the tongue. It was a lot of fun. Thank you to the organizer for putting together a wonderful event.

(8) 会员 X：金庸[34] 武侠小说里有一位「不戒和尚」[35]，不戒酒不戒肉。当人家问他时，他辩称：「酒肉穿肠过，我佛心中留」。今次新年会也永留我心。

(9) 主持：今次新年会，和老朋友联络上了，也认识了一些新朋友。出席会员中，东北出身的人特别多。如沈阳、大连。。。大家技术、理论水平和能力很专业，日语程度也高。更有几位经通华语，日语和韩语的同事，都是优秀的员工。

看完闵 ZZ 先生的新闻报导，才知道公司已雇用了 100 多位中国人，还不包括海外华侨和已入日本籍的同事。

照片和感想文的保密方法方面，同事丁先生已答应帮忙，现在图片已加上密码。文字档案如何处理，正在研究。

---

34 金庸：原名查良金镛，香港著名武侠小说家。香港『明报』和新加坡『新明日报』创刊人。多部小说被翻译成日语。

35 「不戒和尚」：金镛武侠小说中不守清律的和尚，但是武艺高强。

姜越老越辣。果然不错。让我们先重温意大利歌剧名曲「我的太阳」[36]。

组织聚会前，有些会员提议东京地区，离大家工作的地方(中原区，汐留和蒲田)近一点，才有那么多会员捧场。

华通会员以外，还有几位嘉宾，包括去年「广东话座谈会」的导师RAYMOND先生。

托高锟 [37] 校长的福， 去年12月，母校「香港中文大学」校友出版了“樱花缘——中大人在日本”一书。第一版已经快卖完，现在正加印。我将此事告诉以前的日本语老师和日本的朋友，他们非常感兴趣，都说希望看到“日文版”；最想看到在日华人(包括香港人，外国华侨)对日本的看法。相信华通会的事迹也会受欢迎。

等春天再办一些「包饺子会」之类的。还有在爬山时见面吧。

特别鸣谢：

谢谢 叶山 先生管理电邮列，促成新年会和各种各样聚会的成功。

36　我的太阳：　意大利名“O Sole Mio”，歌剧名曲。

37　Charles K. Kao 教授：　2009 年诺贝尔奖物理学奖得主，香港中文大学前校長。

特别介绍华通会成立以来的历任会长。

历任	华通会历任会长、理事		在任年度
1	白GuangY	1997年以前的理事	-1997
2	陳B	理事	1997
3	山本D	理事(等同会长)	1998
4	徐GuoW	会长	1999
	毛Y	副会长	1998-2002
5	趙Waki	会长	2000
6	王ZhiQ	会长	2001
7	張Y	会长	2002-2003
8	李DongS	会长	2004
9	高Y	会长	2005
10	張Q	会长	2006
11	兪XiangY	会长	2007-08
	楊ShouD	顾问	2007-09
12	江J	会长	2009-

正当还在等俞 XY、张 Q 两位前会长的感想文时，听到 90 年代长老兼历任会长接任的「见证人」林军先生快要退职的消息，急不可待的发布了这篇文章。

『竹やぶから見た夕焼け』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）
『竹影绚彩』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）

仕事篇

自分を信じれば、夢が豊かになる！

5　自分を信じれば、夢が豊かになる！　（鄭夢豊）

インタビュイー：鄭夢豊
インタビュアー：田洪涛
校正：日高由美、伊沢裕美

鄭夢豊氏、我が華通会メンバーの先輩で、現在は外資系企業で幹部職をこなし、一部門を任せられ、会社の中心メンバーとなっている。我々日本にいる中国人後輩から見れば、まさに目指したい成功した中国人の一人です。筆者は光栄にも彼をインタビューする機会を得ることができました。

まずは鄭さんの履歴について簡単に紹介しましょう。

・1959 年　上海で生まれる
・1966 年　小学校在学中に文化大革命に遭う
・1977 年　学校を出て、１７歳で「下郷」する
・1978 年　「大学入試」に合格し、上海科技大学に入学
・1982 年　大学を卒業し、地質鉱産部属の海上探査隊に配属される
・1988 年　来日し、言語学校で日本語を一から勉強する
・1990 年　早稲田大学に入学
・1993 年　大学院を卒業し、富士通（株）に入社
・2000 年　PTC（株）に転職し、現職に就く

インタビューは 6 時間半にも及んだが、鄭さんはずっと丁寧かつエネルギッシュに私に様々なことを伝えてくれました。鄭さんのこれまでの人生経験が中心で、非常に豊富かつ有意義な内容なのでぜひ皆さんと共有したいと思います。

―――私は先生の褒め言葉を得るために、いい学生になった―――

小学生時代の鄭さんはどんな子供でしたか？

私は 1966 年 9 月 1 日に小学校に入り、その 10 年後の 1976 年に卒業したが、ちょうど文化大革命の時期と重なり、まともに本を読んだことがなかった。もっと正確的に言うと、当時の学校では「復課鬧革命[38]（意識改革）」が始まり、本なんてなかった。そんな中、私は勉強が好きではなく、ほとんどの先生から好かれず、いつの間にか勉強をせず、授業も聞かずの「劣等生」となっていた。

5 年生のとき、小学校合併を機に、新しい女性先生が一人やってきた。それまで他の先生の目に留まることがなかった私は、なぜかその先生に惹かれていた。私は授業が嫌いだったが、毎週木曜日午後の労働時間だけはすきで積極的にやっていた。彼女は私の労働ぶりを褒めまくってくれて、それも皆の前だった。それで私は気づいた、自分が認められると頑張ってしまうのだ。それから私はその先生の褒め言葉をもらうために、労働はもちろん、授業にも積極的に取り組むようになった。先生も私を失望させず、あらゆる機会を探って、私を褒めていた。その褒め言葉に刺激され、がんばるようになった私は、いよいよ皆にも認められるようになり、「紅小兵」[39]（後の「少先隊員」[40]）に参加させてもらえるようになった。

私の人生への態度を変えてくれた出来事がその後に起きた。ある日の公民学科のテストで、一生懸命頑張って回答を暗記できた私は 100 点を取ったのだ。その先生はいつもより大袈裟に、全校の生徒と先生を相手に、校内放送で私のことを褒めてくれた。「勉強ができない子から満点を取る優秀な子への躍進」という話題性もあり、瞬く間に私は学校のちょっとした有名人となった。有名人になったのだから、それまで散漫でちょっと薄汚かった私は、作られた自分のイメージを維持するために、身だしなみや言葉遣いなどあらゆる面から自分を本当に変えようとした。それ

38 「復課鬧革命」: 教室鬧革命とも呼ばれる。文化大革命の一つの形式。学校・教室の中に起こった「意識改革」だったと思われる。

39 文化大革命の時代、中国のこどもたちは「紅小兵」と呼ばれていた。

40 中国語: 中国少年先鋒隊。中華人民共和国の全国的な青少年組織で、ソ連のピオネールに相当し、おもに課外活動を通じて共産主義を学ばせ、将来の青共団員、共産党員を育成している。

から私は人生の軌道に乗ったと思う。今から振り返ってみると、自分を変えてくれたあの先生にはただ感謝するばかりだ。

―――「下郷」は私の精神力を鋼鉄に鍛えた―――

鄭さんは学校を出てから、何をしていましたか？

1976 年、私は中学校を卒業した。まだ「高考（大学入試）」が復活されていなかったので、行くところがなくしばらく家で遊んでいたら、「下郷せよ」の命令が来た。「下郷」先は江蘇省大豊県海豊農場安豊分場第 12 大隊、隊員が計 76 人。元々現役犯人を拘置し強制労働させる施設だった大豊農場から独立した海豊農場は、陸地から海の間の砂浜を固めながら、大量塩分を含んでいる土地を農用地へ改良する作業が主たる仕事となっていた。安豊分場第 12 大隊はまさにこのような開墾する部隊の一部だった。我々「知識青年[41]（新卒の若者）」は「戦天闘地[42]（天と戦い、地と戦う）」の為に、分隊を組織し、海を埋めて田んぼを作ることをやっていた。本当にアシしか育たない海辺で、私たちは筰でテントを作り、ショベルと鋤などの労働器具を持って、海の上で田んぼを作ることに挑んでいた。

水道水が飲めなかったり、5 年以上貯蔵した米で炊いたご飯しか食べられなかったり、まともなおかずがなく、上海から持ってきた漬物を食べたりして、今から見ると本当に最悪の生活状況だった。私も含めて、夏の間、週 6 日間毎日朝から晩まで主に排水溝を掘ったりしていた。溝の幅 3 メータ、深さ１．８メータ、長さ 5 メータの場合、男性一名、女性一名のペアでショベルを使って一日で完了しなければならない。冬の間は主に海辺のアシ刈りをしたりしていた。海に向う「豊作」トラックに 2 時間乗って、アシの場に入ってアシ刈りをした。それでも我々青年たち（当時最高年の先輩は 20 歳だった。）はめげずに、毎日少しずつ頑張った。普通の日は、‘田青[43]’という作物を植えて、土の塩分とアルカリを吸収したりしていたね。

41　知識青年：就職の配分を待つ新卒者たち。
42　戦天闘地：文化大革命時代のスローガンである。天と戦い、地と戦う。（人は天に勝つため、海辺に田んぼを作ったり、山を削って平野を作る計画や意図の意味）
43　別名「田箐」、「咸青」。学名：Sesbania cannabina Pers。（写真１）塩分が含まれた土地でも育てられる“豆類”植物。　乾燥気候や虫害に強い。取り除く効果があるとされて、中国では、塩分が高い埋め立て農地の土壌を改良する目的に育てられる。

こうして、土の改良作業をしてもなかなかいい田んぼに出来なかった。浜辺だからさ、雨が降ると塩が土に染み出てきて、霜みたいな膜で大地を覆ってしまう。塩分がそれだけ高いので、農産物はもちろん生えてこない。きれいな水がない状況を助けてくれたのは、ある上海工人兄貴グループだった。助っ人として上海からやってきた彼らは深さ１００メータ井戸を一個掘ってくれた。その水を見てすごく嬉しかった。そして、わずか１ヘクタールぐらい土地を選定し、井戸から取った淡水で土を少しずつ洗いました。この地道な作業は数ヶ月ぐらい続き、それでようやく野菜を育てることができるようになった。自分たちで作って取れた野菜はどれだけ美味しかったか、その味を未だに忘れられない。ちなみに私の給料は月額で人民元１８元だった。

写真１：　『田青』と呼ばれる植物。
照片１：　名叫【田青】的作物

———「独学」能力は私の成長の基礎———
鄭さんはどうやって大学に入ったのですか？

「下郷」[44]時代はすべて苦しい時間ではなかったが、我々「知識青年」はやはり農村から脱出し、上海に戻れる道を日々探っていた。1977 年、「高考[45]（大学入試）」が復帰されてから、上海の大学に入ることは我々の目指す目標となった。

44　上山下郷運動（じょうさんかきょううんどう）とは、文化大革命期の中華人民共和国において、毛沢東の指導によって行われた青少年の地方での徴農（下

他の事と同じように、大学受験も順風満帆ではなかった。まず必要な教科書がない。当時「数理化“独学”学習シリーズ[46]」(数学、物理、化学)という大文化革命前に出版された教科書が再出版され、三科目で必要な本は計１２冊だったが、当時はこのような教科書の供給が極端に不足していた時期だったので、上海市内に多く設置された新華書店でも参考書が入荷したら、２００人ぐらいの行列でき、２時間で売り切れになってしまった。全１２冊を買い揃えることがほぼ不可能だった。まだ上海にいた頃、私は何十回も行列に並んだが、結局12冊を買い揃えなかった。そこで、同じ本を２冊買って、闇市場（本と本を交換したり、定価の二、三倍の高値で取引をしたりする市場）でほしい教科書を交換して足りない教科書を入手した。その後下郷してから、他の「知識青年」仲間が持っていた本と借り貸しをして勉強していた。

本があっても、教えてくれる先生はいなかった。我々はすべて独学しなければならなかった。幸運なことに、私は小学生のときに先生に好かれ、「文革批判文章[47]」をたくさん書かせてもらえたので、独学能力に長けていたし、独学するうちに、能力も磨かれていた。私の受験法は、すべて余暇時間を使い、手元にあるすべての本を読みあげ、すべての題目を一人で解いた。娯楽も恋愛もなく、ひたすら労働と勉強だけの日々だったが、私にとって苦ではなかった。故郷の上海へ帰る希望を持っていたからだ。

その年、上海での受験者が29万人、合格予定者はたったの１万人。大学に行くことは容易ではなかった。我々同じ大隊の青年たち30～40人で一緒に準備したが、試験に参加したのは28人、最終合格したのはたったの２人。私はその中の一人だった。合格通知書をもらったとき、涙が止まらなかった。ようやく故郷の上海に戻れる嬉しさと、努力が報われた安堵感からの涙だった。

放）を進める運動のこと。

45　高考：高校３年生が受ける中国全国の統一試験。得られた点数によって、大学入学の基準になる。

46　中国語は『自学従書』『自学丛书』。

47　**弾劾・非難的な文章**

今、人生を振り返ってみても、あの時ほど勉強に励んだことは二度となかった。そのときに磨かれた独学能力も後の人生成長の基礎となったと思う。

―我々は上海住民の天然ガス問題を解決した「平湖２井」[48]を発見した―

鄭さんは大学に合格し、晴れて上海に戻られた後はどうなりましたか？

私は大学で電子工学について勉強した。当時はまだ仕事を自由に選べず、就職先を国が配属する制度だったので、私は卒業後に地質鉱産部の海上考査隊に入らされた。

海上に出て、石油や天然ガスを探査する仕事だった。そこで我々考査隊は「平湖２井」を発見した。「平湖２井」というのは、現在でも上海人に天然ガスを供給しているわが国にとってとても大事なガス田だ。我々は国家集団２等功を授けられ、船乗組員と探索隊員全員５０元の賞金を国からもらった。賞状は船のダイニングルームに飾ることになった。

すごくやり甲斐[49]のある仕事だが、私にとって、できれば従事し続けたくなかった。何故なら、基地に戻ってくるのは、長くて数ヶ月に一回、最短でも３週間に一回ぐらいで、それ以外は海で作業し続けなければならなかった。ほぼ毎日海上にいて、家族や友達に会えず、娯楽も何もなかったからだ。しかし、大卒だけで誇示できる時代に、私は夢をいっぱい持っていた。

48　上海平湖二井のこと。日本語は、上海市『平湖ガス田』。
49 「価値がある仕事」の意味。

―――日本に来て私は、努力したことがすべて成果につながった。―――

鄭さんはどういうきっかけで日本に来たのですか？

日本に来たのは偶然だったよ。ちょうど私が船に降りたくなった頃に、海外に留学することが上海で小さなブームとなっていた。「○○さん家の息子がアメリカに行ったよ」とか、「■■さん家の娘が日本に行ったよ」みたいな噂が絶えず回りの誰かから入ってきていた。そこで私も海外に留学しに行こうじゃないかと、思うようになった。

思うのは簡単だが、現実はそう甘くなかった。海外に親戚や知り合いがいない私にとって、留学はそう簡単にできるものではなかった。私は必要な情報をいろいろな方法で収集し、準備を進めた。

1988 年 4 月 23 日土曜日、私は日本にやってきた。上海の空港で私は英雄みたいに自信満々に親戚友達に手を振ったが、飛行機に乗った途端、心細くなった。日本語ができない上、日本に親しい友人もいなかったからだ。飛行機で知り合った人について、なんとか成田から池袋まで行ったが、その人が親戚に引き取られていってから、私だけ何をすればよいか分からなくなった。仕方なく、上海で教えてもらった 3、4 人の日本にいる知り合いの知り合いの住所録を出して、日本人に聞いて、池袋に一番近かった人を訪ねてみようと思い、タクシーに乗った。天気は小雨だった。

当時の中国人留学生は非常に忙しかった。学業やアルバイトで毎日が追われていて、まともに家にいることがなかったようだ。でもラッキーなことに、その日珍しく友人は家にいた。しかし大家さんが「友達は一緒に住めない！」と言ったので、私は彼にホテルを紹介してもらった。「ひょうたん」という小さなホテルに着いた。普通の部屋が高かったので、ホテルでアルバイトをしていたある中国人に通訳してもらって、責任者と相談して 2200 円/日で物置に 4 日間住ませてもらった。その 4 日間の間にアパートを探し、何とか日本での生活を始めた。

もちろん、収入がなければ後が続かないのが分かっていた、アルバイトを探さなければならなかった。しかし私は日本語が全然できず、直接応募することができな

かった。そこで私はまたホテルの責任者に助けを求めた。不二家の洗い場、そこは私が最初に狙っていた職場だった。面接のときにホテルの責任者に通訳として一緒についてきてもらい、不二家の人と交渉してもらった。日本語ができない、日本人と交流ができない日本に着いたばかりの留学生が、普通に考えれば採用されるわけがないだろう。しかし、彼らは私のような意欲の強い人を見たことがなかったからだろうか、私に押されて採用してくれた。

ようやく軌道に乗った。

その後またいろいろなアルバイトを経験し、様々なストーリを築いた。たとえばアルバイトだけでも、洋食レストラン、高田馬場の日払い労働者、ラーメン屋、クラブ、イベント屋、警備員などを経験した。私は自分の積極性を武器に、どんどん高いレベルの仕事に挑戦し、思うような結果を得ることができた。さらに自分のみならず、周りの友達にも紹介したりすることもできるようになり、助けてあげる代わりに尊敬を得た。一回だけ大病を患い、胃の三分の二を切除されたが、それ以外は概ね順調だった。

日本に来てからは、自分の努力した分報われるので、私は「如魚得水」だった。

———早稲田大学で私はキャンパスライフを満喫———

中国での大学受験を経験した私にとって、日本の大学院入試テストはさほど大変ではなかった。生活を軌道に乗せた後、私は一年足らずの勉強で日本語と専門知識を身につけ、試験に臨んだ。結果はよく、私は幸運にも早稲田大学大学院に入学できた。

早稲田大学で私は初めてまともなキャンパスライフを満喫した。私は勉強もし、遊びもし、アルバイトもし、友達も作り、恋もした。それともうひとつ、私は早稲田大学中国人校友会を設立し、初代会長に選任された。この校友会を設立した目的は日中友好で、中国人同士で情報交換をしたり、日本人と文化交流もしたり、助け合ったりするためだったが、そうした活動を通して、恋人ができたケースも少なくなかった。（笑）当時知り合ったたくさんの校友は、現在では帰国したり、ほかの国に移ったり、日本に残ったりと様々だが、私は十何年間過ぎた今でも、彼らとは家族ぐるみの深い付き合いをさせてもらっている。

早稲田で私はプライスレスなものを得たのだ。

―――富士通での約８年間弱で私は一人前になった。―――
鄭さんの富士通での人生はどうでしたか？

実は、富士通に入社するのも偶然だった。在学中、大学は学生に社会を理解させるため工場見学や、会社見学をよく企画してくれた。私が行った企業の中に、偶々富士通があった。それで大学の就職指導科に勧められ、希望を出した。

1993年度に富士通本体に入社した中国籍社員は私一人だけだった。富士通も重視していて、私の最後の役員面接は今有名な人が直接してくださった。筆記試験も、面接も経て、晴れてソフトウェアエンジニア（SE）として入社したが、最初は本当に大変だった。お客さんへの提案を事前に社内で検証したり、すでにお客さん先に納めたシステムから出たトラブルを再現して解決したり、システムの性能をチューニングしたりしていた。私は仲間より遅れたりすることもあった。他人のほめ言葉と尊敬が何よりもほしい私にとって、耐え難い日々だった。しかし逃げたくはなかった、一回逃げると癖になっちゃうからね。仕事でも自信を持てるようになるために、私は毎日仕事も学習も必死に頑張っていた。まずは情報処理技術者、それからMCSE（Microsoft Certified System Engineer）、さらに富士通が認定するFujitsu IT Expert SEなど資格を取った。そのときから、私は仕事への自信を少しずつ持つようになった。それにTOEICも部門内でいい成績が取れた。最後にアメリカへの6ヶ月短期留学という夢もかたちになった。

約８年間弱の仕事を通じて、私は一人前のサポートSEとなり、自分なりの哲学もできた。どんなことを目標にしたとしても、あわてず、あせらず、しっかり、ゆっくり自分が決めた方向へ確実に進めばよい。

またちょうどその頃、偶然にもあるエージェントからPTCという会社を勧められ、履歴書を出したら、今すぐに来てほしいと言われた。1ヶ月後、私は富士通を離れ、PTCに入社した。

―――アメリカでの留学で視野を広げた―――

富士通に勤めて六年目の時、私はアメリカに6ヶ月間渡り、研修するチャンスを手に入れた。

すでに海外の生活を10年以上経験した私は、海外のどこに行ってもカルチャーショックを受けず、ホームシックにもならないだろうと思っていたが、現実は、思う通りにうまくいかない場合がある。アメリカでの生活では、部屋探しから、買い物の交渉まで、物事のやり方が日本と違っていたため、私はいろいろ挫折をしていた。現地に入って一ヶ月くらい経つと、面白いことに私は日本へのホームシックになっていた。日本の街の安心感、美味しい日本米で炊いたご飯、日本で当たり前のように思っていた物が恋しく思った。6ヶ月後、久しぶりに成田空港へ到着した瞬間、とうとう帰れたという感じがしたね。

そして、違う世界を体験し、挫折に対処することを通して、私は自分の考え方も変えたりして視野を広げた。

米国の学習生活で磨かれた英語力は今でも、業務をこなすのに欠かせない力となっている。そして、それまで工程技術しか勉強していなかった私は、Marketing戦略、経理、人事、交渉、ファイナンスなどについて短い期間で一通り学んだ。

さらに一番できたことは、‘文化‘という二文字についての理解。今多元化している社会の中で、周りの人のことを理解する能力を高められたと感じている。

二次元の世界と三次元の世界が違うのと同じように、三ヶ国語ができるようになって感じた世界は、昔二カ国語しか分からなかった頃と比べると、本当に大きな違いを感じた。現在では、自宅のケーブルテレビで、中国、日本、アメリカ、英国のチャネルで同じ出来事について、違う表現をしていることを見るのは、本当に楽しいね。

―グローバル社会に通用する蓄積したノウハウを中国の若者に伝えたい―
これまで豊かな人生経験を持ち、華やかなキャリアを積んできた鄭さんですが、これからどういう方向に進みたいですか？

私にとって、もう金銭は重要ではない。自分がまとめた哲学や学んだ先進的な文化でいかに他人を励まし、導くか、他人のためになることをやり、尊敬を得られるかがこれからの目標かな。

現在中国はものすごい勢いで成長している。だが成長のバランスがよくない。経済面では早いが、政治、文化面ではまだ遅い。いわゆるハードができて、ソフトが追いついていない。大国の役割を果たすには、経済だけではだめで、国際社会に通用する文化なども伴っていかなければならない。そうするためには制度の改革が必要だ。国際社会を知り、海外で成功している中国人を活用することが中国にとってすごく大事だと思う。一流の国を建設するためには、一流の情報と一流の努力、そして一流の文化が必要なわけで、それらを備えているのは我々だという自負がある。機会があれば、中国に戻って国際社会に合う価値観を若い人に伝えてあげたいと思う。

———自分を信じなさい———

最後に、我々後輩に対して、一言お願いできますでしょうか？

人生において、一番困るのが迷うことだ。しかし、大人になってから、特に社会人になってからは迷うことがいっぱいある。誰にとっても同じ。そのときは、自分を信じなさい。自分が何を一番したいのか、どの道を進めばいいのか、時には迷うけれど、結局他人に相談しても結果は出ない。自分を信じること、好きなことをやればいい、今すぐ分からなくても、1 年後、3 年後には分かるから。

それから、自分を信じる力は無数の小さな成功から生まれる。いわば、人の自信は無数の小さな成功で支えられている。小さな成功はプランを実行し、思うような結果を得ることである。それを常に意識することが大切だと思う。以上。

お忙しい中、インタビューに応じていただき、誠にありがとうございました！

写真 1:同僚の Carlos Damasceno 氏(PTC グロバールサービス部門(International)最高責任者と一緒。(2011 年)

照片 1 ：与 PTC 的同事 Carlos Damasceno 先生合照。他是国际业务部的总经理。(2011 年)

写真 2：数年前，北海道の新千歳空港（札幌）

照片 2：数年前摄于北海道的千岁机场（札幌）

インタビュアーの自己紹介（日本語版）：
田洪涛
·1984 年　　山西省晋城市に生まれる
·2002 年　　故郷を離れ、「氷の町」ハルビン[50]で日本語を勉強する
·2005 年　　交換留学を通じ、来日する
·2007 年　　名古屋大学大学院で社会学を研究する
·2009 年　　Ｆ社に入社、現在は通信業界の営業職の一員となった

漫画、ゲーム、映画、サッカー、バスケ、ゴルフ、グルメ、ラーメン、ワイン……私は多趣味な人間です。ほとんどの趣味を極められていませんが、心の底から生活と仕事を愛しています。ちなみに、最近はドライブにはまっています……

今回は、Ｆ社の先輩である鄭さんをインタビューするチャンスをいただき、正直最初は緊張しました。しかし鄭さんの笑みと自身に溢れる顔を見たとたん、私の緊張は吹っ飛び、替わりに鄭さんへの好奇心や尊敬が沸いてきました。今回のインタビューは長時間でしたが、鄭さんはちっとも疲れや嫌な顔を見せませんでした。彼の自分の経験や哲学を後輩に伝えてあげたいという情熱が、今回のインタビューを円滑にさせました。私自身も今回のインタビューを通じて有益なものをたくさん得ました。

鄭さん、本当にありがとうございました！

好きな言葉
「海は百の川々を取り巻き、すべてを許容しそして莫大である」
原文（中国語）：（海纳百川，有容乃大）

50 中国黒龍江省ハルビン市。

写真:2011年4月29日　東京都渋谷区 (左:田さん)

照片：2011 年 4 月 29 日　摄于东京都涩谷区(左第一位为田氏)

相信自己， 让梦更丰更盛

郑梦丰

郑梦丰先生曾是“在日华人名人录”中收录的华人团体之一的代表。由于他工作繁忙，我为他采访六小时半，记录了他讲述的“在日本IT公司工作的经验和心得”。

田洪涛[51]

摘要

在富士通里中国出身的诸先辈中，有许多成功之士。有些虽已离开富士通，但其人生历程和成功经验，往往可使我们从中受益。

老师的一句鼓励从此由后进生变为优等生，文革时的下乡务农磨练了意志，高考成功培养了自学能力。在大学攻读电子工学，毕业后参与“平湖 2 号油气井”勘探工作并获奖。88 年来日进早稻田大学深造并出任首届中国人校友会会长。93 年加入富士通，在 SE 部门的 8 年间，考取多种资格，通过努力又获赴美深造机会。在那里学习了市场战略，财务，人事，谈判，理财等。现在，通过日中英三个语种的电视频道，感受三维世界的乐趣。后由中介公司引荐外资企业，一拍即合，旋即上任。

人生最难之处就是迷惘。今后干什么？朝哪个方向发展？请教别人有时也难得其解。要相信自己，敢想敢做。在认真做成功每一件小事后，就会产生一点小的自信。一点一滴，虽然不能立竿见影，但 1 年，3 年便能积小胜为大胜， 汇小溪而成大江。

－－－我成为好学生，只为得到老师的夸奖－－－

田：请问郑先生您小时候是什么样的孩子呢？

郑：

我 1966 年 9 月 1 日进小学，10 年后毕业。但那段时间刚刚好闹文化大革命，所以我们这一代人根本都没有能好好的念过书。准确的说，那时候学校刚好开始【复课

[51] 负责郑先生采访和记述

闹革命】，所以就几本书可以念。可能由于我本身不太喜欢念书，大部分的老师也都不喜欢我。基本上，我刚开始就是一个既不学习，也不听课的【后进学生】。

5 年级的时候，我们的小学合并，就有了一个新的女老师到了我们班。在那之前没有得到所有的老师注意的我，不知为什么却被这个女老师留意了起来。我那时很讨厌学习，但每周 4 下午的劳动时间却很喜欢，也很积极的做。新老师她就使劲的夸我，说我的劳动做得好，而且还是在大家的面前夸。那一刻，我注意到了我是一个一被人夸就会积极努力的人。那之后，为了得到那个老师的夸奖，不光是劳动，连学习我也开始努力的做。老师也没有让我失望，总是寻找各种机会来夸我。受到老师夸奖的刺激，变得很努力的我，最终也得到了大家的承认，得到了参加【红小兵】（也就是后来的【少先队员】）的荣誉。

在那之后发生了一件事，改变了我的人生态度。有一天政治科考试，由于努力记住了所有答案，我竟然考了 100 分！而那个老师这次也比平时更加的夸张，通过校内广播在全校师生面前把我大夸特夸了一番。从不会学习的后进学生到得满分的优秀学生，这也算是有些话题性，一瞬间我就成了学校的小小有名人。既然成了名人，为了维持自己的好印象，本来又散漫又有些脏的我，也开始注意起了自己的着装和语言等等，努力从各个方面来真正的改变自己。现在想想，我是从那个时候走上了顺利的人生的轨道。真的很感谢那个改变了我的老师！

———【下乡】培养了我钢铁般的意志———

田：请问郑先生您在出了学校后做了些什么呢？

郑：

1976 年，我中学毕业。由于那时候还没有恢复高考，没有地方可去的我就在家玩了一阵。谁想不久，来了命令让我们下乡。我去的地方是江苏省大丰县海丰农场安丰分厂第 12 大队，一共有 76 个队员。大丰农场原本是拘留犯人，让他们劳动改造的地方。海丰农场后来从它那里独立出来，主要从事填海造地，改良盐碱地成为耕地的劳动。而我们所在的安丰分厂第 12 大队刚好就是开荒部队的一部分。在那里，我们知识青年为了战天斗地，组织起分队从事着填海造田的工作。那个海边真的就是只能

长芦苇出来，为了让它变成能够长出庄稼的耕地，我们在那里住在自己建成的草屋里，扛着锄头和大铁锹，奋斗着。

想喝水，那里没有自来水，想吃饭，那里没有新米。我们只能吃那些上面发配的储藏了5年以上的旧米，也没有像样的菜，只能吃从上海带来的咸菜。现在回忆起来当时的生活状况真的是很苦很苦。至于劳动内容，夏天呢，我们每周6天从早到晚就是在挖排水渠。渠宽3米，深1.8米，长5米的工作量,男生一名和女生一名，大家组成小组用铁锹来挖。而且一天内必须挖好一条。冬天呢，我们就在海边割芦苇。坐着【丰收】牌卡车向海边走2个小时，我们就在那里割。即使日子很苦，但我们青年（当时年纪最长的前辈也只有20岁）也没有被挫败，每天一点一点的努力。休息的日子里，我们就在海边种一种名叫【田青】的作物，用它来吸收土地里的盐分和碱分。但即便这样做，把海滩变成耕地的任务也还是很不顺利。由于是海边，一下雨地中的盐分就渗出地表，结成一层像霜一样的膜，覆盖大地。盐分这么高，农作物当然不可能生长出来。就在我们没有办法的时候，来了一个上海工人老大哥帮了我们大忙。他为我们挖了一口深100多米的井。看见淡水我们高兴坏了。然后，我们就选定了一块大概只有1公顷的土地，用井里的淡水来一点一点洗这里的土。就这样我们洗了好几个月，终于那块地可以长出蔬菜来了！到现在我也忘不了那块地里我们自己种的蔬菜有多么的美味。还有顺便一提，我当时的工资是每月18元。

———“自学”能力是我成长的基础———

田：郑先生是怎样进入大学的？

郑：

上山下乡的时代给我们留下的尽管并非都是苦涩的记忆，但对我们知识青年来说，离开农村，回到上海的念头仍是日日萦绕在我们心头。1977年，高考恢复。回到上海，考上大学便成了我们的目标。

同其他事情一样，我的高考之旅远非顺风顺水。首先遇到的难题就是没有教材。当时的教材是将文化大革命前出版的教科书《数理化自学系列丛书》共计12册进行再版，但在那物资不足的年代，教科书也不例外的属于紧缺资源。在上海市内为数不少的新华书店里，每次到货的参考书，总能在2小时内被200人左右的队列抢购一空。当然，试图购齐全套12本几乎是不可能完成的任务，我在上海时，排了几十次队，

终究也没能凑齐。因此，买下同样的两册，到跳蚤市场里去交换其他手头没有的教材就成了必修课。之后回到农村，我们知青同伴们之间也通过交换借阅的方式进行学习。

不过即使有书，也没有老师来教你。我们大家都只能自学。我的小学老师特别喜欢我，因此我在小学时代通过自学写了很多“文革批判文章”，那时的经历大大提高了我的自学能力并磨练了我。我准备考试的方法是，用所有的闲暇时间，读透手中所有的书本，并坚持独立解题。尽管既没有娱乐更没有恋爱，每天除了劳动就是读书，但是对我来说，心中对返回故乡上海的希冀，令我并不以为苦。

高考并不是一件易事。我参加考试的那年，上海的考生有 29 万，而录取的名额仅仅有 1 万。跟我同一个大队的青年中，备考者有三四十人，参考者 28 人，而最后被录取的只有 2 人。我就是这两人中的一员。当我收到录取通知书的时候，泪水难以抑制。其中混杂的，是终于能回到故乡的喜悦和长年努力得到回报的欣慰。

回首我的人生，再也不曾像当时那样的努力了。那时磨练的自学能力也成了我自那之后人生成长的基础。

——我们发现了解决上海居民天然气问题的“平湖 2 井”[52]—

田：郑先生考进大学，回到上海之后怎样了呢？

郑：

我在大学的专业是电子。当时的就业还是国家安排的，所以我毕业后就进入了地质矿产部的海上考察队。

出海探查石油和天然气是我们的工作。在那时候，我们考察队发现了“平湖 2 井”。这是一个直到现在仍在向上海供给着天然气的气田，对国家来说，这是一个很重大的成绩。因此，我们获得了国家级的团体二等功，全体船员和探索队员都获得了国家颁发的 50 元奖金。获得的奖状也作为荣耀而被装饰在船上的餐厅中。

---

[52] 平湖油气田，是中国在东海陆架盆地西湖凹陷开发出的一个高产油气田，目前属上海市管辖。

这是一件十分有价值的工作，不过长则数月，短则三周的海上连续作业，让我无法实现我很多理想。几乎每天都在海上，不能和家庭、朋友相会，也没有任何的娱乐。虽然仅仅是大学毕业生就让我足以向他人夸耀，但我仍怀抱着许多其他梦想。

－－－来到日本后的我，所做的一切努力都获得了回报

田：郑先生是因为什么契机来到日本的呢？

郑：来日本是很偶然的事。我准备辞去海上考察队工作的时候正是海外留学在上海流行的时候。谁谁家的儿子去美国了，谁谁家的女儿去日本了，总是有这样的小道消息传进我的耳朵里。因此我也开始考虑，是不是我也应该去海外留学呢。

这件事想起来容易，现实情况却不是这么乐观的。对于在国外没有亲戚朋友的我来说，留学不是一件容易的事。我开始想尽各种办法收集需要的信息，作好准备。

1988 年 4 月 23 日，星期六，我来到了日本。在上海的机场，我像个英雄一样充满自信地和亲朋好友挥手告别，可是一坐上飞机，心里就开始打鼓了。因为我既不会日语，在日本也没有亲近的朋友。在飞机上认识的朋友的带领下，我稀里糊涂地从成田机场来到了池袋。到了池袋，那个人跟着亲戚走了，只剩下了我。我不知道该怎么办。没有办法，我拿出来了在上海得到的 3，4 个在日本的熟人的熟人的住址信息，跟日本人问了路。我坐上出租车，准备去离池袋最近的一个人那里。当时下着小雨。

那个时候的中国留学生都很忙。每天忙于学习和打工等，在家的时间很少。但是很幸运的是，那天那个朋友正巧在家。可是，房东说朋友不能住下，因此那个朋友帮我介绍了一个旅馆。我来到了一个小旅馆。由于一般的房间比较贵，一个在那个旅馆打工的中国人帮我翻译，我跟旅馆的经理谈了谈，说好让我以每天 2200 日元在储物间住 4 天。我在这 4 天里找到了临时的工作，不管怎么说，总算开始了在日本的生活。

我心里明白，没有收入的话在日本的生活没法继续下去，所以开始找临时的工作。但是因为我完全不会日语，没法直接去申请工作。于是我又求助于旅馆的经理。在不二家洗碗是我一开始看中的工作。面试的时候我让旅馆的经理作为翻译跟我一起去，他帮我跟不二家的人谈。对于一个不会日语，无法跟日本人交流的刚刚来到日本的留

学生来说，一般情况下是不可能被录用的。但是可能因为他们没有见过像我这样跃跃欲试的人，我意外地被录用了。

我的生活终于步入正轨。

那之后我又打过很多工，也发生过很多故事。比如说仅仅是临时工，我就做过西餐厅，高田马场的日薪劳工，拉面店，俱乐部，活动策划，保安等工作。我利用自己积极主动的性格优势，不断挑战高层次的工作，也得到了我想要的收获。不但为我自己，我还给周围的朋友介绍工作。因为我的乐于助人，我得到了周围人的尊敬。在这期间，我只得过一次大病，胃的三分之二被切除了。除此以外基本都很顺利。

自从来到日本，我的努力都得到了回报。我开始“如鱼得水”。

———在早稻田大学享受校园生活

郑：对于在中国参加过高考的我来说，日本的研究生入学考试不算很难。生活步入正轨后，我通过不到一年时间的学习掌握了日语和专业知识，参加了考试。结果不错，我幸运地被早稻田大学研究生院录取了。

在早稻田大学我第一次开始享受真正的校园生活。我不但学习，也玩，打工，交朋友，谈恋爱。还有一点，我创建了早稻田大学中国人校友会，被选为第一代会长。创建这个校友会的目的是为了中日友好，中国人之间的信息交流，和日本人的文化交流，及相互帮助。通过这些活动找到男/女朋友的人也不少。（笑）当时认识的很多校友，现在有的回国了，有的去了其他国家，有的还留在日本，但是不管在哪儿，时隔十几年后的今天，我跟他们仍然像家人一样的来往。

在早稻田大学我的收获是无价的。

———在富士通的近 8 年时间让我成熟起来

田：郑先生在富士通的人生怎么样

郑：其实进入富士通也是很偶然的事。还在早稻田的时候，学校为了让学生们了解社会，经常组织工厂参观，公司参观等活动。碰巧我去的公司中有富士通。在大学的就业指导中心的推荐下，我申请了富士通。

1993 年进入富士通总公司的中国人员工只有我一人。富士通也很重视我，最后的领导面试环节是一个现在很有名的人面试了我。我很顺利地通过书面考试和面试，成为了一名系统工程师，但是一开始真的很艰难。我做过对客户的提案事先在公司的内部验证，已经跟客户交工的系统出现的问题在再现之后的解决，系统性能的改善等工作。我也曾经比同事们工作进度慢过。对于对别人的赞赏和尊敬比任何事都看得重的我来说，这些日子真的很难熬。不过我没有想要逃避，因为逃避一次的话以后就会成为习惯。为了在工作中找到自信，我每天拼命工作和学习。我首先拿到了 IT 工程师认证，后来又拿到了微软系统工程师认证 MCSE（Microsoft Certified System Engineer），还拿到了富士通认证的富士通 IT 专业软体工程师（Fujitsu IT Expert SE）等证书。从那以后我对工作逐渐有了信心。并且 TOEIC 考试也在部门内取得了好成绩。最后实现了去美国短期留学 6 个月的梦想。

通过近 8 年的工作，我成为了一名合格的系统维护工程师，也有了自己的人生哲学。不管有什么样的目标，不慌张，不着急，只要脚踏实地，一步一步地向自己决定了的方向稳步前进就行。

正在这个时候，又是偶然的机会，一个猎头公司向我推荐一个名为 PTC 的公司，我递交了自己的简历，结果对方说希望我立即过去。1 个月后，我离开了富士通，进入了 PTC 公司。

———赴美留学拓展视野———

在富士通工作的第 6 年时，我获得了到美国培训 6 个月的机会。

对已经拥有 10 年海外生活经验的我来说，已经自认不管去哪儿都不会受到文化冲击，不再会思乡了。不过现实并不总是那么理想。在美国，从找房子到买东西，不管什么事情都与日本相当之不同，我也因此遇到了各种各样的麻烦。到美国一个月之后，十分奇妙的，我开始思念起日本了。思念日本城镇中的安心感、思念好吃的日本米饭，思念着各种在日本理所当然地享受着的东西。六个月后，回到久违的成田机场的瞬间，我心中涌起了“终于回来了”的感觉。

接着，通过体验了另一个世界和应对各种挫折，我的想法改变了，视野也广阔起来。

在美国的学习生活中磨练的英语能力，直到今天仍然是业务中不可欠缺的才能。另外，在美国的短暂时间内，除了工程技术之外并未接触过其他知识的我也一口气学习了市场战略、经理、人事、交涉、金融等方面的知识。

而在这之中最重要的，是对“文化”二字的理解。在现今多元化的社会中，这段经历确确实实地帮助我更好地理解了周围的人。

就如同二次元世界与三次元世界的不同一般，在通晓三国语言之后，同过去只明白两国语言时相比，有着巨大的不同。例如，现在在家里的有线电视，观察中国、日本、美国和英国的频道对同一事件所表现出的不同态度，实在是很有趣。

－－将我在全球化社会中通用的经验分享给中国的年轻人－－

田：拥有丰富的人生经验，积累了多彩的职业生涯的郑先生，今后的前进方向是什么呢？

郑：

对我来说，金钱已经不重要了。如何将自己总结的哲学和先进的文化用于鼓舞、指导他人，能为他人做些什么，并获得尊敬是我今后的目标。

现在的中国正以迅猛之势发展着。但是这个发展的平衡性并不好。经济的发展很快，相对的，政治、文化方面的发展还比较迟滞。即是硬实力上已经成型，软实力还远远跟不上。要扮演大国角色，除了经济实力之外，更需要的是被国际社会所认同的文化等软实力。这就需要制度的改革了。对中国来说，善用了解国际社会、并在海外取得成功的华人是非常重要的。要建设一流的国家，需要有一流的情报和一流的努力、更要有一流的文化，而这些正是我们的优势。如果有机会的话，我想回到中国并向年轻人传播适用于国际社会的价值观。

－－－要相信自己－－－

田：郑前辈能为我们后辈说几句心得(指导)吗？

郑：

人生最难之处就是迷惘。今后干什么？朝哪个方向发展？这种情况，相信谁也曾经历过。最重要是要相信自己。

请教别人有时也难得其解。要相信自己，敢想敢做。虽然不一定能马上见效，但 1 年，3 年后便会知道结果。

在认真做成功每一件小事后，我们的内心就会产生一点小的自信。换言之，一点一滴，虽然不能立竿见影，但能积小胜为大胜， 汇小溪而成大江。

田：谢谢郑前辈在百忙之中抽空接受我们的采访。非常感谢。

受访者的介绍：

郑梦丰

- 1959年　出生于上海。
- 1966年　在念小学一年级时遭上「文化大革命」。
- 1977年　离开学校、于１７岁时「下乡」。
- 1978年　「高考」合格、进入上海科技大学。
- 1982年　大学毕业、被分配往地质矿产部属的海洋地质调查大队。
- 1988年　来到日本、于言语学校从头开始学习日本语。
- 1990年　考进早稻田大学。
- 1993年　大学院毕业、进入富士通（株）公司。
- 2000年　转职到PTC（株）、直至现职。

宴会后合照，前排系领带的是郑先生。

采访者的自我介绍：

田洪涛

•1984 年　　出生于山西省晋城市。
•2002 年　　离开家乡赴冰城，到哈尔滨理工大学学习科技日语。
•2005 年　　抓住交换留学的机会，来到日本上大学四年级。
•2007 年　　考入名古屋大学大学院学习社会学。
•2009 年　　进入Ｆ公司工作，现职为通信领域营业。

漫画，游戏，电影，足球，篮球，高尔夫球，美食，拉面，红酒……我是一个有很多趣味的人，虽然大部分都只是初染皮毛，但我是一个热爱生活和工作的人。最近又迷上了开车……

这次有幸采访Ｆ公司的前辈郑先生，说实话刚开始有些紧张。但一见到郑先生那充满笑容和自信的脸，我的紧张也瞬间被冲散，对郑先生的好奇和敬佩油然而生。虽然这次采访时间相当的长，但郑先生丝毫没有露出一些疲倦和厌倦之意，那想把自己

的经验和哲学传授给后辈的热情，让这次采访进行的十分顺利，我自身也在其中获益良多。

请让我在此再次向郑先生表示深深的谢意。

座右铭
海纳百川，有容乃大

日本への印象

6　日本への印象　（徐航）

著者：徐航
翻訳：喬靖玉、張子誠
校正：伊沢　裕美

小雨の寒さが骨まで浸み込むほどのある冬の日に、私は日本を離れ、親しい 故郷への道につきました。この三年間余り、私は何度も祖国と数千年の因縁（淵源）がある『島国』との間を往復して、自分でも回数をはっきり覚えていません。私たちの縁を忠実に刻んでくれたのは、その茜色のパスポート中の模様紙だけです。

昔、鑑真大師[53]は日本へ渡海するため、紆余曲折し、何回も挫折に遭い、六度目でやっと成功されました。自分はこんなに簡単に渡航をしたり、気楽に生活している事は、先賢に対して申し訳ないと時々感じています。

元々、文章を書く習慣はありませんでした。しかし、今までで一番長く故郷を離れてみると、段々何かを書きたくなってきました。（恥ずかしいですが、実は今まで離れた最長期間は一年間だけです。）

自分は、日本のアニメとゲームにずっと興味を持っています。そのため、日本語を少し勉強しました。

アニメの中の世界はいつもカラフル（色とりどり）です。しかし、大学を卒業してから出会った日本人は、仕事の相手ばかりなので、日本の社会と日本の生活をモノクロ（単調）と感じてしまいました。

[53] 鑑真和尚のこと。

モノクロ色、断片的な記憶をまとめてみると、３つの言葉が浮かんできました：『静か』、『秩序』、『集団』。

一つ目の言葉は『静か』。　日本人は、『静か』に対して頑固と言えるくらい執着があるようです。

人がどんなに密集している場所でも、周囲（の環境）と合わないほど静かにすることが出来るからです。

この国のほとんどの場所で、音量を 30- dB 以上で話せば、周囲から「注意」される可能性があるでしょう。

通勤の地下鉄列車の中で、缶詰のように混雑しても、列車の中には会話が聞こえません。勿論、絶対的な安静ではありません。もし、目を閉じれば、呼吸の音、服が摩擦する音、電車がレールの上を走る音が聞こえます。周りに確かに人がいる事を感じられるが、空気までが固まるような沈静を感じてしまいます。

あまりにも「静か」なので、このような沈静を破ったら、情けない懲罰を受けるのではないかと想像せざるを得ません。

海外旅行する団体の中で、日本人は最も静かなのです。この「静か」は、中国人の習慣とは対照的です。

仕事をする時、中国のプロジェクト・チームと打合せをする必要がありました。話す時、（ついつい）段々声が大きくなってしまいました。日本人の同伴者は（？）その音量が気になって、そのチームと喧嘩していたと誤解（勘違い）しました。

善意的な注意をされた後に、勤務先のあの「静かすぎる」オフィスの中で恐らく私一人の声しか響いていない事を認識しました。ちょっと申し訳ないと感じました。
その後に電話をする時、意図的に声を押さえなければなりません。更に、会議室の中のキャビネットに囲まれたスペース[54]をなるべく使うようにしました。

54　少し『防音対策』がある会議スペース。

それにしても、技術的な議論をする時、中国人である私は、日本人のように声や感情を抑えて、自分と同じ程度「落ち着かない」相手と議論することができません。

ある日のでき事、日本チームのリーダーが会議室に入って来て、丁寧に「声を少し小さくしてくれませんか？」と言いました。

幸い、このリーダーは、オープンな性格をもつ『非典型的』な日本人であり、欧米で長期に滞在した経験があるので、私の失礼な行動を我慢してくれました。

その後、私はオフィスの中で電話をする時、特に気を使うようになりました。

日本人のケータイ電話の中にマナー・モードがある事から、彼らの電話に対する礼儀の『一面』が分かりました。　多分、外国人は日本の印象で最も深く感じるのは、このような礼儀に対するこだわりかもしれません。

二つ目の言葉は『秩序』。おそらく世界中の人々に日本人のイメージを聞いたら、必ず言われる特徴の一つでしょう。ルールを大切にして、固く守る。すべて決まった枠組みに従います。ルールがなければ、どうやって行動すべきかわからないぐらいです。ルールに対する頭の固さにしょうがないと思う一方、ルールを大切にする姿勢には尊敬してしまいます。世界で完璧な制度＆ルールなんか存在しないと思います。中国では「世の中で風を通さない垣なんか存在しない[55]」ということわざがあります。秩序を垣と例えれば、風を通すことがごく自然と考え、秩序を敵としてみています。実は、「秩序」という物は、ルールと同じ、あまり多すぎると、どちらに従えばよいのが分からなくなるから、私は過剰な「秩序」に偏見を持っています。ただし、秩序はとうてい完璧になれません。秩序が完璧でないことがわかっても、それを守るとは、大和民族は尊敬すべきです。

55　中国語では『世上没有不透风的墙』。

このようなルールを大切にする姿勢があるからこそ、人々が円滑な“協調性（若しくは等方性[56]）”を持ち、調和のある社会を作り出したのです。中国のリーダたちが唱えた「和諧」の見本は日本のような社会だ、と前からずっと思っています。

このような社会では、個人の行動が秩序に制限され、他人に害を及ぼすことはありません。人々が自分のことに専念でき、外部の被害から守ることに気を配らなくて良く、社会全体の運営管理コストが低く抑えられます。日本の「公平」というのは、チャンスの公平より、結果の公平です。

このような「公平」があるから、人々が穏やかに生活することができることになります。社会全体と歴史の観点で見ると、活力が欠け、硬直化の面がありますが、安定と調和において優れています。余談ですが、この日本人の秩序依存症は、自己思考力に多少欠ける面があり、結果ミリタリズムのような極端思想をトップダウンで浸透しやすい環境をつくる一因にもなりました。。

三つ目の言葉は『集団（チームワーク）』。大和民族のチームワークは世界中のどんな民族にも負けません。“誰も天才ではあるまいし、みんなの協力と努力がなければ、成功できません”、がわたしの課長の口癖です。仕事の中、大袈裟なほどの時間を使って、コミュニケーションをとります。“ほうれんそう”――報告、連絡、相談――は定番のコミュニケーション手法です。何かあったら、連絡してください。特に問題がなくても、報告をお願いします。困ったことがあれば、相談してください。“報・連・相”のほか、会議はもうひとつの重要なコミュニケーションツールです。日本人が会議に熱中することに感服します。わたしから見ると、このような会議にいつも無関係な人も参加して、効率が決して良いと言えません。ところで、このような密なコミュニケーションの中で築いたコラボレーション関係はチームに強い求心力をつけます。集団が力をあわせ問題を解決します。中国人の同僚が自分の仕事が終わって先に帰宅したことを、日本人パートナーにクレームされたことがあります。理由はほかのチームメンバーの仕事がまだ終わっていないのに、助けずに先に帰宅することは、チームワークに傷をつけるからです。もうひとつ代表的な例は開発体制です。ソフトウェア工学が提唱するモジュール開発手法は日本でいつも多少日本流にアレンジされます。標準化で代用可能なモジュールインタフ

---

56 物理学用語。常用単語としては「協調性」。

ェースより、日本人が強いカップリングのインターフェースを多用する傾向があります。何かを修正する時に、影響範囲が余計に広いです。

ほかに、清潔、便利などもかなり深く感心していますが、ひとつの話題として書くほどではないかと思います。中国の GDP がやっと日本を超えました。先端技術においても日本に追いついた、追い越したところもありますが、生活環境、豊かさ、社会において、日本と少なくともまだ 20 年の差があるでしょう。日本や欧米諸国との交流がますます深くなる中、日本のように外来文化を良く吸収、定着させ、アレンジできればと思います。おそらく、これも海外華人の共通の願いかもしれません。

____

著者紹介：

徐航

福建省福州市出身。

2006年福州大学卒業、同年福建省にあるF社に入社。

在職中に北京郵電大学の在職修士資格を取得。

2007年から横須賀、仙台、福岡のF社の関連会社で勤務。

日本の駐在歴は二年。

趣味は、ゲーム、アニメ、サッカー（応援するチームは、ブラジルとインテルミラノ）、囲碁、読書、カラオケなど。

趣味の影響で、日本で一番魅力を感じるところは秋葉原。

時々、変な日本語を使っていることを指摘される。

現在福州市で穏やかな日々を送っている。

扶桑印象一二

徐航

又一次在深冬的刺骨的细雨中，离开了扶桑，踏上了我深深恋着的故土。三年多来，自己已然不知这是第几次往来于这个同我们有着数千年渊源的岛国邻居，只有暗红色的护照上斑驳的页面忠实地记载着我们之间的缘分。当初鉴真大师为了东渡，几经周折，六度乃功成。有时觉得自己这样轻松地生活，颇有几分对不起先贤的惭愧。

长久以来，没有码文字的习惯，不过在渡过了人生最长一段连续离乡的岁月（很惭愧的只有一年而已 －_－）之后，总稍微有了一点点写点什么的念想。个人一直对日式的动漫和游戏感兴趣，些许的日语也是由此而来的。动漫中的世界总是彩色的，不过，由于工作的关系，从毕业以来就一直同日本和日本人打着交道，在我眼中的日本无疑是一个单色调的国家。从单色而散乱的回忆中随手捡起若干碎片，拼出文字是安静、秩序、团体。

第一个词语是静。日本人对静似乎有着近似苛刻的诉求。不论在人口有多么密集的地方，都有着和周围不相配的安静。在这个国度里，在大部分场合，以 30 分贝以上的音量说话，都将会招致周遭异样的眼神。通勤地铁里，即便拥挤得如沙丁鱼罐头一般，车厢里也总是没有任何的说话声，当然，并不是绝对的安静，当你闭上眼睛，喘气声、衣物摩擦的声伴着电车撞击铁轨的声音，让你确确实实地感觉到周边有人的存在，但却有一种连空气都要凝结般的沉静。这份沉静，令人不得不相信，打破它将会受到无情的惩罚。在国外旅游的团体里，日本人，总是最最安静的一群。这份安静，尤其同中国人的习惯形成了鲜明的对比。工作时，我常需要同中国的项目组交流，在说话中，不经意的就会提高声量，日方总是十分惊愕于我们的音量，认为我在同项目组其他人员吵架。一次被善意提醒之后，隐隐约约意识到由于太安静了，整层办公室里或许只有我的声音在回响，也颇有一些不好意思。之后再电话的时候，便不得不有意识地压低声音；而且经常故意使用会议室的相对封闭的空间了。不过终究有时在技术和项目有些辩争，作为中国人的我毕竟没法像日本人一样以一种对我来说很压抑的方式来同和我一样不冷静的人论争的。终于有一次，还是让我的日方的主管(team leader)冲进了会议室，很客气的对我说小声些。幸而那时候的主管是一个相对来说

是一个比较开放非典型日本人，多年的欧美经验可能让他对我的无礼行为的容忍度更高一些。之后，我就更加注意在办公室中的电话了。这点在他们对手机的静音振动(manner)模式的重视上也颇是可见一斑。大约所有的外国人对日本最深刻的印象或许就会是这一点。

第二个词语是秩序。这是世界上最流行的日本人的形象里面，一定会有的元素，尊重规则以至于刻板，一切都依照条条框框，甚至于没有规矩就不明白该如何去做一件事情。在对他们死板感到无奈的同时，我也不得不对他们对规则的尊重感到敬服。世上是一定不存在完备的制度和规则的，中国有句谚语是世上没有不透风的墙，我们的观点是秩序是墙，风去透过墙是自然的，亦即将秩序敌视化，当然，我想很多秩序确实使人不得不敌视他。不过，秩序始终是没有完美的，大和民族特别可敬的一点是，对不完美的秩序的尊重。这种尊重使得整个社会显得十分调和，人更多显示的是一种圆润的各向同性，我一直以为，中国领导人现在提出的和谐的模板，就应该是像日本这样的。在这种社会中由于个人的活动被限制在秩序之内，由秩序保证了个人对他人的无害性，每个人可以安心的做好自己的事，不用尽力去保护自己不受伤害，整个社会运营的管理成本就能得到较好的控制。日本的公平，更倾向于结果公平而非机会公平。这种公平使得大家能更平稳的生活和工作。从全体和长期的观点看来，这种组织方式存在僵化无活力的一面，不过其安定性和和谐性是无可质疑的。作为杂谈，日本人略显缺乏思考的秩序依存性，也使得军国主义这种极端思想相对更容易地从上而下的被贯彻下去。

第三个词语是团体。大和民族是一个十分具有团队精神的民族，他们比世界上任何国家和地区都更重视集团的效应。“大家都不是天才，靠着共同的努力和协作，一起把事情做好”是我们课长喜欢说的一句话。在工作中，使用大量到夸张的时间来进行交流，交流的常用方式是“报联相”，即报告、联络、相谈（商量）。有什么事的话，请与我们联系。 即使什么问题也没有，也请向我们报告。 有什么困难的事情，请与我们商量。而在“报联相”之外，就是会议了，日方工作中对会议的热衷程度是令人乍舌的。而这些会议，在我看来总是有大量的不相关人员参加，是十分效率低下的。不过在高度的沟通中培养起的协作关系，使得整个团队有强大的向心力，以集团力驱动解决问题。曾经有中国同事干完了自己的任务就回家了，被日方投诉了，理由是同组的其他人还有任务没完成，你独自回家了，而不是去协助未完成的人，不利于团队共同完成工作。另一个典型的例子就是他们在开发中的组织形式，软件工程通用

的模块化开发似乎在日本总是要打些折扣的，比起标准化可替换的模块接口，日本人总是更喜欢采用紧密型的接口，导致项目往往修正的波及面更大一些。

至于其他的干净、便捷之类，不能说感触不深，但在我看来或许不值得大书特书吧。中国的GDP总量虽然算是超过了日本，或许最高的技术上面也已经不遑多让了，不过在民生和社会方面，在我看来差距少说也在二十年以上罢。希望我们在同日本、欧美等国家的不断交流中，慢慢地也能够像日本那样对外来文化一样，更好的吸收、保留和再创作。我想，这也是全体在外华人的共同愿景罢。

作者的自我介绍：

徐航

生于福建省福州市。

2006年福州大学毕业。同年、进入福建富士通工作。

在职期间，在北京邮电大学取得兼读课程硕士学位。

从2007年起，先后到横须贺、仙台、福冈等地富士通的分公司出差（驻留工作）。驻留日本约二年。

兴趣： 电子游戏，卡通片，足球，围棋，卡拉OK

由于兴趣关系，觉得日本最具魅力的地方是秋叶原。工作上，偶然会被同事说我用了奇怪的日语。

现在福州市平稳的工作。

日本で夢を追いかけた四年間

7　日本で夢を追いかけた四年間　（漆昭羲）

私は、2005 年の春、日本に来ました。

社会人として来日した事は、学生や一般のブルーカラーと少し違いました。経済的に独立できたし、仕事の経験もありました。更に、IT システムに関する専門知識を持っていました。

言葉の問題と仕事

最初は日本語があまりできませんでしたが、職場で研修しながら、この難関を乗り越える事ができました。

会社では日本に住む中国人にたくさん出会いました。彼らから日本社会の知識や文化をたくさん学びました。勿論、日本語の勉強も必要でした。日本語のトレーニングクラスやボランティアが教えてくれた日本語教室に幾つも通いました。

言葉や文化の違いに対して、最初の二年間は一番大変でした。時には同僚の話さえ理解できませんでした。

私は、二つの会社で勤務をしました。一つは、半導体技術に関する研究センター、もう一つは、電子機器を製作する医療機器会社です。

個人的な意見ですが、日本企業の習慣及び特徴（文化）はどこでも結構似ていると思います。

まず、一番重要なのは、上司やリーダに従うことでした。その次は製品や生産工程（プロセス）を改良できる方法を探すことでした。そして、常に慎重に仕事をすることでした。

仲間との出会い

仕事以外に、私はよくハイキングなどのスポーツ活動に参加したり、カラオケに行ったり、世界中から来た友達と夕食をしたりしました。夢を追いかけるためにはストレスを吹き飛ばして、自分をリフレッシュすることが大事だと思います。

日本では、３つ以上の言語を話せる外国人エンジニアたちに出会いました。商学修

士（MBA)、修士、博士号のような高学歴を持っている人もいました。彼らはみな親切で、私にいろいろアドバイスをしてくれました。

彼らの助言は、私が自分の事（長所・短所など）を更に理解して、より適したゴールを設定するのに役立ちました。

ハイキングと宴会

娯楽として、私は同僚たちとよくハイキングに行ったり、宴会をしたりしました。2007年には、鎌倉の源氏山公園を訪れたり、東日本にある温泉も楽しみました。

源氏山公園では、ある小さなお神社[57]を参観しまして、「皿割り」という占いを行いました。

百円で陶器の皿を一つ買って、石に投げる占いでした。

「悪運は壊れた皿のように去っていきます。」と友達が教えてくれました。

ハイキングの後、私たちはレストランで酒を飲んで、楽しい出来事を共有しました。このようなハイキング旅行や宴会で楽しい時間を過ごしました。

日本で四年間生活して、私は、世界をどうやって理解するか、違う文化にどうやって接触するか、外国人と一緒にどうやって生活するか、をいろいろ学びました。

さらに、私は、日本語と先端技術を学びました。

これらの経験は、私にすばらしい記憶だけでなく、より大きな夢を実現できるように導いてくれました。

---

57 『葛原ヶ岡神社』。神社の鳥居の隣には『魔去ル石（まさるいし)』があり、**陶器の**皿を真ん中の石に当てて割ることで「魔が去る」又は「幸せを勝ち取る」という伝説がある。**陶器の皿**は１枚１００円。

11月23日登山大野山。山峰高海拔700多公尺，路上可见富士山和相模湖。

Upper photo: “Genji” mountain in Kamakura, May 2007.

上の写真：鎌倉源氏山、2007年5月

Lower photo: “Oonoyama” mountain in Kanagawa prefecture, autumn of 2007.

下の写真：大野山、2007年秋

中国帰国後の仕事と生活

2008年に帰国してから、友人と共に、中国南部の都市深圳(シンセン)市で電子製品会社を設立しました。仕事も生活も日本にいた頃と同じく忙しいです。レジャーとして、カラオケに行ったりスポーツをしたりしています。　時々、SkyPeのチャットやビデオホンを通して昔の友人たちと連絡をとっています。

にも関わらず、日本の山々とレストランで友人たちと過ごした時間を、心の中でよく懐かしみます。

特に、日本語を教えてくれたボランティアたち、及び私の日本語を我慢強く聞い

てくれた友人たちに感謝します。

著者の自己紹介：

漆昭羲

中国広西省桂林市出身。

2004 年山西省にある太原科学技術大学卒業。2005 年から 2008 年まで、日本で仕事をする。

大学在学時、鉄道で南北の多くの都市を旅した。 2008 年帰国後、中国南部のシンセン市で電子製品会社を設立。重役である。漆氏は、顧客対応や製品生産に携わっており、仕事も生活も忙しい。

休日はカラオケやスポーツを楽しんでいる。

Victoria Harbour, Hong Kong, 2009

香港の港;ビクトリアハーバー、2009年

Hiking after returning to China (Outskirt of Shenzhen city)

帰国後にも山を楽しんでいる（シンゼン市近郊）

Pursuing my dream in Japan

Qi Zhaoxi

I came to Japan in the spring of 2005. Coming to Japan as a businessman is different than coming as a student or blue-collar worker -- it may actually be a bit better since we're more economically independent, have working experience, and can leverage our skills with IT systems.

Language and Work

While we may not speak Japanese well at the beginning, we can overcome this difficulty through on-the-job training. In my company I met many Chinese men and women who live in Japan. From them, I learned many things about Japanese culture and society. Of course, I also needed to learn Japanese. I attended language training classes, classes taught by volunteers, and more.

The first two years were the hardest in terms of language and cultural barriers. Sometimes, I could hardly understand my colleague's conversations.

I have worked for 2 different companies: a research center for LSI technologies and a medical equipment company that manufactured electronic products.

In my opinion, habits and mannerisms (the culture) and the rules of a Japanese company are quite similar.

First, it is important to obey your leader.

Second, you should be looking for opportunities to make improvements to a product or related processes. At all times, you must work very carefully.

Met friends

Besides working, I often participated in sports like hiking, went to Karaoke, and had dinner with friends from countries across the world. It's important to blow off some steam and refresh yourself so that you can continue to pursue your dream.

In Japan, I met foreign engineers who spoke more than 3 languages. Some held very impressive educational qualifications: MBAs, MPhils and PhDs.

All of them were friendly and helpful. They helped me to understand myself better and to set more suitable goals.

Hiking and Parties

For leisure, many colleagues and I went hiking and held dinner parties.

Once in 2007, we visited a small hill called “Genshi” mountain in Kamakura and enjoyed some hot springs in Eastern Japan.

During the trip, we stopped by a small temple (or “Jinja”) and had our fortunes told by breaking a ceramic disk, which cost 100 Japanese yen.

Friends told me that bad things would go away just like the broken disk. After the hiking, we had drinks in a restaurant and shared many of our funny experiences. We spent some good times during such hiking trips and parties.

I ended up living in Japan for about 4 years and learned many things about how to understand the world, how to approach different cultures, and how to live with different people.

I also learned a different language and the latest technologies.
I believe all these things are helping me to realize a bigger dream, in addition to being great memories.

Work and Life after returning to China

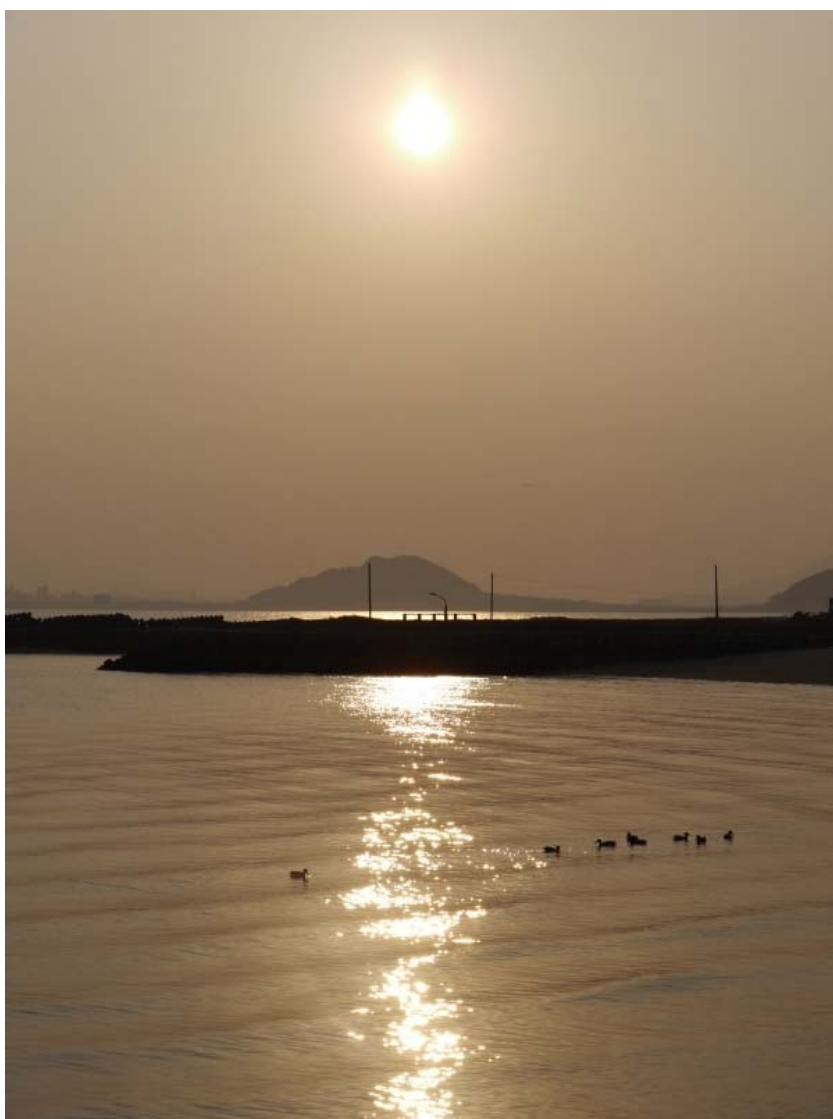
After leaving Japan in 2008, some friends and I opened an electronics company in Shenzhen, a southern city in mainland China. Work and life are as busy as in Japan. I sometimes go to Karaoke and participate in sports for leisure. I also keep in touch with some old friends through Skype chat or VOIP.

However, in my heart, I also miss the time we shared hiking Japan’s mountains and visiting restaurants.

Especially, I would like to thank the volunteers who taught me Japanese and the friends who patiently listened to me speak Japanese.

Bibliography:

Qi Zhaoxi was born in the city of Guilin in GuangXi province. He graduated from Taiyuan University of Science and Technology, Shanxi province, in 2004 and worked in Japan from 2005 to 2008. While he was a student, he travelled by railway and visited many cites in northern and southern China. He has been an executive staff member of an electronics company in Shenzhen since 2008.

Work and life are busy. Qi Zhaoxi meets with customers and is involved with manufacturing at his current company. When he’s not working, he enjoys Karaoke and sports.

『パーフェクト・ハーモニー[58] 』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）
『诙谐之美』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）

[58] パーフェクト・ハーモニー(Perfect Harmony)： 由来は、ビートルズの歌の中に、「違う民族の人は仲良く暮らしている」を意味する歌詞。

経歴篇

私と中国

8　私と中国　（鎌田孝昭）

はじめに

私がこの原稿を担当するに当たり。

ここに記述する文章は第二の故郷とも言える中国。黒竜江省ハルビン市平房区で幼年期から少年期にかけ約６年間住み実際に体験した事実の記憶を頼りに記録したものである。日本が進めたことにより、「満州国」を設立結果的に幼少だった私たちも加担したことになり複雑な心境である。

人生とは、この世の中に生を受け一生大過なく過ごす人々はほんの少しの人に過ぎない。これらはその時々の世情等が大きく影響し個人の努力では如何ともし難い要素を多分に含んでいる。日本の諺に「楽有れば苦あり」。しかし、だからと言って何もせず遊んでばかりは居られない、そう言う意味で私の今回の執筆は正に地獄を体験しまた平穏な時期も体験することが出来た、幸せの条件を私なりに考えを述べると

１）健康で
２）信念を持ち
３）日頃の努力を怠るな

これが庶民の生きる道で結果として個人的に満足するかしないかではなかろうか。

１）幼年期

１９３６年、今の茨城県日立市に生まれその後父の勤めの関係で今の中国黒竜江省ハルビン市で物心つく、ここから私の人生が実質的に始まる。私たち家族は、父母、1945 年当時私（８歳）、弟（６歳）、妹（４歳）、末の弟（１歳）である。ハルビン市と言うところは当時ロシア人が多く住み、市内を松花江という対岸まで２Ｋｍもある大きな川[59]が流れていて、建造物など西欧風の街並み。両親は住んでいる地名を馬じゃ江[60]と呼称しており、家屋は二軒続きレンガ造りの狭い家で対す

[59] 記憶による。　[60] 現地名：马家沟河。

る所にはロシア人が住んでいた。しかも暖房は酷寒の気象下でも過ごせる「ペチカ」、「トイレは水洗」庭は比較的大きく季節によっては綺麗な花が咲き乱れ、外の道路には路面電車が走っている近代都市でした、また近くには教会もあり、私たちには異国情緒な街並みにみえました。

聖ｿﾌｨｱ大聖堂　　　　**中央大街**

ハルビン在住時にはよく父母に連れられ近くの公園、夏は松花江でボート遊び冬は橇で氷結した川を楽しんだものでした。

その後平房区の陸軍の官舎に転居、そこは広大な大地の真っただ中に軍の施設とそこに働く軍人・軍属及び家族のための官舎及び学校・病院等が建設された。

私たちの住んでた住居
現在一部増築して住んでいる

そして不幸な時代に突入昭和１６年１２月８日、日本がハワイの真珠湾に奇襲攻撃し米英に対し戦争に突入私はまだ５歳の年齢であったがその時のラジオから流れるニュースは未だに鮮明に記憶に残っている。

真珠湾奇襲攻撃

２）少年期

しかし父親は大陸の気象条件下で体質に合わなかったのか病に倒れ病気療養のため郷里の岩手県に一時帰国。

大国に戦線を挑んで見たものの徐々に戦況が不利になり徐々に連合国側の包囲網に立ち向かえないような状態になった。国力の差とでもいうのか無謀な戦いに挑んだものであった。

そんな最中の昭和１８年当時の国民学校に入学した、ようやく父の病状も回復職場復帰となり６月にハルビン市に戻るために日本を離れることとなったのです。

故郷の岩手県からハルビン市までは今と違い、
郷里の岩手県花巻駅 → 上野 → 山口県下関 → 連絡船 → 韓国･釜山 → 北朝鮮 → 鴨緑江 → 中国・瀋陽 → 長春 → ハルビン　と出発から約一週間の長旅と記憶している。釜山からハルビンまでは寝台車に乗りという旅行を数回繰り返した思い出がある。

大陸を疾走する蒸気機関車

平房区にあった官舎まではハルビン駅から車で一時間程の距離で未舗装の道路を走行、周囲は広大な畑作地帯を通り抜け長旅から開放されるのである。東郷国民学校に転校手続をすませ勉強に励んだ。

ここで四季に対する強烈な印象

１）春　季節風であるのか強風が吹きまくり砂粒が皮膚に当たり痛かった記憶。
２）夏　強烈な暑さ、表現　頭の上にフライパンを乗せているような気持。
　　しかし空気が乾燥しているため日陰に入ると涼しく感じる。
３）秋　意外に早くしかもすぐ酷寒の冬到来。
４）冬　学校の校庭にスケートリンクのための土手で築き水を張ると一晩で厚さ
　　３０cm 程度のリンクが完成する。その即席スケートリンクでは国民学校一、二年の冬、２回だけで終わってしまった。しかしスケートも楽しい思い出となっている、そのような酷寒の地での衣類は頭のてっぺんから足のつま先まで防寒対策をした。

そんな最中担任の先生が授業の合間を見て近隣の中国人学校を訪問仲良くしていた。また、瓜やスイカを御馳走になったりした。今になってみればいい思い出であった。

私は国民学校３年生になり、戦況がますます悪くなり日本軍の敗退あるいは玉砕なんと言うニュースが頻繁に報道、すでにヨーロッパに目を向けるとドイツ・イタリアは敗北。国連軍の戦力は日本に向けられた日本は敗戦濃厚となった。

戦線を広げた日本軍は戦いに必要な物資が欠乏南方の島々は国連軍に占領され、その島々から米軍機が多数日本本土に飛来軍事施設を始め爆弾を雨あられの如く投下。

焼け野原と化してしまった

そして広島・長崎に原爆投下そんな矢先、ソ連軍と見られる軍用機が夜間頻繁に飛来焼夷弾投下を始めた。当日私は学校にてお昼頃と記憶していたが、担任の先生から「すぐ家に帰れ」その言葉に全員帰宅。そして私たちに運命の日昭和２０年８月９日不可侵条約を結んでいたソ連軍が黒竜江を越境、怒涛の如く進撃、力尽きた日本軍は無抵抗。

家に帰って見たらソ連軍が攻めて来るから平房の官舎を捨てて逃げる。軍が急遽編成した有蓋貨物列車にて取りあえず北朝鮮に疎開するとの事で、持ち物は殆んど無く、私はランドセルに教科書を少し、やかん、ナベ、そしてスケートあと記憶にないのです、軍の中枢部は当然この事態を把握していたのであろう。取り敢えず家族を優先して脱出をさせたのであった。急遽変成した約４０両に全家族　数百人が分散乗り込んだ一行の指揮は私の担任の先生が買って出られ以後色々御苦労された事と思いました。やがて日も沈み漆黒の夜となった私たちを乗せた列車はゆっくりと走り出した。

今の平房站、６５年前此処から逃避が始まった

どの位走ったであろう。たぶん二駅ぐらいで停止した。そこから全く動く気配もなく一夜を明かした。８月１０日朝やはり列車は動く気配もなく停車していた。長い一日が過ぎ夜となった列車はようやく動きだし、しばらくして　ハルビン駅に到着そこはまもなく進撃してくるソ連軍の恐怖から逃れるため駅に集中し蜂の巣を突いた様な大混乱と化していた。ハルビン市内に居住あるいは近隣の地から難を逃れるために辿り着いたのであろう。

今のハルビン駅

ハルビンの秋はもうすぐ来るそして酷寒の季節が､私たちの乗った列車はのろのろと走りだしたまるで人間が走る位の速度で南下していた｡列車が走るといっても停車している方が長く、思い出しては少し走ると言ったところでした。

8 月 15 日、列車はようやく　長春駅にお昼ごろ到着。平常時なら３時間足らずの距離を６日間かかって到着したのでした。と同時に　広島・長崎に特殊爆弾が投下、被害膨大というニュースがありまた「重大発表があると」告げられた。

原爆投下により廃墟と化した広島

その内容は､ついに日本は　ポツダム宣言を受け入れ戦いに敗れたことを認めたのであった。これは昭和天皇が直接日本国民に向かって放送したのであった。

振り返ってみれば３年８ヶ月多くの犠牲をだし無謀な軍部の暴走に対する結末であった。長春を後に再び列車が走行開始しかしあい変わらずのろのろ状態。８月１５日を境に立場が変わり何とか走行開始。当初北朝鮮に疎開から日本へ変更になり、のろのろと走り出した。行く先は釜山となった。

ここで私の移動中の役割は列車が停車するたびに　やかんを持って飲料水探しで有った。長春駅を後に数日経た日、中国と朝鮮の国境である鴨緑江という川を渡り今の北朝鮮に入る。何日か経過「ピョンヤン」、「ソウル」と朝鮮半島を縦断、長かった移動が終わりに近づき彼方に海の景色が見えてきた。私たちの乗った列車は終着の釜山駅に日も沈んだころ到着。ここで今だ疑問として私たち数百人を一週間以上にわたり食事等の世話を誰がどのようにお世話頂いたのかである。食材等の準備も無くまた炊飯等の設備、燃料しかり、いまだ不思議である。私たちは移動の終着駅釜山駅周辺で一泊した。

翌朝日本行きの船に乗るため埠頭に向かった。埠頭にはこれから私たちを祖国日本に運んでくれる船が停泊していた。

船の名前は「興安丸」以後二度と此の地を踏むことが無いのでは。そんな気持ちで乗船。やがて船汽笛を鳴らし静かに岸壁を離れ釜山港を後にした。

引き揚げ船　興安丸

天候は雲一つない晴天日本の港に向け徐々にスピードを上げていった。どのくらい走ったのであろうか太陽は西に沈み進行方向に日本の山々が見えてきた。

戦い敗れて山河有り

入港する港は山口県須佐と言う小さな漁港で大きな船は岸壁に接岸出来ないため、はしけに　乗換て上陸した。港は比較的静かで、もうすっかり日も暮れ徒歩で須佐の学校に到着、教室で一泊した。長かった外国となった地を追われるように長い時間をかけ幸いにも郷里日本の地を踏めた事を感謝しなければならない。

日本の間違った政治により犠牲となった数十万人の名もない人々、帰国の列車に乗ることが出来ずやがて忍び寄る涙も凍る地で無念にも天国に散った同胞に改めて冥福を祈ります。

翌朝今度は無蓋貨物列車に乗って山口県の須佐駅を後にした。幸い天気は快晴何ら支障はなかった。経路は（想像）須佐駅　→　益田駅　→　山口線　→山陽本線経由　→　大阪駅止まり　と言う経路で思いは一路私たちの郷里へ向かっていた。途中駅の景観は戦いに敗れた姿、復員軍人の姿が多く行き交う列車は鈴なりの状態、乗り降りは窓からで車内は超満員の状態であった。途中の記憶として６５年経過したにも関わらず脳裏に刻み込まれた景色。それは原爆投下を受けた二週間も経たない広島駅周辺の状態。列車が通る線路帯は何とか復旧していたが側帯は被害を受けた蒸気機関車・貨車の残骸等が横たわり、建物の姿など全く見られず被害の惨状は無残としか言いようが無い状態であった。噂によると、今後７５年間は草木も生えないと噂も立ちその惨状を見ながら列車は大阪に向け走行開始した。

どの位時間が経過したか記憶にないが、やがて列車は朝九時頃大阪駅に到着。ハルビンから面倒をみてこられた先生はホームに全員を集め、お別れの挨拶があり要約すると　無事ここまで辿り着いた皆さんはそれぞれの郷里に向かう事でしょう。最後の力を振り絞って下さい、そして皆それぞれの地へと別れて行ったのである。

私達も父母の郷里である岩手県に向かうため駅ホームで待っていた所東京方面に行く列車が来たので取りあえず乗った。その列車はどう走ったか記憶にないが幸いに私たちの乗った列車は途中から「青森行き」に変更になった。やはり大混雑で途中駅でも停車すると窓から列車内に入るような混雑、とにかく北へ進めばということで列車は走り続けた。

帰国する復員軍人、乗り降りは窓から

途中どのような経路を辿り北上したかは定かでなく翌早朝ようやく太陽が昇りかけた時刻私たちの目的地である郷里の駅に到着、聞いたことのある駅名をアナウンス「はなまき・・・」　「はなまき・・・」の声に眠気からさめた急いで列車から降りたった。２年ぶりに見た駅周辺の風景は焼け野原。アメリカ軍はこんな小さな田舎町まで焼き尽くしたのであった。

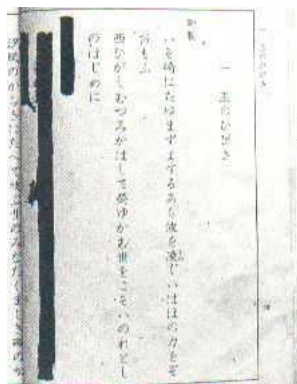
私たちの郷里である父の家まで徒歩役４㎞の距離を歩いて帰り何とか長距離そして長時間の　逃避行から開放されたのである。間もなく戦勝国は日本各地に進駐を開始した。温泉地で有名な花巻温泉の旅館も接収され占領政策が始まった。そして、占領軍最高司令官であるマッカーサー元帥が神奈川県厚木飛行場に降り立った１９４５年８月３０日のことであった。

コーンパイプを片手に厚木飛行場に降り立つマッカーサー元帥

本格的な日本占領が連合国参加の中アメリカ海軍のミズーリー号艦上で１９４５年９月２日に降伏文書の調印式が行われた。

ミズーリー号艦上で降伏文書の調印式

アメリカ海軍戦艦ミズーリー号

一方私たちは日本の学校に転校２学期からの勉強となった。今まで行われてきた教育内容が大幅に変更教科書などはそぐわない所は墨で塗るなどして急場をしのいでた。

所々黒く塗りつぶされた教科書

戦争に負けた日本は東京などの大きな都市は見るも無残。町には、親を亡くした子供、経済は疲弊どん底の地獄と化したのであった。それから二、三年生活物資の不足等が続きようやく徐々にではあるが回復の兆しが見えて来たのである。

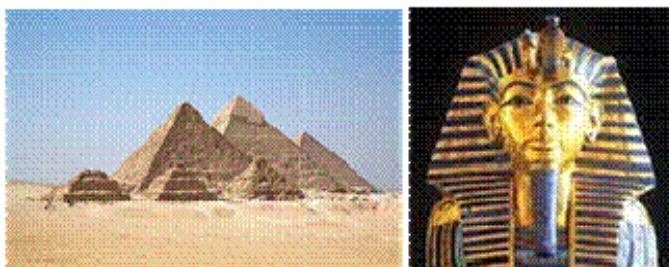
第二次世界大戦が終わり敗戦国日本は連合軍の施策に従って「民主主義」と言う時代に入った。しかし、もう世界の国々がいがみ合うようなことは無いと思っていた所、民主主義を標榜する欧米を核とする国々と、共産主義を標榜するソビエト及び中華人民協和国等の間に徹底的不幸な冷戦時代に入ったのである。そんな最中突如北朝鮮が国境線である３８度線を突破武力を持って怒涛のごとく攻め入って来たのである。不意を突かれた韓国は瞬く間に首都ソウルを占領釜山近郊まで攻め入って来たのです。この戦いに連合軍としてアメリカ軍を主体とする国々が参戦した。釜山近郊まで追い詰められた韓国軍は窮地に陥った。ダグラスマッカーサー率いる部隊が仁川に奇襲上陸それにより戦況が一変した。この戦況を境に日本はその後経済は急成長の時代へと進むので有る。

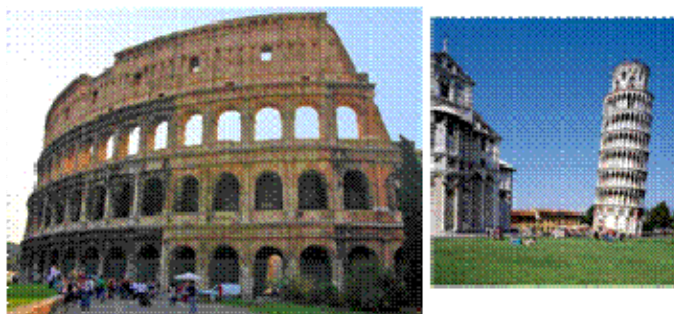
この後、青春期、壮年期、老年期と続くのであるが中国に渡りそして多くの犠牲を払いながら今は精神的に恵まれた現状までをと思いましたが、時間的制約で終わります。

趣味　　アマチュア無線

海外旅行（世界遺産探訪）

行った所

エジプト(EGYPT)

中　国

イタリア

クラシック音楽

我与中国

镰田孝昭

前言

本文主要记录了我记忆中的幼年和少年时代的六年间，在可称之为我的第二故乡的中国黑龙江省哈尔滨市平房区的生活经历。即使当时正年幼的我们也难以摆脱日本入侵以及建立伪满洲国所带来的间接责任，每忆于此，思绪万千。

人无完人，一生不犯大错的人可谓凤毛麟角，这不只由于个人的因素，同时诸如人之所处于的社会的大环境这样的外部因素也深刻地影响着人生。日本有谚语说『苦乐相依』，然而并不因此而游戏人生，从这种角度来说，本文恰恰道出了先后经历了地狱般的战争时期和战后和平时期的我对于幸福的条件这一命题的思考

1）健康

2）心怀信念

3）日积月累不断的努力

这不也正是作为一名普通老百姓的生存之道么。

1）幼年时代

1936 年，我出生于现在的日本茨城县日立市，之后由于家父工作的关系，全家移居到中国黑龙江省哈尔滨市，在那里真正开始了我的人生。在 1945 年时，我的家庭成员包括我的父母，我（8 岁），弟弟（6 岁），妹妹（4 岁）和最小的弟弟（1 岁）。当时的哈尔滨住着很多俄国人，宽达 2 公里的松花江从市内穿流而过，街头欧洲风格的建筑物林立。我们的家在一个叫马家沟[61]（馬じゃ江）的地方的一座狭小的红砖房里，对面住着俄国人。不过室内装有寒冬也可取暖的壁炉，还有冲水马桶，院子也比较大，到了季节还会鲜花怒放，院外的道路上行驶着有轨电车，附近还有教堂。在我们的眼中，这是一个飘溢着异国风情的近代化都市。

在哈尔滨居住时，我的父母经常带我们去附近的公园，夏天还会去松花江划船，冬天在结冰的江面上玩滑雪橇。

---

61 現在地名：马家沟河。

之后，我们又搬到了位于平房区的陆军的机关宿舍，在那片广袤的土地中间，建设着日军军事设施，同时还有为在那里工作的军人和家属建设的宿舍以及学校，医院等一系列相关设施。

后来，到了昭和 16 年 12 月 8 日（1941 年），不幸的时代降临了。那年，日本偷袭了夏威夷的珍珠港从而英美对日宣战。

那时我虽然只有 5 岁，但对于收音机里播放的新闻时至今日依然记忆犹新。

2）少年时代

此时，父亲由于对大陆性气候水土不服病倒了，为了养病，我们暂时回到了故乡岩手县。日本虽然不断地对大国进行挑战，但是战况渐渐不利于日本，日本渐渐不能对抗联合国的包围圈了。这其中固然有国力的差别因素，日本毫无战略的进攻也是原因之一。战事正酣的昭和 18 年，我在当时的国民学校上学了。后来父亲的病终于好了，为了重返哈尔滨工作，全家再一次离开了日本。

从故乡岩手县到哈尔滨市的路程与以往不同，从乡下的岩手县花卷站出发，途经上野，山口县的下关，转乘船途经韩国釜山途径北朝鲜，鸭绿江，中国沈阳，长春，记忆中辗转 1 周才到达哈尔滨。我还记得从釜山到哈尔滨，一路还曾数次转乘卧铺车。

从哈尔滨火车站到位于平房的陆军宿舍乘车需一小时。车行驶在土道上，周边一望无际的农田在眼前闪过，我也从长途跋涉的劳顿中恢复过来。之后我又转学到东乡国民学校读书。

对哈尔滨四季的深刻印象

1）春 季节性的强风刮起一阵阵尘土打在皮肤上的痛感仍记忆犹新
2）夏 酷暑，仿佛头顶油锅般的酷暑。但是由于空气干爽，树阴下倒仍很凉爽。
3）秋 意想不到的短促，紧接着就是严冬
4）冬 学校操场上一夜之间就可浇铸出厚达 30 厘米，马上就能滑冰的冰场。

虽然只在国民学校的 1 年级和 2 年级时经历过哈尔滨的冬天，但是滑冰的乐趣已成为我的美好回忆的一部份。在那样的条件下，我们只好从头到脚全副武装来抵御严寒。

在那期间，我的班主任在讲课的间隙，还带我们访问了附近的中国人学校，我和那里的中国人成为朋友，他们还曾拿出瓜果来与我们分享，现在回想起来那也是我美好回忆的一部份。

我小学 3 年级的时候，战况越来越恶化。日本军败退还有同归于尽之类的消息频繁。欧洲的德国/意大利已经战败，联合国军队已经全面出击日本，日本战败已经成定局。

日本军备战的物资缺乏。南方的诸岛已经被联合国军占领。美国的战斗机从诸岛向日本本土飞来，投下无数炸弹。

完全被烧毁的城市

就在广岛和长崎投下原子弹之前，苏联的战斗机在夜间飞来飞去，开始投下炸弹。

当时我在小学校。班主任老师劝说我们全部回家。之后，1945 年 8 月 9 日与日本签有中立条约的苏军，犹如怒涛般地攻入黑龙江省。日本军已经无力抵抗。

回到家一看。军方(军队)通知我们苏联军快要进攻，要我们放弃平房区的宿舍并紧急逃避。接着被安排到通往北朝鲜的有盖货物列车。我们基本上来不及带什么东西。

我记忆中只是在背包内放了一些教课书，水壶,锅以及溜冰鞋。然后什么都没有了。

军部中枢应该是掌握了情况。让家族首先撤退(突围)，紧急编成约４ ０两列车，将全部家族约数百人分散乘坐。

我的班主任老师主动提出愿意承担领导，相信他的责任极其重大。在他的带领下，终于在日落后漆黑的晚上列车慢慢地开始行走。

现在的平房站、６ ５年前在此开始逃难生活

也不知道到底走了多远，估计有两站多路车就停了下来。在那里一动不动地呆了一晚。８月１ ０日早上列车也没有出发(开动)的迹象。

经过漫长的一天，到了晚上列车终于开动了。不久便到达了哈尔滨市站。那里等的是为了要逃避马上要进攻的苏联军而涌到火车站的人，情况像捅了马蜂巢似的大混乱。他们应该是住在哈尔滨市和临近地区并为了逃难而来的。

现在的哈尔滨站

随着哈尔滨市的秋天也就是严寒的季节马上要来临的时候，列车徐徐的运行，像人步行的速度慢慢的南下。而且停车的时间要比行车的时间还要长。回忆当时的列车只是行走了一点点。

大概在8月15日的中午终于到达长春站了。

本来只需三小时的路程整整花了六天才到达。

与此同时，听到在广岛和长崎被投下特殊炸弹(原子弹) 和被炸的地区损失惨重的新闻报导。　并告知说有「将有重大宣告」。

被投下原子弹而变成废墟的广岛市

内容是关于日本接受波茨坦[62] 公告（美英中「三国」宣言[63]），意思是承认战败。那是昭和天皇没有通知当时的内阁而直接向日本国民宣布的[64]。

我在途中的任务是每当停车的时候，拿着水壶去找饮用水。离开长春站后过了几日，过了中国与朝鲜边界的鸭绿江，列车进入现在的朝鲜境内。又过了几日，经过平壤，首尔、穿越朝鲜半岛，漫长的旅途接近终点，我们可以看见对面的海景了。我们所乘坐的火车在日落的时候到达终点釜山站。我至今仍怀有疑问的是，在这一周多的

63　中美英三国促令日本投降之波茨坦公告 维基百科条目.. 波茨坦公告 1945 年 7 月 26 日,美、英、中三国政府领袖同意对日本发表公告,促其立即无条件投降。 亦称《波茨坦宣言》。 美、英、中三国政府领袖公告

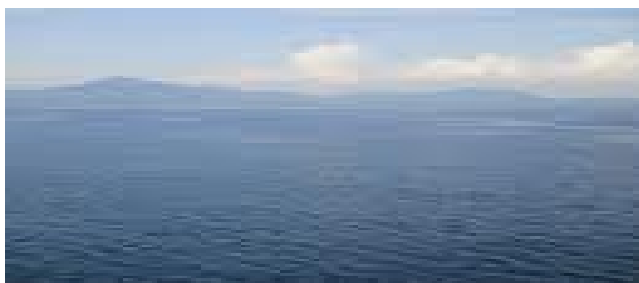
64　昭和天皇宣布，接受盟国提出的波茨坦宣言。

时间里，是谁照顾我们这数百人吃饭等事的，没有准备粮食，没有炊具，也没有柴火，现在想起来还觉得不可思议。我们在终点站釜山站附近住了一宿。

第二天早上，为了乘坐回日本的船，我们来到码头，那儿停泊着把我们送回祖国日本的船只。

船的名字叫兴安丸。我带着以后恐怕再也不会踏上这片土地了吧的心情上了船。不久船的汽笛声响起，船静静地驶离岸边，离开了釜山港。

撤回船『兴安丸』号

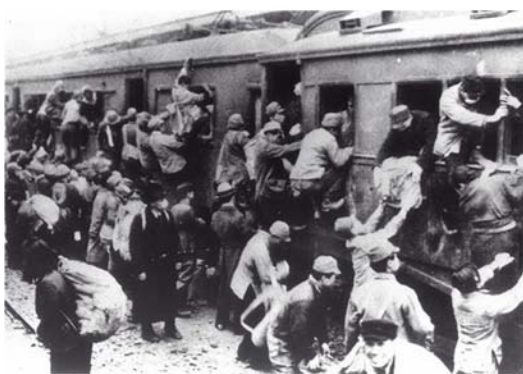
此时天气晴朗，万里无云。船慢慢加速，向着日本的港口驶去。不知道过了多久，在太阳将要下山的时候，在前进的方向可以看到一座座日本的山了。

纵然战败，国土尤在

船驶入的港口是山口县名为须佐的小渔港。由于大船无法靠岸，我们换乘小船上了岸。这个港口比较安静。太阳已经完全落山了。我们徒步走到须佐的学校，在教室里度过了一晚。从变成了外国的土地上被赶出来，花了很长的时间，但所幸终于踏上了故乡日本的土地。真是要心存感激。

因为日本错误的政治而牺牲的数十万默默无闻的人，没能登上归国的火车，很快就要在连脸上不知不觉流出的泪水都要结冰的土地上离去的同胞们，我再次为你们的在天之灵祈祷。

第二天早上，我们坐上无盖的载货火车离开须佐站。幸运的是天气非常晴朗，途中很顺利。路线（想像）是须佐站-益田站-山口线-经山阳线-到达大阪站。我一路上归心似箭。途中经过的车站一派战败的景象。看到很多复员军人，来往的火车很多，车内是超满载的状态，人们上下车都是从窗户爬进爬出。途中，像刻在了脑子里般尽管经过了 65 年仍然记忆犹新的是被投下原子弹还不到两周的广岛站附近的景象。火车经过的铁道周围多少恢复了一些，但是旁边被炸的蒸汽火车货车的残骸横七竖八。已经完全看不出建筑物的样子。受害的惨状只能用凄惨来形容。据说今后 75 年那里都将寸草不生。目睹着这样的惨状，火车向着大阪方向驶去。

不知过了多久，列车在早上 9 点左右到达大阪站。从哈尔滨开始一直照顾我们的老师在站台集合所有人，发表了告别的讲话，大意是说我们已经平安回到了这里，现在大家为了回到各自的家乡，再最后努力一下吧。然后大家相互道别。

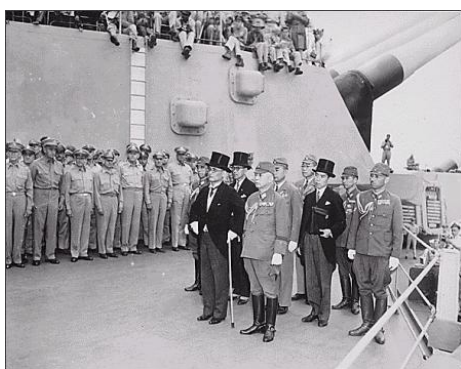
我们为了去父母的家乡岩手县，在车站的站台等着。后来去东京方向的车来了，那就先上去吧。不记得那个火车是怎么走的了，幸运的是我们乘坐的火车在途中目的地变成了青森。还是非常拥挤，在途中一停车就有从窗户翻进车厢的人。不管怎样，只要往北走就行。火车继续前进。

回国的军人，都从车窗上车下车。

不太确定是怎么样的路程， 好不容易在翌日清晨太阳升起的时候，我们到达了目的地 - 故乡的车站，熟睡中听到车内广播似曾相识的站名 “ 花卷” “ 花卷”

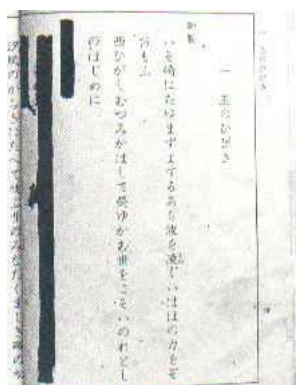
时，急忙起来下车，眼前久违了2年的站旁风景已变成被战火烧过的原野，这样小的乡村也被美军烧尽了。

从车站走到我们的故乡，就是父亲的家走了 4 公里远的道，终于告别了长时间的避难生活。 过了不久，战胜国开始进驻日本各地，有名的温泉地花卷温泉旅馆也被接收，占领政策开始了。1945 年 8 月 30 日，占领军的最高司令官麦克阿瑟从神奈川县厚木机场走下来。

手持烟斗的麦克阿瑟五星上将（司令官）于厚木机场下飞机

在 1945 年 9 月 2 日，日本被正式占领，并于联合国成员之一的美国的海军密苏里号战舰上签订了投降协议。

密苏里号战舰上的签降仪式

美国海军密苏里号战舰

另一方面，我们转去日本的学校，从第 2 学期开始学习。到当时为止，教育内容有很大的改变，为了暂时应付了事，教科书上论点有不合时局的地方也被墨涂掉。

到处被墨涂掉的教科书

在战败的日本，东京等大都市的景况惨不忍睹，城镇里都是失去了双亲的孩子. 经济到了地狱般的谷底。从那以后生活物资不足持续了约两,三年后，终于能看见经济回复的徵兆。第二次世界大战结束后，战败的日本跟从了联合军的措施，进入了民主主义的时代。可是，正当大家也以为世界各国再没有纷争的时候，标榜民主主义的欧美等国家，和标榜共产主义的苏联和中国等，进入了不幸的冷战时代。正在那时，北韩突然像怒涛般越过国境线38度线攻入南韩，占领了冷不防被袭击的南韩首都，当时的汉城，直攻入釜山近郊. 这场战争中以美军为核心的联合军各国也参战，被追赶至釜山近郊的南韩军陷入困境。麦克阿瑟率领的部队在仁川上陆突袭后战况一变，在那以后日本进入经济的急成长期。

以后，还经历了青春期，壮年期，老年期，并曾经越洋到了中国，为以前众多的牺牲作点慰藉（安慰），直到 现在精神上充满惠泽等回忆，但由于时间限制在此搁笔。

作者介绍：

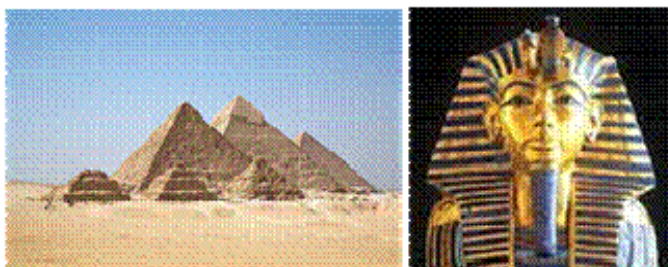
镰田孝昭

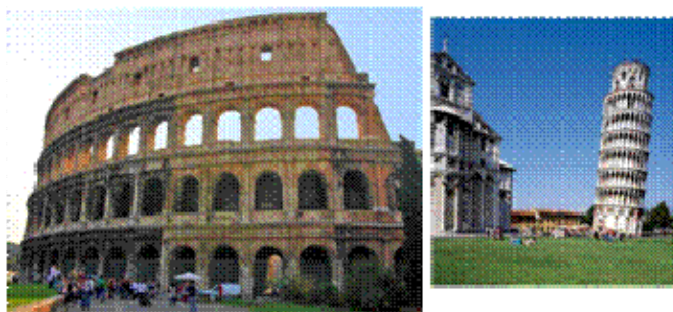
2011 年夏。神奈川県川崎市。
摄于 2011 年夏，日本神奈川县川崎市。

兴趣　　业余无线电通信

海外旅行（造访世界遗产）

曾到的地方

埃及

中国

意大利

古典音楽

千里の道も一歩から

9　千里の道も一歩から　（張子誠）

話を１９８５年から始めましょう。

私がはじめて日本に来たのは、競泳選手として１９８５年神戸で開催されたユニバーシアード(世界大学生スポーツ大会）に出場した時でした。それは、私が初めて中国以外のところを旅したので　、日本の全てを新鮮に感じました。

ユニバーシアード（世界大学生スポーツ大会）1985

その時の移動は、あまり順調にいきませんでした。香港から大阪空港行きの便に乗りましたが、出発後に台風の影響で台北にルートを変更し、台北空港で一時待機することになりました。

台北に着いた時には既に夜でしたので、空港付近のホテルで一晩泊まって、翌日に出発することになりました。

勿論、入国審査が必要となり、全ての荷物がチェックされました。競泳チームは問題ありませんでしたが、仲間のバスケット選手が持っていた「簡体字」で書かれたバスケット・ボールの戦略本が「持ち込み禁止」の対象で没収されてしまいました。[65]

問題はそれだけではありませんでした。　私たちの服・歯磨き道具などほとんどの荷物は、飛行機の貨物室に保管されていたので、着替えさえできませんでした。

夜もあまり良く眠れず、早朝の乗り継ぎ便で、日本の大阪空港に向かう日本アジアAirway（JAA）の乗客機に乗りました。機内であまりにも退屈でしたので、日記を書いたり、絵を描いたりしました。

[65] 1980 年代以前には、「簡体字」の書籍を台湾へ持ち込みが禁止されたが、1990 年代後半頃、インターネットが普及しても解禁されませんでした。２００８年頃馬英九氏の政権になって、学術的観点から中国の図書を見直す機運が高まり、ようやく台湾政府は、簡体字の図書の規制を緩和し、この禁止法を解除しました。但し、最近の世論調査では、７割以上の台湾人が簡体字の使用拡大に反対しています。

大阪空港に着いても、入国審査がありました。　その後、休憩を取ることもできないまま、会場のある神戸の選手村へ向かい、移動に２時間ほどかかりました。　香港を出発してから、現地に到着するまでにまる二日かかりました。

選手村では「やりたい放題？」

選手村に入って、チームメイト男子４人で一部屋となりました。そして、合宿の特訓が始まり、練習、食事もすべて集団行動でした。　試合の前に、自由行動ができたのは唯一、朝食のメニュー選びと夕方の練習後の時間だけでした。　朝食は、バイキングで、「食べ放題」でした。　各国の選手を集めた大会でしたので、日本料理、中華、洋食、インド料理など多くのメニューがありました。

その他、選手村内の自転車も無料で貸してくれましたので、練習後に少し乗りました（乗り放題）。

選手のなかには規則を破り、デートをしたり、神戸市内に観光に行ったり、銭湯まで行った人がいました。　しかし、あまり羨ましいこと（デートし放題、観光し放題）ではありませんでした。　遊んでいた選手らは、後ほどの試合で成績が落ちたので、監督やコーチからさんざん叱られ、反省会まで開かれたからです。

厳しいコーチこそいい弟子ができる

わがチームの女性コーチは、訓練に対してだけではなく、選手の私生活に対しても厳しく指導されました。

ユニバーシアードのおよそ１ヶ月前、香港で特訓を受けていた時の出来事でした。ある日、水泳の練習前、チームメイトの T さんがプールサイドで某大学の女子学生としゃべっていると、コーチは「トラブル」が起こらないよう」に、大きな声で　「T 君、きみは彼女がいるでしょう。」と言いました。T さんはすぐに無言になり、柔軟体操の準備をし始めました。チームメイト全員も黙って練習に専念しているように見せかけました。

わがチームは、無事に任務を完了することができました。　（練習時のベストより記録更新ができたので）。

当時神戸市内には自動販売機が既に普及し、コカコーラの価格は１００円（０．３ドル相当）でした。　日本円で計算すると現在の価格と大きな変化はありません。(変化したのは、為替のレートだけです。)

写真 2: ２００８年秋、華僑会のハイキング活動　（東京都西多摩郡日の出山山頂）[66]

写真 3: 日の出山の山頂。標高は 902.0 メートル。

[66] 2008 年秋天，华通会二十多名会员登上了东京都西多摩郡的日出山顶。

千里の道も一歩から

私は１９８９年から、日本語の勉強を始めました。　その頃は、香港で日本語のレッスンがある教育機関は、なだ少なかったです。

まずは、香港中文大学の修士課程で自由に選べる２単位（週２時間）で初級日本語コースを学習しました。
しかし、一年後初級を終了した私が参加できる次の中級コース、上級コースもありませんでした。

いろいろな所を訪ねたところ、香港中文大学より片道で２時間ぐらいの所に中級コースがある教育機関を見つけました。

それから週２回電車に乗って、その教育機関の「中級日本語コース」に通いました。クラスメイトには社会人や主婦たちもいました。そこは日本語のレベルがまちまちで、教師は皆のレベルに上手く合わせることができませんでした。

ある日のレッスンで、生徒たちは教師の在日経験を聞きたいと言いました。その教師は思わず広東語を話し始めて、1.5 時間以上に亘って、広東語で雑談をしました。レッスンは台無しになりましたが、他の生徒たちはあまり違和感を感じていなかったようでした。

私は日本語を習うために数時間かけて通学していたので、とても落胆しました。

その後も何箇所かの教育機関に通いましたが、あまり満足できるレッスンをを受けることができませんでした。

日本に留学する事を決意したのは、1990 年秋ごろの事でした。それは、日本に旅行をした時、学んだ日本語を使ってみたところ、実際に話している言葉と違うことをに気づいた時でした。「やはり日本語の勉強は日本で」と覚悟しました。

やはり日本語の勉強は日本で：　学生時代には　既に日本四島を周った。

私は、旅行が好きで、修士終了前に、既に日本四島をまわりました。

１９９０年修士論文を完成した直後、二週間の休暇を利用して、リュックサックを持って本州、九州及び四国の複数の町を周ってきました。

当時僅かな旅行会話しか出来なかった私は、成田空港に着いた直後、すぐに浅草寺、東京タワーなどのスポットを観光しました。東京で僅か二日間の滞在をした後、新幹線で九州の博多まで乗っていきました。

スケジュールが逼迫しすぎて、休まずに電車を乗り換え　鹿児島県を目指しました。到着時間は翌日のお昼頃だったので食事を取る時間もなく桜島火山への観光バスに乗りました。

翌日は　復路途中で岡山市に立ち寄り下車し、四国へ向かいました。旅館のチェックイン時間まで一時間あまりあったため、レンタル自転車で瀬戸大橋の一部を横断し、観光をしてきました。

１９９１年冬、私は再び日本に来て本州を旅した後、北海道まで足を延ばし、観光をしました。

今度は、本州の仙台と盛岡に少し滞在してから、盛岡より列車「北斗星」に乗って、青函トンネルを抜け、北海道の札幌まで行きました。

北海道では冬季五輪の開催地でもあり世界でも有名な　「国際スキー場」で初めてスキーに挑戦しました。

２回目のリフトに乗る時、誤って上級コース行きのリフトに乗ってしまい、技術不足のため滑って降りることができませんでした。

スキー板を外して、ゆっくり一時間ほどをかけて歩き、やっとふもとまで降りる事ができました。　この経験は恥かしいと思っていたので、長い間誰にも話せませんでした。

その後路線バスに乗って、札幌の南にある山を迂回して、洞爺湖に着きました。その時の昭和新山は安定していたとは言え、白い水蒸気が噴出している姿が遠くから見えました。地図を見てドキドキしながら、事前に予約した昭和新山ユースホステルを探して、一泊しました。

残念ながら、昭和新山ユースホステルから、本州へ戻る経路を思い出せませんので、日本の観光の旅に関する記述はここで一段終了します。

学生時代の自宅は「千客万来」

留学生活も普通の留学生とは少し違うと思っています。

東京大学に在籍していた時、香港の元指導教官、元同僚、同級生、友人たちの多くが私のもとへ訪れました。

私は一人も断ることなく、皆に観光案内をしました。私が住んでいたアパートもホテルみたいな感覚で、友達は泊まっていきました。　複数の人が同時に来た時は、部屋があまりに狭すぎたので、自分が友達の家に泊まったこともありました。

このことについて日本人に話したら、皆がびっくりしました。「優しい人はいじめられるのではないか？」との議論もありましたが、香港人はいつも環境や状況に応じて柔軟に対応できるような習慣をつけているので、それほど驚くことではないと思っています。

文字がない天書（バイブル）

香港人である私は、俳優や芸能人に例えて香港の文化を紹介することが好きです。香港出身で国際的に知名度がある俳優が数々いますので、彼らの事は共通な話題になれると思っています。

特に初めて会う人と話す時、芸能界のニュースやゴシップの話題から始まると、相手も気楽に付き合ってくれると思います。

日本に旅行した時、主に列車や地下鉄を利用しました。私は必ずメモ帳を持参していました。実はメモ帳が「文字がないバイブル[67]」のような存在でした。相手に伝えたい日本語での表現が分からない時、メモ帳に漢字を書けば、ほとんどの場合は分かってくれたから。

以前住んでいた学生寮で、韓国からの留学生と時々会いました。彼らは日本人と同じように漢字がよく分かるため、メモ帳がとても役に立ちました。ある日、韓国ドラマ「宮廷女官 チャングムの誓い」の主人公を演じた女優の李愛英さんの名前を書いたら、韓国の留学生たちが知っていたので、皆が話してくれました。

文字だけでは通じなかった場合は、漫画や絵を描いて交流したこともありました。

以上が「文字がないバイブル」の話でした。

困ったときの錦嚢（万能袋）

日本に留学するため、香港から旅立った時、両親から一通の封筒を受け取りました。その時、母はこう言いました：「困った時、この封筒を開けてみれば、困難を乗り越えられますよ。」

三国志の物語の中にも、諸葛孔明は皇帝の劉備や将軍の趙雲に『錦嚢（万能袋）』を授与したことがありました。何か不可思議のように聞こえましたが、半信半疑にも封筒をスーツケースの中にちゃんと入れておきました。

ある年末年始、大学院の研究は特に忙しくて、大晦日の夕方まで大学研究棟の実験室にいました。その日は、閉館になる直前に退室しました。電車とバスに乗り、寮までの移動に一時間半ぐらいかかりまして、倒れそうほど疲れました。

普段は年末の前に、銀行やＡＴＭで十分な現金を引き出しておきますが、その時はバタバタして(多忙で)現金の準備をすっかりに忘れてしまいました。

67　無字天書

仕方がないと思った時、親からもらった封筒のことを思い出しました。

その封筒は、ずっとスーツケースの中に眠っていました。最初は、お守りではないかと思っていましたが、開いてみたらびっくりしました。何と一万円、しかも現金である日本銀行券でした。

もし、封筒の中に香港ドルや外貨の現金が入っていたら、年末年始に両替できる所はなかったはずです。

お陰様で緊急事態を回避することができました。

以上が「困ったときの万能袋」の話でした。

就職してから、生活のパターンは多様化になった。

就職後、休暇を利用して 華僑サークルを組織化し、イベントを開催している

就職してからより多くの華僑と知り合った私は、１９９６年より　友人と「華僑会」を結成しました。

現在の会員数は百名以上おり、京浜地区でも、有数の大規模な華人団体です。　毎年、数回のハイキング、スポーツや飲食会などのイベントを開催しています。イベントの出席者の人数については、宴会の場合は　２０～４０名（家族を含めて）です。

成年になってから来日する人が多いが、日本で生まれ日本で育った二世と三世の人もいます。　情報を交換でき、交友関係の輪を自然に広げられる場を提供してきました。

話題は恋愛から、子供の出産、家族と仕事の両立、扶養家族条件、帰化など様々でした。今まで、一番多かった話題は、子供の教育に関することでした。日本は１９８０年代より　「ゆとり教育」を実施してきました。専門家の分析によると、ただの「◎」「○」「△」では各科目を評価するだけで、学生たちの実力を表すことも出来ないし、

学生の勉強意欲を刺激する力も足りません。２００３年～０５年の間、数年間の学力テストで、日本の小学生はアジアの中でも低いレベルに落ちてしまいました。

つまり、「今の日本の学生は　すでに他のアジアの各国の学生より学力が低い」と言われています。現在の小学生は「ゆとり教育」から「学力向上」路線への転換期・端境期に小学校教育を受けるため、多くの親たちが教育に対して関心や不安を持っていることを会話の中に感じられます。

ゆとり教育により学力低下が不安視される中、日本政府は調査を行い、改革することを願っています。2011 年から各地に教育委員会が改革を行うことを聞きました。その中に、さいたま市には夏休みを短縮し、一週間短くなります。小学生を対象にしたテストはすでに 2011 年 5 月に行って、年明けに結果を公表されたそうです 。

その他の活動は　「川崎市外資産業の紹介」、「日本で投資した経験や見解」に関する座談会、「香港文化・広東語座談会」などの集会、その他、少人数の飲み会も開催します。

在日期間が長くても華僑団体の活動にあまり参加しない人もいますし、在日期間が短くても、積極的に参加する人もいます。

華通会のスポーツ活動：卓球大会

今まで、参加者が一番多かったスポーツ・イベントは、2008 年に開催された「華通・科盟[68]卓球交流戦」でした。男子優勝者は、JiangShan さん。女子優勝者は王 JIN さん。

王 JIN さんについて、下記のようなエピソードがあります :
彼女は小さい頃、厳しい親にスポーツ学校に無理やりに入れられたそうです。毎日少なくとも二時間以上ラケットを持って卓球のテーブルの前に立たなければならなかったそうです。

68 「華通」と「科盟」は、民間組織の名前。

緑が好きで、郊外に居を選び

私の日本での暮らしは、自然環境に恵まれていると思います。

大学院時代に住んでいた学生会館の近くには、小さな川がありました。川沿いには梅、桜、銀杏など、みごとな並木道になっていました。毎日その風景を楽しんでいました。

例年なら、桜が開花してから１週間ぐらいで散ってしまうものです。お花見の計画も早々にしなければなりませんが、昨年と今年の桜は、開花したところ寒気が戻ってきたので、それぞれ２週間ぐらい咲き続けました。「三日見ぬ間のさくらかな・・・」でなく、関東地方の桜はその分長く楽しめました。中国では、花が長く咲き続けることは縁起が良いと言われます。２００９年も２０１０年も素晴らしい年であるということでしょう。

大学院を卒業してからも、私は東京郊外に居を選び、休日には近所の自然遊歩道や国立公園にハイキングによく出かけています。

十四年間出されていない手紙

２００８年のある日、自宅の本棚を整理していた時、一冊の古いノートが出てきました。中に日記らしきメモや昔友人からもらった手紙が挟んでありました。

懐かしいかと思って、一枚ずつを読んでみると、なんと１４年半前に北海道にある教育機関の大学院助手の長谷川Ｍさんに郵送すべき手紙を発見しました。　それは、香港シティ大学にいた時、元同僚の Casper Liu さんに頼まれた手紙でした。

香港の Liu さんに謝罪のメールを送信しました。

Liu さんはこう言いました：「楊過[69]は、小龍女を１６年間も待っていたので、本件はまだその記録を破っていません。しかし、その手紙は、もう出さなくて良いよ。」

---

69 楊過、小龍女は、中国武術小説中の主人公人物です。楊過は、行方不明になった恋

しかし、私はやはり手紙を送らないと気がすまないと思いました。

手紙に書いてあるメールアドレスはもう通じませんでした。

インターネットで教育機関のサイトを検索してみたら、長谷川Ｍさんは既に助教授になっておられました。やっと連絡できる方法を見つけることができ、長谷川Ｍさんに FAX を送りました。一週間ほどで返事が来ました。「すみません。１４年前の学会の件は、もうはっきり覚えていませんが、北海道にいらっしゃる時、どうぞ教えて下さい。」

Liu さんも長谷川Ｍさんも心が広いですね。

母校への恩い

私は母校を卒業してから二十二年が経ちました。私はいつも母校に恩返しをしたいと思っておりましたので、創立五十周年の時には、本を寄贈するとともに、詩を作成して贈りました。

この文章を書いている今、いつくか考えが浮かびます。

その一、母校への感謝の気持ちです。香港中文大学を卒業してから二十二年が過ぎました。在学時代のキャンパスの風景、恩師と同窓の事がずっと心の中に残っています。卒業後、大学の出来事を書くことは、大切な母校への恩返しの一つであると感じています。この文章を通じて、中国の農村教育へ協力を呼びかけることに役立てば、と願っております。

その二、自分は典型的な滞日華僑であるとを言うつもりはありません。実際は自分の人生の目標やキャリアのターゲットに対して、まだ確定できていない事があると思います。しかし、私はいつも前向きの態度を持って行きたいと思っています。時間は誰かのために止まる事がなく、歩くべき道は休んでいる人のために縮む事が

人の小龍女を１６年間も待ち続けたエピソードが香港で人気の話題になっていた。

ありません。千里の道へ辿れるため、本当に役に立つのは自分の努力と意志しかないと思っています。

その三、後輩たちと話した時に気付きました。「これは難しいです」、「それは無理だ」と言って、失敗を恐れている若者が多いと感じました。私は自分が失敗した事例を述べて後輩たちの鑑になれるかと考えています。先ほど言ったような失敗例は大したことはありませんでした。時々、その恥ずかしい経験を話して、笑われたことがありました。しかし、よく考えてみたら、失敗した後でも困難に立ち向かう勇気があることは誇るべきだと思っています。

最後に、母校へ詩を書いて、長い間の思いを伝えたいと思っています。

大学駅（Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ　Ｓｔａｔｉｏｎ）

一軒の学府[1]が山に建てられ、植民地の港に。
二つの水塔「成城・聯合」[2] が目印である。
三月になるとキャンパスは、綺麗な花が咲き、
四季にもウエディング・ドレスを着た新郎新婦たちの姿が見えて[3]。
五年、六年間をかけて頑張っていた生徒たちが、
七月の合格通知を期待している。
八方から学者が集まって、
九九不尽[4]薬草園に漢方薬の研究が進められる。
十年樹木、百年樹人、
千人、万人の学生の励ましになっている。
千里の海外にＯＢがいて、
百才の年寄りも「雍雅山房」[5]の名前を知る。
十洋に知名な楊教授、高教授[6] もいて、
九州[7]から天才がここに集まる。
八転七転にしても志を忘れない。
「六六無窮」[8] 科学者が輩出していて、
五経四書を精通した文学者も多い。
三地二岸[9]にいる皆の心の故郷は、
一つの馬料水[10]にある。

注：

［1］香港中文大学のこと。

［2］山麓、遠くからも見える「成城水塔」・「聯合水塔」のこと。

［3］香港中文大学でウエディング写真を取る事は、地元では名物である。

［4］中国では、三・六・九は「不尽の数」とされている。

［5］雍雅山房は香港中文大学の付近にあるレストランで、映画撮影のロケとして、有名になっていた。

［6］　楊振寧教授は、1957年度ノーベル物理学賞受賞者中国人である。2009年、同じ大学の高錕教授（チャールズ・カオ）もノーベル物理学賞を受賞される。 高教授は元香港中文大学総長である。

［7］昔、中国全土のことを「九州」と呼ばれていた。

［8］「三三不盡、六六無窮」という諺より。技術の活用や言葉遣いで無尽の組合せがある意味を指す。

［9］マスコミによく使われる用語である。三地は、中国本土、台湾、香港のことを指す。二岸は、台湾海峡の両側の地域・政府などのことを指す。

［10］馬料水：香港中文大学の所在地、旧駅名。

香港中文大学はどんな所？

　私の母校でもあり、年間八百名以上の交換留学生を世界各国から受け入れている香港中文大学。国際的にも地位が高い学府であり、香港では名門。ノーベル物理学賞受賞者の教授二人もいます(楊振寧教授 Professor Yang, カオ教授 Professor Charles Kao）。卒業生には映画監督の許冠文氏（マイケル・ホイ）、歌手の「黄凱芹氏」もいます。1963年創立なので今年は49周年の記念の年です。

正門
(CUHK
entrance)

科学館
(Science Building)

写真１，２　　　香港中文大学の風景　（１）正門と（２）科学館

写真 3：キャンパスから住宅街や港が見える

藝術系導師莫一新作品：《紀念碑：生命再造》

写真 4：　母校の新亜書院にある風景（芸術学科の莫教授の作品より）

著者紹介：

張 子誠

１９８８年香港中文大學新亞書院卒業。

香港中文大学修士課程卒業後、私は　香港シティ大学で助教を勤めながら、　論文博士課程に進学しました。[70]

１９９０年、京都で行われた国際学会にて　東京大学の指導教官を知り、のちに東京大学工学院の博士課程に転学しました。　１９９６年に博士課程を　卒業してから、日本の企業に勤めております。

日本で、私は　中国・台湾・香港及び華僑のサークルを結成し、ボランティアで在日の香港中文大学の後輩を指導してきました。　就職後も、他大学の学生たちを指導してきました。

２００８年マカオで開催された国際学会に出席した際、ある韓国人の教授が　体調を崩したため、私はその教授の代わりに　大学院生たちを指導しました。そのため　マカオ⇒香港のフェリーに間に合わず、予定していた友人の集会に行けませんでした。

そして、学術活動や華僑組織に熱心な私は、時々学会のゲストに招待されています。

香港に一時帰国した際も、香港中文大学、香港シティ大学、香港科学技術大学で客員講師として講演を行い同窓たちと学問について議論したり、留学時代の経験を紹介したりしています。

70 当時香港の教育システムでは、大学助教を勤務しながら、博士課程に進学することができた。

千里之行　　始于足下

张　子诚

前言：　在日语不精的情况下误登北海道的雪山，当年还没有手机。单独行动的他如何脱险？

此话应该从1985年说起。

第一次到日本，是1985年以游泳选手的身份，出席在神户举行的世界大学生运动会。当时是第一次到中国以外的国家，所以对日本的一切都感到很新鲜。

写真 1：1985 世界大学生スポーツ大会の会場（神户市）

照片 1：1985 世界大学生运动会的会场（日本神户）

机缘巧合 神户比赛

旅程并不是太顺利。因为台风的影响，飞机要暂停台北。

在台北等了几个小时，天气没有好转，已经入夜。[71]我们只能入住航空公司安排的酒店，待翌日早上出发。

由于需要进入台湾境内，我们要办理台湾入境手续，和接受海关检查。同行的篮球队的一些队员，因为带了几本简体字的篮球战略书本，皆被没收[72]。

---

71 在台北等了几个小时，天气没有好转，已经入夜。到达台北已经是晚上。

72 台湾准许大陆简体字书籍进口，是2005年以后（马英九政权）的事了。

不但浪费了一天的时间。问题是我们的行李衣服梳洗用品都托运在飞机的行李舱里，连衣服也不能换。晚上老是睡不好。

翌日穿着脏衣服转乘日本亚洲航空公司（JAA）飞往日本大阪的航班。飞机里无所事事，写写日记，绘画(漫画人物等)。

漫画１：飛行機の中で描いた漫画（1985年夏）

漫画1 ：飞机上画的漫画人物(1985年夏)

好不容易到了大阪机场，又是入境手续。一路上没有好好休息，还要从大阪机场乘两个小时的旅游车到神户的选手村。

选手村内　为所欲为？

进选手村后，男子游泳队的四位成员被安排到同一房间。

训练和用餐都是集团行动的。 在比赛之前，我们可以自由活动的，只有在早餐时选择食物和训练以后的晚上。早餐是自助式的，在心理上可说是“为所欲为”。因为这是世界各国运动员云集的运动会，食堂的陈列桌(Serving Counter)[73]上陈列了日本料理，中国菜，西餐，印度菜等等。

还有，我们可以自由使用选手村内的自行车。我们称为“自由脚踏车”。
不过，有些时候会听到一些谣言，说“那一队的某甲跟另一队的某乙在谈恋爱”，“谁

73 日语：食堂内の配膳の列　（侍奉桌）

谁偷偷的跑到神户的市内观光去了，还泡了温泉！”之类。

实际上这些所谓“自由恋爱”，“自由观光”不一定是值得羡慕的事。 由于谣言传到教练的耳朵，而谣言中的主角在比赛时又拿不到好成绩。其后，“谣言主角们”受到领队和教练严厉的责备，还要开什么“检讨大会[74]”！

教不严　师之惰

我们游泳队的女教练无论在训练和日常生活的指导都非常严格。

有一天在练习时，我们的队长丁宇(化名)在游泳池边跟一位女大学生在聊天给女教练看到。她便很大声的喝：“丁宇！ 你不是已经有女朋友吗！” 丁队长听了不敢怠慢，马上开始作热身运动。其他队员也装没看见没听见，专心准备练习。

大学生运动会的一百米自由泳比赛中，初赛时我被安排到与当年的世界冠军MATT BIONDI同一组。

队友们都笑说：「恐怕连他的水花也看不见。」教练却气定神闲的说：「管他什么对手, 还不是一样的游一百米。」

不负所托，我们游泳队员都能完全参赛的任务。 部分成员更达到全季最佳的好成绩(SEASON BEST)。

写真２：１９８５年当時の世界チャンピオンのマット・ビオンディ選手
照片 2: 当年（1985 年）的世界冠军 MATT BIONDI 选手

74 日语是「反省会」

写真 3: ２３年前香港のビーチ「香港島深水湾」、１９８７年撮影。著者はどこにいた？

照片3: ２３年前香港的沙滩「香港岛深水湾」、撮于１９８７年。作者在哪里?

写真4: ２００８年秋、華僑会のハイキング活動 （東京都西多摩郡日の出山山頂）

照片4: ２００８年秋、华侨会的登山活动[75] （东京都西多摩郡日出山的山顶）

---

75 2008 年秋天，华通会二十多名会员登上了东京都西多摩郡的日出山顶。

写真 5（右）： 日の出山の山頂。 標高は 902.0 メートル。
照片5（右）： 东京都西多摩郡日出山山顶。 标高海拔902.0米。

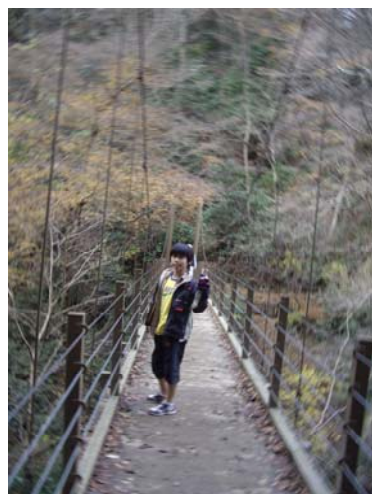
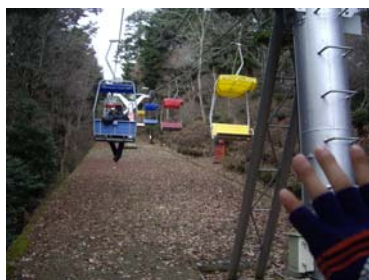



写真 6：東京都高尾山
照片 6：东京都高尾山

千里之行　始于足下

我于1989年开始学日语。当时在香港，设有日语课的语言学校不多。

我先在母校香港中文大学完全了“初级日本语”的课程。由于当时香港中文大学的规定，非“日语本科生”不能参加“中级日本语”以上的课程。我只能在外面物色。

找了很多地方，终于在离母校香港中文大学两小时车程的地点找到了设有日语课的语言学校。

每星期，两次到那家语言学校上“中级日本语”的课。学生有在职的人员，也有家庭妇女。各人的水准很参差，老师也未能按照大家的语言能力授课。
有一天上课时，几位同学说要听听老师在日本留学时的经历。

那位老师居然滔滔不绝的说起广东话。结果，那位老师花了一个半小时用广东话在聊天。我觉得课堂是白白的浪费了，而其他同学居然不以为然。

我花四小时乘车来回，是为了学日语。我觉得非常失望。

以后参加了多家语言学校的课程，也没有找到理想的。

决心要到日本留学是在 1990 年的秋天的事，当我到日本旅行的时候，感觉到在香港学的日语跟一般日本人说的很不一样。我明白到“学日语应该在日本学”。

「千里之行,始于足下」[76]这句成语的日文版，是在东京大学留学生日语中心上日语课时听老师说的。其后我跟日本的朋友说我很喜欢这句话。因为我大学毕业时连一句日语也不懂，要从头开始，正好这句话起了很好的鼓励作用。

日语不熟 雪山迷路

1991年冬天，第一次到北海道时，曾经到过札幌国际滑雪场，并发生了「误登北海道的雪山」的笑话。

说起来「误登北海道的雪山」的确有点惭愧的事。这次事件的主要原因是因为自己事前没有了解滑雪场的规则，和日语不精。

---

[76] 出典：宋．张君房《云笈七签．卷四十．初真十戒》：
「所谓九层之台，起於累土，千里之行，始於足下」
后两句的日语翻译是：“千里の道も一歩から”

也记不清是没有看到还是看不懂“场地指引”。 只记得我在滑雪场商店里租借了滑雪衣和用具后，花了几十分钟在山脚胡乱的练习了一下，便跟随其他游客乘坐“登山吊椅”。

到了山顶才知道自己已登上高级滑坡。往山下看，是超过45度的斜坡。
因为是第一次滑雪，实际上没有技术，也没有勇气滑下去。

由于登山吊椅只能单方向载客上山，工作人员拒绝了协助我下山的要求。

结果，我只好一步一步走下山，眼看其他的游客都如箭般从身边滑过。

在以前没有登山吊椅的年代，人们都是一步一步爬上山再滑下，以作娱乐。
像我的情况是刚好相反，乘坐登山吊椅上山顶，再一步一步走下山。因为感到丢脸，多年来都不敢将这经历告别人。

学生住宅　客似云来

跟日本的朋友交谈时，发现彼此之间在生活习惯和思想上有很多不同的地方。在此举一个比较印象深刻的例子。

在东京大学留学的时候，以前香港的老师，同事同学，朋友们来探望我，加起来有几十人次。我都乐意会为他们介绍日本的风景名胜。有些朋友有意无意间把我的住宅当成是旅馆来寄宿。由于住宅的房间很窄，当几位朋友同时到访的时候，我干脆把我的住宅让给他们，而我自己到别的朋友家寄宿。

日本的朋友们听了这事都大为惊讶，说“是不是人太好，给人欺负。”

事实上我认识的香港朋友大都习惯随机应变，不拘小节，倒不觉得有什么大不了。

华人聚会 话题广泛

在大学里和公司里，我认识了不少华人朋友，还常常举行聚餐和登山活动。

认识的中国朋友大部分是成年后才到日本的，但是也有在日本出生的第二代，甚至第三代。

中国朋友见面，话题都离不开“恋爱的烦恼” ，“家庭与事业如何两立”等等。还有一点一些日本的纳税手续，子女教育，“要不要归化为日本人”[77]等问题。

和中国的朋友见面，实际上是一个很好的互相交流的机会，而且关于子女教育的话题还是特别多。偶然也有经济和投资方面的话题。

由于有几位中国内地的朋友喜欢香港的电影，我跟几位香港的朋友举办过“广东话座谈会”。

乒乓球场　群英汇聚

在日本认识的中国朋友们，每年都会举办几次登山或体育(乒乓球，羽毛球等)活动。热闹的时候，会多达几十人。

多次举办的体育活动中，以 2008 年的“华通/科盟联合乒乓球邀请赛”最为热闹。这是一次挺正式的比赛，以淘汰方式决定冠军，每项目皆设评判审定。主办者，参赛者，评判，观众加起来达四十多人。

男子[78]、女子的冠军都是从小练习乒乓球的。尤其是女子冠军的王 JIN 女士，从小被送到体育学校接受训练，每天至少有两个小时拿着乒乓球拍，在乒乓球桌前不断的练习。

日记藏信 忘十四载

2008年的某一天，我在整理书架时，发现日记内夹了几张旧朋友的信件。

77　我相信我们的中国朋友都爱祖国，但是为了在日本生活或是工作原因，有些人会选择转变国籍(归化)成为日本人。

78 男子冠军是 JiangShan 先生。

抱著怀旧的心情一封一封的看，才发现其中一封是一位的旧同事十四年前托我寄的信。那是香港城市大学的旧同事刘先生(Mr. Casper Liu)写给北海道某大学的助教长谷川女士的信。

赶紧联系刘先生。并道歉。

刘先生在回信内说："杨过等了小龙女[79]十六年，你还没破这个记录呢。那封信也不用寄了。"

不过我觉得不把信寄出还是不舒服。

从网上找遍北海道的教育机关，终于找到长谷川女士的联系方法。马上送上传真。

不到两天，受到长谷川女士的回信。说虽然十四年前等不到刘先生的信，也欢迎我们到重临北海道。

在此特别感谢刘先生和长谷川女士的宽容。

无字天书　风水锦囊

身为香港人，个人比较喜欢用娱乐圈的人物介绍香港的文化[80]。因为这些人物普遍被人认识，容易成为共通的话题。

尤其是跟第一次见面的人交谈时候，用娱乐圈新闻作个引子，听起来比较轻松。

当年(学生时代)在日本旅游时，通常都是乘坐火车和地铁，我都会携带笔记本。精神上觉得是本"无字天书"。当自己的日语词不达意时，在本子上写上汉字，它便大派用场。

79 杨过和小龙女是金庸的武侠小说"神雕侠侣"里的主角，杨过等了失踪的恋人小龙女十六年的故事，常为人津津乐道。
80 作为香港人，有些时候会充当"香港大使"介绍一下香港的文化。

以前在学生宿舍偶然会碰上来自韩国的学生，因为日本人和韩国人都认识汉字，笔记本更见管用。譬如有一次，在笔记本上写上“大长今”的主角演员李爱英的名字。韩国人都认识，话题便打开了。再不然绘画，以“看图识字”方式交谈。

到日本留学那一年，家人交给我一个信封，说在碰到困境时打开，难题会迎刃而解。

听起来像是诸葛亮交给刘备（和将领们[81]）的「锦囊」一样。我半信半疑的把信封藏好在行李包里。

直至一年的年底，大学里的研究特别忙，我到12月31日的黄昏还留在实验室。直到要关门前一刻才离开。如常的乘坐一个多小时地铁和公车回宿舍，已经快累倒了。

原本我会在年底先到银行提款机提取足够现金，那一年实际太忙，居然忘记了准备过年的现金。

正当感到无奈的时候，想起家人交给我的「锦囊」。几年来还放在行李箱原封不动。原以为「锦囊」是什么护身符之类的，打开一看，竟然是一万日元现金，正好救了燃眉之急。如果现金是港币，新年期间也找不到兑换的地方。

饮水思源，母校为根

写这篇文章有几个想法：

第一是，为母校表达感谢。离开母校二十多年，当年校园的情景和师生的音容笑貌还长留心中。在记录离校以后的经历，我更感觉到“我的根源”的重要。同时希望通过这篇文章，能为呼吁支援中国的农村教育出点力。

第二是，我不敢说自己是留日华人的典型例子。实际上我还在摸索自己的人生和事业的正确方向。但是我坚持往前走，因为路不会因为我停下来而变短，正如时光不会为任何人而稍有停顿（暂停）一样。只有自己的行动和意志才能帮助走向千里之路。

---

81 赵云。

第三是，有些时候跟年青人说话，发现他们当中很多都怕失败。说“这很难，那很难”。我把自己“误打误撞”的失败经历记下，作个例子（让大家作个参考）。我个人觉得“失败”不是什么一回事。有些时候碰钉子的经验说出来给朋友们取笑了，过去以后我们应该为自己失败后还能勇于面对困难而骄傲。

最后在此，为母校提一诗，以抒发多年来的思念。

大学站

我们的母校，　建立在有山有水的地方。
山上，有两座水塔，
一名成城，意为众志成城，
一名联合，意为联心合力。
山下，有可以通往世界的海港，
名为自由港。
海边，有连接海港与祖国的铁路，
车站名为“大学站”。

学生们窗下数载，只为进此校门。
校门内，有亚洲独有的中药园；
校门内，集合了祖国和海外的精英；
谁不认识“物理大师”[82]、“光纤之父”。[83]

校园里，
小桥流水，细径池亭，春雾秋月。
师生们，都称她“人间仙境”。
春天的校园，装饰了红花绿叶，
更吸引了摄影家、新婚情侣们取景留影。

[82] 杨振宁教授
[83] 高锟教授。

三三不尽，挺玄妙，
此地培育了顶尖的数学家。
四书五经，不老套，
校园里，有民主学风，自由论坛。
六六无穷，变则通；
政坛巨人、名医奇才[84]、影艺名星[85]人才辈出。

十年树木，百年树人；
文理工商毕业生服务社会。
热心的教育，让我们如沐春风，
校友们，都称她“故乡”。

正門
(CUHK
entrance)

科学館
(Science
Building)

写真７： 香港中文大学の風景：正門
照片７： 香港中文大学的正門

写真８：科学館
照片８：科学馆

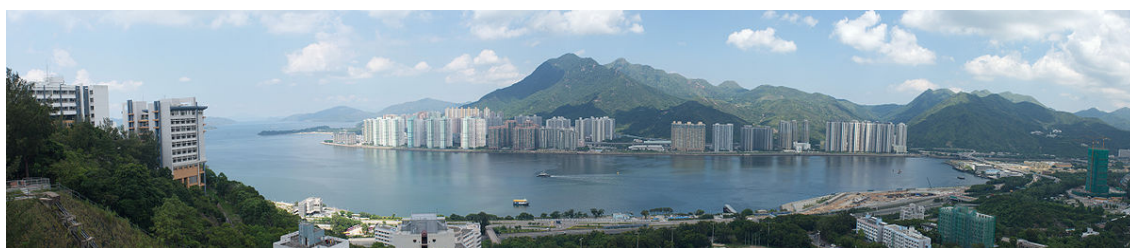



写真９：キャンパスから港と対岸の住宅街が見える
照片９：从母校的校园看到的海港和对岸的住宅

[84] 李天命博士
[85] 名导演许冠文、名歌手黄凯芹。

藝術系導師莫一新作品：《紀念碑：生命再造》

写真１０：　母校の新亜書院にある風景（芸術学科の莫教授の作品より）
照片１０：母校的新亚书院的风景（芸术学系莫教授的作品）[86]

86　新亜書院

作者介绍：

张子诚

１９８８年，毕业于香港中文大学电子学系。

同大学硕士课程毕业后， 于香港城市大学任助教的同时，进修论文博士课程。１９９０年、在京都举行的国际学术会议中遇到东京大学的指导教官。其后在东京大学工学院继续博士课程。 １９９６年博士课程毕业后，在日本的企业工作。

由于担任研究工作的关系、常被邀请作学术活动和会议等的嘉宾。

曾任香港中文大学、香港城市大学、香港科学技术大学、台湾交通大学、北京大学客席讲师。于讲演和议论学问的同时，喜欢与研究者、研究生们分享研究的经验，和留学、旅日时的经历。

兴趣：水上运动

生命進行曲

10　生命進行曲　(Winnie Chan)

著者：　Winnie Chan
和訳：　張子誠
校正：　蔦田　康毅

第一章-序幕

かつて私の心の中に、日本は「雨夜の月」のような存在でした。主にマスメディアを通じて、浅薄な認識しかできておりませんでした。

日本の自然環境の綺麗さ、伝統文化の保全が一番印象深くて、日本慣用語の表現に曖昧さがある事や、人々がルールを守りすぎているかと感じました。

正直に言うと、日本に来る前は、日本に対してあまり理解をしていませんでした。大学の副専攻科目は日本文化でしたが、日本のイメージは、TOYOTA, BAPE,寿司、着物、先端科学技術、礼儀正しい民族といった表面的な認識しかありませんでした。

2006年に大学を卒業した後、私はキャンパスの生活と別れて社会に入る「成人」になりましたが、心理的には不安だらけでした。将来の仕事をどうやって発展させたらよいか、人生の行方はどうなるか、頭は真っ白でした。大学時代の成績は優秀とは言うわけではなかったので、希望していた大手企業でのポストは見つかりませんでした。三人の友達と相談した結論は、「東京で日本語を学びましょう！」でした。日本語ができたら、日本の企業で就職できるはずです。給料も悪くないし、福祉も香港の会社よりよさそうでした。卒業した直後には、そう考えました。日本語学校への申請は順調だったので、私たちの計画では日本で一年間を留学することにしました。

2007年1月、私は生涯、忘れられない旅に出ました。

空港で、友達と別れた時、笑いながらこう言いました。

「１年後に会いましょう。」

その後、日本の生活はあっという間に、三年間半にもなってしまいました。

第二章-衝撃

大学卒業したばかりの私は、まるでわがままな少女でした。

来日する前、親族との関係は悪かったですし、留学に対しても強く反対されました。

幾つか不愉快な事も起こったために、私は就職の悩みや親族との喧嘩を放っておいて、僅か三万円の現金を持って東京にきました。最初は日本語学校の宿舎に住み始めました。

部屋は六畳しかなかったですし、韓国の学生とルームシェアしなければなりませんでした。しかし、香港の不愉快なことから逃げ出して、学校で毎日さまざまな国から来た人と交流ができ、異文化と触れ合うこともできました。学校が終わったら宿舎で勉強し、夜になるとバルコニーで星空を眺めると、心の中が静かになりました。日本は、まるで天国でした！

日本語学校的学生宿舍 六叠的房间 （日式房间）
日本語学校の学生寮　六畳の部屋（和室）

しかし、僅か三万円しか持たない私は、一ヶ月後に生活費に不安を感じはじめました。香港で日本語を学んだ事はなかったため、日常会話すらできなかった私は、アルバイトが見つかりませんでした。幸い、台湾出身のクラスメイトが飲食店の厨房でのアルバイトを紹介してくれました。それから、留学の悪夢が始まりました。

アルバイトをしてから、社会人になり、世の中の事を学びました。

日本語も下手だし、店長も中国人がきらいでした。給料が低くて、店長に頭を何回も叩かれました。

驚き、受難、無力感、そして自尊心が傷つけられました。

さらに、アルバイト先で会った外国人のほとんどは、学費や生活費を稼ぐために仕事をしていました。実家に仕送りしなければならない人もいました。

経済的に余裕がある環境で育てられた私は、本やドキュメントリーでしかこの状況を見たことがありませんでした。そこで初めて「貧困」の実態を知りました。

あっという間に、約束の一年間が過ぎました。2007 年の年末、私はもう一つの決断：日本で大学院へ進学する決意をしました。アルバイトは大変でしたが、日本の大自然が好き、日本の居住環境が好き、日本の静かさが好き、日本の空気が好きだからでした。できればここで一生暮せたらいいな、と思いました。

2008年、日本語能力試験一級に合格するため、私はアルバイトをやめて、毎日勉強に集中しました。合格ができたら大学院へ進学ができ、卒業後に日本で就職ができるはず。この年、私と一緒に日本に来た三人の友達は香港に帰っていったので、私一人だけが日本に残りました。独りきりになった私は、時々将来の事に関して迷いを感じ始めました。幸い、教会でたくさんの友達と知り合って、生活に活気が出てきました。また、偶然、駐日英国大使館で通訳のアルバイトをすることになりました。仕事の内容は、東京の刑務所に服役している香港人に面会することでした。初めて刑務所に行きました。外国にいる香港人と会話できたことは、よかったと思います。また、この仕事を通じて、人生の意味を更に経験できたと感じました。

2008 年 10 月、私はある私立大学の大学院に合格しました。しかし、日本で二年間の留学生活を経験した私は、ますます迷いを感じました。入学手続きが済んだ後、私はひどいホームシックになりました。その後の一ヶ月の間、毎日、自宅で泣き崩れました。　27 才になっても、まだ学生のままの自分には、進路の見通しが立っていなかったので、将来的なキャリアのための計画や人生の目的を真剣に考えなければならないと思いました。突然、白先勇氏[87] の小説を思い出しました。その瞬間に

[87] 白先勇：現代台湾の文学を代表する作家。1937 年江西省桂林生まれ。48 年に香港へ、52 年台湾へ渡る。台湾大学外文系時代に雑誌『現代文学』創刊に関わり、多くの作品をここに発表。大学卒業後、留学のためアメリカへ。現在もアメリカ在住。

「カルチャー・ショック（文化の衝撃）とは何か？」ということをやっと理解できるようになりました。漢詩の中の「郷愁」の背景は、こういう事だったのか、と肯けました。

その時、母からの電話がきました。厳しい声で、

「とにかく、大学院の勉強を全うしなさい！」と言ってくれました。

2009 年 4 月、他の選択肢がないまま、やむを得ず大学院に入学しました。入学後、教授がたのご指導や同級生との交流の下で、やっと元気が戻ってきました。改めて、真正面から、諸問題や人生の意味を考えられるようになりました。

第三章-得たもの、失ったもの

大学の卒業生のほとんどは、自分の夢や目標に向けて努力したり、将来のために計画を立てていくと思います。その代わりに、私は人生の中の一番大切な青春と時間を日本で費やしています。留学生活の中では、アルバイトや通学の時間以外、旅行をする機会も少なくありませんでした。北海道、 大阪、 京都、箱根、伊豆、日光のような名所を訪れました。私は旅が好きで、特に香港にない大自然が好きです。

周りの人からは、
「日本に留学し進学できて、いいな！」との羨ましがられることもあれば、
「自分の将来もちゃんと計画しないと！」とのアドバイスも頂きました。

2007 年 3 月　初めてのスキー
2007 年 3 月　第一次滑雪

日本で遊んだり、勉強したりしているうちに、私は人生の大切なレッスンを受けました。四年間を費やし、家族の愛、自分の価値や夢を取り戻せました。

日本に暮らしたことがある人は、季節ごとのイベントを大体わかってくれるでしょう。春は桜を鑑賞し、夏は花火を見る。秋は紅葉を見て、冬は雪景色を楽しみながら温泉に入る。以前、観光客として日本に来た時には、必ずこのようなスポットで記念写真を撮って、友人に見せびらかしました。しかし、今は日本で生活しているので、ゆっくり歩いて、大自然を楽しむことができます。目で風景を見て、心で周りの出来事を感じて、全ての物を美しく感じます。

日本の環境は確かに魔力をもっているように、心の煩悩を静めることができます。来日前、親族との関係は悪かったですが、日本に来て半年後にはだいぶ良くなりました。人と人の関係は、とても不思議なものだと思います。毎日会っていた時には、大切にしていませんでした。　遠くに離れてから、言葉や行動で家族に愛を表すようになりました。　それで、友達が遠くから来てくれた時には、私は必ず彼らを公園に案内して、香港にはあまりない大自然を感じさせてあげます。

当初、私はイギリスのパスポートで日本に入国したので、外国人登録証明書の国籍はイギリスになっています。北京語が一言もできなかった私は、自分は「香港人」であることを強調してきました。しかし、アルバイト先でも学校でも、ほとんどの人は、韓国人か中国人、そうでなければ日本人です。自分を中国人として認めたく

なかったのは、出身・文化・教育や考え方が違うからでした。しかし、アルバイトの店でいじめられた時、助けてくれたのは中国人の友達です。学校で寂しいと感じた時、話しかけてくれたのは中国人のクラスメイトです。ホームシックになった時も、慰めてくれたのは教会の中国人の友達です。

2008年のある日のことを思い出します。居酒屋のテレビで北京五輪の開会式を見た時、初めて自分は中国系の一人である事に誇りを持ちました。それから、日本で起こった北京五輪に関する「デモ（示威運動）」に興味を持ち始めました。日中関係に関するニュースを見るたびに、ついつい気を引かれるようになりました。自分を困らせた「アイデンティティーの喪失（identity crisis)」も徐々に消えていきました。もし、私がずっと香港で生活していたら、これらの経歴や体験ができなかったと思います。

第四章-羽化

僅か四年間で、私はいろいろ勉強できたと思います。迷っていた時代から自分を改めて認識することができました。物質的な価値観から、精神的な面を重視するようになりました。日本での経歴は今後の人生に役立つとを信じます。

来年卒業した後、どこに行くかはわかりませんが、日本で学んだ事は、将来に勇気と希望を与えられてくれました。蝶蝶のように、蛹を破って、澄んだ空へ飛び出していきます。

「アルバムの中、幼い顔は、
少女時代を刻んでいる。
かつて、お互いに
月に昇りたかったり、
太平洋を飛び越えたかったりしていたね。

月日は流れて、私たちは成長し、
未練・迷いに別れを告げました
かつて、お互いの心に
描いた夢を

忘れていないでしょうか？

道はまだ長い
希望を失わないで。
挫折に遭っても、
落ち込まないで
私たちに夢があり、
輝く太陽がある。」

人生の中の出来事は、一つひとつの音符のように、美しい曲を組み立てています。音符は多ければ多いほど、演奏しにくくなります。　しかし、頑張って演奏を完成させたら、満場の拍手を楽しめる事を信じています。

私が日本で創り出した四つの楽譜は、人生の輝いている一ページになる事を確信しています。

著者紹介：

チャンウィンイー
陳　穎　怡　(Winnie Chan)

1983 年香港生まれ。2006 年香港大学文学部を卒業し、学士号を取得した。卒業後東京の日本語学校に留学し、2009 年ある私立大学院に入学した。言語文化を専攻して、日本における外国人に対する人材マネージメントを研究している。趣味は文化体験、人を観察、旅行など。

生命進行曲

Winnie Chan

第一章-序幕

怎么说呢？曾经，日本对我来说，是遥不可及。只能通过传媒了解其一二。

其中以自然，洁净，传统的印象最深，却有感于日本语表达方式的暧昧，和过度守原则的习惯。

坦白说,来日前对日本的确是一知半解。虽然在大学的副修是日本文化，但若问我对日本的联想，其实只有 TOYOTA，BAPE，寿司，和服，先端的科技，礼貌的民族等肤浅的认识。

2006年大学毕业后，终于要脱离校园生活踏入社会当个大人，那时候的心情是十分徬徨无助。对于将来的发展，人生的路应该怎样走，真的是毫无头绪。大学的成绩并不优秀，也没能在大公司找到个称心的职位，于是跟三位朋友商讨，一起来东京学习日文吧！懂日文，能在日资公司上班，工资是挺不错的，听说福利也比本地公司好。刚毕业的时候是这么想的。在申请日本语学校的过程中很顺利,我们的目标是留学一年。

2007年1月，我踏上了一辈子也不能忘记的旅程。

在机场中，跟朋友家人笑著的道别，

「一年后见!」

这以后，我在日本的日子不经不觉已踏入第三年后半了。

第二章-冲击

大学刚毕业的我，还是一个很任性无知的小女孩。

来日前跟家人的关系很差，他们更对留学一事大力反对。

加上发生了很多不愉快的事，我的口袋里只带着三万日圆，撇开找工作的烦恼，跟家人的争执，来到东京，在日本语学校的宿舍找到个落脚点。

虽然房间只有六叠，还要跟一个韩国女生同住，但能从逃离香港，远离烦嚣，每天在学校跟不同国藉的人交谈，体验不同的文化，于放学后回家温习,晚上在阳台一个人静静的观看星空，我的心里感到很平静。 日本，真是一个天堂!

然而，只有三万日圆的我，一个月后开始为经济感到焦虑不安。 由于在香港没有学过日文，生活沟通也成问题，要找一份兼职实不容易。 幸运地，有一位台湾的同学介绍了一份厨房的工作给我，自此留学的噩梦开始了。

打工，让我深入社会的基层，看到人生百态。

由于日文不好，店长也不喜欢中国人，待遇不说了，曾经试过被打头好几次。

惊讶，难受，无助，自尊心受创。

再者，打工的地方碰到很多外国人，大部分为了赚学费生活费很努力的打工，有些更要寄钱回家。

在富裕环境下成长的我，这么样的境况，在书上看过，在纪录片中也看过，却是第一次感受到什么是贫困。

时间匆匆,一年的期限到了。2007年末，我作了另一个抉择：决心在日本升读大学院。 虽然打工很辛苦，但我爱日本的大自然，我爱日本的居住环境，我爱日本的宁静，我爱日本的清新空气。 可以的话，一辈子也待在这边多好啊!

2008年，我把打工的时间拨出来，每天很努力的念书，为了能考到日本语能力试验一级,考上一间大学院，毕业后能在日本就职。 这一年，跟我一起来的3位朋友回港了，只剩下我一人。 孤身作战,对前路难免感到更迷茫,幸好在教会认识了很多朋友，生活才有点色彩。再者,在很偶然的机遇下得到了一个在驻日英国大使馆当翻译的兼职。 工作内容是在东京里探望坐牢的香港人。 第一次到监狱，不是在香港却在日本。很高兴能在海外为香港人服务,而透过这份工作，我对人生的意义又多了一层体会。

2008年10月我考上了一间私立大学的大学院。 然而， 待在海外两年的留学生活让我感到越来越迷失。 刚交了学费后， 我患了严重的思乡症， 一个月下来每天也要家里哭得要命。 年纪渐长， 还是学生的身份让我感到前路茫茫， 开始认真的思考将来的事业发展， 人生的义意等。 突然想起白先勇的小说， 一下子明白了何为文化冲击。 古诗中的思乡情怀的背后， 原来是这么一回事。

那时候,妈妈透过电话， 严厉的说:
「不管怎样一定要把大学院念完!!」

2009年4月,在没办法的情况下， 我十分不情愿的入学了。幸好， 入学后在教授们的指导下及跟同学们的交流中， 心情渐渐回复过来， 开始重新正面的思考问题,面对人生。

第三章-得失

大学毕业生， 大部分也为着自己的梦想或目标努力前进， 计划未来， 我却把人生中宝贵的青春和时期， 都花在日本。 留学生活当中， 除了打工和上学外， 其实也有不少去旅行的机会。北海道， 大阪， 京都,箱根,伊豆,日光等。我很喜欢旅行,更爱香港没有的大自然。

有些人很羡慕的说: 「能到日本留学继续念书真好!」

有些人却意味深长的说:「 应该为自己的将来好好计划一下吧!」

在日本,除了游玩和学习外。 我还上了生命中很重要的一课。我失去了4年时间,却寻回家人的爱， 自我价值和梦想。

在日本住过的人都一定知道,每年的定例节目,不外乎春天看樱花， 夏天看烟花,秋天看红叶,冬天看雪景和浸温泉。 以前以旅客的身份来日本,一定要赶上这几个场境,拍照留念,在朋友面前炫耀一下。现在身在日本,时间多了， 学会放慢脚步用眼睛去欣赏这个大自然,用心去感受身边的事物－原来每一样东西也都很美。

日本的环境的确有它的魔力,能把烦躁的心平静下来。来日前跟家人关系很差,来日后半年反而变得越来越好。人与人的关系很奇妙, 每天见惯了就不会懂得珍惜。相隔异地, 我跟家人也学会了用言语和行动去表达爱。因此, 每当有朋友远道而来,我一定会把他们带去公园,感受一下香港少有的大自然。

当初,我是用英国护照来日的。外国人登录证上的国藉是英国,一句普通话也不会说的我,来日后一向也坚持自己是「香港人」。而然,在打工的地方和学校里,大部分也是韩国人和中国人,要不就是日本人。纵然在心里不愿意承认自己是中国人,总是觉得文化教育思想等没有一样相似。但当在店里被欺负的时候,是中国人的朋友替我出头;在学校里感到孤单时,是中国人的同学和我聊天;在思乡症发作的时候,是教会的中国人的朋友安慰我。 记得2008年,在酒吧的电视屏幕上看到北京五轮开幕典礼,第一次, 为着自己是中国人的一份子感到骄傲。 余下的日子, 对在日的北京五轮示威开始感兴趣, 看到有关中日关系的新闻,不其然的关心起来。 曾让我感到困惑的「认同危机[88](identity crisis)」也渐渐的除去了。这相信,是我在香港里一定没有机会能经历和感受的。

第四章-蚕变

在这短短的四年里,我成长不少。从迷失到重新认识自我; 从物质的价值观到非物质的重视, 在日本的经历绝对是一生受用。 虽然来年毕业后到底何去何从还是未知之数,但凭着在日本学到的东西,我对未来充满盼望,就像蝴蝶破蛹而出,飞向澄明的天空。

「相片里,儿时的模样,
记录着, 年少的时光;
曾经在,你我的心中,
要登上月亮,要飞越大平洋。

多年后, 我们都成长,
告别了,青涩和迷惘;
曾经在,你我的心中,
编织的梦想,

[88] 对自我身分认同无法确定的问题

是否己遗忘?

路依然漫长，别失去盼望，
虽然有挫折，但我不用沮丧，
我们的日子有梦想，有灿烂的阳光！」[89]

生命中的每一件事好比每一个音符，编成一首美妙的乐曲。音符越多，难度越高，但我坚信若能完成演奏，得到的将会是满座的掌声。而我在日本编成的四章乐曲，必会成为燿灿的人生中的重要一节。

笔者介绍：

陈颖怡(Winnie Chan)

出生于1983年，香港。2006年于香港大学文学院毕业，取得文学士学位。毕业后在东京的日本语学校留学念日语，2009年考上东京的私立大学硕士课程，主修言语文化。现时致力研究日本对外国人的人材管理问题。兴趣包括文化体验，观察他人及旅行等。

89 以上部分源自基督教讚美歌「为主来梦想」的歌詞（「王子音乐」洪啟元）

『美しさに惹かれて』
福岡市の植物園　（2011 年 2 月）
『美眷』
福岡市的植物园　（2011 年 2 月）

私はどこから来た

11　私はどこから来た　（ジェイムス・リー）

著者：ジェイムス・リー
翻訳：張　子誠
校正：葛　毅

「私がどこから来たかは、本当に重要でしょうか？」

こういった面白い疑問は、外国に住んでみるまではあまり思い浮かばないでしょう。 私にとっては、アメリカに住んでいた時、こういったことをあまり考えたことがありませんでした。そうです。私はアメリカ人なのです。

アメリカで生まれ、アメリカで育ち、日本に来るまでずっとアメリカで暮らしていたので、私はアメリカ人に間違いないと思います。

しかし、両親は中国人ですので、私は北京語を流暢に話せます。初めて会うひとは, 私が実は中国人ではないという事が理解しにくいかも知れません。

けれどももし、もっと深く付き合ってくれたなら、私の習慣も、考え方も、はっきりとアメリカ人である事を分ってくれるでしょう。

同様に、私の外見は日本人にも見えます。日本語の発音もはっきりしていて、なまりも殆どありません。

けれども、多少会話をしたら、明らかに、私がこの国の人ではないことを分ってくれるでしょう。

確かに、私は日本人とも中国人とも違います。しかし、これは本当に重要でしょうか？

数週間前に、親しい日本人の友人の家にホーム・パーティに招待されまし私たちは、手作り餃子（ギョウザ）を食べて、酒を飲んでいました。その時、皆少し酔っ払っていたと思います。

ところで、その友人は、もう一人の親しい友達からお土産にお茶漬けのもとをもらいました。そして彼は、夕食後に、私にその一パックをくれました。

おそらく、その時は、あまりはっきり考えていませんでした。

私はお茶漬けのもとを

しばらく眺め（それは、プラスチックできちんとパッケージされた平らな楕円形でした）私は、このパッケージを何回か引っくり返してみました。

弁解として、それは、お茶漬けですが、形はお菓子の「もなか」に見えました。

パッケージをもう一度 引っくり返しましたが、そこに「ふぐの味（味付け）」と書かれていることに気づきませんでした。お菓子の風味としてふぐを原材料としてを使っている事はちょっと不思議です（ただ、完全に不可能ではないとは思います）。

私たちは、暫くの間喋りながら、酒を飲みつづけていました。

その時、デザートがほしくなり、たまたまその「もなか」が手元にあるので、ゆっくりパッケージを開けて、一口食べました。　何が起こったのは皆も想像できるでしょう。　それは、塩辛くて、魚くさい、緑茶の粉が付いた「お茶漬けの素」でした。

友達皆は私を見て、笑っていました。

読者の皆さんも、この出来事に少しびっくりしているでしょう。

皆お茶漬けは「ご飯とお茶と一緒に食べること」と分っていますから。私は「彼がちゃんと説明してくれなかったせいだよ」と冗談を言いました。ただ、その味は美味しかったです。

「私がどこから来たかは、本当に重要な事でしょうか？」

私はそう思っていませんが、完全に否定もしません。

違う出身の人との付き合いは多少の努力が必要です。

皆にとって常識であり、私にとって常識でない事で、愚かに見えるのを受け入れるには多少の勇気が必要です。

しかし、日本に来て本当に良かったと思っています。

なぜなら、異なる背景の人が集まることで、人間関係に違った味付けを加えているからです。

私の場合、特に、生活上な小さな事が、多くのユーモアや笑い話になるからです。

著者紹介：

ジェイムス・リーさんは、米国カリフォリア州に生まれ、ベイ・エリアで育ちました。

2007年にスタンフォード大学を卒業し、学士号を取得して三ヶ月後に来日。現在はエンジニアとして勤めており、関東地方に居住しています。

週末には、バスケットボールをしたり、教会に通ったり、友達と出かけたりしています。

Where I'm From

James Li

Do you think where you're from matters?

It's an interesting question that I think rarely enters our minds until we're finally living someplace else. For me, I know that I rarely though about it when I was still living in the United States -- you see, I'm an American.

I say that I'm American because I was born in the United States, I grew up in the United States, and I lived in the United States for my entire life -- until I came to Japan.

But my parents are both Chinese, and I speak Mandarin fluently. When you first meet me, it may be hard to tell that I'm not actually Chinese, whatever that means.

If you dig a little deeper, you'll realize many parts of me -- habits, customs, ways of thinking -- are distinctly American.

In the same way, my appearance is Japanese, and my Japanese sounds clean and unaccented.

But if you talk with me just a little more, it's clear that I'm not from around here.

I know I'm different. But that doesn't answer the question -- am I different in ways that actually matter.

I went to a home party several weeks ago. A good Japanese friend of mine invited me over to his house -- there was hand-made “gyouza” (ギョウザ), and we sat around drinking and talking. I suppose we got a bit drunk.

Anyways, my friend received a box of “ochazuke” (お茶漬け) as a souvenir (お土産) from another good friend of ours, and he handed me one after dinner.

I'll admit that I wasn't thinking very clearly.

I looked at the “ochazuke” (お茶漬け)　for a while -- it was a flattened oval packaged neatly in plastic -- and turned it over several times.

In my defense, the “ochazuke” (お茶漬け) looked and felt exactly like “monaka” (もなか), a kind of snack.

I turned it over again. I didn't notice that it said it was “fugu” (ふぐ) flavored -- that would have been a strange (but not impossible) flavor for a “snack” (お菓子).

We were still sitting around talking and drinking.

I wanted something for dessert, and the “ochazuke” (お茶漬け) was conveniently in my hand. I slowly opened it and took a bite through the shell. It was, as you would expect, salty and fishy with flecks of green tea leaves.

My friend noticed and laughed.

I suppose there was some dismay as you, the reader, would no doubt expect.

After all, as everyone knows “ochazuke” (お茶漬け) is with rice (ご飯) and tea (お茶). I jokingly said that it was his fault for not explaining -- and besides, it tasted pretty good.

Do you think where I'm from matters?

I would like to say no, but that's not entirely true.

It takes some effort to connect with someone with a different background.

It takes some courage to look stupid over something that's common sense to you, but not common sense to me.

But I'm glad that I came here.

Because with good friends being different just adds a different kind of flavor to the relationship.

In my case, there is plenty of humor and laughter, especially over the little things.

Bibliography:

James Li was born in California and grew up in the Bay Area. He graduated from Stanford University in 2007 with a bachelor's degree and moved to Japan three months later. He works as an engineer and currently resides in the Kanto area of Japan. On the weekends, he plays basketball, goes to church, and hangs out with friends.

日本の第一印象　（2007 年、日本の成田空港に到着）

First impression of Japan. (Arriving in Japan. Narita, 2007.)

小田原城、2008 年。

(Odawara Castle, 2008.)

日本の春（新宿御苑公園２００９年３月）

Spring in Japan. Shinjuku Gyoen Park, March 2009.

東京で行われた新年パーティ（２０１０年１月１５日）

New Year Party, Tokyo, Jan. 15, 2010.

東京で行われた新年会パーティ（２０１０年１月１５日）

(New Year Party. Jan. 15, 2010.)

ジェイムスの歓送会（２０１０年５月２１日）

(Farewell party. May 21, 2010.)

兪さんがジェイムスさんに贈った言葉

各位

兪です。
　先週金曜日にジェイムスさんの歓送会に出席しました。
　歓談の内にいろいろな思いが浮かび出しました。

　ジェイムスさんと初めて会ったのはＡ社の体育館です。

　当時A社の体育館の管理人さんに頼まれて、体育館の使用ルールを４人のアメリカ人に説明してくれと言われました。

　「彼らはルールが分からない、君は英語が分かるだろう」ということです。

　そのとき４人外人は広い体育館にバスケットボールを自由奔放に練習していたか、遊んでいたか、というところでした。

　三年前、閉館の時間がすぎたある夜の９時ごろでした。

　４人の中にリーダー役のようなジェイムスさんがいました。

　私はルールを説明したところ、ジェイムスさんがＡＢＣ[90]であることが分かって、華通会の活動に参加しませんかと誘いました。うつかって

　ジェイムスさんは快諾しました。

　その後、皆様も分かる通りにジェイムスさんは積極的に華通会の活動に参加し、その一員になり、皆と親しくなりました。

---

[90] ABC: American Born Chinese の事。 アメリカ生まれの中国系の人。

私のジェイムスさんに対しての第一印象は、体育系のインテリジェンスです。大きく、頑丈な体でありながら、機敏にバスケットボールを持ち回ったりします。相手に真正面からぶつかって、勝ち取るために一生懸命に戦ったのを見て、体の軟弱な私は特に感心しました。

また、話すときには相手の顔をよく見て、耳を澄ましてきいてくれたことをみて、謙虚な方だなと思いました。

その後、いろいろな交流の中に、更にジェイムスさんに対する理解を深めました。

ジェイムスさんが高度な「文化の混血児」であることに感銘を受けました。東洋文化は体に染み付いていています。儒教、仏教、道教の考え方を持って我々と違和感なく接して、日本の社会に快く馴染んでいます。

また一方では、、西洋の思考パターンを持っているのが、彼の考え方、分析手法。行動規範などに、よくあらわれています。。

その両方の良いところ、又真髄を自由に操っています。

彼の姿から将来Ａ社のグローバルビジネスの中で活躍しているのが見えてくるような気がします。

第三、彼は理系出身で、また会社経験はそれほど長くないが、（私も驚きましたが）会社経営に対する考え方、意識はA社の幹部社員以上のレベルを持っていると思われます。筋の通った考え方をしっかりと持っています。

何に対しても、「どうしてこのようになるか、Ｗｈｙ？Ｗｈｙ？Ｗｈｙ？」と連発、またこうなっていることに対して「誰がベネフィットになるか、Ｗｈｏ？」を常に考えています。

その才能はアメリカの環境育ちのお陰なのか、彼自身の素質なのかははっきりと区別が出来ないが、世界にアメリカスタンダードの経済支配下では、このような考え方、

意識は沢山社員が持たなければグローパル企業としてのＡ社は成り立たないと強く感じます。

　ジェイムスさんがアメリカに帰っても、向こうのＡ社で仕事することになっていると聞いて、安心していました。A社が人材重視に対して一歩前進したと認識しています。

　ジェイムスさんに対しては将来向こうのA社だけではなく、Ａ社全体の繁栄と発展に貢献し、A社の真の企の牽引役として力を発揮するのを期待し、また確信します。

　最近、彼の体はまた一回りと大きくなったと聞きました。「体と心がまだまだ成長している最中」と受け止めています。まだ２０代前半ですからね。

　アメリカに帰っても、華通会を忘れずに是非連絡を保ちましょう。

　Keep in touch.　（また連絡してください。）

　Xiang-you YU　(May 22, 2010)
―――

京都での生活

12　京都での生活　（Carrie Chan）

Carrie Chan

多くの日本研究学科の学生と同じく、昔から日本伝統文化や日本流行文化等に興味があって、大学進学は第一希望として日本研究学科に入ることになりました。その時から、本格的に日本語や日本の各種社会問題を勉強して、ただの「日本ファン」から、日本のことをよく理解できる「日本事情を勉強する者」になりました。大勢の香港での日本研究者の方々も述べたことがあるかと思いますが、確かに日本という国は「研究すればするほど面白い、もしくはおかしいところが多いことがわかる」のです。

1. 京都での留学生活

2006～2007 年度の京都の立命館大学への一年間の交換留学をきっかけに、実際に日本での生活を体験することができました。同じアジア地域で似ているところも多いし、香港ではよく日本文化・飲食に接する機会もあるので、留学の最初から問題なくすぐ生活に慣れることができたと思っていました。それにしても、銀行の窓口は午後 3 時まで、ATM は 24 時間利用できなくて指定時間帯以外は手数料が取られ、バスはたいてい夜 10 時までなど、今でも不便だと思うところも多いです。

香港のような大都会と違って、京都は閑静な町です。通勤でも通学でも、住民の交通手段は主に自転車です。日本全国の中でも、日本伝統文化や文化遺産となるお寺や神社がたくさん残されていることで有名で、自転車で市内の名所を巡るのは最高の休日の過ごし方ではないかと思います。

留学生としての一番のメリットは、時間がたっぷり持てて、日本国内旅行もしくはいろんな日本文化を体験することができることだと思いました。沖縄へのプチ旅行から北海道の雪祭りなど、今でも大切な思い出だと思います。年末年始の友人の

実家でのもちつき、京都三大祭りの時代祭り、夏の花火大会など、在住者でないと体験できないことがたくさんありました。

2. 京都での社会人生活

偶然な機会で、香港中文大学日本研究学科を卒業して、ローム香港分社で約二ヶ月働くことを経て、京都にある大学の国際センターで勤務することになりました。昔留学した京都なので、住環境ではすごく慣れているといえますが、実際に異国で一人暮らしの社会人生活は決して楽なものではありません。もう留学生ではないので、すべての手続きは自分で行わなければなりません。幸いに、留学時代の日本人の友人が手伝ってくれて、マンション探しもお陰で予想より早く済ますことができました。とはいえ、外国人では手続きが複雑で、お金を多く出さないと解決できないなど苦労したこともあります。

留学の時はアルバイトをした経験もありましたが、日本で働く環境は確かに香港とかなり違うと思います。まず、職場内の階級観念は、日本の会社文化の一つとして、職員たちのモチベーションや業務分担や社内雰囲気等にどう影響しているのかを実感しました。日本の職場では簡単にいうと、正社員、契約社員、派遣社員、アルバイトの４つの職種に分けられています。正社員以外は全部有期雇用になっているので、その会社では決められている期間内しか働けなくて、一ヶ月の事前通知があれば会社に解職されることもあります。ということは、いつまでその会社で働けるかわからないので雇用がとても不安定です。自然と、有期雇用者はほとんど会社に対する忠誠心が正社員より低く、会社の長期経営方針より目の前の問題や利益に興味を持っているわけです。

次に、皆さんがご存知の通り、日本の会社はすべての決定が稟議や会議で議決する必要があります。いいところとしては、何回も、または何人もに確認した内容なので、ミスの防止についてはある程度の効果が出ると思います。その一方で、こういった審議を経てないとなかなか政策が実施できなかったり、細かい詳細まで会議資料に書き込まないと通すことができなかったりして、効率が悪いところもあるかと思ってしまいます。

日本人の働き方といえば、変化と柔軟性は乏しいかもしれませんが、何事も真面目できちんとしているという長所もあります。香港人の「結果重視」、「効率重視」などの態度とはかなり違いますが、それぞれ優れているところもあるかと思われます。違う国で長期間働くというのは、色んな勉強ができて、なかなか得られない経験だと思います。

3. 国際交流

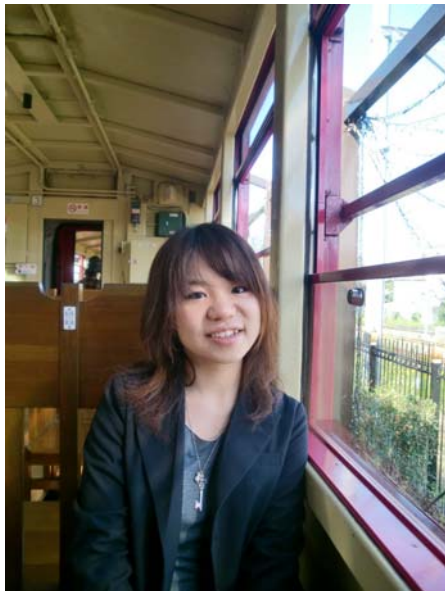
香港人のイメージと言えば、国際的な視野を持って英語ができるので、ほとんどの国の人とコミュニケーションを取ることができます。大学に入学する前、香港中文大学日本研究学科の高校生向けの入学説明会に参加した時、なぜかすごく印象に残ったのは「三文四語」の言葉でした。かなりな言語能力を持てれば、様々な人とコミュニケーションを取る基本的な能力が入手できると思いました。香港に特有なイギリス植民地の歴史や文化背景とも強くつながっていると思いますが、言語能力の理由でも香港人が国際的に活躍できることと国際交流等の活動に熱心であることにつながっていると考えられます。

少なくとも、私はそう思いました。ネイティブではないが、英語・日本語・北京語の基本能力を持って、色んな国から来た方々と交流するチャンスも手に入れました。留学時代もそうでしたが、社会人になってから、特に日本で就職することになってから、国際交流が生活の中に重要な一部になりました。最近数ヶ月のことですが、京都を中心に国際交流イベントを主催する団体の一員になりました。もともと参加者として何回かイベントに参加していましたが、主催者として国際交流イベントを楽しめる方法もたくさんあると思って、仲良くなった主催者チームメンバーと一緒に色んな新しいイベントを開催し、それに伴って自分の新しい目標を探し始めようと思いました。

日本に在住している香港人は他の国籍の人と比べると、まだまだ少なくて、その中でも関西在住の人はさらに少ないです。映画・点心・夜景以外、日本人もしくは他の国籍の人はほとんどあまり香港のことを理解していないでしょう。微力ですが、より多くの人が少しずつ香港のことを理解できるようにしたいわけです。広東語に

興味がある日本人も、もちろん北京語より遥かに少ないので、何か広東語に対する認識も日本で広げられればいいかと思っています。

　最後になりますが、日本で住んでいることで、日本の文化や社会をよく理解することも大事ですが、同時に香港の文化や言語の魅力を広げるのは日本長期滞在中の皆さんの基本的な義務ではないかと思っています。香港中文大学の卒業生としても、ただ一人の香港人としても、これからもプライドを持ちながら日本で生きていこうと思っています。

著者紹介：

陳 婉欣(Chan Yuen Yan, Carrie)

　2006～2007 年度立命館大学へ交換留学、2008 年度聯合書院日本研究学科卒業、現在は京都にある大学で海外留学プログラム担当の契約職員として働きながら、プライベートでは京都を中心として国際交流イベントの開催・運営において活動している。

① 2009 年 5 月、職場の女子会。私以外は、全員日本人です。

② 2009 年 7 月、京都に留学した時に知り合った友達と名古屋で再会。この写真の中のはアメリカ人、香港人、ドイツ人です。

③ 2010 年 1 月、大阪と神戸に住んでいる香港人の友人と初めてのスキー。

④ 2010 年 3 月、大学 3 年生の時（07－08 年度）知り合った香港中文大学の日本留学生たちとの同窓会 （京都）

⑤ 2010 年 7 月、大阪天神祭

⑥ 2010 年 9 月 22 日、私が主催した中秋節国際交流パーティー。屋上スペースを香港で購入したランタンで飾りました。

在京都的生活

陈 婉欣(Chan Yuen Yan, Carrie)

跟许多日本研究学系的学生一样，因为自小对日本的传统和流行文化有着浓厚的兴趣，所以考大学时选了这个学系。从那个时候开始，真正开始正式学习日语跟日本的各种社会问题，并由一个单纯的「日本迷」转变成一个能理解日本各种事情的「日本社会和文化学习者」。很多研究日本文化的学者或许也曾经这样说过吧，日本的确是个越研究越有趣，或是越研究越发现很多古怪可笑的事情的国家。

1．在京都的留学生活

2006年9月至2007年8月到了京都的立命馆大学作交换生，因而有机会亲身体验在日本的生活。同属亚洲地区所以很多相像的地方，在香港也经常有接触日本文化跟饮食的机会，留学初期也马上能适应当地生活。但对于银行办公时间只到下午3点、提款机不是24小时开放而且很多时间要另外收手续费等，还有公共汽车多只到晚上10时，生活上也有感到不便的地方。

跟香港不同的是，京都是很安静的城市。不论是上班还是上学，人们主要都是以自行车作基本的交通工具。即使是在日本国内，京都也因保留着最多日本传统文化跟文化遗产而著名。骑着自行车到各旅游景点畅游，可说是假日最好的消闲活动。

现在回想，作为留学生最大的好处，莫过于拥有很多空余时间。利用那些时间，不管是日本的国内旅行或是体验各种各样的日本文化也可以。到冲绳作小旅行，到北海道参观雪祭(雪节)等，对我来说也是十分珍贵的回忆。

2．在京都工作

我从香港中文大学日本研究系毕业后，先在ROHM的香港分公司工作了两个月。后来在偶然的机会下，到了京都一所大学的国际课工作。以前到过京都留学，住居环境都习惯，但实际上一个人到外国工作和生活并不是简单的事。不再是留学生，所有的手续也要亲力亲为。幸好，租屋方面得到日本朋友的协助，总算比预期早一点办好

租屋的事宜。但即使有朋友的协助，作为外国人，在日本生活时要处理的手续还是十分复杂，很多时候还要另外花多一点金钱才能解决问题。

留学时有过兼职打工的经验，当时已经发觉在日本的工作跟香港的很不同，现在在正式工作就更清楚看到那些不同之处。首先，同事之间的阶层关系十分明显。这些关系不单是日本工作文化的一种，还影响着员工对工作的热诚，工作分配和工作气氛。日本的雇用方法简单来说分为 4 种，长期员工，合约员工，派遣员工和兼职员工。除了长期员工之外，其他的雇用方法均是有限期，只能在指定的期间工作，有一个月的事前通知的话雇主就可以解雇这些员工。因此，有限期的雇用员工的工作是不稳定的。这些员工不会知道自己可以在同一家公司工作多久，自然对公司的忠诚没有长期员工那么强，对公司的长期经营方针也不会太关心。

相信很多人也听说过，日本公司要作一个决定需要经过很多人或会议的审议并通过。这种做法，的确可以减少错误，但不论大小事情也要经过那么多人的确认，每个决定的所有细节也要写进会议资料的话，工作效率也随之而下降。

日本人的工作方式确是有点欠缺变化和弹性，他们对工作的认真态度也跟香港人那种重视结果和效率的态度很不同，但我认为各有各的长处。在别的国家工作，能够学习到这些文化上的不同，真的是十分宝贵的经验。

3. 国际交流

由于言语能力良好，香港人在各方面都很国际化，很活跃。我还记得我在高中时参加香港中文大学日本研究学系的说明会，主讲的教授也提到了「三文四语」。拥有英国殖民地这个特殊的历史和文化背景，令香港人除了母语的广东话以外，英语和普通话基本上都可以应付。没有言语沟通上的问题，所以国际交流等活动方面也显得比较热心。

拥有以英语，日语，普通话沟通的基本能力，便可跟和来自各国的人作交流。不论是留学时，或是现在在日本工作，国际交流也占了生活上一个很重要的部分。不仅是参加国际交流的聚会，最近几个月我还开始了跟其他志同道合的朋友一起主办国际交流的活动。通过与不同的人交流，同时寻找新的目标。

在日本居住的香港人比其他国籍的人少，在关西的就更少。日本人对香港的认识大概只限于电影，点心和夜景。现在有很多日本人对中国和普通活感兴趣，但可以的活我希望可以尽一点微力增加日本人对香港和广东话的认识。

最后，我觉得作为一个居住在日本的香港人，宣传香港的文化和语言的魅力可算是一种义务吧。透过在日本生活去进一步了解日本的文化和社会固然重要，但也不能忘记香港的独特文化。今后，我希望能够不忘作为香港人的骄傲，继续我在日本的生活。

作者介绍

陈 婉欣(Chan Yuen Yan, Carrie)

2006～2007 年度到京都立命馆大学交换留学。2008 年度香港中文大学日本研究学系毕业。现为立命馆大学的合约员工，从事有关海外留学事务的工作。工作以外，正积极于主办以京都为中心的国际交流活动。

カップル

13　カップル　（林美児）

著者：林　美児
校正：伊沢裕美

これは５、６年前の事でした。

結婚披露宴で、彼はこう言いました：「私たちは言葉も文化も違う国から来ました。我々が体験した困難は普通の人の二倍でしたが、喜びも二倍です。」彼の話を聞いて、私はとても感動しました。確かに、私たちは、普通のカップルの二倍の苦労を経験してここまで来ました。喜びも通常の二倍感じていました。

母校の香港中文大学がなければ、この『カップル』、この『美談』はできなかったでしょう。

大学二年の時、私は交換留学計画を申し込みました。最後の面接まで、台湾で中国語を勉強することを希望していましたが、最終的な確定申請の直前に考えが変わりました。

東京学芸大学を第一志望として記入しました。

もし、今私にその時何故考えを変えたかを聞かれても、説明できません。
中国語を専攻していて、日本語が全くできなかったにも関わらず、日本を留学先として選びました。これは「運命」だったのだと思います。

大学三年の時に東京に来ました。最初の数ヶ月はとても落ち込みました。完全に知らない所で、聞くことも話すこともできませんでした。「林さんは中国語を勉強しているのに、日本に来たら苦労するでしょう？」その後、とても親しい友達が出来て、日本語にも少しずつ慣れてきたので、生活を楽しめるようになりました。

その時、東京でインターネットを利用するため、毎月二万円以上が必要でした。

私は大学宿舎にいた留学生たちと一緒にインターネットの回線を共用して、料金を分担することにしました。

国際電話の通話料金が高いため、皆は IDD を使いませんでした。その代わりに、SkyPe を使いました。

初めて SkyPe[91]を使って、香港中文大学のクラスメイトと繋いだ直後、知らない人から一通のメールが届きました。

その人は「香港人」とメール友になりたいと言いました。

「私は香港人ですが、しばらく香港にいませんよ。」との返事をしました。

「私は東京にいます。」私は言いました。

「私も東京にいます。日本人です。」彼は言いました。
彼はずっと中国語を使っていたので、私は奇妙だと思いました。話はそこから始まりました。

彼の経歴は私と似ていて、交換留学生でした。ただ、国籍と場所が入れ替わっただけです。

彼は香港にいた時、私の近所に住んでいました。私は日本にいた時、彼の近所に住んでいました。彼は中国語を勉強していて、私は日本語を勉強していました。

彼はずっと私のメール友になってくれて、日本語も教えてくれました。ある日、私は落ち込んでいて「死ぬほど悲しい。(原文は中国語)」とのメッセージを打ちました。

---

[91] SkyPe：インターネットを通して電話やチャットを通信する手段である。

私は返事していませんでした。電話が鳴りました。聞きなれない声は、こう言いました：「とにかく自殺しないでください。」
私の方がびっくりしました。「誰が死にたいの？」
「君は『悲しくて死にたい』[92]と言ったじゃないか。」彼は言いました。私は大笑いしました。

嫌な気持ちもすっきり消えてしまいました。彼の勘違いは可笑しすぎましたから。

私が精神異常になったと思い込んだ彼は、「絶対死なないで！日本語が初心者レベルなので、生活を楽しめないだけでしょう。」、「言葉が上手くないのが問題じゃありません。」、「気晴らしをするため、いい場所、うまい店を紹介してあげるから。美味しい物とか。。。。」と言い続けていました。

結局、私は彼との約束に応じました。金曜日に国分寺にあるスターバックス(Starbuck)で会いました。

今考えてみると、あまり知らない場所で知らない人に会いに行ったのは、あまりにも大胆すぎたと思います。「一人で外国に留学する人は、そもそも、大胆な人ばかりでは。」私はこう思いました。
お互いの第一印象はあまりよくありませんでした。彼はキャップ[93]を被って、本を読みながら私を待っていました。顔ははっきり見えなかったが、仕草は、まるで女性をストーカーする痴漢のように見えました。

後ほど、彼はこう言いました。私の化粧はまずかったし、（約束の時間も守らなかった）遅刻もしました。彼は中国語をだいぶ忘れてしまい、私の日本語はまだ初級レベルで、スターバックスのペーパータオルにメモを書きながら会話しました。
お互いの印象は悪かったが、次から次へ金曜日に会いました。
最初は、金曜日だけ会う約束をしましたが、段々、時間が空いていれば、毎週の金、土、日も会うようになりました。

---

92 林さんの彼氏は、林さんが書いた中国語の本来の意味を十分理解できなかったから。実際の中国語の意味は、「とても悲しい」「大変悲しい」の意味に近い。
93 アメリカンキャップの一種。

結局、彼の中国語は段々上手になった一方、私の日本語はあまり進歩しませんでした。会うたびに、ほとんどの時間は、北京語で会話をしました。
多分、このコミュニケーションのパターンは、「日中カップル」の中では、珍しいケース（少数派の事）だと思います。

秋学期が終わった後、春学期までに二ヶ月あったので、リュックサックで列車の旅に出ました。東京から鹿児島まで「青春１８切符」を使って行きました。

その名前通り青春がたっぷりでした。20 キロの荷物を持って、１８時間もの各駅列車を乗るのは、おそらく、貧乏な学生さんしか耐えられないと思いました。
クラスメイトと一緒に日本中部地方、西日本、九州、博多、広島、熊本を経由して鹿児島にあるホームステイ先に着きました。

ホームステイ先はお茶を栽培している農家でした。私も時々田んぼで手伝いをしていました。　静かな時間が数週間過ぎた頃、ある日、私宛の一通の郵便小包みが届きました。　中には、『中国語を話せる日本人から』のメッセージ、ケーキと熊さんの人形が入っていました。

「彼は君が好きだと思うよ。(笑い)」とホームステイ先のお母さんは言いました。

「どうして?」と私は聞きました。

「だって、今日はホワイト・デーだもの！」と彼女は言いました。

帰り道に、私は皺くちゃの「青春１８切符」を持って、福岡・大阪・京都・奈良を経由して東京に戻りました。
この旅の間はほとんど眠れませんでした。

確かに、日本人と交際している状態と感じました。彼に、好感もあったし、「好き」とは言えるでしょう。

もし、真剣に交際を始めたら、半年後に日本を離れる時、長距離恋愛は難しいと思っていたし、結論を出すことはもっと難しいでしょう。

「結論がでないと分っているのに、交際を始めないほうが良いのではないでしょうか？」と思いました。

結局、二ヶ月の旅が終わったら、痩せました。荷物は重くて、気持ちはもっと重くなりました。

ただ一緒にコーヒーを飲みたかっただけで、相手を好きになったとか、相手に愛されているとは思いませんでした。

東京に戻ったら、私たちは会いました。その時の会話内容を忘れました。どこで会ったかさえ忘れました。しかし、彼と再会した時、彼の姿を見た私が確かに感じたのは「私は彼とデートをしている事は間違いないでしょう」ということです。

正式に交際を始めてから半年後、私は香港へ一時帰国しました。彼は銀行に就職しました。

私は卒論を書くため、とても忙しく、彼は新入社員なので、とても忙しかった。立命館大学への奨学金の申請は失敗しましたが、偶然に申し込んだイギリスへ留学する奨学金が許可されました。彼は忙しすぎて、別れのあいさつさえしてくれませんでした。私は彼と別れる事を決意して、イギリスの修士課程へ進学しました。

イギリスでの大学院留学生活は多彩でした。授業とアルバイト以外の時間は、友人とコーヒーを飲んだり、しゃべったりしていました。

二月のある日、彼は突然やってきました。その時、私はちょうど香港人の男性と長距離交際している最中でした。

彼は２０万円を使って、１９時間の飛行機を乗って、たった一日しか滞在してくれなくて、又１９時間の飛行機を乗って東京に帰っていきました。

「もう一日いてくれない？旧友と会うために。」私は彼にお願いしました。

「いいえ。仕事に戻らないと。」彼は言いました。

当時何を考えていたのかははっきり覚えていませんが、躊躇した事は間違いありませんでした。「もし、私より仕事が重要であれば、どうして来たのでしょうか？」と心の中で疑いました。

結局、私は復縁の要求を固く断りました。

イギリスでのアルバイトで貯めたお金をヨーロッパでの旅行に使いました。

リュックサックでヨーロッパ数カ国を旅行しました。国ごとに一枚のポストカードを彼に送りましたが、返事は来ていませんでした。９月卒業した時、友達と一緒に東京に立ち寄りましたので、彼を訪ねました。

観光スポットを案内してもらって、居酒屋に行きました。彼はかなり酔っ払ったので、私は彼を家まで見送りました。

新居に女性用のスリッパを発見し、お皿を洗った時にスポンジに書かれている新しい彼女からの伝言と思われる落書きを見てしまいました。

少し片付けてあげてから家に帰りました。結局、翌日彼に、縁結びのお守りを送って、彼らの幸せを祈りました。

香港に帰った後、私は一生懸命に仕事をしました。忙しかったせいで、その日本人のことをすっかり忘れてしまいました。

「彼にとって私はもう用がないでしょう。」その時はこう思いました。

ある日、彼は突然香港にやってきました。
「今は仕事があるので、付き合う時間がないの。」私は言いました。
「構いません。時間があれば」と彼は言いました。

その時、彼が以前香港にいた時の友達は、日本に帰国したり、仕事が忙しくて、彼と付き合うことができない人ばかりでした。

私は「旧友関係」を思い、彼と一緒に「お土産」を買ったり、ショッピングまで付き合ってあげました。

香港人にとっては不思議な物ばかりを買っていました。台湾ドラマ、韓流ドラマ、コンサートのＤＶＤとか、女人街[94]の「免税品」[95]とか。

時々、彼は「私は一人だよ。」と暗示してくれましたが、私はずっと黙っていました。彼は香港を離れる前に、私に一枚のカードをくれました。

カードの中に僅か数行の中国語しか書いてありませんでした。２０文字にもなりませんでした。それを見て、「彼との付き合いは、いつ終わるの？」と考えてしまいました。

私が喋った日本語を分かる日本人は一人もいませんが、彼は聞き取れた。

彼が書いた中国語を分かる中国人は一人もいませんが、私は読めた。

私たちは相手を見て笑ってしまいました。お互いに分かってくれるのは、私たち二人だけと思ったから。「私たちは、いまだに何を待っているか？」、「もう、相手を見つけたではないか？」と思いました。

この再会の二ヶ月後、私たちは結婚しました。

当初、父はこの婚約に対して躊躇していました。「(旧日本軍は) 敵だったのに！」

---

[94] 香港の名物ストリート、「女人街(ノイヤンガイ) ... この「女人街」、もともとは、女性ものの商品だけを扱っていたことからこの名前がついたそうですが、毎日午後 2 時頃から夜 11 時頃までにぎわうマーケットとして、多くの観光客を集めています。

[95] 個人ルートで輸入した外国で販売している商品。違法ではないが、取扱説明書は外国語のままになっていたり、保守契約に保障されない可能性がある商品である。

母も複雑な心境でした。娘が海外に嫁ぐことになって、会える機会が減ることを心配していたのです。

最後に、両親は私たちの決心を受け入れてくれました。

そして、結婚披露宴の『喜びが二倍』のスピーチ[96]ができたわけです。

これは、中国と日本の国際カップルのストーリでした。香港中文大学にお礼をいいたいです。香港中文大学の御蔭で、私たちの『縁』が出来たわけですから。

後書き

最初は、「日中文化の比較」や「中国語と日本語の違い」と似たテーマで文章を書きたかったです。しかし、先輩たちが専門家ですので、『小論文』を書く勇気がありませんでした。

その代わりに、自分の経歴を書いて、母校の香港中文大学に感謝の意を表すと同時に、中国本土の小学校建設及び農村教育のために協力を呼びかけたいと思っています。

著者紹介：
林美児(May Lam)
１９８３年　香港生まれ。
２００２年　香港中文大学新亜書院中文学科入学。
２００４年　東京学芸大学に交換留学生として来日、２００５年８月香港に帰国。
２００６年　香港中文大学卒業。卒業後、奨学金を受けてイギリスのサセックス大学の言語学修士課程へ進学。その後の２００７年９月に、香港に戻って教諭を勤める。

96 そもそも香港では、「結婚披露宴」でスピーチする習慣はありません。スピーチがあったのは、新郎が日本人であるからです。

２００８年　結婚のため、一旦離職して東京で、長男を出産。その後、慶応義塾で日本語を学習。
２０１０年２月、香港に戻り、教諭に復職。現在、家族三人で香港に定住し、楽しい日々を過ごしている。

著者紹介の中国語版：
林美儿
1983年生于香港，2006年香港中文大学新亚书院中文系毕业。2004年10月交流到东京学艺大学，2005年8月返港。毕业后获奖学金到英国University of Sussex修读语言学硕士。2007年9月回港，投入教育行列。2008年结婚，辞职后到东京定居及产子。儿子出世后继续学业，于庆应义塾修读日文。2010年2月回港，继续当教师。一家三口现居香港，乐也融融。

家族三人でパーティに出席。（２００８年東京）

家族三人でお宮参り。（２００８年東京）

日本見聞

14　日本見聞　（趙亜寧）

趙亜寧

光陰矢の如し。来日して、あっという間に一年が過ぎました。

まだあまり多くのところに行っていませんが、東京都内だけを見ても、考えさせられたことが多くあります。カルチャーショックについていろいろな考えが浮かんできますが、整理する時間が取れないので、その中の三点だけ振り返りたいと思います。

その一：電車（地下鉄）

東京に来たとき、はじめに驚いたのは、電車でした。

四角い北京の地下鉄路線に慣れた私は、最初、交差した地下鉄の路線図に混乱を感じていました。指示をちゃんと理解できなくて、いろいろトラブルに遭いました。

しかし、詳しく観察した後次第に慣れてきて、路線図はかなり合理的に設計され、便利だと感じました。東京の電車施設は、日本の国民が信奉している「健康」の理念と同じように、スリムで洗練されていて、余計なものはなく、簡易に見えるが、実用性が高いと思います。バブル経済の時代の痕跡が多少残っていると感じますが、ただその『ものづくり』の理念[97]の方面については、シンプルでやさしく、丈夫かつ使いこなせる特徴をずっと維持していると思います。2011 年は、東京の「都営地下鉄 100 周年記念」イベントで、都営地下鉄は “市民の足”（市民の 100 年の足）と称しています。この表現は本当に適切だと思います。この百年以来の電車の変遷を見ると、日本社会の変化の激しさも実感しました。つまり、電車の変化は、日本社会の変化の縮図のひとつではないかと思いました。

[97] 「 匠（たくみ）の技」と「ものづくりの理念」の継承

図１：北京地下鉄の路線図。故宮を囲む四角いルートが特徴。市民生活に馴染んでいる。

图片 1：北京地铁图。特徴是围着故宫的四方格线路。北京市民都看习惯了。

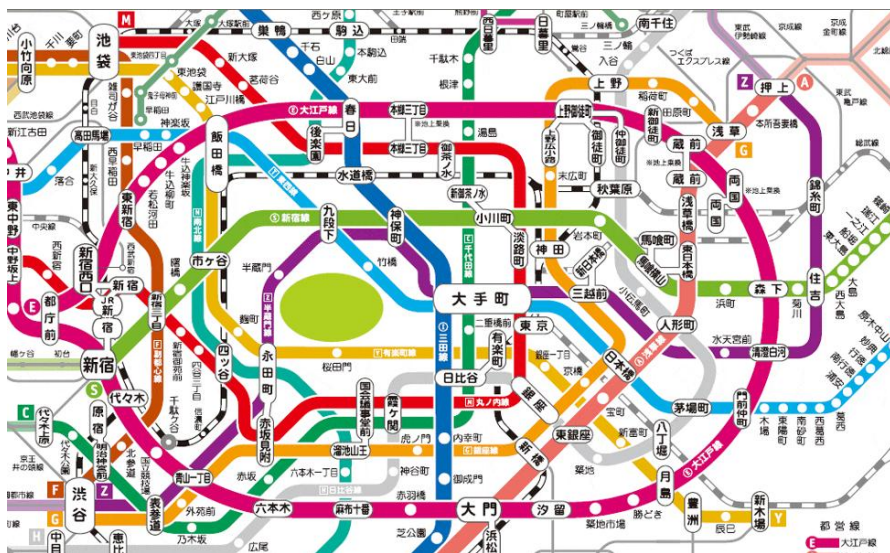



図２：東京の電車の路線図

图片 2：东京的电车线路网

電車だけではなく、一般的な施設もこういう理念を貫いていると思います。日本の工業が世界の潮流をリードできるのは、このしっかりとしたノウハウの積重ねとシンプルなやり方に繋がっているのではないかと思います。

その二：本屋

神田神保町古書店街は世界最大級の書店街であると聞きました。10月にちょうど神田の古本まつり[98]があって、私は幸いにも行くことができました。神保町駅を出たとたん、大きな本屋や小さい本屋が並んでいて迷ってしまいました。外見は大したことがない店や、かなり古い店もありますが、インターネットでその歴史を調べると、意外にも百年を超えている本屋が多々あるようです。

店内に漂う濃厚な「書香」[99]を感じました。本の多様性と深さに驚きました。東洋文明と西洋文明が交わり、照らしあっているのです。中国語の古代典籍はあちこちに見えますし、中国国内で探しにくくなった本が、ここで平然と店頭に並んでいるとは思わなかったです。店主がまじめに本を一冊一冊整理・装丁してあるのを見て、「文化」に対する真面目さを実感しました。

百年前から、日本に留学で来た多くの中国人青年の中には、本を読むために、この古書店街まで足を運んできたことがあるでしょう。多分これらの本屋で、彼らの思想が啓蒙されて、中国が世界との距離をもっと縮めることが出来たと思います。このように百年前から続く文化の逆流[100]と各種の思想は、今日まで私達中国人の生活と考えに深遠な影響を与えているのでしょう。　昔の中国は、『東西文化のコンバータ（転換所）』と言われました。しかし、最近では、日本は中国よりも文化的なコンバータのような存在になっていると思います。現在の中国は、日本のようなコンバータを通して、西洋の文化・思想を取り込んでいると言っても可笑しくないと思っていま

98　毎年秋に、古書市神田古本まつりが行われている。 総数約200軒。このうち約110軒が 古書店で都内の古書の約三分の一がこの地域に集約している。 また、古書店から漂う 独特のかおりが2001年には環境省選定のかおり風景100選にも選ばれている。

99　「読書」のに居心地が環境・雰囲気。

100　文化（漢字の単語、熟語を含む）が中国への逆輸入のこと。

す。この転換の過程を完成させるのに、多くのノウハウの蓄積と積極的な創造力が必要だと思います。

　このような重々しい質感はここで代々人の蓄積と伝承を通じて、依然として続いています。この情景に対して、私は感無量でした。　百年間が瞬く間に過ぎて、世の中はどれだけ激しく変わっても、こちらの目立たない本屋が黙々と世間の変遷を見守っているのだと感じました。

その三：無印良品

無印とは、無地良品のことであり、中国にいる時すでに耳にしたことがありました。無印は単純にブランドではなく、「大道は簡に至り」という生活の哲学だとわたしは思いました。

無印は、余計なパッケージ、ラベルを省略して、品物の本来の姿を取り戻し、必要な機能だけを残す工夫をしています。使いやすく、スリムでシンプルなパッケージに仕上げてあります。

潜在意識の中で、原材料に対するこだわりを持ち、人々に体感させ、物を本来の姿に戻すことで、ユーザーを外見のこだわりから解放し、それによって我に返るような心境に辿ることができます。これは禅宗が求めていた真の自己の境界と一致し、淡白で優雅な日本の伝統文化と自然との相性ではないかと思っています。ブランドの差別化を最大限で実現した「無印」は、印がないだけではなくて、中国の諺の

「真に大きな音は耳に聞き取れず、
　真に大きな『象(すがた)』には形がない」

のようです。このような工夫を凝らしていながら控えめなのは、一種の音声がない宣伝で、その結果その商品の種類は尽きることなく発展できました。一つの生活用品ブランドで商品の種類が五、六千品種にも達していることをあまり聞いたことがないので、感服しました。

純粋な品質、耐用性（長持ち）、私と同じように生活の質を求める人々は、完璧への追求に夢中になったのでしょう。「完璧」への拘りは、日本の「国の本質」の一つの表現であると思っています。

上記三点が、私が日本に来て感じたことです。

東京都板橋　2012年2月27日

著者紹介

趙亜寧
1985年3月生まれ。
2011年3月来日（3.11直後の二週間目）。
中国人民大学卒、今はFsolに就職しています。歴史、古典文化が趣味です。

日本小感

赵亚宁

时光如矢，转眼来日已近一年。

虽尚未去过太多地方，但仅在东京所见种种，已然让我感慨颇多。种种思绪，时常萦绕在脑海中。但却无暇整理，今择其二三短叙之。

初到东京，首先是电车。

纵横交错的电车线路网，让看惯了北京地铁那简简单单四方格线路的我感到茫然无措，初来时搞不懂线路，又不注意看指示牌而遇到各种麻烦。但细心观察后很快就适应了，进而觉得如此人性化如此便利。东京的电车设施，如其国民所崇尚的健康理念一样，瘦而精，无冗余，简易却实用。尽管也有很多泡沫经济时代的痕迹，但只就其造物理念方面，却始终秉持着朴实温和，耐用且可尽用的特征。2011 年正是东京地铁运营第一百周年，地铁公司自喻“市民之足”（市民の足 100 年），实在是很贴切。看这百年来电车的不断变迁，也是日本社会变化的一个缩影。不仅电车，纵览其他公共设施方面，也无不包含了这种理念。日本工业能傲视全球，我认为其根基是这种扎实的积淀和朴实的作风。

二是书店。

据说神保町的神田书店街是世界上最大的书店街。十月恰逢神田古书祭，我也有幸去游历了一遍。出了神保町车站便迷醉于大大小小鳞次栉比的各种书店。每个古书店，其貌不扬，甚至一些书店的装修显得有些粗陋，但察其历史，竟已过百年。那店内浓厚的书香，沁透心脾，各种书籍，其多样性和深度让人瞠目。东西交汇，相映成辉。中文典籍，随处可见，甚至国内都已难觅踪迹的古籍，居然在这里可以找到。店主人一丝不苟，认真装订整理，神情超然肃穆。

一百年前，有众多中国青年来这里留学，想来当初他们中的一部分也许就在这里驻足品读过吧。也许就是这些书店，启迪着他们进一步认识到了中国和世界的距离，所以

才有百年前的文化回流和各种思潮的兴起，直到今天依然深远的影响着我们中国人的生活与思维。如果说日本是中国古代文化的承受者，那么近代日本之于中国更像是一个转换器，中国通过这个转换器，将西方的思想吸收进来。而这转化的过程，却需要多少深厚的积淀和积极的创造才能完成。如今这种厚重的质感在这里通过一代代人的积累和传承，依然在延续着。此情此景，感慨无限，百年倏忽而过，世间亦几多变幻，而唯有这些低调的书屋默默的审视着浮世的变迁。

三说无印。

无印者，无印良品也。在国内时已有所知。在我看来，无印已然不是品牌，而是一种生活哲学：大道至简。没有商标，没有冗余，剔除了一切不必要的加工和颜色，单纯到只剩下材质和功能。总会在潜意识里提醒着人们去体味原始素材的美感，还物品以本来面目，让使用者从外在束缚中解放出来，从而达到一种更接近于内心自我的天然状态。这也恰是禅悟所追求的真我境界，与清淡雅致的日本传统文化也是一个天然的契合。无印实现了最大程度的品牌差异化，所谓大象无形，大音希声。这种刻意低调就是一种无声的宣传，其结果是其物品种类的无穷延伸，因为很少能听到一个生活用品品牌的商品种类能够达到五六千种。纯净的质感再加上耐用，让和我一样追求生活质量的人们完全为之着迷。我想，这也是日本这个国家的质感的一个表现吧。

以上三点，是我的一些思考。

2012/2/27 于东京板桥

作者介绍

赵亚宁，1985/3 月生。
2011/3 来日本（3.11 后第二个星期）。
毕业于中国人民大学。就职于 Fsol。
喜欢历史，古典文化。

電車事件簿

その一：　一瞬のすき

その二：　確信犯

15　電車事件簿

著者：華通会メンバーA

翻訳：日高由美

校正：山田茂

事件簿その一：　一瞬のすき

発生場所　　：　JR の駅

初めて日本で痴漢事件に遭遇したのは去年（２００３年）の夏で川崎から立川行きの南武線の電車の中でした。

登戸駅のホームで２０才くらいのライトブルーの服装をしている若い女の子が身長１８５センチぐらいのスーツを着ている男性の手をつかんでいました。厳しい口調で言った、「ついて来て、ついて来て」と。声は大きかったがそのときは帰宅の時間で駅は混雑していて周りの人はまったく気にしなかった。私はこれはきっと事情があると思った。一定の距離を保ちながら観察することにした。若い女性はやっとその男性を駅員の前まで連れて行った。私は「これはきっと痴漢だ」と思った。これからのことは駅員さんが処理するはずなのでこれで安心してその場から離れられると思った。改札口を出たあと、やはり気になって見てみると、駅員さんは他の二名の乗客のことで忙しく、この女性のことに気づいてなかった。私は思わず進行方向を変えて、近づいてなんか手伝うことないかと思った。このとき、女性は改札口の内側に立っていて、男性は改札口側に立っていた。私は彼らから２メートルくらい離れたところにいた。この配置があとで失敗の原因になったのだ。この時、駅員はまだ女性の問題に取り組む時間は無かった。しばらく待ったせいか、駅員の目の前にいて安心したせいか、女性は待っている間に男性から手を離した。この時、男性は突然まわりを見渡したあと、まるでロボットのように頭を３６０度回転したように見えた[101]。　足早やに駅の外へ逃げてしまった。あまりにも突然すぎて、女性は反応することができず、ぼっとして立っていた。私も夢から覚めたばかりのようで、すぐ追いかけた。

---

[101] 原文の中国語には、「フランケンシュタイン（Frankenstein 科学怪人）のように、頭は３６０度を回転したように見えた」でしたが、分りやすいため、ここにロボットのように頭を回すと書き直しました。

残念ながら２５メートル走ったところで、犯人はすでに人ごみの中に消えた。犯人の逃亡を阻止できなかったし、捕まえなかったことで、彼女に会う面目がないと私は思った。駅員を見てみると、今頃になってこの事件を処理する時間ができたようだった。しかし表情からみるとこの案件に積極的な態度ではなく、ただ女性を慰めているように見えた。

何人かの同僚はこのような事には関わらないほうがいいとアドバイスをくれた。相手は１８５センチ以上もあって、私より１０センチ以上も高かったから。もう一人の同級生は、もし私がその犯人の逃亡を阻止できても、怪我したかもしれないと私に警告した。このことを目上の方と相談しても、私の行為は軽率だと責められた。私は本当に余計なことをしたのでしょうか。

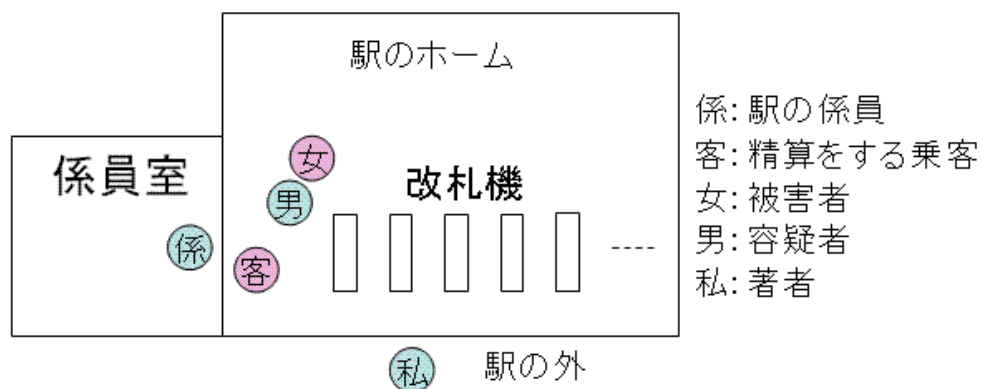



図１：乗客が精算をする時、被害者は容疑者の手をしっかり掴んだ

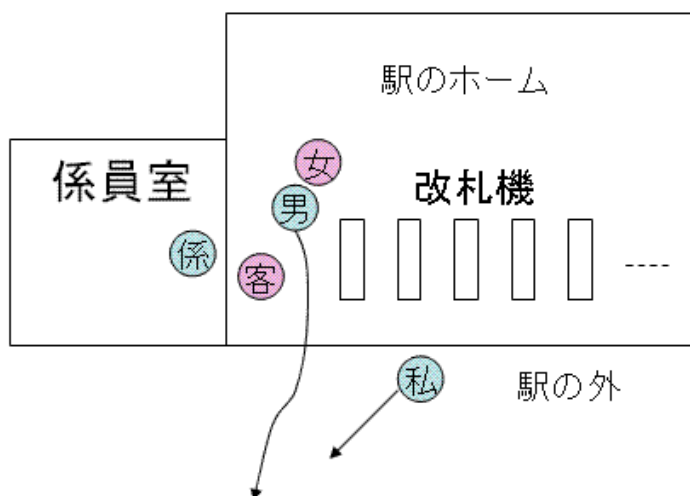



図２：被害者が容疑者の手を離した瞬間

事件簿その二：　確信犯
発生場所　　：　JR の電車内
発生時刻　　：　２００４年7月９日　夜１１時４３分
原稿作成日　：　２００４年7月
翻訳日　　　：　２０１０年９月

あの少女を困らせたのは何？

一年前にJR南武線でホワイト・カラーの痴漢に逃げられたが、今回も仕方なく犯人を逃してしまった。

事件は因縁があったJR南武線でまた起こってしまった。２００４年６－７月の間の出来事でした。その日は、仕事が特に忙しくて夜１１時半まで残業して立川方面の電車で帰宅した。

車内は非常に混雑していて、私は身動きがまったく取れない状態だった。あまりにも遅くまで働いて疲れを感じたので目を閉じて仮眠をとっていた。駅をいくつか過ぎていた。

本来ならスペースができるはずなのに、なんとなく後ろから押された感じがした。電車を降りる人なのかと思った。車内には人がまだ多くいて、押した人の顔を確認することができなかった。その後、左へ押されてから、やっと２０歳くらいの少女だと確認できた。車内は込んでいるが、ここまで押されることは無いと心の中で思った。

電車が宿河原駅に着くと、降りる人が更に多かった。そこで、彼女の後ろに一人の青年が立っているのが見えた。背が175センチくらいで、紺色の服を着ていて、髪がすこしふさふさしていた。アルバイトしている浪人かフリーターのようだ。その男は彼女の近くにいて、ますます接近していた。よく見ると、暗い色の上着を手に巻いていて、ちらちら周りをみていて緊張ぎみだった。更にこの男は少女のお尻の近くで両手に上着を3、４回巻いていた。

この行為には二つの可能性がある：（１）その男は上着を巻くとき不本意に彼女に触った。（２）その男は混雑している車内で、少女が逃げられないことが分って、痴

漢行為をしていた。

去年の夏は身長185センチの痴漢に逃げられたが、今度こそこの痴漢を逃したくない。

しかし、被害者は沈黙していて、変に騒いだら痴漢に逃げられるのではないかと心配した。

もうすぐ登戸駅に着く、そして多くの人が降りる。もう一度見てみると、この痴漢はまだ人が多くいることで左手を広げて彼女のお尻を触っている。こんなに分かり易い痴漢行為は周りの人にもすぐ気付いたと思う。しかし、誰も阻止しようとしない。こんなに公然とした痴漢行為はもう見ていられない。すぐにもこの痴漢を捕まえようとしたが、被害者のことを思って、先にこの少女に聞くことにした。「大丈夫ですか？何かありました？」。困っていた少女はやっと話してくれた。「痴漢にあってしまったけど、もう大丈夫。」

すぐ痴漢を探したが、もうすっかり姿を消していた。（彼女のお尻を触り、彼女を困らせていた。この男が上着を使って両手で彼女のお尻を触るなんて、彼女のためにも法律で彼を罰することしかないと一種の責任感で気持ちが高ぶったが、被害者は我慢することを選んだことで、この痴漢を逃した。）

日本の電車や地下鉄で女性乗客が頻繁に痴漢に遭うことは誰もが知っていることだ。日本の女性が電車の中でお尻を触られることはよくあり、痴漢を責める人とその場から逃げる人は多少いるが、それ以外の大体の人は我慢することを選んでいる。

ニュースの報道で、ある女性乗客が痴漢容疑者に胸を触られて（平手打ち）ビンタしたと放送した。日本女性団体も女性専用車両の設置で痴漢を阻止することを提唱している。最も有効な退治方法は、すぐに通報する事です。

著者紹介：

メンバーＡ（匿名希望）

　華通会メンバーＡさんは、退社時に電車で二度『不愉快』な事件に遭いました。被害者を助けられなかった事をずっと残念に思い、文章で遺憾の意を述べてくれました。

地铁事件两则

会员 A

在日本遇上「非礼」事件：一瞬间[102]

第一次在日本遇上『非礼』事件是在去年(2003)夏天从川崎至立川方向的南武线上。

登户站台上，一位２０岁左右、穿着淡蓝色衣服的女孩子，一只手拽着一名身高 1 米 85 以上的穿西装的高大男子。女孩子严厉得叫着说：「跟我来！跟我来！」。声音挺大的。可是当时是下班时间，车站很挤，旁边的人根本没注意到他们。我心想：「肯定有事」，所以决定保持一定距离『静观其变』。女孩子终于把高大男子带到了站务员面前。我心想：「肯定是『非礼』事件吧」。我觉得可以放心了，因为以后的事有站务员处理，我可以安心离开了。我出了车站，但是还是好奇看了一下，发现站务员正在忙于为两个乘客办理事情，没有顾及到那个女孩子。我不由自主改变了前进的方向，一步一步走近，想看看有没有可以帮忙的。这个时候，女孩子站在站内，那个男子站在站外，而我站在离他们 2 米左右的地方。可是这个排列却成为失败的一大原因。这时，站务员还没有时间理会那个女孩子。可能是因为等得太久了，也可能是因为站务员在眼前女孩子觉得可以放心了，我发现她已经把男子的手放开了。

就在此时，那个男子突然向四周看了一下，头部好像科学怪人(FRANKENSTEIN)般转了 360 度，然后一个箭步向前往站外飞奔。因为来得突然，女孩子根本没能及时反应过来，面无表情得站着。我也如梦初醒，立即追过去。可惜跑了 25 米，发现罪犯已经消失在人海中。因为没能阻止犯人逃跑，也没能抓到他，我觉得无颜面对那个女孩子。再看一下，站务员现在有时间处理这个「案件」了。不过站长的表情告诉我他不是很积极，只是安慰了她一下。

几位同事都劝我不要管这些闲事。因为对方身高 1 米 85 以上，比我高出 10 多厘米。

---

102 原文のタイトル：（原题）above instances happened in SUMMER 2003, MOLESTER WEST OF TOKYO より。

另一位老同学还警告我说，如果我真的阻止犯人逃跑，很可能会受伤。我曾经将此事与长辈商讨，更被责为行为鲁莽。我是否真的好管闲事？

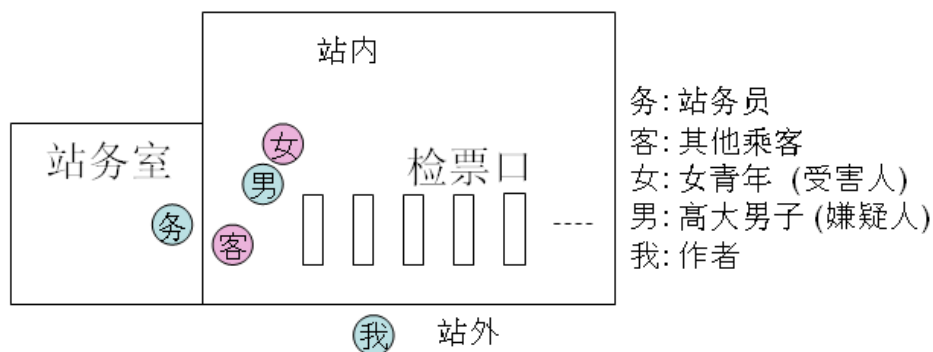



図 1：其他乘客在补票的时候，女青年紧抓高大男子的手

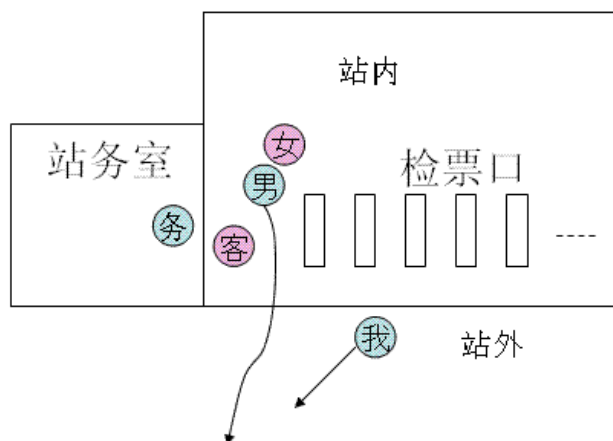



図 2：女青年把高大男子的手放开的一瞬间

是谁令那姑娘尴尬？[103]（2004年7月9日 晚上11:43）[104]

一年前我没能抓到那个白领色狼，而这次也无奈地让犯人跑掉了。

尴尬又令人不安的事同样发生在此南武线，那是2004年6，7月间的事情，因为业务繁多我加班加到晚上１１点半，坐上了从川崎至立川方向的电车。

车厢十分拥挤，我被夹在中间完全动弹不得。这天特别晚，我已经感到很累，所以就闭上眼睛休息（打盹）。经过几个车站，本来很多人下车了，应该有点空间，但我觉得有人从后面挤过来。开始时我以为是要下车的乘客，当时列车上仍有许多人，我也没法看到是谁。后来我被挤到左边去，才发现是一位不满２０岁的少女。心想列车内虽然拥挤，但也没有必要这样挤过来啊。

当列车驶入宿河原火车站时，下车的人更多了，这时我发现她背后站着一个身高１米７５左右、中等身材、身穿灰蓝色衣服、头发蓬松、一眼看上去像是打零工的闲散人员或是无业游民的２０多岁青年。这个人在车上故意靠近她，且不断逼近。我再仔细看，发现他将一件深色的外套卷在手中，眼睛左顾右盼，似乎有点紧张。又发现他两手紧紧贴在少女背后靠近臀部的位置将外套卷来卷去重复了３， ４次。

这种行为只有两个可能性：

(1) 这名男子真的是在摆弄外套，而无意中碰到她的臀部。

(2) 色狼在非礼少女。她明显是因车厢拥挤而动弹不得，平白被非礼而无法躲避。

因为去年夏天不小心让一个身高1米85以上的色狼跑了，这次我不想放过这无耻小子，但是女当事人沉默不语。贸然行动岂不是打草惊蛇。

不一会到了登户车站，很多人要下车。睁眼一看，色狼还趁人多的时候用左手五指张开地摸她的臀部。这次我很明显地看到这恶劣行径，我相信当时也有别的人看到，可是他们根本不理会。如此明目张胆，我看不过眼了，本想马上捉住那色狼，但是为了稳妥起见，我先问了一下女当事人：「你没事吧？是否发生了什么事？」尴尬的女当事人

[103] 原题：WHO make the girl Embrassing？

[104] 11:43PM, 2004-07-09.

这才开口说：「我遇到了色狼。但现在已经没事了。」

我再看一下犯人在哪里，但他已经消失得无影无踪。那个打工仔色狼竟利用外套掩饰而用两手非礼她的臀部，使她羞辱难当。责任感叫我欲通过法律为她讨回公道，可是受害人默不作声，结果白白让色狼跑掉了。

色狼充斥日本火车及地铁非礼女乘客早已臭名远播，日本女性坐火车被摸屁股被辱常有发生，　除了有些人斥责对方或是逃避，很多人都会隐忍。新闻中报导某妇女感到胸部遭受抚摸，掌掴对方。日本的妇女团体还提倡设置女性专用车厢防狼。但最重要的是受害人要及时揭发。

作者介绍：

华通会的会员A，希望以匿名身分呼吁大家帮助中国农村教育。

会员 A。他下班乘地铁途中，两次遇见「不愉快」事件。由于未能为受害者提供任何帮助，一直耿耿于怀，因此希望透过文章吐露一下遗憾的心情。

『花を愛でる胡蝶』

福岡市の植物園　（2011 年 2 月）

『蝶恋花』

福岡市的植物园（2011 年 2 月）

キャンパス篇

心の中の清泉：あなたのお蔭で

16　心の中の清泉：あなたのお蔭で　(劉璐)

前書き

中文大学のキャンパスの生活を思いながら、窓の外を見ると、知らないうちに東京はもう夜になってしまいました。

中文大学を離れて、東京にいる日々は、長い人生のごく一部だと思います。

もし例えるなら、故郷は私を生んで、育ててくれた、私の根であり、私の魂のような存在です。夢の中まで出てきます。しかし、香港中文大学は、私の心に流れ込む一本の清泉のように、私に精神的なエネルギーをくれたので、私は忘れることがありません。

2009 年 3 月、私は五年以上も在学し、生活していた香港中文大学（以下は中文大学という）を離れ、東京に来ました。その時に、中文大学を離れたくないと強く思い、また新生活への憧れの中でも、この思いは更に深まりました。東京に来てから、ちょうど一ヶ月ぐらい経った時、面白い事がありました。クラスメート[105]の Lawrence さんより一通の思いもよらない電子メールをもらいました。それから、日本にいる中文大学の先輩たちと連絡ができました。先輩の Cheung さんより、中国本土での農村教育のために、慈善文集を企画している事を知りました。私も著者として推薦されました。考えてみると、日本に滞在する期間が短すぎて、東京での体験はあまり文章として書けないと思いましたが、この機会に、中文大学への思いを表せないかと考えました。

中文大学の事を思い出すと、「千言万語」[106]の言葉でも表せないと思います。中文大学の事を話すと、自慢や喜びを隠せません。しかし、ここで書けるのは、ほんの片言しかありません。

105　クラスメート：同級生、又は同窓のこと。
106　たくさんの言葉、語り尽くせない言葉を意味している。中国語は「千言万语」。

私の心の中では、中文大学は自然に恵まれたキャンパスの中に、整備された施設があり、尊敬すべき人がいます。

面積が狭い香港で、土地が高いにも関わらず、中文大学のキャンパスの綺麗さは贅沢と言われるほど、「唯一無二」と言っても過言ではありません。キャンパスは市街からかなり離れていて、山と海の風景を両方楽しみながら、楽しく勉強することが出来ます。絶妙な設計で、中文大学と大自然は一体化することができました。大学の建築物は地形に合わせて建てられ、その中にシャトルバスを走らせ、先生と学生を乗せて学部と学部の間を移動してくれました。キャンパスの中を散歩すると、樹木の綺麗さや渓谷から聞こえる水の音と野鳥の鳴き声には「感嘆（感服）」[107]と喜びを感じとることができました。

あの山、あの木、あの河、全てはキャンパスの一部であり、どれもかかせない存在です。この組合せは、天然であり、神技で創られたように見えました。

その山水画のようなキャンパスは、まさに「桃源郷」であると思っています。
中国本土の学者サークルが作った電子掲示板(BBS)[108]で名前を「人間仙境」にしていることから、少し分ってくれるでしょう。

考えてみると、どのような景色と雰囲気が、そのような愛称に似合うでしょうか？

唐朝の詩人王維の「鳥鳴澗」[109]の漢詩を思い出しました：

人閑にして桂花落ち
夜静かにして春山空し
月出でて山鳥を驚かし
時に春澗の中に鳴く

（題名：　王維詩　「皇甫嶽雲渓雑題」鳥鳴澗）

---

107 原文には感嘆。感動、脱帽する意味。

108 BBS（Bulletin Board System）: 電子掲示板のこと。コンピュータネットワークを使用した環境で、記事を書き込んだり、閲覧したり、コメント（レス）を付けられるようにした仕組みのことである。

109 原文 :『人閑桂花落. 夜靜春山空. 月出驚山鳥. 時鳴春澗中』

そのような環境で勉強するのは楽しい事でした。

キャンパスには風景が綺麗なところが多い。私が最も好きなのは、新亜書院にある「合一亭」です。学生たちが来ても構わないのです。

心の中の「合一亭」を述べてみたいと思います。「合一亭」の建築の自然環境との統合には脱帽すべきです。パビリオンの屋上は透明で、傍らに竹を植えていて、アーチ形の池は、大きな木で囲まれています。ユニークで、単純な設計に見えますが、実は仕掛けがあります。池のそばから海の方向を眺めると、池の水面、港、空と山が一体化して、不思議な風景になります。まさに、「天人合一」[110]、「水天一色」[111]のように描かれた絶景になっています。

落霞与孤鹜齐飞
秋水共长天一色

図一：書道家が書いた王勃の詩句

風が吹いてきた時、水面に映った樹木の『映し影』は、さざ波に乗って来ました。まるで遠方の親友からの挨拶を伝えてくれるように見えました。その時、『映し影』は優しい腕のように、私のこころを慰めてくれました。

その数年間、私はよく「合一亭」を訪ね、ゲストを案内する時も散歩する時も、ここで静かな時間を過ごしました。

今顧みると、その「天人合一」、「水天一色」の調和性と深みは、私の心まで引き込んだと感じています。

110　天人合一：昔中国の学術思想であり、天と人間とは本来的に合一性をもつとし、あるいは、人は天に合一すべきものとする思想。「合一亭」は、自然風景と建築物の融合性を考慮して設計されたパビリオン。
この言葉において、儒家の天命説も、道家の、人は作為を捨て天と一致せよとする説も、広義では「天人合一」の思想といえる。
111　水天一色：由来は中国唐朝の詩人王勃の「滕王閣序」の中でも特に有名な一節である。水（川）天と共に一色に見える風景。詩の原文は、「落霞与孤鶩斉飛、秋水共長天一色」（落霞、孤鶩と齊しく飛び、秋水長天と共に一色）である。

各種の施設が整備されていました。テニス・コート、プール、ジム、ピアノ室など、いずれも良い思い出があった場所です。図書館のことをとりあげると、中文大学には七つの図書館があり、それぞれに特徴があります。一番よく知っていたのは大学図書館でした。大学図書館は、『百万ドルの道』[112]と呼ばれる並木通りの端にあります。水の音が曲のように響く噴水、そのそばにある無邪気な少女のような薔薇と、意味深い彫刻は、中文大学の肖像（シンボル）になっていました。

図書館の中の設計と収蔵されていた書籍に感嘆しました。海外華人の「特別図書**収蔵**」、香港文庫などがあります。ここで忘れられない時間を過ごしました。図書館の広さ・明るさ・静寂の中に「書香」[113]を感じました。

霧が濃い時、山はまるでネッカチーフを被った少女のようになります。　キャンパスの中にいると、自分の居場所も分りませんでした。ここにいると、高行健氏の作品「霊山」の自筆原稿を見ることができます。キャンパスの中にいると、まるで余光中[114]氏と会ったように、彼の作品「香港相思（香港と私の両思い）」[115]の朗読（録音テープ）が聞こえます。

もし、大学図書館を厳粛・優雅と評価するならば、銭穆図書館は簡潔・清新と言えるでしょう。銭穆図書館には文学に関する作品が大量に収蔵されています。客員芸術家や芸術学部の先生・学生の作品も展示されています。私は工学部の学生であったが、文学に関する本の閲覧が好きで、よくここを訪ねました。週末にはよくそこに通いました。ソファに座って、自分の研究のためのデータや数式をほっておいて、古代文化・西洋文化の世界の中に、先賢の知恵や世間の物語を楽しみました。その時の風景、そのキャンパスの純情さを思い出すと、体中が暖かく[116]なるのでした。図書館の片隅とは言え、比類のないロマンチックな空気が漂いました。

112　両側に洋紫荊（香港蘭）の木が育てられた並木通りは、広場や卒業式の会場にも使われている。

113　書香：中国語の慣用語。意味は、(1）本に囲まれる雰囲気。　(2）読書人の家柄。

114　余光中氏：作家、詩人。南京生まれ、「郷愁」などの作品が著名、現在は台湾に居住している。

115　「香港相思」：余光中氏の作品。香港の少女が、台湾の大学生と恋に落ちた物語。

116　原文は「温馨」。温かさの意味。

そこで、亦舒[117]氏の作品中の女性の強さを感じ、朱德庸[118]氏の作品『いつでも何かが起こっている』[119]を読み、主人公の体験を感じられるようでした。

丘に建てられた大学のキャンパスは、中国の諺[120]の「山高きが故に貴からず」[121] に似合うと思います。（それほど大きくない丘ですが、立派な所ですから。）

私が在籍していた学部は、工学部の中では規模が大きいとは言えませんが、教授は十数人いました。

学科の事務室の秘書たちに感謝し、彼女たちのサービス精神に敬意を表したいと思います。私は広東語を全く理解できなかったし、彼女たちは北京語を勉強し始めたばかりでしたので、英語で会話しました。時々通じない場合がありました。しかし、事務の事では親切にしてくれて、いろいろアドバイスをしてくれました。

また、彼女たちは我慢強く私に説明してくれたので、その『プロさながら』のサービス精神を尊敬しています。

付き合ってから、交流も段々スムーズにできました。挨拶の度に、「ありがとうございます」と言いますと、彼女たちは、「こちらこそ。これは、私たちの仕事です」と言ってくれました。仕事だけではなく、サービスの質・対応・対人関係にも『三つ星級』である事に感服いたしました。

私に一番影響を与えたのは、勿論、指導教官の黄教授です。

---

117 亦舒氏：上海生まれで、香港育ち、現在はカナダに移住した恋愛小説家。

118 朱德庸：台湾の漫画家。

119 朱德庸氏の作品。中国語の書名は『什么事都在发生』。

4 コマの漫画で始めて、面白い言葉と簡潔な画風を通して、朱德庸はずばりと愛情をひっくりかえして、婚姻をからかいました。 漫画の中で、朱德庸は滑稽な写真付きの文章を用いて、女の人を翻弄して、男の人を皮肉って、のり状にくっつき両性の関係を尽くして、少し刺して、そっとこぶしをついて、ちょうど読者達がかゆいところをかきます。

120 ことわざ。

121 「山不在高，有仙则名。」：日本語の諺では「山高きが故に貴からず」。

黄教授の学生になれたのは縁だと思います。黄教授は我慢強くご指導くださり、私たちは成長し、興味を持つ研究が分かりました。自分の性格と趣味を理解できるようになりました。　黄教授よりの支持及び啓発に感謝します。

しかし、私は、中文大学の影響を深く受けていますから、いつでも中文大学のことを想っています。中文大学は、私を育ててくれただけではなく、精神上で私にエネルギーを注いでくれました。その五年間の歳月、そのキャンパス、その中の出来事、その中で出会った人々に対して、私の心の中に情（じょう）が芽生えました。

私の人生の道に、中文大学は清泉のようにエネルギーをくれました。時には、心の奥まで流れ込みました。この恩恵を受けて、中文大学への懐かしさを隠せません。

中文大学に在籍していた数年間のメモリー、言いたい事が多すぎて、どう書けばいいかわからず、言葉で表現しきれないと思います。

後記

太陽が万物に光を注いでくれるように、母校のキャンパスは私たちにエネルギーをくれました。

湧水が緑地を生かしているように、母校の人々は私たちに元気をくれました。

中文大学のキャンパスの美しさと温かさを思いだしていると、窓の外の東京に、ネオン灯が付き始めていた事に気付きました。

中文大学を離れて、東京にいる日々は、長い人生の中の、ほんのごく一部にすぎないと思います。

以前から、中文大学にいた時の生活や出会った人々への感謝文を書きたかった。しかし、言いたい事があまりにも多すぎて、どこから書けばよいかが分かりませんでした。

一ヶ月前に、「中国の農村教育」のための文集への投稿募集を知り、この機会を通じて、文章で母校への思い出を記録としてまとめました。

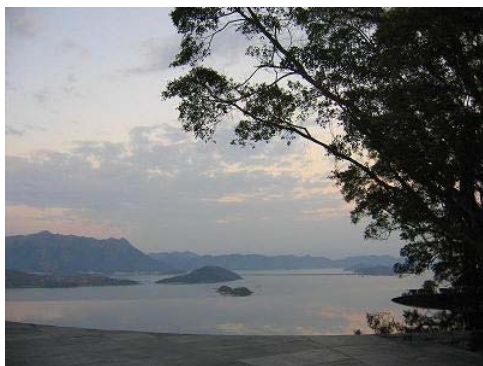
明日は投稿の締め切りになりますので、早速文章を完成させましょう。

この文章は、中文大学への思いと先生たちへの敬意を書き切れないとは思いますが、記念文になったら幸いと思っています。

実は、中文大学に在籍していた数年間に書いた日記から、大学中の学習生活及び成長の記録を振り返ることができます。綺麗な大学のキャンパスの中で勉強しながら、先生たちの指導の下で、私は学園生活を楽しみました。

特に、黄教授は我慢強くご指導をして下さって、私は少しずつ成長していき、自分が興味のある研究分野が分かってきました。自分の事、自分の性格をも段々理解できるようになり、今後の人生の方向を決める事にも役立つと思います。

中文大学で体験した全てのことは、私の一生の財産だと思います。これで、私の「中文大学への思慕」を深めました。

写真一：学生寮から見た夜景。
唐朝詩人王勃が書いた「水天一色」のように、空が海に溶け込む、水が空と融合したその風景。
（2008 年 7 月 2 日に撮影）

左写真二：　冬の夕方、「合一亭」の姿。大都会香港の中にあるにも関わらず、自然の姿のまま。(2008 年 12 月 3 日に撮影)

右写真三：　ユニークで、シンプルな設計。空、光、風、木の香り、葉のこすれる音を感じました。

風が吹くと、**水面にさざ波**ができて、木の逆さ影と一緒に見えます。(共 2008 年 12 月 3 日に撮影)

写真四（上左）：　(2007 年 5 月 31 日に、ある学会で撮影した写真。一番左のは私。私の隣の人も右から三番目の人も黄教授の学生であり、それぞれ 2004 年、2005 年に卒業した。その他は黄教授の実験室の客員研究者です。)

写真五（上右）：　教授との写真橋（2008 年 12 月 4 日に、「何善衡」エンジニア・ビルの九階にある陸橋より撮影）

写真六：　『百万ドルの道』[122]と呼ばれる並木通り。片方に講堂があり、片方に図書館があります。

写真七：図書館の正面に中文大学のシンボル彫刻があり、そばに噴水、池とバラ園があります。

122 両側に洋紫荊（香港蘭）の木が育てられた並木通りは、広場や卒業式の会場にも使われている。

著者紹介

劉璐

陝西省咸陽市生まれ。１９９９年、西北工業大学（陝西省西安市）に入学し、２００３年に学士学位を取得した。のちに香港中文大学の機械自動化学科を、２００５年に修士、２００８年に博士学位を取得した。その後、２００９年２月までに、ポスト・ドクター・フェロー（博士研究員）として、研究に従事した。２００９年３月、東京大学大学院情報工学科研究科に招待されて、助手を任命された。彼女の研究分野は主に、理論と応用を制御することを含み、知能構造と材料など。

劉軼の留学生活：バスケットボール篇

17　劉軼の留学生活：バスケットボール篇　　　　　劉軼

著者：劉　軼
翻訳：張子誠
校正：黒住昭子

『I will always love you.（あなたを愛し続けるわ)』

歌手ホイットニー・ヒューストン（Whitney Huston）のこの曲を聞くと、必ず、友人に笑われていた冗談話を思い出します。「バスケットボールを恋人にしたら？」

小学校 4、5 年生のとき、初めてバスケットボールをプレイした時から数えて、今年でバスケット歴が 20 年になります。その間、概ね 4 つの時期がありました。初めてゲームに触れた小学校時代、学習とスキルを取得した中学校時代、熱狂した高校時代、そして趣味として楽しんだ大学時代です。

バスケットボールコート内外での数え切れない出来事が、心に深く印象として残り、いい思い出がたくさんできました。

身長、体型、性別や年齢が違い、出身や技術に差がある人がほとんどでしたので、試合に勝つためにやむを得ず、自分の「バスケットボール達人判定マニュアル」を作りました。

強敵に出会いリードされたときは、実力不足を感じました。また様々なトラブルがあったときは、論争したり協調したりしました。私は「バスケットボール社会」、「バスケットボール生態」（人間関係や弱肉強食などのことを指す）を経験してきました。

これらの全ては、岡山県でバスケットボールチームの旗を振り回して、達人たちに呼びかけて、天下制覇を目指すための準備でした。

2006年4月1日(エープリル・フールの日)に、私は空路で中国から岡山県に着きました。

翌日、私は早朝6時に起き、先輩からもらった自転車に乗って出発しました。

留学生会館から自転車で20分以内の範囲でバスケットボールコートを探してみると、結果に大満足しました。まず、大学構内には立派な体育館がありました。それだけではなく、「岡山運動公園」（以下は運動公園）に大好きな室外コートがありました。それからは、私は「当然」、自分が好きな事をやりはじめました。

2006年4月2日、運動公園で日本に来て初めて、バスケットボールをプレイしました。

6月になると、数十人のバスケットボール仲間と知り合って、20人以上と連絡先を交換しました。

10月になり、初めてチームを組織し、運動公園を「制覇」しました。私は全バスケットボール活動の主催者、もしくは主催者代理になっていました。
11月になると、岡山県学友会[123]の文化体育[124]部長選挙に当選し、「学友会バスケットボールチーム」として、交流戦を開催したり、各イベントに参加したりしました。

2年連続で「京都留学生体育祭」のバスケットボール試合に参加して、ベスト８（2007年）と準優勝（2008年）の成績を上げました。

おそらく私はどこへ行っても、当時の試合でいただいた表彰状やアルバムを見る時、そしてバスケットボールが床にぶつかる「パン、パン」という響きを聞く時には、この3年間のバスケットボール生活を思い出すでしょう。良い記憶が、あまりにも多すぎますので。

123　岡山県留学生友好聯誼会
124　文体部

しかし、この「多すぎます」は、必ずしも順調を意味する事ばかりではありませんでした。

この３年間、「基地（チーム）は堅固ですが、兵士（メンバー）の入れ替わりは激しい」ものでした。ＯＢＣ（日本語学校）、倉敷国際大学、岡山商科大学、岡山理科大学、岡山大学からのメンバーたちは、参加したり退会したりして、チームはずっと不安定な状態が続きました。そもそも、皆が留学した目的は、バスケットボールのためだけではなかったからです。

皆、自分の勉強や仕事、バイトがあり、恋愛や他の趣味があったので、チームへの入部を強制する事はできませんでした。最初からチームや試合に参加する希望はありませんでした。我々ができるのは、施設の最大限を利用することでした。毎週、皆が練習できるよう、木製フロアで出来た室内コートを確保し、各種のイベント情報を提供して、「運動公園」の最新情報を皆に配信しました。バスケットボールに対する情熱、熱狂を刺激できるよう奮闘しました。

･･･『環境があれば、それを利用する。なければ、作ってやろう』という心構えの下、ガールフレンドと一緒に来るメンバーや、子どもを連れて来るメンバーもいました。はたまた宿題を持ってくる留学生、そして２つのアルバイトの間のわずか１時間の休憩時間に来てくれたメンバーも・・・

時々、我々の情熱を十分理解してくれないメンバーの家族や親友に、文句を言われたこともあります。しかし、私はこれらに対して誇りを感じました。我がチームの存在が、皆さんの生活の一部になってくれたから。最初の「文句」もだんだん、「同調」、そして「声援」になってくれたから。

この３年間、各方面より好意のご支援をたくさんいただきました。我がチームが試合やトーナメントに参加できるよう、車を手配し、運転手になってくれた学友会の会長さん、チアリーダになってくれた家族、親友たち。京都バスケットボール大会に出場した時、試合過程を撮影してくれたボランティアの皆さんや、岡山運動公園を使用する時の諸問題を調整してくれた管理員の皆さんに、感謝の意を表します。

『I love this game, and will always love you.（このゲームが大好きで、あなたを愛し続けます。）』

写真： **2007 年第 2 回京都留学生体育祭バスケチーム(7 人)。劉軼は左から 4 番目。**

2007 年第 2 届京都留学生体育祭篮球队成员(7 人)。从左起第四位是刘轶。

写真： **2008年第3回京都留学生体育祭バスケ準優勝チーム全員。**

(メンバー8 人、経理 1 人、撮影ボランティア 1 人)。 劉軼は後左から3番目(7号)

2008 年第 3 届京都留学生体育祭亚军篮球队成员。(成员八名， 领队一名，摄影一名)后排从左起第三位是刘轶（球衣 7 号）。

賞状

努力選手賞

劉鉄 殿

あなたは第2回京都留学生体育祭に
おいてスポーツマンシップの頑張り心を
もって大会に臨んだことでその栄光を
讃えこれを賞します

平成十九年十二月一日

留学生体育祭実行委員会
大会実行委員長 褚 英明

写真： **2007 年劉鉄がもらった『スポーツマンシップ』の賞状**

2007 年刘铁获得体育精神奖

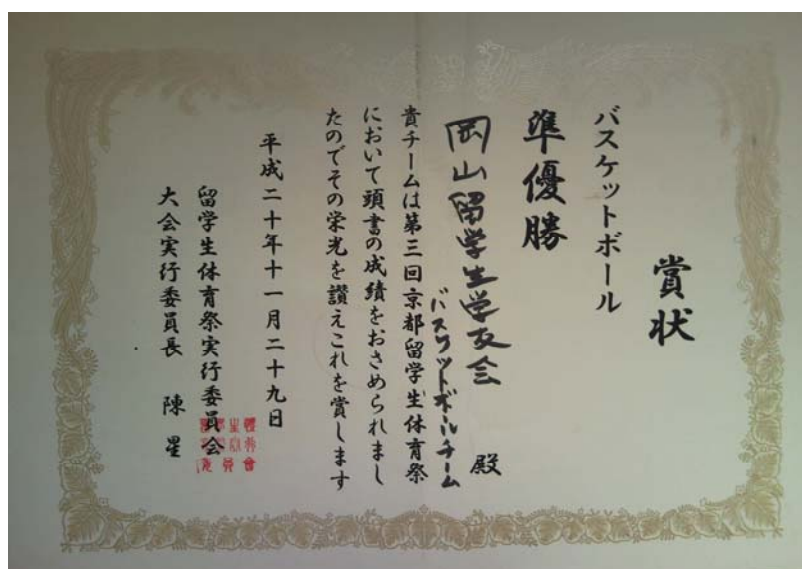
賞状

バスケットボール
準優勝

岡山留学生学友会
バスケットボールチーム 殿

貴チームは第三回京都留学生体育祭
において頭書の成績をおさめられまし
たのでその栄光を讃えこれを賞します

平成二十年十一月二十九日

留学生体育祭実行委員会
大会実行委員長 陳 星

写真： 2008 年岡山留学生チームがもらった『準優勝』の賞状

2008 年冈山留学生队获得篮球比赛亚军

著者紹介：

劉　軼

2005年浙江省寧波大学日本語学科卒業。

2006-2007年岡山大学大学院予備クラス。

2009年岡山大学大学院教育学部生涯教育卒業。

2009年4月-9月、日本岡山県某商社で六ヶ月間勤務。

2009年9月上京。2010年3月-5月東京某IT企業で三ヶ月間研修を受けたが、中退。

一時帰国を計画しているが、映画『阿甘正伝』の主人公のように、熱狂と夢を持ちながら、放浪の旅に発つ。

2010年8月30日、6時間強をかけて、東京都山手線に沿って約35キロを完走した。翌日、大型トランクを乗せた自転車で松戸から多摩川まで55キロを走って、放浪の旅に発った。

刘铁的留学生活　篮球篇

刘铁

“I will always love you. ”

每当听到惠尼・休斯顿(Whitney Huston)的这首歌，我都会不禁想起朋友们的一句玩笑话“你就娶个篮球当老婆吧”。

如果从小学四，五年级的时候刚刚开始接触篮球开始算的话，球龄也有小 20 年了。大致分为小学的初步接触阶段，中学的学习练习阶段，高中的狂热阶段，以及大学至今的兴趣爱好阶段这四个时期。对篮球场的场上场下，发生了无数令我印象深刻的事情，每每想起别有一番滋味。在篮球场的场内场外，高矮胖瘦，男女老幼，三教九流，龙鱼混杂，迫使我为赢得比赛建立起一套刘铁的“篮球高手识别准则”。面对强敌，面对落后，面对实力，面对突发事件，面对争议，面对合作，我经历了“篮球社会”或“篮球生态”。这一切，都为以后在冈山揭篮球队之大旗，号天下之英雄，征战南北做好了准备。

2006 年 4 月 1 日愚人节，我乘飞机来到了冈山。

次日 6 点我起了个大早，骑着前辈送的自行车上路了。

我去找距留学生会馆半径距离 20 分钟车程的篮球场。结果很令我开心。单是大学内部就有了座体育馆，另外在运动公园还有我最爱的室外场。接下来便是顺理成章，水到渠成的事情了。

2006 年 4 月 2 日，在运动公园打了第一场篮球。

6 月，结识了球友几十人，索要联系方法 20 余人次。

10 月，初步建立团体，“称霸”运动公园，我成为每次篮球活动的发起者及代发者。

11 月，冈山县学友会文体部长竞选成功，开始以“学友会篮球队”名义组织友谊赛，参加活动。

2007 年起，连续三次参加西日本地区留学生体育祭篮球项目，取得前八，前八，亚军的战绩。

我想以后无论我身在何方，每当看到我们的奖状，我们的相册，甚至听到篮球触地的“砰，砰”声，都会想起这三年的篮球生活，这帮打篮球的兄弟，和太多的美好回忆。

但“太多”并不意味着事事一帆风顺。三年来，“铁打的营盘流水的兵”，语言学校，商大，理大，冈大的兄弟们来了走，走了来，使球队一直处于不太安定的状态，再加上留学生活并非只为篮球而展开。我们有学习，有工作，有爱情，有其他的爱好，因此我们不可能强制或强留任何一位球队成员。因为这从最一开始就不是什么“义务”。我们所能做到的，仅仅是利用现有资源，为大家找到一块每周能够使用一次的室内木地板场地，为大家提供各种篮球信息，让他们始终掌握运动公园的动态信息。激发兄弟们心中那一份对篮球热爱及狂热。“有条件利用条件” ，“没有条件创造条件”，有的带女朋友来，有的带着孩子来，有的带着作业来，有的挤着两份工之间的一小时休息时间来······所以，势必有不大十分了解这份热情地“家属”们对我这个“罪魁祸首”颇有微词，但我常以此为豪。因为我们的存在已经在他们生活中得到了印证。并从“微词”开始逐渐向我们靠近，靠拢，甚至融入。

三年来，我们的球队也得到了许多善意的帮助。有给我们参赛联系车并担当司机的学友会会长，有热心为我们加油的家属亲友拉拉队，有为我们比赛帮忙录像的京都赛场的志愿者，也有来调解运动公园使用问题的管理员大爷。衷心的感谢他们。

最后，

“I love this game, and will always love you.”

作者介绍：

刘轶

2005年浙江省宁波大学日语系毕业。

2006-2007年就读于冈山大学大学院预科。

2009年冈山大学大学院教育学部生涯教育毕业。

2009年4月-9月，日本冈山某商社工作半年。

2009年9月进京，2010年3月-5月东京某资讯公司实习3个月。

计划回国阶段，重温电影《阿甘正传》，热血沸腾。

2010年8月30日耗时6个多小时沿山手线约35公里跑。次日，耗时5小时载巨型旅行箱骑单车55公里由松户至多摩川投宿。

二度の日本留学

18　二度の日本留学 （Emily Chan）

著者：　Emily Chan
校正：山岡泰介、毛士勇

私は小学生のころ､日本のアニメやドラマに影響され､日本語に興味を持ちました。そして、中学生のとき、ある日本のバンドのファンになり、私は日本語を学ぶことを決め、日本に留学したいと考えるようになりました。しかし当時、両親から「まず、学校の勉強をしっかりやりなさい」と言われたため、なかなか日本語を学ぶ機会がありませんでした。大学予備校に入ってから、ある日、私は大学進学の資料を求めて、香港中文大学のオープンキャンパスへ行き、そこで偶然、日本研究学科があるということを知りました。さらに、その学科に入れば、在籍期間中に日本へ１年間留学するチャンスがあると聞きました。そこで、私は、専攻しようとリストアップしていた会計学科や工商管理学科をやめ、日本研究学科に出願し入学できました。

一回目の日本留学

週３回、１回あたり３時間、日本語の授業を受け、週２時間は個別指導の授業を１年間受けていたので、私の日本語は良く出来るものと思っていました。
しかし、２年生になったとき、東京学芸大学に留学し、現実はまったく違うと気がつきました。記憶に新しい出来事としては、日本に来てまだ１週間しか経っていない時に、友達２人と一緒に携帯電話の新規契約に、携帯電話ショップへ行った時、言葉が通じず、店員さんとのやり取りに四苦八苦したことです。私たちは、それぞれ聞き取れた単語を組み合わせて、なんとか店員さんの話の主旨を憶測し、つかもうと必死でした。結局、この「携帯電話の新規開設」という任務を成し遂げるのに約２時間を費やしました。このことで、私は教科書で学んだ日本語は日常会話とはまったく異なるものだと痛感しました。

日本語の会話が上達できるように、また日本文化をより理解できるように、私は大学のダンス・クラブ(dance society)のほか、学生寮近くの区民センターの日本語クラスや催しに参加しました。ここで、日本人の友達がたくさんできました。その後、留学生活でたくさんの体験をしたいという考えと生活費の問題もあり、ダンス・クラブをやめ、その時間をアルバイトに充てました。アルバイト探しはほぼ順調に進みました。ただ、初めてアルバイトの採用をお願いした際には、まだ来日してから間もないためか、日本語会話をうまくできず、店長に断れたというエピソードもありました。運が良かったのかもしれませんが、その後もいくつかのアルバイトを経験しましたが、勤め先の店長や同僚はみんな優しい人ばかりでした。何か分からないことや言葉が聞き取れなければ、店長や同僚たちは図を使ったり、英語を使ったりして説明してくれました。また、日本人の後輩アルバイトが私より早く仕事ができた時には、悔しく思うときもありました。仕事に早く慣れるために、私はいつも電子辞書、紙、メモを職場に持ち込み、分からないことや覚えきれない（覚えられなかった）事はメモを取って、家で勉強しました。

１年間の留学生活はあっという間でしたが、私は徐志摩[125]氏の「雲を一抹たりとも持ち去らない」のようにオシャレに出来たわけではなかったと思います。私はあるアルバイト先の店長に感謝しています。それは、店長が私のために、送別会をしてくれただけでなく、アルバムも作ってくれたからです。アルバムには同僚たちと私と親しいお客さんのお祝いの言葉がたくさん書かれています。送別会の時には、別れる寂しさを隠すことが出来ず、涙を流しながらみんなとお別れしました。

帰国してからは忙しい日々を過ごしましたが、その後大学を卒業し、日本語能力試験一級の合格証書を手にしました。しかし、私は自分が日本語を流暢に話せるとは感じていませんでした。2008 年の北京オリンピックのときに、私は日本（国家）代表チームの通訳を務めました。クライアントの方から「満足している」という評価と記念品のポーチを頂きましたが、私は自分がまだまだ実力不足だと改めて感じました。この経験は私が再び日本に留学するきっかけとなりました。もう一度日本に留学する目的は、まず、日本語の聞き取り能力を高めること、そして、日本で就職する準備をすることでした。

---

125 徐志摩：近代中国の著名作家・文学者。「雲彩を一片（一抹たり）とも持ち去らない」は彼の詩の名句である。

写真１：送別会で頂いたプレゼント
欢送会收到的礼物

写真２：初めて着物を体験
第一次试穿和服

写真３：送別会にて（目がものもらいだったため、タオルで隠しました）
欢送会上 (那天，由於眼部不适，故以毛巾遮掩)

写真４：もう一つのアルバイト先にて
在另一间打工的店

二回目の日本留学

他の香港中文大学の先輩と違って、私は１年間の研究生をせず、直接、博士前期課程（修士）に出願しました。香港では、東京大学、早稲田大学などと比べて、中央大学の大学院はそれほどの知名度がありません。しかし、いざ入学してみると、先生の熱心な指導や先輩との交流などがあり、それに香港中文大学と同じ略称「中大」という呼び方もあって、私は中央大学に深い帰属意識を持ちました。

勉強編

私の専攻は商学研究科なので、授業の中では、経営や経済、マーケティングなどの専門語がたくさん出てきます。中学校と大学の時、これらに関する授業を受けたことがありますが、その時の言葉は英語や中国語だったため、日本語でもう一度勉強し直さなければなりません。最初はなかなか慣れなくて、大変でした。また、香港中文大学に在籍したとき、日本語の授業はありましたが、専門書はあまり読みませんでした。今は毎週 200 ページ以上の日本語の文献を読まなければならないので、これはもう一つの難関となりました。さらに、大学院の授業スタイルは大学学部の時とは若干違います。一般的に、学期の初めに、先生がある本をテキストとして指定します。学生がその本を買ってから、１人ずつその本の１章か２章を担当して、自分の感想や意見などを含めて、内容をまとめて授業で発表します。そして、授業参加者みんなでそのテーマについて議論します。授業時間のほとんどはディスカッションなので、先生はあまり基本知識の説明をしません。したがって、事前準備を十分に行わないと、ディスカッションに参加できないのです。

中央大学の大学院には宿題もなく、試験もありません（少なくとも私が履修した科目はそうでした）。学期ごとの成績は、発表・レポート・授業の出席率によって評価されます。のんびりできそうに見えますが、実際には予想以上に忙しいです。大学院は２年間で終わります。卒業の可否は、修士論文によって決められます。修士論文は大体 100 ページ（Ａ４） ぐらいです。先輩たちからは１年目で卒業に必要とされる単位をすべて取得し、２年目には修士論文の作成に集中すべきだと勧められました。生活費の問題があり、アルバイトをする時間を確保するために、最初の１年間は、授業を３日ないし４日以内に集中させました。しかし、１日６時間以上の授業を受けると、本当に疲れます。特に火曜日は、朝 11 時から夜９時を過ぎるまで授業が続くの

で、家に帰るともう何もしたくなくなります。修士課程の１年目で、私は全ての単位を取りました。だから、今は修士論文の作成に集中しています。勉強には辛いときや疲れるときもありますが、大学院には、日本人や他の多くの国からのクラスメイトもいます。彼らとの交流を通じて、世界の広さを実感することができました。

写真５：中国で企業を訪問した時、先生と同級生たちとホテルで撮影しました。
与老师及同学到中国做企业访问，摄於酒店内

生活編

今回の留学生活は１回目より、そんなにのんびり過ごせません。逆に、発表準備や修士論文の資料収集のために、ほぼ毎日、夜 11 時まで研究室で頑張っています。ただ、うれしいことは研究室に私と一緒に努力している友達がいることです。つらい時には、みんなと一緒にお酒を飲みに行き、気分転換をすることもあります。学校に遅くまでいる事は、私費留学生の私にとって、水道料金や電気代の節約にもなります。また、研究室の友達との会話も、異なる文化を背景に持つ人々との交流も、私の娯楽の一つです。

私費留学生のため、来日してから居酒屋でアルバイトを始めました。

その後、奨学金をもらえ、勉強と就職活動がだんだん忙しくなり、居酒屋のアルバイトで嫌なことがいくつかあったので、アルバイトを辞めました。１回目の日本留学

のときも居酒屋でアルバイトをしましたが、その時は出勤・退勤時間も固定だったし、店長や同僚とも仲が良かったです。しかし、今回の店は、出勤日の最後にならないと、次回の出勤時間を教えてくれませんでした。また、たとえ出勤したとしても、勤務時間をその日の来客状況によって店長が自由に決めるので、毎日、いつ帰らされるかという不安を抱えながらの仕事になりました。ときには、1時間だけで、帰るように求められたこともあります。さらに普通ではあり得ないと思うことがあります。ある日、私は夜6時に出勤する予定でしたが、5時半ごろになって突然店長から電話がありました。それは「客がまだ1人も来ていないので、出勤時間を7時にしてください」との連絡でした。そして、6時半になったら、店長からまた電話があって、「今日はもう来なくていい」と言われました。このような事が何度もありました。また、店では食事を1回、提供してくれます。ある日、女将さんは「サラダはビニール袋(スーパーマーケット用)の中にあるよ」と言って、私に持たせました。私が袋を開け、箸でサラダを取ろうとしていました。ところが、女将さんは私を見て、「箸でとるのは遅いよ」と言いだし、ずぱっとビニール袋に手を入れ、サラダを取り出し、そのまま私の小皿にのせました。その時、私は彼女の行動に驚きました。心の中でこういう疑問が浮かびあがりました。「日本人はきれい好きなのでは?!」。

このアルバイトを通して、私は日本経済の不景気を実感しました。経済の後退で、社員のボーナスが減少し、外食する機会も少なくなります。そうして、レストランや居酒屋などの飲食店の経営は難しくなって、店員の勤務時間も不安定になっているのです。

写真６：友達の家で餃子パーティをしました

在朋友家开饺子 Party

写真７：大学院の同級生とバーベキューへ行く途中

与大学院的同学们去烧烤的路上

就職編

日本での就職活動で、人生最大の挫折感を味わいました。香港で就職活動をするときには、手元の香港中文大学卒業証明書だけで私には何回もの面接の機会や雇用される機会が訪れました。しかし、日本では、この「ブランド付証明書」の効き目はありませんでした。

昨年12月から就職活動をはじめてから、もう9月になりました。今まで、おおよそ60社以上の会社を志望しました。そのうち、20数社の面接に行ったのに、まだ内定を1社からも頂けていません。しばらくの間、自信を失いました。そして、同期のみんなと比較して、私自身の価値を疑ったこともあります。また、香港に逃げる道も考えました。あるときも、自分が選んだ道を後悔し、日本に来なければ良かったのではないかという思いを持つこともありました。「今やっていることを頑張り続けるべきなのか」と何度も何度も自分に問いかけました。ある友達はこう励ましてくれました。「もう少し頑張ってみれば、きっと成功するよ」。しかし、いったいいつまで、何処まで頑張るべきなのか。会社説明会、店舗見学、社員訪問などもしましたし、履歴書も何度も書き直しました。まわりの留学生がほとんどみんな、就職先が決まったのを知り、「自分だけは未来の道が見えていない」と、とても焦っています。また、指導教授からは何度も数十ページの修士論文の初稿を提出するように催促されました。さらに、前年に申し込み、頂いていた奨学金が期限切れになり、もらえなくなりました。新たに申し込んだ奨学金の結果はまだ出ておらず、口座の残高と財布にあるお金を合わせて、2万円もないという事に気付いたとき、ストレスはますますたまるばかりでした。

私は「どうして？なんで？！」と心の中で何度も問いかけています。

本当に夢を実現できないの？あるいは自己評価が高すぎるのか？それとももう少し現実的になるべきなのか？と。

東京は、私が小さいころからずっと憧れていた都市で、他人の目からは賑やかで美しく映る都会です。あっという間のこの短い1年で、私の自信はすべて洪水に飲み込まれてしまったかのようです。おそらく、その繁栄の裏には、おおぜいの人々の苦労やストレスによって積み重ねられた面があるのではないかと思います。にもかかわら

ず、私たちは旅人として立ち寄っていただけで、日々の暮らしの中ではそこに立ち入ることなく、本当の姿を見ていなかったのかもしれません。

後書き

２回目の留学はまだ終わっていませんが、このわずか１年あまりの期間は、涙、失望、喜び、希望、色々な気持ちで溢れています。毎日、様々なチャレンジをすることはありますが、日本での留学生活は充実かつ意義がある経験だと思います。人生は追い風のときばかりではありません。人生には浮き沈みがありますが、それは意味があることなのだと思います。卒業後の行き先はどのようになるかまだ分かりませんが、日本に残るのがいいのか、香港に帰るのがいいのか、私にとって、どちらを選択するのがいいのかは、私の努力と運に託したいと思っています。

香港中文大学の日本同窓会と華通会から、みなさんと自分の日本生活を分かち合う機会を与えられて、とても感謝しています。文章の中には、いくつかマイナス表現がありますが、どんな国、どんな地域でも、良いことも悪いこともあると思います。しかし、私の目に映る日本はいつも秩序があり、便利な生活を送ることの出来る国です。我々が勉強すべきところはたくさんある国だと思います。

著者紹介[126]：

陳潔盈（Emily Chan）
2008 年香港中文大学聯合書院卒業、日本研究を専攻。2006 年から 2007 年までの 1 年間、東京学芸大学に交換留学。2008 年 9 月オリンピックの通訳ボランティアを担当後、2009 年 4 月中央大学大学院商学研究科修士課程入学、2011 年 3 月卒業。

---

[126] 謝辞：　翻訳を協力してくれた Shanshan Yu さん、T. Cheung さんに感謝いたします。対訳チェック：本人。

二次留日

Emily Chan

小学时候开始，在动漫、日剧的影响下，我对日语产生了学习的兴趣。升上中学后，由于疯狂喜欢上一队日本乐队，更促使我下定决心要学日语，并且要到日本留学。可是，家人说要先专注学校的学习，所以一直未有机会学习日语。直到中七的时候，我于中文大学开放日去取升学资料时，偶然发现了日本研究学系。听说有留学日本一年的机会之后，便放弃原本想报读的会计和工商管理专业，加入了日本研究学系。

第一次留日

一星期三天，每次三小时的日语课，再加上约两小时的导修课令我以为自己学会了很多日语。可是，大学第二年，到了东京学艺大学留学后，我发现事实并非如此。记得到日本的第一个星期，我和两位朋友一起去买手机和办理上台手续，与店员鸡同鸭讲。这使我感受到书中学习的日语和日活中运用的日语大有不同。我们把大家听到的单词合在一起，才能猜出店员整句话的意思。结果，花了差不多两个小时，终于完成任务。

为了说好日语和了解日本文化，除了学校的dance society(跳舞协会)外，我还参加了宿舍附近的社区中心举办的日语课程和其他活动，认识了不少日本人朋友。后来，因为想多体验别的生活，再加上生活费的问题，我把去dance society的时间转移到打工上。找工作算是顺利，只是第一次找的时候，被店长说我来日本的时间太短，日语不好，所以被拒绝了。也可能是我比较幸运，之后找到的好几份工作，店长和同事们都很好。我有不明白，听不懂的时候，他们会用简单的英文，或者画图给我说明。眼看新来的日本人同事学得比我快，十分不甘心。为了尽快适应工作，每次都带著电子辞典、纸、笔去打工，把不会的都记下来，再回家学习。

一年的留学很快过去，我却不能像徐志摩一样洒脱，不带走一片云彩。我很感激当时打工其中一间店的店长，他除了为我办欢送会，还做了一本相册送给我。相册里充满了同事们和跟我感情要好的客人们的祝福语句。在欢送会上，我敌不过离别的伤感，眼眶泛著泪光跟大家道别。

回港后，匆匆忙忙的完成了最后一年的学业便毕业了。话说回来，即使持有日语水平考试一级合格的证书，我一点也不觉得自己能说出一口流行的日语。在参与０８年奥

运会的工作上，我为日本队伍作口头翻译服务。虽然对方表示满意，还赠给我襟章作礼，但是我知道自己实在是能力不足。这促使了我的第二次留学。再次去日本留学主要有两个原因。第一、增强日语的听说能力；第二、为日后在日本工作做好铺垫。

第二次留日

也许和其他中大前辈不同，我没有当一年研究生，便直接报考硕士课程。与东京大学、早稻田大学等相比，中央大学算不上很有名的大学。但是，老师们的热心教导，同学们之间的互相帮助，再加上中央大学在日本的简称亦是「中大」，令我对这大学产生了强烈的归属感。

学习篇

由于我报读的是商学研究科，所以在上课时，常常会听到很多有关管理、经济、市场学等的专门语。虽然以前在中学、大学曾学过有关课程，但是现在用日语重新再学，最初真的有点不习惯。以往在中文大学上日语课时，比较少接触专门书，现在每星期要看大概二百多页的参考书，而且全是日语，真是有点吃不消。再者，大学院的上课方式跟大学时有点不一样。一般来说，在学期开始时，老师会叫学生们买一本书，然后每一个人负责书的其中一章节，把内容总结，加上个人的感想和意见去发表。等负责的同学发表后，大家再围绕那个题目讨论。因为每一节课都是讨论，老师不会从最基本的知识说起，所以上课前，必须要有充足的准备，要自己先学会基本知识，要不然无法参与讨论。

中央大学的大学院没有功课，也没有考试。学业成绩以发表、报告、课上参与度来评核。听起来好像挺轻松，实际上比我想像中要忙得多。大学院上两年，最终以毕业论文来评定能否毕业。毕业论文大概写一百页左右。很多前辈建议在第一年把要修的学分全部修完，第二年就以集中写论文为主。为了方便安排时间去打工赚取生活费，第一年时，我把课都集中在三到四天上完。可是，一天上六个多小时的课，实在有点累。特别是星期二，从早上十一点开始上课到晚上九点多，回家后真的甚么都不想做。我在第一年把学分都修完，现在第二年集中写论文。虽然学习过程中有辛苦、有累的时候，但是在大学院里，除了日本人同学，还可以和来自其他不同国家的同学一起学习。在互相讨论和交流的过程中，令我看到世界是无比之大。

生活篇

这次的留学生活没有第一次的清闲，我不能过著衣食无忧的生活。反之，几乎每一天在学校的研究室待到晚上十一点，为每星期的发表和收集写论文的资料等做准备。值得欣慰的是，在研究室有同学们陪我一起努力。在辛苦的时候，大家会出去喝一杯，暂且轻松一下。虽然在学校待晚了，但这却帮身为自费留学生的我省了不少水电费。在研究室和同学们倾谈，交流不同的文化，亦成了我的娱乐之一。

由於我是自费留学生，为了生计，一开始我在居酒屋打工。后来因为获取奖学金，学习以及找毕业后的工作等事又愈来愈忙，再加上对这居酒屋的一些事实在无法接受，所以便辞去了工作。第一次留学时打工的店亦是居酒屋，但是上、下班时间固定，与店长和同事都相处融洽。反之，这一次，我每次都是到最后一天才知道下一次上班的时间，然后去到店后，店长会因应当天客人来店的情况，去决定我当天几点下班。有时只是工作了一个小时，便被要求离去。试过有一天我6点开始上班，店长5点半打电话给我，说没有甚么客人，叫我7点才去。到了6点半，他再给我打电话，叫我还是不用去了。这样的事情发生了很多次。另外，店里包一顿饭。有一次，老板娘说有沙拉，沙拉放了在一个超市的塑胶袋里，她叫我去拿。我打开塑胶袋后，用筷子把沙拉夹出来。老板娘看见了，却说我用筷子夹太慢，她徒手伸进塑胶袋，拿出沙拉放在我的碟子上。当时，我除了无奈，心里还带著疑问：日本人不是很爱干净吗？

不过，在打工的同时，让我见证到日本经济不济。正因为经济倒退，分红减少，日本人才减少外出吃饭，所以一些餐厅、居酒屋的经营就变得困难，而店员的工作时间也变得不稳定。

就职篇

在日本参与就职活动，令我感受到有生以来最大的挫折。在香港找工作，我手上的那张中文大学毕业证书，曾经为我成功获取不少面试，甚至被雇用的机会。可是，在日本的话，我手中的那张名牌证书，却发挥不了任何作用。

从去年１２月开始就职活动，到现在，9月已来临，我一共申请了超过６０间公司，面试了大概２０多间公司，却还没有获得雇用。有一段时间，我很没自信，会和跟自己同期毕业的同学比较，甚至怀疑自己的价值。有时候想逃避，想回去香港。有时候又会

后悔，要是当初没来日本就好了。我不断反覆问自己是否要坚持下去。有个朋友说，有时候就是需要多一点点努力，你就能成功。可是，我还要努力多久呢？甚么公司的说明会，都去了；甚么去分店参观，跟职员们做访问，也做了：履历书也改过无数次。眼看身边的留学生一个又一个找到了工作，眼看未来的路愈来愈摸不著，心里愈是著急，又忐忑不安。再加上指导老师再三催促交好几十页的论文初稿，之前拿的奖学金又到期，新的奖学金又还没拿到，银行户口，再加上钱包里的钱只剩下 1 万多，2 万日圆不到的时候，压力就愈来愈大。

「为什么？我不甘心！」这句说话反覆在我心里回蘯。

难道梦想不可能成为现实吗？是我自视过高？还是人本来就得现实一点？

日本东京ー那个我儿时充满憧憬的地方，那个在别人眼中繁华美丽的城市，彷佛在这么短短一年的时间，幻化成洪水似的，把我的自信都吞噬。也许它繁华的背后本来就是由很多人的压力堆砌而成。只是很多时候我们作为旅客，来去匆匆，没有在这生活，没有仔细看到它真实的一面而已。

总结

第二次留学还没结束，但这短短一年多，充满了泪水、失望、欢笑、希盼。。。尽管每天都有不同的挑战，我想在日本的留学生活是充实而有意义的。人生本来就不是一帆风顺，「有起有跌」才是活得精彩明年毕业后，去向如何，还不敢妄下判断。留在日本，或是回去香港发展，我想并没有说哪一个选择比较好，那只在於个人的努力和际遇。

我很感谢东京的中大校友会和华通会给予我一个机会，在这里跟大家分享我在日本的生活。也许在我的交章里有不少负面的信息，但我认为每个国家，或是地区，总有它好的跟坏的一面。而在我眼里，日本始终是一个有秩序又便利的国家，有值得我们学习的地方。

作者介紹

陈洁盈（Emily Chan），2008年香港中文大学联合书院毕业，主修日本研究。2006年至2007年於东京学艺大学交换留学一年。2008年9月完成奥运的翻译工作后，赴日考上中央大学大学院的商学研究科硕士课程，于2011年3月毕业。

国際学生討論会聴講記事

19　国際学生討論会聴講記事　（関中中）

私は入社して５年間のある日、同僚の張Ｌさんと「京論壇」の報告会に行ってきました。

「京論壇」は 2005 年に北京大学と東京大学の学生によって結成された国際学生討論団体です。

年に１回開かれ、歴史認識をはじめ、日中経済やビジネスに至る様々なテーマについて徹底討論して、その結果を、報告会や雑誌投稿などいろいろな手段と機会を使って社会に向けて発信する団体です。

午後１時半から始まるということで、張Ｌさんが 12 時半くらいに車で迎えにきてくれました。

車の行先は東京大学で、ちょうどその日は東京大学の学園祭だった。串焼きや餃子という食べ物の店頭もあれば、ギターを弾きながらのライブもあり、射的などゲームコーナーもあって、大変賑やかだった。少し堪能して行こうと思ったら、時間的な余裕がないから、急いで京論壇の講演室へ向かいました。

150 人規模の講演室にたどり着いた頃には、すでに座る席がなく、講演室の周りの壁に沿ってずらっと沢山の人が立っている状態でした。張Ｌさんと壁に沿って立てる場所を探して、幸いに講演室の真ん中の辺が空いていたので、早速そこを確保してくれました。それからぞくぞく人が入ってきて、壁の周りも満員状態になり、仕方がなく机と机の間の溝にしゃがみ始めた。さらに人が入ってきて、立つ場所もなくなり、机の間の溝もなくなり、講演室の入り口に人がどんどん増え始める。気がついたら、講演が始まっていました。

最初は、東京大学京論壇の学生代表者が今年の北京大学生との協議内容について簡単に報告する。それから、今回の目玉、加藤嘉一講師の講演が始まった。加藤嘉一は

中国で最も有名な日本人の一人で、時事を留意している中国人なら誰でも知っている存在であった。

加藤さんは子供の時から、なぜみんなが同じことをやらなくてはいけないのか、なぜ誰もやってないことを、誰もやりにいかないのかについて、不思議に思われて、こんな社会で生きるのが失望的で、海外で国連の仕事をやりたいという願望を持ったという。それから高校卒業してから、家庭の事情で中国に留学にいきました。・・・

講演が終わり、パネルディスカッションが始まりました。

テーマは「若者はなぜ海外に出ろといわれるのか？」と

「若者はどのように生きるべきか～社会の要請と若者自身の視点から～」

の二つで、それぞれ 90 分間くらいにかけて学生側と社会人側で話し合っていきました。

一番印象に残ったのは、「若いうちに外に出るのは、ノーリスク・ハイリターン」という言葉でした。まさにその通りだと思います。

私も高校卒業してから 18 歳で日本に来ていて、なにもない状態から始まったので、現在の一流 IT 企業に入るまでいろんな体験をしてきたが、特に失ったものがなく、得たものが中国にいる学生時代の友達の誰よりも大きい。そして、今までの経験は一生の宝物だと思います。

後書き

一人の中国高校卒業生、日本語が全くわからないけど、日本の漫画・アニメ・ゲームに対して深い興味を持っており、遥々日本に渡って勉強に行くべきか？こんな人生の重大選択に直面して、私は肯定の答えを出しました。

1999 年 4 月、私は日本にやってきた。最初は 2 年間かけて日本語学校で日本語などをマスターしました（日本語 1 級取得）。それから、熊本大学に入学し、情報系・

パソコンについて勉強した。そして、大学院に入学し、ロボット学習を専攻しました。
2007 年、私は全優の成績で熊本大学を卒業し、日本の企業 F 会社に受かりました。
それから私は正式に日本社会に入ってきました。（F 社は日本の社会基盤を支える有数 IT 企業の一つですので、ここでなら日本社会への貢献を始め、世界中の人々を豊かにできると確信しています。）

著者紹介:

閔中中

高校時代から日本の漫画に興味をもつ。

1999 年高校卒業後に来日。

2001 年熊本大学で数理情報システム工学科に入学。

2005 年熊本大学を卒業し、同大学院の知能情報専攻に進学し、ロボット学習を研究。

2007 年熊本大学大学院を卒業し、同年日本ＩＴ企業のＦ社に入社。

2009 年中国新聞紙「大公報」のインタービュー（取材）を受けた。

出席大学交流论坛点滴

闵中中

在我进公司 5 年中的某一天，跟一位同事张 L 先生出席「京论坛」的报告会。「京论坛」是北京大学和东京大学的学生于 2005 年组织的国际学生讨论研讨团体。

每年举办一次论坛，讨论历史，中日经济，贸易等各种各样的话题。并以报告会或杂志投稿等各种方式向各界发表。
该会于下午一点半开始，张 L 先生于十二点半开车来接我。

东京大学的校园节(学园祭)。排满了串烧，饺子等小吃店，还有“吉他”演奏，玩具射击等摊位游戏，非常热闹。本来还想游玩(看看)一下，但是没有足够的时间，只能赶紧到国际学生讨论研讨会的会场。

到了可容纳 150 人的讲演室。因为人太多，只能站著。张 L 沿着墙找能站的位置，幸好演讲室的正中间有个空位置,所以立刻占下了.

随着人员不断进来，就连墙边都站满了人，他们没办法只好蹲在桌子和桌子间的空隙里。人还是往里面进，站的地方没了，桌子间的空隙满了，人们就挤在讲演室的入口。这才发现演讲开始了。

最开始时东京大学京论坛的学生代表报告了关于今年和北京大学学生的协议内容。然后这次活动的看点人物：加藤嘉一讲师的演讲。加藤嘉一是在中国的最有名的日本人之一。关注时事的中国人都认识他。

加藤嘉一是谁？

加藤小时候总是在思考为什么大家都必须做相同的事情，为什么谁也不去做谁都不做的事情，他认为这很不可思议。在这种社会中活着，实在是很失望，于是就有了去海外，去联合国工作的愿望。然后到了高中毕业以后，因着家里的事就来中国留学了。

演讲结束后，开始进行专题讨论，讨论议题有二，分别是“为什么要让年轻人出国”

和“年轻人如何活着~从社会的需求和年轻人自身的观点”。各自 90 分钟时间，学生和公司上班的人进行了讨论。

印象最深的是“年轻人外出，低风险，高回报”这句话。我觉得确实是。

我高中毕业后 18 岁来日本，从一无所有的状态开始，到现在在一流 IT 公司上班，经历了许多。没有失去什么，得到的比在中国时候学生时代的朋友们都多。我想，这是我一生的财富。

后记

当年，我只是一位中国高中毕业生。虽然不懂日语，但对日本动漫感兴趣，是否应该东渡求学？面对如此重大的人生抉择，我在一九九九年做出了肯定的回答。

抵达日本后，我先花两年时间学习日语，接著考入熊本大学修读电脑，在二〇〇五年以全优成绩毕业并升读研究生，主攻机器人。再过两年，我完成学业，立即被日本知名 IT 企业 FXX 公司录用，正式走入日本社会。

FXX 公司采用后的二〇〇九年十二月，公司安排我作代表接受中国传媒「大公報」采访。

作者介绍：

闵中中

高中时已对日本动漫感兴趣。

1999年高中毕业后来到日本。

2001年进入熊本大学，修读数理信息学。

2005年熊本大学毕业。同年熊本大学研究院机器人学专业入学。

2007年熊本大学研究院毕业，取得硕士学位。同年进入日本知名IT企业FXX公司。

2009年接受「大公報」的采访。

『町を飾った月光』
福岡市の樋井川　（2011 年 2 月）
『月色倾城』
福岡市的樋井川　（2011 年 2 月）

音楽＆スポーツ篇

北京五輪狂想曲

20　北京五輪狂想曲　（喬靖玉）

著者:　喬靖玉
校正：　鎌田孝昭

摘要

2008年の北京オリンピックは中国人にとって激動の夏でした。私はその終始を観戦し、自分のチームを声援したり、好きな選手の勝敗に気を配ったり、　競技場の内外で人々の反応を見たりして、普段のスポーツ観戦で体験できない感動を味わいました。

前書き

オリンピックの前に、オリンピックは見に行く人が多いので、切符入手が困難かと思い、テレビ観戦だけでもよい、と心の準備ができました。

妻とわたしは大の巨人ファンです。しかも、巨人軍の上原選手と阿部選手が日本チームに選ばれた(選抜された)ことを聞きました。せっかく両選手は北京に来るので、彼らを応援するため　、野球試合くらい　、実際に見に　行こうと思いました。

一回目の抽選はインターネットで行われました。ある日、暇なので申し込みサイトに登録しました。日本野球チームは当然決勝に入ると思って、まず野球決勝戦を申し込みました。中国では野球はあまり人気がないので、絶対にあたると信じていました。

せっかく登録したので、サッカー、バスケットボールなど、数試合申し込みました。いずれも中国ですごく人気のあるゲームなので、どうせ当たらないからと、いずれも一番良い席（A クラス）にしました。念のため、野球の準決勝のもう一試合も申し込

みました。規則として、一人は最大 10 試合を応募できます。しかし、野球以外の試合は、必ず現場で観戦すべきとは思いませんので、夫婦二人で 6～7 試合ぐらいしか申し込みませんでした。

実際に見ることができるかどうか確信がありませんので、一人で最大 10 試合を応募できるのに、わたしと妻の二人で 6～7 試合ぐらいしか申し込みませんでした。

半年ぐらい過ぎて、抽選の結果が発表されました。なんと、サッカーの決勝戦、サッカー準々決勝一試合、バスケ準々決勝一試合、野球準決勝の一試合のペア切符をゲットしました！野球決勝が外れてしまって、とても残念に思いましたが。（日本チームは決勝に進出できず、４位で終わりました。日本チームのない決勝戦に当たらなくて、結果的によかったかも。）

北京オリンピックに関して、いろんな人がいろんな側面から報道したり、話したりしましたが、当時自分が社内ブログ（Blog）で書いたものを整理して、違う角度からみた北京オリンピックのことを発表して見ます。

「世界記録について」

まずは、オリンピック水泳会場『水立方』から議論しましょう。

選手たちは世界記録を全然尊重してくれませんでした。
私の推定では、『水立方』プールの長さは４９メートルしかありません。

北京五輪競泳会場『水立方』[127]の切符売り場

北京奥运水上竞技场『水立方』的售票处

北京五輪競泳会場『水立方』

北京奥运水上竞技场『水立方』

陸上競技が始まってから四日間、毎日、世界新記録が出ました。『水立方』でランダム誤差があるだけではなく、陸上競技場にもシステム的な問題がある事に気付きました。最初は、北京オリンピック組織委員会(BOCOG)は会場を設計する時、寸法を

127 北京五輪競泳会場『水立方』プールの長さは４９メートルしかないという噂を聞きました。珍景と思って、会場に立ち寄りました。そして、意外な事実を知りました。

いい加減に測ったかと疑いました。しかし、良く考えてみると、北京市「四環（第四環状道路）」の周辺の重力は[128] 九より小さいかも知れません。

「劉翔選手の退場」について

劉翔選手[129]が１１０メートル・ハードルを棄権した事について、悲しいと感じた人がたくさんいました。残念で悲しかった。

この問題[130]　について世間に厳しく批判されたが、私はとても理解できない。

劉翔選手が試合に出られるかの判断や金メダルを取得できるかどうかというのは、彼自身の問題です。君たち（批判する人）が喜ぶか落ち込むかは君の自由です。が、それで劉翔選手を責めることは『理不尽』です。君たちは、スポンサーではあるまいし、しつこく文句を言う資格すら疑われます。

不以物喜，不以己悲[131]

（物を以て喜ばず、己を以て悲しまず）

（Not pleased by external gains, not saddened by personal losses）

映画『少林寺[132]』の中のセリフ「あなた[133]は本当にそれ（自分の立場）を最後まで守り抜けるか？」を言いたかったです。

---

128 普段、地球上の「引力・重力の定数“g”」は９.８m/s^2とされている。

129 北京オリンピックで、劉翔選手は、110メートルハードル予選でアキレス腱の痛み を訴え棄権した。

130 参考：北京オリンピックの陸上男子 110 メートル障害競争で劉翔選手（中国）がけがのために 棄権したらしいですが、 中国国内で罵倒がすごいとネットニュースで見ました。 他人をモノのように扱う、批評家ぶった連中の醜い姿だと思います。

131 中国有名な詩人范仲淹的《岳阳楼记》の言葉。中国儒教の思想で無の心身状態を表しています。
「いくら金銭などのものがあっても成功しても傲慢にならず一時的な失意でも落ち込まない」
淡々とした気持ちで生きようとのことです。

「サッカー」

譚望嵩選手の反則行為（相手にキックした行為）は恥しかった、チームだけではなく、国の恥だ。

その上、『ゴール』一点を取れた事も、２００２年ワールド・カップに進出した事以来最大な実績だと思います。

ベルギーに負けた事は想定内でした。

南アフリカ・ワールド・カップ予選リーグに落ちた中国サッカーチームとオリンピックU23チームと混同しないでね。

中国の「サッカー」チームは下手で、下手ピー、しょうがない。。。

「灰色の座席」

購入した入場券と一緒に、五輪の観戦マニュアルが付いています。

その中に、各会場の紹介や座席の案内図がありました。

案内図の中で、観戦しやすい座席は、灰色に着色され、『非販売席』にされていました。最初はVIP席や海外向けの座席と思いました。実際に観戦した時にやっと分かりました。

---

[132] 「少林寺」：中国の映画。1982 年放送。その中の名セリフは："あなた[132]は本当にそれ（自分の信念）を最後まで守り抜けるか？"
[133] 劉翔選手を非難する人を指す。

確かに一部はVIP席や選手チームの関係者（例えば、サッカー・チームのレギュラー１８名以外のメンバーや、体操チームのヘッドコーチ、コービー･ブライアント[134]、デビッド・ベッカム[135]）の座席ですが、マスコミのための座席（つまり、記者席）が殆どです。

「灰色の座席」は割合が多くて、例として、五棵松の野球場の本塁（ベース）側の全部、バスケットボール会場の北側の全て及び東側の半分、『鳥の巣』のＡ区とM区の一部（つまり、１００メートル競走コースの近くの一階と二階部分。）を挙げます。工人体育館はまだましで、「司会席」と両側の一部しか使われていませんでした。

私は『鳥の巣』のサッカーA券（トップ・クラス券）を入手しましたが、まさかM区の三階であるとは思わなかった。あそこには、コーナー・キックを見るのに最適な場所だ！！（苦笑）

やはり、普通のスポーツ大会の方が観客に「優しい」と思いました。。。。

「あるアルゼンチンの女性サポーター」

地下鉄の８番線路を乗り換えて、鳥の巣へ「**ナイジェリア**対アルゼンチン」のサッカー試合を見に行きました。

あるアルゼンチンのカップルは私に続いて乗車しました。彼らが大声で知らない言葉を喋り始め、元々混雑していた乗客に迷惑をかけました。

134　コービー・ビーン・ブライアント（Kobe Bean Bryant 1978 年 8 月 23 日 - ）は、アメリカ合衆国のバスケットボール選手。北米プロバスケットリーグ NBA のロサンゼルス・レイカーズに所属。

135 デイビッド・ロバート・ジョゼフ・ベッカム OBE（David Robert Joseph Beckham OBE, 1975 年 5 月 2 日 - ）は、イギリス、イングランド出身のサッカー選手。

アルゼンチンの女性はシートの脇にレールがある事に気付き、突然にレールの上に座り込んで、元々そこにいた男性を押し出しました。

それを見て、アルゼンチンの男女二人は笑っていました。

「私はナイジェリアを応援しよう！」と直ちに決めました。

ジャック・ロゲ[136]はこう言いました：「オリンピックは、中国を理解するチャンスを世界の人々に与えながら、世界を理解するチャンスを中国人に与えました。」

しかし、そのアルゼンチン女性のお陰で、さらに私はアルゼンチンの事を理解するにつき、アルゼンチンのサポーターのマナーに偏見を持ち始めました。

誰かの個人的な行動は、自国にいる時は、自分の事しか表しませんが、外国にいる時は、国家のイメージを代表しているからです。

国外に暮らす人は、心理的に多少弱くなると思いますが、外国人が祖国に対する悪口に我慢できないと思います。仲間たちの「非常識な」行動に対しても過剰反応してしまうと思います。

1990年のワールド・カップで、マラドーナのパスを受けたクラウディオ・パウル・カニージャ[137]が単刀直入にゴールし、優勝大本命のブラジルを破った事は、あのワールド・カップが面白くなくなりました。　その時から、私はずっとアルゼンチンを恨んでいます。

136ジャック ロゲ：氏名：Count Jacques ROGGE。 国籍：ベルギー。 所属機関：国際オリンピック委員会。 職名： 会長。 生年月日：1942 年 5 月 2 日。

137 サッカーアルゼンチン代表。1967 年 1 月 9 日生まれ。現役通算 138 試合で 34 ゴール。代表通算 50 試合 16 ゴール。

アルゼンチンのオリンピック委員会にコーチの「ファン・ロマン・リケルメ[138]」と選手の「メッシ[139]」が国家チームに入ってから、やっとチームの実力にバランスが取れて、私の心の中の偏見もなくなりそうで。。。。もし、その「アルゼンチンの女性」がいなければ。（＊）

（＊）ナイジェリアのチームは、我が家の窓から見える「首都体育学院」のグランドで練習しているところを見ているので、彼らを好きになりました。:-) （絵文字の笑い）

「国の威信」について

ある日、友人と会った時に、話題が自然に五輪と関連した事になりました。

ある友人は急に自分の感想を言い始めた：「幸い2000年の五輪誘致はシドニーに負けました。もし、2000年の時に、今年のようにたくさんアクシデントが起きていたら、絶対に今のようにうまく乗り越えられなかったと思います。」

よく考えてみると、その通りだと思います。

中国南部の「冷雨」や四川大震災などの自然災害があって、チベットの独立運動と東トルキスタンイスラーム運動が起きた事件で、今現在の「国威（国の実力と影響力）」がなければ、どういう結果になったか想像できません。

---

138 アルゼンチン国家チームの**コーチ。**アルゼンチン元代表。ポジションはMFだった。1978年6月24日生まれ。

139 メッシ：2010年のワールド・カップでも活躍していたアルゼンチン国家サッカー・チームの主将。「新マラドーナ」とも呼ばれる。

しかし、2000年に開催するとしたら、当時北京の環境（空気汚染、渋滞など）は今よりだいぶ良かったでしょう。

「国際主義」について

審判が地元に「肩入れした」ことは一番恥かしいことだと思います。

幸い、この内容に関する報道が少なかった。試合を見て、公平にやっていると実感しました。

世の中の『衝突』[140] は、階級間の争い（闘争）と民族と宗教の違いが根本的な原因だと思います。（「国家」も一つの要因ですが、国家そのものが民族と宗教の違いによって結成されたもので、３つの要因としました。）

競技場で他国の選手を応援する場合もよくありました。この光景をみて、その3つの要因が越えられない障壁ではないと思います。（私はずっと潮田玲子選手を応援していました。:-）絵文字（笑い））[141]

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

「規則」について

１．１１０メートル・ハードル

デイロン・ロブレスが１１０メートル・ハードルのチャンピオンになった試合をみて、フッと思い付きました：

ハードル間を不等距離にして、それに試合の前にランダムで距離を決めるルールにしたら、試合がもっと面白くなるかもしれませんね？

140 常に違う価値観が存在します。

141 著者は、潮田玲子選手のファンです。

2. 「近代五種競技[142]」

提案したい新しいオリンピック試合項目。柔道、フリースタイル･レスリング、テコンドー、ボクシング、フェンシングの五種競技。

「幻の数字：100」

土曜日夜、周呂鑫/火亮が計算に入れた高飛び込みの金メダルを失った試合[143]が終わって、陳中[144]が試合判定を覆され、決勝戦に参加できないとのニュースが入ってきました。突然中国のメダル数が99までで止まりそうと気付きました（当時、ボクシングの鄒市明と81Kg級、91Kg以上級の中国選手が決勝戦に進出に決定したので、とても計算しやすいです）。本来、メダルなんかあまり興味を持っていないが、目の前の100という特別な数字をみて、思わずに、、、

あの時、火亮がただ4位しか取れていないのをとても残念に思っていました。数日前､中国が卓球のすべてのメダルを勝ち取りそうな時に､ちょっとやりすぎと思って､李佳薇[145]と郭躍の3位決定戦ではひそかに李佳薇を応援したが、今になって、自分の願いがかなわなかったことがラッキーだったと思っている。

次の日、もともと試合の少ない日で、中国人選手が出る試合がもっとも少なかったです。朝のマラソンから、３位に入賞できる中国人選手がいるか、探しまくっていま

---

[142] 近代五種競技（きんだいごしゅきょうぎ、英語：modern pentathlon）は、1 人で射撃・フェンシング・水泳・馬術・ランニングの 5 競技をこなし、順位を決める複合競技のことである。

[143] 金メダル：Matthew Mitcham；銀：周呂鑫；四位：火亮

[144] 女子テコンドー６７kg以上級、アテナオリンピックチャンピン

[145] シンガポール No.1 女子選手。北京出身。

した。10数人がゴールしてから、やっと中国人選手の姿が現れました。ほかの試合には、『新体操』は唯一中国に96個目のメダルを取れそうな種目です。イスラエルが出場する前まで、中国チームが3位以上と確定した時点で、やっとほっとしました。3位の結果にこんなに関心を持ったのは、生まれて初めてです。

閉会式後、某チャンネルの再放送番組の中、中国男子アーチェリーチームが団体銅メダルを取ったシーンが映った時に、隣に座った家内が「本当に一試合一試合がとても大事で、とても難しい」と感嘆した。

「観戦」

運が良くて、四試合の切符を手に入れました。

◇◇◇サッカー準々決勝：（ベルギー　対　イタリア）　工人体育館

素晴らしい！

子供の頃に建てられた球場で、古臭く、目線に影響する柱が多い以外、サッカー観戦にぴったりの大きさ。

試合を見にきた連中がプロ！声援も騒ぎ立てもタイミングが絶妙。『ウエーブ（人の波）』[146]を作った時、貴賓席で座ったお偉いさんもちゃんと腕を振ってくれて、3周まわっても『ウエーブ（人の波）』が止まらなかったです。

146　（1）サッカーや野球などで、観客が少しずつずらして立ち上がり座る動作をすることによって観客席全体に大きな波が打ち寄せているように見せるパフォーマンス。
（2）競技場の観客席などで、両手を上げて立ち上がっては座る動作を、縦の列ごとに順々に行い、遠見に波の動きに見せるもの。
（3）人波：　大勢の人が波のように押し合って動くこと。

運動戦で３ゴール、「フリーキック」二つ、オフサイト後のゴール一つ、さらにレッドカード２枚。お得だ！

やはり都心部の球場、交通が便利。

◇◇◇バスケットボール準々決勝:（スペイン　対　クロアチア;リトアニア　対　中国）：五棵松体育館のバスケットボール館

アツ！
この“アツ”は熱情の“熱”。

１切符で２試合を見られることを、ずっと知りませんでした。入場の直前に、「二試合を見ることができる」とボランティアの少女から聞きました。リトアニア・チーム対中国チームの試合もある、めちゃラッキー！

真夏日にはやはり室内の試合が気持ちいい。

スペインが強く、クロアチアを押しつぶした一方的なゲームで、観衆も安心して観戦しました。

２試合目、中国チームの試合前の練習から、場内の空気がいきなりヒートアップしました。大勢の人が前の列に行って、シャッターを押し続けました。満場の国旗、大いに叫んだり、鋭く叫んだり、いろんな音が耳を充満しました。

試合の前、国歌斉唱の時に、満場一致で歌って、びっくりするほど。初めてこんな風景を経験したわたしは、感極まったのてした、、、

試合がまだ半分を過ぎていないうちに、たくさんの人が喉を傷めて、声を出せなくなってしまいました（中国語は「喊哑[147]」）。一つのゴールに、拍手したり、足を踏みならしたり、応援の叫び声で場内を興奮に導き、体育館が破裂しそうな勢いでした。

試合後半、リトアニア[148]のチームが自分の席の前でフリースローをした時に、私を含めた中国のサポーターたちは手元にある物を一生懸命に振ってリトアニアの選手の視線（集中力）を邪魔しようとしました。残念ですが、彼らの「ペナルティー・フリー・スロー[149]」の命中率は一向に落ちませんでした。

自分のチームを声援するほか、全身全霊で騒ぎ立てながら、相手のチームを紛らわして、プロ！

ホームの気分、素晴らしい！

◇◇野球準決勝（キューバ　対　アメリカ）：五棵松野球メインランド

野球場が臨時体育場です。オリンピックが終わったら取り壊す予定です。なので足場の上で観戦したと言っても過言ではありません。一等チケットなので、本塁まで60メートルも離れた位置。

日本の試合を見たかった。水曜日の準々決勝で延長11回でアメリカに負けました、、、

アメリカのチームはどこから集まってきたのか、よくわかりませんが、レベルが低かったです。

---

147 いっぱい叫んだ後、喉を傷めて声を出せない状態。
148 国名。
149 Penalty Free Throw

観戦者も初心者ばかり、ルールが分かる人があまりいなくて、リズム良い声援を送ることがまったくできません。わたしが期待した東京ドームの巨人戦の雰囲気に、遠く及びませんでした。がっかり！６回までキューバ４：２リードの状態で早く切り上げました（この試合の最終結果は１０：２キューバの勝）

観戦した４試合のうち、印象の一番悪い試合でした。

◇◇サッカー決勝（アルゼンチン　対　ナイジェリア）：鳥の巣で

鳥の巣は大きい！　当日、およそ９万人が来場したが、まだ空席がありました。

当日快晴、最高気温31度、湿度もそこそこ。しかし、場内がとても蒸し暑かったです。が、開会式の夜の暑さを思い出すと、心の中でちょっとバランスが取れました。人間を饅頭に例えれば、鳥の巣は世界一大きなスチーム鍋かも。選手が負傷で治療の間、ほとんどの選手が場外に集まり、水分補充をしていました。なんで試合を正午の時間にやらなければならないのですか？！

北京五輪陸上競技場『鳥の巣』

北京奥运田径运动场『鸟巢』

前文で話したア女のせいで、終始にナイジェリアに応援しました。天気のせいかもしれませんが、試合がずっとぬるま湯のような感じで、ほとんどの時間を退屈に過ごしました。観衆が「ウェイブ（人の波）」を作って遊ぼうと思いましたが、前文で話した灰色席のエリアで止まってしまいました。何回もチャレンジしたが、おもしろくなく、あきらめました。それから、あちこちの「謝亜龍[150]退陣」の声の中、楽しさがちょっと戻りました（たぶん、謝副出席がこの退屈なアルゼンチンーナイジェリア戦を憎んでも仕方ないでしょう）。

アルゼンチン人の賢いゴールで一点を取り、アルゼンチンが優勝しました。
退屈な試合に抗議及びチャンピオンチームへの不満を表明するため、表彰式の前にささっと退場しました。

=====================後書き=====================

ずっと寄せ集め型のオリンピック／アジア大会／全国運動会に保留の態度をとってきました。各種目のチャンピオンゲーム／カップ戦のほうがよほどプロでしかも精彩がある。特に国別でメダル／金メダルの競争をするのは真のオリンピック精神に反していると思いました。が、中国を世界の前にアピールするチャンスとして北京のオリンピック招致に賛成しました。

たくさんの試合を見てきました。一部の運動にもっと理解が深くなり、中国の金メダルやメダル数の増加に日々興奮しました。自分のオリンピックへの見方が相当変わりました。さもなければ、この一鍋の“卤煮[151]”があるはずはありません。

---

150 中国サッカー協会の元副会長
151 老北京人（北京地元の人）好みの味、豚の内臓の煮込み。ここでいろんな庶民的な感想を乱雑に書き出したという意味。

==================後書きの後書き==================

五輪が終わって、心の中の夏も休止符を。。。

夏を刻む印が必要です。日本に居た時は、盆踊りでした。　帰国後も大きなイベントや小さなイベントがあります。

ずっと《標準日本語》[152]で書いた大文字の鎮火で夏の終わりのしるしとすること、あこがれました。残念ですが、一度も見たことはありませんでした。

季節感というのは触れるもの、見えるものです。。。

「ラスト・サムライ」の主人公になった喬さん（合成写真）

乔靖玉成了电影“最后的武士”的主角。(电脑合成照片)

[152] 中国で日本語を勉強する教材の中、代表なものである。

著者紹介：

　喬 靖玉

　1996 年から2003 年まで日本の電子機器メーカーF 社に勤務。退社後、北京でソフトウエアの開発を担当。

　典型的なさそり座の不可解な、秘密をもった性格。真面目な時に、良く率直すぎて、相手の痛いところを着いて、たまに敬遠される。

　普段は、冗談が好き、不本意に他人を傷つけ、猛反撃されることもある。良く反省もしたが、根強い癖で、年を取っても、一向になおらない。

　1996年日本に、2003年電子機器メーカーF社を退社し、北京に帰り、自動制御と計測分野に戻った。

　大学クラスメートの中で、専門を固守しているわずか三人のうちの一人。

北京奥运狂想曲[153]

乔 靖玉

【前言】

离奥运会还好早的时候就知道想去看奥运的人肯定非常多，与其费劲巴拉地到处弄票，还不如踏实地在家看电视的好。

老婆和我一样都是“巨人[154]”的粉丝。巨人的高橋（由）和阿部在日本队里打主力，既然远道来到北京，好歹得去叫声好吧。动了去现场看看棒球比赛念头。

奥运门票的第一次抽选是网上进行的。某日闲极无聊上网登录了一个号。

以日本棒球队的实力肯定应该能进决赛，所以先申请上棒球决赛的票。棒球在国内没啥人看，自己觉得肯定能中。

既然登录进去了，顺手申请了足球、篮球的几场比赛。三大球和游泳是奥运最抢手的项目，虽然觉得肯定没戏，还是申请了估计中签率高一点儿的 A 级票。为防万一，又加了棒球的一场半决赛。本来就没太打算去现场，所以每人最大可以申请 10 场比赛，我和老婆两个人加起来才申请了 6、7 场。

好像是过了半年左右，第一次抽签结果发表了。没想到居然中了足球决赛、足球 1/4 决赛、篮球 1/4 决赛、棒球半决赛的四套双人票！虽说很遗憾没中棒球决赛。。。（最终日本甭说决赛，连个奖牌也没捞上，从结果来看，没中反倒好了。）

有关北京奥运会，各种报道、各类看法多了去了。奥运期间自己偶尔在公司内部的 Blog 上发表些奇谈怪论，汇总一下晒给大家。

【纪录】

---

[153] 原题：「信馬由繮之卤煮奥运」

[154] 日本职业棒球联盟俱乐部之一。以东京为根据地。

先是水立方，所有的运动员都不尊重世界纪录。当时我的推断是，水立方的泳池只有 49 米。

田径开始了四天，还是每天一项世界纪录。立刻明白不仅仅是水立方的随机误差，肯定是哪里有了系统误差。先怀疑奥组委的度量衡可能缺斤短两；仔细想想，北四环这嘎达[155]的重力加速度肯定小于 9　。（g：地球表面上的地心吸力约为 9.8。）

【退赛】

刘翔退赛，有人伤心，极端伤心。

吾释之：刘翔比不比赛拿不拿金牌完全是刘翔自己的『自由』。
自己高兴不高兴是你自己的『自由』为此责备刘翔『理不尽』。你又不是赞助商。

不以物喜不以己悲

下一句总想接电影《少林寺》里的台词“汝今能持否？”。

【足球】

谭望嵩那脚飞铲确实把人丢大了。

除此外，进一球得一分已经是中国足球史上仅次于杀入世界杯的最大的突破了。输给比利时太正常了。别把南非世界杯预选小组赛的折戟沉沙和国奥搅到一起。

中国足球太臭

【灰座】

155 这里（目前所在的地方）。这个词在北方被普遍使用。

与门票一起，有一本奥运观赛手册。里边有各场馆的介绍，其中包括座位示意图。一些非常好的观赛位置被涂成了灰色，不卖票。本以为是 VIP 座位和海外销售座位，实际去观赛后，才明白其作用。

确实有一部分 VIP 座位和参赛队相关人员座位（比如国足 18 人名单外的人，体操队总教练，科比、贝克汉姆）。但占绝大多数的是媒体席位。五棵松棒球场的本垒侧全部、篮球馆的北侧长边全部和东侧短边的一半、鸟巢 A 区（含部分 M 区？）开始一直到百米终点的一、二层，只有工体好一些，仅仅占用了主席台及两侧的一点座席。

我拿到了鸟巢的足球 A 票，居然是 M 区的三层，看角球最理想的位置！

还是一般的体育赛事对观赛观众更人文一些...

【Argentina 女】

换乘 8 号线去鸟巢看尼日利亚-阿根廷的足球决赛。

一对阿国情侣紧随我上车。随即操听不懂的鸟语大声聒噪，为拥挤的车厢更增添了不少烦躁。阿女突然发现座位旁栏杆，一屁股坐过去，将嘴边上的一位老兄挤出半尺远。阿男阿女相视得意大笑。

我随即决定：支持尼日利亚！

罗格说：奥运会给了世界了解中国的机会，也给人中国了解世界的机会。阿女的『おかげで』[156]，了解了阿根廷，对阿根廷人的修养也有了偏见。

一个人的所做所为，在国内可能仅代表你自己，在国外则代表了自己的国家。在国外生活的人，某种意义上心理上非常脆弱：不能容忍外国人说祖国的缺点；也对于同胞的一些行为也更为敏感。

---

156 阿女的『おかげで』：日语的表达方式，意为：多得阿女。

从 90 世界杯卡尼吉亚接马拉多纳传球单刀一击淘汰巴西，毁掉了那届世界杯后，我就开始对阿根廷怀恨在心。有了里克尔梅和梅西的阿根廷国奥，已经使心中天平拨回到了零点（*）。如果没有此阿女的话...
(*) 尼日利亚在我家楼下的首都体育学院操场训练，看了几日也渐生情愫:-)

【国力】
某日，与友人撮饭，话题自然扯到了奥运上面。
某君突发感慨：幸好 2000 年申办输给了悉尼，如果当年发生了今年这么多事，肯定办不成目前这个样子。

细细思量，颇有道理。南方冻雨、汶川地震的自然灾害，再加上藏独东突及其支持势力，没有如今强大的国力和国际影响力做后盾，真是难以想象。

不过有一点，2000 年举办的话，北京的环境肯定不像现在这么差。

【国际主义】

裁判偏袒东道主是我觉得最丢人的了。好在这方面的报道很少，自以为也比较干净。本以为世界上的矛盾的根源在于阶级、民族和宗教的差异（国家与 民族和宗教 是强烈正相关，所以从模型的主要要素中剔除掉了）。从赛场上给别国选手加油的气势上来看，这些差异都不是不可逾越的（我一直在给潮田玲子加油:-）。

【规则】
1.跨栏
看完罗伯斯百一十米栏夺冠，突发奇想：

栏间距不等距，且每次比赛前的随机确定距离

是否比赛就更有观赏性了？

2. 搏击五项全能
建议设立的奥运会新项目，包括柔道、自由式摔跤、跆拳道、拳击、击剑。

【100】
周五晚上，看完周吕钦/火亮丢了男子跳台跳水金牌。又听到了陈中被改判的噩耗，突然发现奖牌数居然有可能停在 99 块（当时，拳击的邹市明和 81 公斤、91 公斤以上均已经进入了决赛，所以非常好算。）本对奖牌数不抱太大兴趣，可眼瞅着 100 的数字，不由得...

这时候，觉得火亮仅混了个第四，真是可惜。再想想几日前对中国包揽乒乓球的奖牌不好意思，暗暗希望李佳薇赢了郭跃而没能遂愿而庆幸。

次日的赛事很少，中国参赛的项目更少。一早的马拉松开始，就在寻找是否能有中国选手进前三，很遗憾 10 好几人冲刺后才看到中国人。剩下的项目中，仅有艺术体操可能能成为中国的第 96 块奖牌。直到以色列出场前，中国确定保三进二时，我忐忑的心才算放下。这是第一次对第三名的争夺这么关心。

闭幕式后，某台回放各项目中，看到了男子射箭的团体铜牌时，南煊叹到现在真正觉得每个项目是多么的不容易...

【观赛】
搞到了四场比赛的票。
◇◇◇◇◇◇◇足球四分之一（比利时-意大利）：工体
好！
球场除了老点，柱子多了点，大小正合适。
看球的老少爷们也挺专业，加油起哄都到点儿上。玩人浪的时候，主席台上的哥们也跟着挥臂。人浪在场内转了三圈都没停下来。
三个运动战进球，两个点球，一个越位球，两张红牌。值了！
还是城里好，交通方便。

◇◇◇◇◇◇◇篮球四分之一（西班牙-克罗地亚；立陶宛-中国）：五棵松篮球馆
热！
这个“热”是热情的热。
不知道能看两场。进场前才听志愿的小姑娘说能看两场，并且是立陶宛对中国！赚大了！
还是室内的比赛舒服。
西班牙打得克罗地亚没脾气，观众也三心二意，心情很放松。
第二场，从中国队出场练球开始，场内气氛就白热化。拍照的人涌到了前面，满场国旗飞舞，大喊、尖叫声不断。
赛前奏国歌时，全场齐唱，声势惊人。第一次经此阵势，感动之余...
不到半场，许多人的嗓子都喊哑了。每进一球，全场拍手、跺脚，真有把球馆震塌之势。
下半场，立陶宛在我们这边罚球时，大家拼命拿所有能够找得到的东西挥舞干扰。可惜，立陶宛的罚球命中率太高。
除了加油，敌方进攻时，起哄干扰也非常投入，专业！

主场的感觉真好！

◇◇◇◇◇◇◇棒球半决赛（古巴-美国）：五棵松棒球主场地

临时体育场，奥运后拆除。可以说是在脚手架上看比赛。虽说是 A 票。估计离本垒也有 60 多米。

本想看日本的比赛，可周三日本在延长 11 回输给了美国...
美国不知道是从哪里找来的这么一批人，水平真一般。
观众也不专业，没几个人看得懂，更别提在关键时候的加油助威了。离我所期待的东京圆顶城（東京ドーム[157]）的巨人戦的氛围没法儿比。失望！第六回结束古巴 4:2 领先的情况下提前回家了（本场比赛最终 10:2 古巴胜）。
四场比赛中印象最差的一场。

[157] Tokyo Dome

◇◇◇◇◇◇◇足球决赛（阿根廷-尼日利亚）：鸟巢

鸟巢真大！当天来了近 9 万人，但还有不少空座。
当天快晴，但最高气温 31 度，湿度也适中。不过，场内非常闷热。想想开幕式的晚上，心里稍有平衡。把每个人比作馒头的话，鸟巢就是世界上最大的蒸笼了。有队员受伤治疗，场上所有队员都集中到场边补充水分。为什么把比赛定在正午呢？！
因为前文提到的阿女，全场一直给尼日利亚加油。也许是天气的原因，比赛一直跟温吞水一样，多数时间都是在无聊中度过。观众试图玩人浪解闷儿，到了前文说得灰座区域就断掉，试了数次后无聊作罢。其后，在全场此起彼伏的“谢亚龙下课”声中，大家算是放松了一些。（估计谢副主席恨死阿根廷和尼日利亚的无聊比赛了。）
以阿根廷人的一粒聪明的入球，阿根廷获得了冠军。
为表示对无聊比赛的抗议和对冠军的不满，发奖仪式前早早退场了。

=====================后记=====================

一直对大杂烩型的奥运/洲际运动会/全运会持保留意见，认为各类专项运动的杯赛/锦标赛更专业更精彩。特别是对以国别为单位的奖牌/金牌竞争更是觉得有违奥林匹克精神。但作为展示中国的好机会，对北京的申办赞成。
看了不少场比赛，对某些运动有了进一步的了解，也为中国的金牌/奖牌增长而兴奋。对奥运会的看法有了相当的变化。否则，也不会有这么一大锅的“卤煮”了。

===================后记的后记===================

奥运结束了，我心里的夏天也就画上了句号。
每个夏天的结束总有一些标志性的东西。在日本是盆踊舞蹈(お盆踊り)，回国后，也总有一些大事小事。一直对《标日》写到的看大文字篝火的熄灭作为夏天结束的标志非常向往，可惜一次也没有看到过。
季节感是需要摸得着看得见的．．．

作者介绍：

乔 靖玉

典型天蝎座的闷骚型。

说正经事儿时往往因”劈头盖脸、捅人痛处　（尖刻？）”，时而被人敬远。

就琐事发表意见则惯调侃，偶有伤人而遭强烈反击。

虽常有自省而生从良之念，但久有之劣根，岁徒增但未见稍减。

1996年赴日，2003年从富士通退职后归北京，还回自己的专业：『工控和计测』。大学同窗中仍不弃本专业之仅有的三人之一。

流行曲から見た「プライド」の意味

21　流行曲「PRIDE」から見た「プライド」の意味　（喬靖玉）

著者：　喬 靖玉
校正：　今村　直美

しばらく文章を書いていませんでした。 この間、猫の手も借りたい程バタバタしていましたから。 今回は、偶々人にすすめられて、自分の『何回も繰り返して考えた事』を書いてみました。

写真一：今井美樹のポスター

日本語の歌の中、《Pride》は、（聞いても）何回聞いても飽きれない歌です。

ちょうど日本に来て間もない時、この曲は流行っていました。当時は新曲であることを知らなくて、メロディから、８０年代の古い歌と思い込みました。

「今井美樹さんは『やさしい』と感じます。同僚の李珺が良く「NICE」という表現を使って、さっぱりした礼儀の正しい男の子をほめています。どうもこの「NICE」が今井美樹さんにも当てはまると思います。日本語なら、｢癒し系｣の意味と近いかな。

しかし、今の話はその歌ではなく、『Pride』この言葉の意味です。

小さい頃、初めて学んだPride の意味は『鼻の高い（骄傲）』でした。その後、気付きましたが、その女性英語教師の中国語表現力があまり正しくないせいか彼女がほ

んとうに言いたかったのは『誇り』と思います。その時の授業は何のためだったか忘れましたが、『傲慢』という意味は頭の中に暫く残っていました。

しかし、Pride という言葉を「骄傲」と翻訳しても間違っていません。中国語では、「骄傲」を『誇り』と『鼻の高い』のどちらに訳しても良いのです。先生の説明は間違っていませんでした。:-(　「絵文字」

日本に数年間滞在していて、Pride（プライド）という言葉は日常生活によく使われていることを知り、時には複雑、かつ微妙な感情を表すことができることが分かりました。しかし、殆どの場合は、『誇り』という良い意味ではありません。

この単語に関して、ずっと考えても、なかなか適切な中国語の訳文（状況によって解釈が違うから）が出来ていません。この文章の始まりの部分に『何回も繰り返して考えた事』というわけだ。

いくつかの訳文候補：（良い意味もあり、悪い意味もあります；中国語もあり、日本語もあります）

- 自尊（日中共通）
- 面子（ほぼ日中共通だが、意味が微妙に違う）
- 架子（中国語。日本語なら「高慢」、「傲慢」）
- 虚栄心（中国語。日本語なら「虚栄心」）
- 气节（中国語。日本語なら「気骨」）
- 見栄え
- 格好付け

あまり上手に使えませんが、とにかくこの言葉が結構好きです。その中で、“面子”という解釈は、結構ふさわしい場合があります（特に、中国人に使う時）。

初めてこの訳文を思い付いた時、自分をほめたいぐらいで、自慢げに妻に言ったが、共感を得られず、ちょっと残念に思いました。

今朝、地下鉄で『李嘉誠』[158] が創業者たちへの９８条のアドバイス』という文章を読みました。その中に、第27 条は“五斗米に腰を屈せず人は、どこにもいます。人の尊厳（自尊）を傷つけてはいけません。尊厳は非常に弱いものであり、簡単に傷ついてしまうから。”

自尊心というものは、強すぎると、周りの人は小心翼翼（ドキドキしながら）に付き合わなければなりません。弱すぎると、自尊心に『錆』が出来てしまって、いくら注意しても、叱っても、全く効かなくなる場合があります。（全然全く聞いてくれない場合があります）

せっかくここまで話しましたので、個人的な秘密を公開します：私は最も評価する俳優は――「杜憲」[159] さんの夫：陳道明さん」。昔の連ドラ『一地鶏毛』は自分の中でＴＯＰ３ に入るものです。当時の身の回りことをそのまま演じたので、すごく共感しました。主人公を演じた陳道明さんのほか、妻役を演じた徐帆さん [160] のファンにもなりました。

去年のドラマ『中国式離婚』は、北京テレビ局の4 チャンネル（BTV4）で初放送された時、家に帰るのが遅かったので、全部を見られませんでした。その後、地方テレビ局の再放送を見て、やっとドラマの全部を見ることができました。

主人公の宋建平[161] さんは妻の林小楓さんと別れる原因の一つもプライドだった。

---

[158] 李嘉誠（りかせい, Sir Li Ka-shing GBM KBE Commander,広東語：Li Ka Shing, 1928 年6 月13 日生まれ）は香港最大の企業集団・長江実業グループ創設者である。2008 年度世界長者番付によれば、その資産は265 億米ドルとされる。香港及び東アジア全域で最も富裕な実業家である。

[159] 杜憲：中国中央テレビ局の著名司会者（番組のアナウンサー）。夫は陳道明。

[160] 徐帆：著名女優。馮小剛の妻。

馮小剛：中国の有名な映画監督。日本でよく知られたの作品が『狙った恋の落とし方。』(中国語の映画名は「非诚勿扰」。)

[161] ドラマ『中国式離婚』の中、宋建平と林小楓は夫婦役。

この場合、プライドは「まめすぎる」、「真面目すぎる」、「小さな所に気が付き過ぎる」の意味です。

　人の行動は不思議な時がある。「プライド」を命よりも大切にしているせいで、プライドのため、親しい人を傷つけて、結局自分を傷つけてしまいました。

PRIDE[162]（原文）

乔 靖玉

好久没写点儿什么了。这段时间忙得有点儿脚打后脑勺了。今儿让人给捅咕了一下，正好把想了好久好久的一点点想法写出来。

日语歌里面，《PRIDE》是我百听不厌的一首歌。正好是我到日本之后不久，这首歌满大街传唱。不过，当时不知道是个新歌，因为旋律（当时词儿是根本听不懂）给人一种特醇的感觉，一直以为 80 年代的老歌呢。另外，今井美樹姐姐人也挺顺溜的，用李珺[163]的话说可能叫做 nice，我的理解多少有点日语“療癒系 『いやし』”的意思。

不过，今儿不是要说那首歌（谁有兴趣的话，从网上下载来，让老黄[164]课间休息时放上一周），是对“PRIDE”这个词的翻译。

小时候，学到 PRIDE 的第一个意思是“骄傲”。后来才明白，我的英语老师国文可能稍差，她真正想说的是“自豪”的意思。忘了那篇课文是说啥的了，反正我当“自大”的意思溜溜地晕了好一阵子。不过，PRIDE 也有骄傲的这个解释，况且骄傲中文的意思也能解释为自豪，老师也没错:-(

---

162 PRIDE： 日本流行曲，由歌手今井美树主唱。
（日本歌手今井美樹の流行曲。）

163 李珺：作者的同事，负责人事等工作。

164 作者的同事，负责公司 IT 工作。Tea Break（课间休息）时播放的放松音乐是老黄收集的。

后来在日本待了几年，发现『プライド』(PRIDE)这个词在日语里更常用，能表达更复杂（微妙？）的情绪。但多数时候要表达的意思没“自豪”那么崇高。这个词的贴切的中文翻译一直困扰着我，一直在收集（那个场景下的）恰如其分的译词，所以这篇文章开头，我说是“想了好久好久”。

有褒义，有贬义；有中文，有日文，

- 自尊
- 面子
- 架子
- 虚荣心
- 气节
- 見栄え
- 格好付け

虽说用不好，反正我特喜欢这个词。特别是“面子”，有些时候意外地贴切（特别是用在国人身上时）。第一次想起这个译词，着实得意了一阵子，拿去向老婆显摆，不被以为然，稍有点儿悻悻。

早晨，在地铁里看了篇文章《李嘉诚给创业者的 98 条忠告》[165]，其中的第 27 条“不为五斗米折腰的人，在哪里都有。你千万别伤害别人的尊严，尊严是非常脆弱的，经不起任何的伤害。”

自尊心这东西，太强了周围的人天天得战战兢兢地陪着小心；太弱了嘛，自尊心起了茧子，死猪不怕开水烫，说得再多再狠也不管用。

---

165 http://www.cnemag.com.cn/fenxplun/newsfx/2009-06-30/177897.shtml
从一个批发推销员到华人首富，李嘉诚的故事好比凤毛麟角。他的创业，经营，为人都被企业家们视为典范。他所悟到的商业哲学，往往被人们奉为金科玉律。

说到这儿，公开一个私人秘密：我最欣赏的男演员－－杜宪老公[166]。当年的《一地鸡毛》就特共鸣，除了陈道明，顺带脚也成了冯小刚老婆（徐帆）的非狂热粉丝。去年演《中国式离婚》，BTV4 播第一遍时，因为回家晚没看全。后来，反反复复看地方台，最后总算是凑全了。宋建平[167] 从医院辞职、和林小枫分开 的原因之一就是这个『プライド』(PRIDE)。这时候的 Pride 也多少带点儿“小心眼儿”的意思吧。

人这怪东西，有时候把『プライド』(PRIDE)看得比命还重。为了它，伤了至亲至爱的人，最终伤了自己，唉。。。

（本篇完）

2010 年夏、北海道三笠市幾春別町にて
2010 年夏天、摄于北海道三笠市儿春别町

---

166 杜宪：中央电视台节目支持人，其老公为著名影星陈道明。
167 宋健平，林小枫两人为《中国式离婚》中扮演夫妻的男女主角。

いつか東京で聞いた声

22　いつか東京で聞いた声　（古徳明）

その夜、最後の演奏をした　(Fully Charged for Last Performance)

その夜、寒くはなかったが、風がやや強かったため、ポスターが吹き飛ばされることもありました。私はあるパン屋さんの近くで場所を取って、演奏を始めました。

昨日 CD 二枚を売ったことが刺激となり、私はフルエナジーで、歌ったり弾いたりした。もうすぐ香港に帰らなければならないので、今夜は最後の日本路上ライブかもしれないが･･･

演奏スタイルは思った通りだった。40歳過ぎの女性が日本語曲を聴いてから、CD を一枚買いました･･･

また、やせて背が高くて、若い男性は CD も買った･･･

また･･･

“昔を振り返りつつ　和風の香りをゆっくり嗅いでいる”―　早大と中野駅でのデビューを顧みる　(Looking Back to Performance at Waseda University and Nakano Station)

振り返って見ると、初めて日本人の観客に演奏したのは、早稲田大学の２２号館でした。その日、自作の CD を３枚売りました。２００９年１月末のことでした。

３月１９日に、私の声は池袋の東口五差路に漂流し遠いところまで響いて広がりました。

この２ヶ月間は、自分の「音楽の旅」だった。実は、一曲目の歌が完成したのは、クリスマスイブでした。曲名は、《遅れて来たプレゼント》(英語は Late-Coming Gift)でした。もう一曲は、２００８年１１月になってからやっとアイデアができたが、１月３日に完成し、《平成 20 年鑑》と命名して、発表しました。

２月頭、東京は時々暖かい日がありました。早稲田大学で演奏した一週間後のある夜、私は中野駅で初めて路上ライブをしました。

まず、アンプリファイアーを置いて、ギターをアンプに繋いで、マイクをスタンドに固定しました。友人がデザインしてくれたリーフレットを、通行人が自由に取れるように、青い長方形のトレイ上に置きました。

写真１：自作 CD のリーフレット（ポスター）。

リーフレットのデザインを紹介しましょう。上方には雪冠の富士山の写真がありました。山麓にある民家の灯は、ホタルのように点々と光っていました。パソコンで加工した「花の海」が描かれていました。三つの風景が遠方から観客に近づいてくるような画像にデザインされました。その間に、白いシャツと黒いズボンを着た私の半身像写真がありました。「花の海」の左に立って、前に向かって歩き始めるような姿勢を取って、右手にパソコン加工で紫色になったギターを握って、チューニングキー部分には緑のタンバリンを掛けていました。「where there is a will,　there is a way」の和訳文は富士山と私の腰の間に書かれ、一番下にＣＤ名の「TACOntinue」を明記して、更に「First Single 09.1 Release」、「2009 Taco Koo 始動」などがありました。

ビーチ・チェアに座って、ギターを大腿の上に置いて、マイクを唇に近付けて、左足で緑のタンバリンを踏むのを準備していた。演奏スタート！

私は、先にジョン・レノンの《Imagine》を歌いました。生演奏を聴くような臨場感を出したいため、アンプのセッティングを調整した。次に、Maroon 5 の《She will be Loved》を歌いました。その後、ギターをおろして、手のひらの大きさのＣＤプレイヤーをアンプにつなぎ、インストルメンタルを流して、Glay の《Winter,　Again》を歌いました。英語と日本語の４曲を用意し、繰り返し歌いました。その後、目の前を素通りする人ばかりでしたが、私は自作の日本語曲を休まずに歌いました。

夜九時から十時まで通行人がいなかったかのように歌いました。当日の売り上げはゼロとなってしまいました。その後、観光旅行でお土産をいっぱい買った人のように、アンプをダンボールに入れて、キャリー カート[168]に載せました。手元に様々な荷物（演奏のための道具）を持ちながら、心の中で「この演奏は意味があったかどうか」という疑問を抱えて、２５分で歩いて家に帰りました。

新宿駅での再挑戦 (Go for My Target at Shinjuku Station)

168　キャリー カート：台車の一種

一週間後、新宿駅東南口のルミネ２号館付近で、２回目の街頭演奏を行いました。同じ配置で、夜の七時から始めました。今度は日本語学校の数人の友人が見に来てくれました。

中野駅で演奏した時は、ポスターを持っていく事を忘れました。そのデザインはリーフレットと似ていましたが、実はポスターの右下にＣＤカバーの写真を追加していました。

ポスターは透明Ａ４サイズのプラスチック製カバーに入れて、マグネットのクリップでカバーを挟んで、台車のハンドルに固定しました。
ある同級生は「CD を販売している事を知らせるため、自分のＣＤ見本を置くのはどう？」と言ってくれた。賛成！それは必要だと思いました。そして、ＣＤ見本三枚程度を見やすいところに置きました。

歌の準備は前回と大体同じで、カバー曲ばかりを演奏したのではなく、自作の二曲をもっと歌いました。覚えているのは《Imagine》と《She will be loved》を歌っていた時、数人の日本人と欧米人が目の前で止まって聴いてくれたことでした。

夜７時から９時までの間、いくつか奇妙な出来事がありました。半分酔っ払っている５０代の男性は、妙な言葉を話してくれました。もう一人の男性は、私があるバンドの一人だと勘違いして、「君はどうして一人で演奏しているの？」と聞きました。私の顔はどの路上ライブプレーヤーと似ていたのかなあ。

時間が随分過ぎましたが、私のリュックサックの中のＣＤは元のままでした。

「あなたが準備した歌では足りませんよ。皆が知っている英語曲をもっと歌おう。そうすると、もっと人に注目されるかもしれないよ」別の同級生は意見を言ってくれました。

舞台は池袋の五差路　(Music Stage at Ikebukuro)

池袋駅東口五差路には、広い歩道がありました。そこに異なる灰色の煉瓦がありました。いろいろな店が並び、レストラン、携帯ショップ、パン屋、外国語学校もあり

ました。十数本の大きな木が並んで、道の隣にバスストップがあり、タクシー停留所があり、道路のそばにフェンスに囲まれた花壇もありました。演奏している人が何人かいました。現場に着いた私は、適切な場所がすぐ見つけられなかったので、ちょっとした後、一人の演奏者と３メートルほど離れた所に荷物を置きました。そして、自分の CD 見本を茶色の長方形のトレイ上に置きました。

今度は、私は英語のカバー曲を十数曲用意し、日本語の曲は自作の２曲しか用意しませんでした。今回は、座ったまま歌わずに、立って、ギターを左肩にのせて、マイクをスイッチオンして、ギターをやや動かして、弦をピックで少し弾いて、音量を調整しました。OK だったので、ビートルズの《Across the universe》を歌いました。

私が歌っている間、エレクトリックギターを持っている二人の少女が近づいてきて、目の前で止まりました。《Across the universe》が終わったら、彼女たちは声をかけてくれました。

「あなたはビートルズの曲が好きですか？もっと歌ってもらってもいい？」

私は引き続いて《Yesterday》、《Let it be》と《Imagine》を歌いました。彼女たちは気に入っているようですが、他の曲を準備していなかったので、Green Day の《Wake me up when September ends》を歌いました。

「ありがとうございました。」彼女たちは手を振って、私のリーフレットを持って帰りました。

《Desperado》、《Top of the world》、《We are the Champions》・・・どんどん歌いました、また一人が来てくれました。

３０代の男性で、黒髪が頬を覆い、ひげが濃くて長く、手にアサヒの缶ビールを持っていました。私が《Imagine》を歌っている最中、彼の両手は、ドラムを叩いているまねをしていました。私がちらっと見たところ、彼は両手だけではなく、髪と長いひげもドラムスティックのようにしてドラムをやっていた。彼は目を閉じて、頭を横に振って、まるでアカペラで私の歌と合わせているようでした。

「あなたはどこからきましたか?」彼が声をかけました。

私は、簡単に自己紹介をして、彼と気軽に話をしました。

２時間の演奏が終わりました。夜の十時になりました。

「まだ時間があるよ」と私は思いましたが・・・

売上実現　(Break the Record)

ある日、私はだしぬけにカレンダーの３月１８日と１９日のところに「もっと売れるよう！」と書き込んで、荷物を持って、渋谷駅に向かいました。

今回、観客が私の演奏に興味を持つようになった感じがしました。何人かが立ち止って見てくれましたし、ポスターと CD 見本も注目されて、私に話をかけてくれた人もいました。若干欧米人が親切な目線で見てくれたり、デジタル・カメラで私の様子を撮影したりしていました。曲の準備は、大体池袋で歌った曲と同じでした。それはビートルズの曲でした。

「もっと売れるよう！」というモットーは本当に事実になった。街頭販売は続々記録を更新していきました。

３０代の女性に一枚を買ってもらいました。彼女は、写真を撮ってくれる台湾人の同級生に声をかけました。

「彼女が一枚ほしがっています。」台湾人の同級生が言いました。

「いくらですか？」彼女が私に聞きました。

「千円です」私は演奏を止めて、嬉しそうにリュックサックの中から CD 一枚を取り出しながらも、心の中に疑問を抱えていた：「自作曲はまだ歌っていませんよ。ど

うして買うんでしょうか？」。CD には、自作の日本語歌２曲しか入っていませんでした。それらの英語の名曲は入っていませんでした。

「ありがとう」と感謝したとたんに、彼女は急いで去って行きました。彼女の顔をあまり覚えていませんでした。　覚えているのは、彼女の素早い動作で、去っていく時と、千円札を出してくれた時。

自分はただの八百屋さんのように、お客さんに「小松菜ください。」と言われたら、代金をもらって、商品を渡したみたい。お客さんは急いで料理を作るために、すぐ家に帰ったような感じでした。

彼女は私の CD の内容については何も聞いていなかった。中身が「小松菜」であろうが「ほうれん草」であろうが、分かるかなあ？

見慣れない販売だとはいえ、路上ライブからの第一の商売でした。

暫くすると、カップル風の欧米人二人が来て、CD を買いたそうでした。

「CD には何曲入っていますか？(How many songs in your CD?)」彼は英語で言いました。

「自作の日本語曲２曲が入っています。」私も英語で答えました。

「日本語でも大丈夫です。」そして、路上ライブ第二の商売でした。

約一時間が過ぎ、夜の八時になって、二人の演奏者が近くに現れました。男性はベースを、女性はキーボードを演奏し始めました。彼らのポスターの大きさは私の数倍にも及びましたが。

女性の演奏者が突然目の前に現れ、「我々の距離は近すぎるので、順番で演奏しましょう。如何ですか？」彼女はよく化粧をして、典型的な東洋美少女でした。

この提案を悪くない案だと思って、承諾しました。それから、渋谷駅南口に二つのステージが現れた。交替でステージをスポットライトで照らしていたような光景でした。通行人の注目を浴びながら、新鮮な気分になりました。

これまで池袋と渋谷での路上ライブを経験して、私は自分の演奏スタイルを決めた。それはザ・ビートルズの曲を中心に、人々の注目をひいてから、自分の日本語曲を演奏することにしました。

CD が始めて売れた場所は渋谷でしたが、翌日の路上ライブの場所は池袋東口五差路に決めました。池袋は、渋谷よりライブの雰囲気にもっと包まれるように感じられるし、日本で路上ライブの演奏者が集まる場所でもありました。

最終回に全力で　(All Strength for the Last Performance)

写真２：　東京路上パフォーマンスの最終出演日を出発する前（２００９年。自宅の近く。）

その夜、寒くはなかったが、風がやや強かったため、ポスターが吹き飛ばされることもありました。私はあるパン屋さんの近くで場所を取って、演奏を始めました。

昨日 CD２枚を売ったことが刺激となり、私はフルエナジーで、歌ったり弾いたりした。もうすぐ香港に帰らなければならないので、今夜は最後の日本路上ライブかもしれないが・・・

演奏スタイルは思った通りだった。まず、４０歳過ぎの女性が日本語曲を聴いてから、CD を一枚買いました。

「どこからの方ですか。」リーフレットに"Taco Koo"と書かれていたので、日本人ではないと思われたようです。

「香港から参りました。」

「香港！あたし、大好きです！　おいくらですか？」リーフレットを見ながら、彼女は言いました。

「千円です。」

「ちょっと待ってね。」隣にいた彼女の友達から千円を取り、私に手渡しました。

「ありがとう。」お客さんだけど、私に感謝してくれた。この場合は、香港では、売り手のせりふと思いますが。早稲田大学で演奏したときも、CD を買ってくれた日本人は「ありがとう」と礼を言いました。

「リーフレットをもう一枚もらえませんか。」彼女が私に聞きました。

「是非是非。」

ピークモーメント[169]には、約７人はじっと立っていて、私の演奏を観賞していた。もし上から見れば、観客と私は円錐体の平面を形作っていただろう。

169 ピーク時

その中で、やせて背が高くて、若い男性はCDを買いたそうだった。

もし、日本語曲を聴いて、CDを買ってもらえたら、私は満足できる（達成感がある）と思っていた。

「千円ですか？」TACONTINUEの売上実績は再度伸びた。

ところで、TACONTINUEのCDデザインを紹介したいと思います。薄い透明CDケースを開けると、折り畳まれていた日本語曲歌詞（英語と中国語訳付）カードが見えます。カバーシートの裏面に謝辞等を記載した。CDディスクの表面には何も印刷していなかった。購入した時と一緒だった。が、ちゃんと見れば、丸い側にメーカーの名前が分かった。

一旦弱くなった風が、再び少し強くなりました。

演奏場所の近くに、路上配電箱のようなものがありました。背が低くて、ビッグサングラスをかけた、２０代の女性はそこで寄りかかって、知人を待っているらしい。パフォーマンスをスタートした時、彼女が最初からいたかどうかをはっきり覚えていませんでした。彼女はこちらに向かうと、私が気になったようでした。

「見せてもらってもよろしいですか？」演奏した後、彼女はTACONTINUEの見本のCD一枚を取りました。

開けたとたんに、その中のカバーシートが吹き飛ばされた。カバーシートは冷え冷えした風に抱きつかれて、車用道路に踊っていた。私は、見ているだけで、取り返す事をしませんでした。見本だから。

「ごめんなさい！」

「まぁ、大丈夫。」

私は気をつけて、別の見本を開けて、見せました。

「千円ですか？」TACONTINUE の売上実績は再度伸びた。

ところで、TACONTINUE の CD デザインを紹介したいと思います。薄い透明 CD ケースを開けると、折り畳まれていた日本語曲歌詞（英語と中国語訳付）カードが見えます。カバーシートの裏面に謝辞等を記載した。CD ディスクの表面には何も印刷していなかった。購入した時と一緒だった。が、ちゃんと見れば、丸い側にメーカーの名前が分かった。

一旦弱くなった風が、再び少し強くなりました。

演奏場所の近くに、路上配電箱のようなものがありました。背が低くて、ビッグサングラスをかけた、２０代の女性はそこで寄りかかって、知人を待っているらしい。パフォーマンスをスタートした時､彼女が最初からいたかどうかをはっきり覚えていませんでした。彼女はこちらに向かうと、私が気になったようでした。

「見せてもらってもよろしいですか？」演奏した後、彼女は TACONTINUE の見本の CD 一枚を取りました。

開けたとたんに､その中のカバーシートが吹き飛ばされた。カバーシートは冷え冷えした風に抱きつかれて、車用道路に踊っていた。私は、見ているだけで、取り返す事をしませんでした。見本だから。

「ごめんなさい！」

「まぁ、大丈夫。」

私は気をつけて、別の見本を開けて、見せました。

「日本語の歌詞ですか。私は作詞家（“＊＊*”）です。」外国人が自作日本語歌詞を作っていたので、彼女には意外に感じられたようだ。（日本語を十分聞き取れなかったので、“＊＊*”は、私ははっきり聞こえなかった部分です。）

彼女は本当に作詞家？
実は私の誤解でした。後の会話の中で、やっと分かったのは、彼女は作詞家ではなくて、夢は作詞家ということでした。

「TACONTINUE って、何曲入っていますか・・・カバーデザインは誰が作ったの・・・」もうちょっと話をしたら、彼女は英語で「OK・・・I・・・BUY・・・」と言いました。

風がまた吹いてきました。温度も湿度も低いが、体調は大丈夫でした。偶然にパン屋さんの掛け時計を見て、気付いた。あっ、もう３時間が経った。もうすぐ１０時になる。

別離か（Maybe a Farewell）

路上がうるさいので、アンプがなければ、こういう２ヶ月の路上ライブを行えないと思っていました。数日後、郵便局にアンプを郵送しに行きました。

「すみません、配達できるのは国内のみです。」

「どうして？」心の中でそう思ったが、アンプから「私は帰りたくないよ」と聞こえてくるように感じた。
でも、今、別の郵便局で手続きをしたことを思い出した。住所欄に「香港・・・」

《平成 20 年鑑》の歌詞

「もし次の風景はまたとても美しい
歴史の流れ
記録して
くれて」

が頭の中で浮かんでいる。

写真３：　二枚実績があった日の東京路上パフォーマンスの風景。（２００９年。Taco 渋谷駅前。）

ここに、自作の日本語曲の試聴：

1. 『遅れて来たプレゼント』WAV
2. 『平成２０年鑑』WAV

著者紹介：

古徳明（ＴＡＣＯ）

２００５年崇基哲学学科卒業。２００８年に東京にある日本語学校で日本語を学ぶ。

２００９年１月から３月の間、自由音楽人になる夢を実現するため、日本語の歌を二曲作成し、東京の街角で演奏した。自費でシングルＣＤ《TACOntinue》を発行。

写真 4:　東京路上パフォーマンスの風景[170]

170 池袋で演奏する

『時間が止まった瞬間』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）
『瞬间/暂停』
福岡市能古島　（2011 年 1 月）

写真集

２３．　映画のワンシーンのような風景　（徐爽）

２４．　春の花・夏の林・秋の葉　（Zhou LJ、Denny Ho）

映画のワンシーンのような風景

23　映画のワンシーンのような風景　（徐爽）

これまでの十数年の人生経験の中で感じた事だが、一見関連がないように思われる自然規則の中に法則（ロジック）があり、良い結果も悪い結果もその法則に従っているのではないだろうか。世の中で起きる様々な事は不思議な因果関係があり、それは人間が動かす事の出来ないものである事は時間ととも解ってくるものだ。

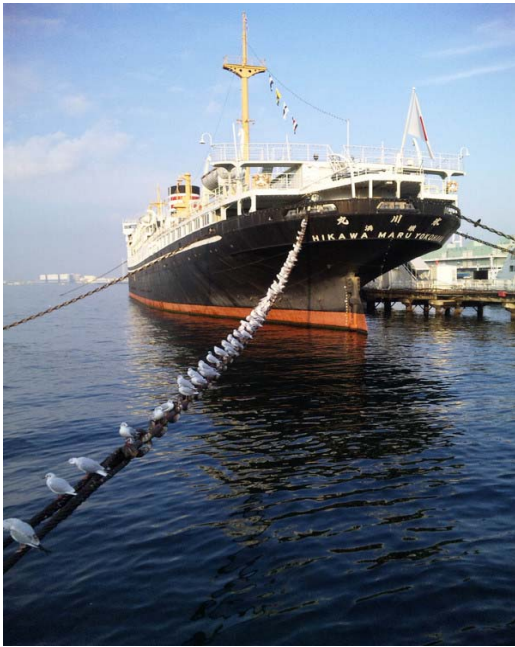
誰も自分がいつも優れているとは言えない。一方、ずっと敗者として生きている人もいないでしょう。人生がどうなっていくのかは推測しかできなく、誰の意志に従って変わることはない。

落ち込んだ時には自分が今までいったい何をやってきたのかを反省する。

この世を去る時に自分の人生が有意義だったと自分に言い聞かせることができるだろうか。

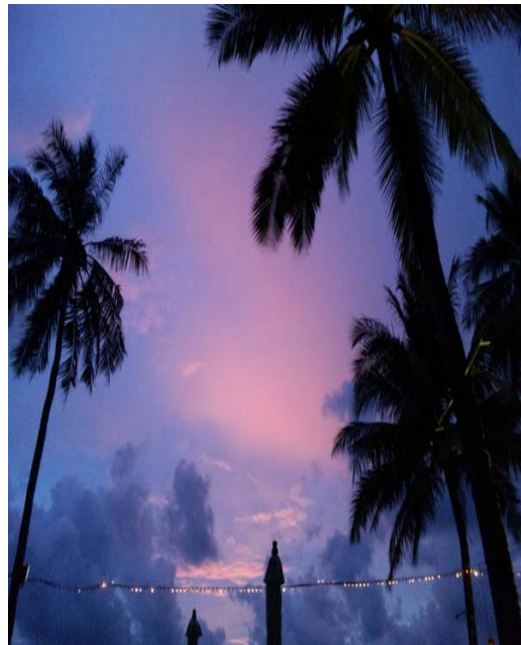
自分が偉人のように生きるなんて思ってないし、社会に偉大な貢献するなんて期待もしていない、ただ一生の時間使って命の神秘を探求したいだけ、私にとっては、この世に生まれてきたことが意義あることだ。

それ故に、旅を愛した。可能な限りどこでも行き、その中で生きた証拠を少しずつ残そうと考えた。

夏の記憶は様々な色彩がある。真夏の７月に生まれた自分にとって、この季節には特別な愛情があり、沢山美しい思い出が心に残っていた。

＜日本-横浜＞

＜日本-箱根＞

夏には心から情熱を引き出す力があるように思う。私は世界の色々な場所を訪れ、空の色を追って行く。

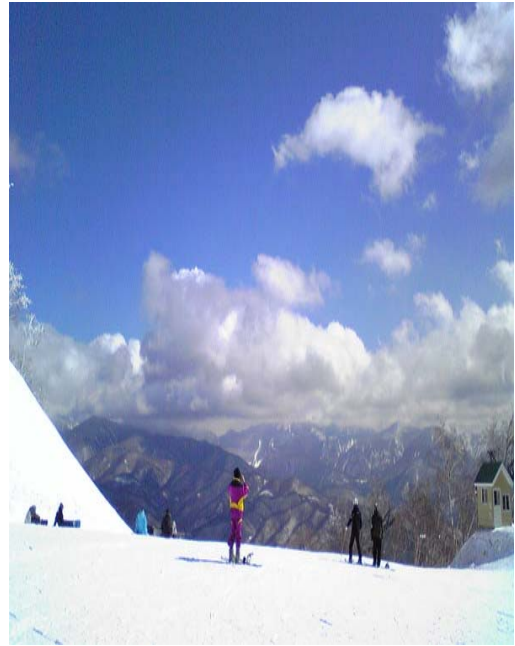
＜タイ-プーケット島＞

＜タイ-プーケット島＞

異国の地にいると、意味なく寂しくなる時が度々ある。その訳は言葉に表せないが、静かになると、思いが何にかに引っかかるとかすかに感じる。⇒かすかに心に引っかかるものを感じる。

だからそのような状態の時は自分をリラックスさせ、深い海にいると幻想し深い海の中にいるような感覚に浸り、母胎に帰ったような心地良さの中で命の神秘を感じるようにしている。

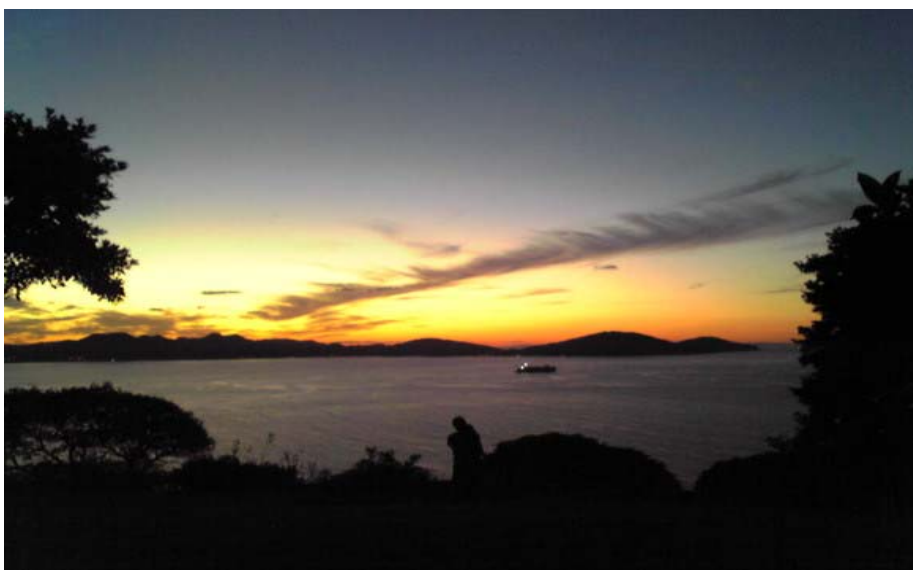
＜韓国-プサン＞　＜韓国-プサン＞

遠く望めば、風景みたい人生が人によって異なるかもしれないが、この中から自分が何を収穫したのかは一番大事なことだろうか。雲が空に浮いて漂い、風に吹かれてやってきて、川の水が油絵のように静かだ。遠い場所で風景を眺めているあなたがまた誰かが眺めている風景の中に溶け込んでいるかしら。

＜日本-富士山＞

＜日本-群馬県＞

秋、うっすら哀愁が漂う黄金色。この美しい季節の中に夕日はいろんなカラーに変わっている。

＜日本-熊本県＞

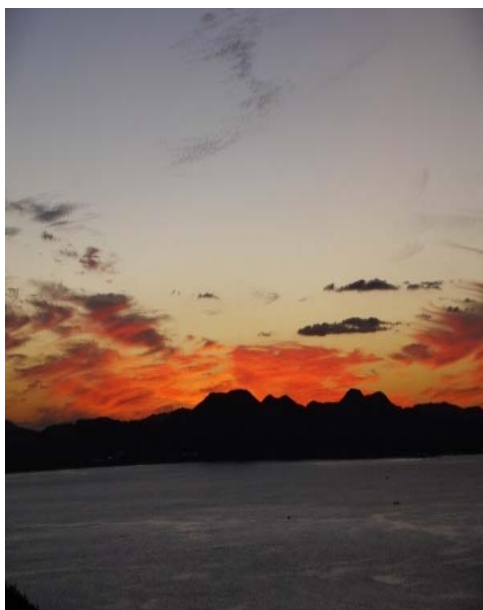
海の向こうに日が沈み始め、そして風と共に私の視野から完全に消えてゆく。

＜日本-福岡県＞

日が沈む瞬間は一番美しい瞬間である。疲れが和らぎ、いろんな思いをはせてくる。

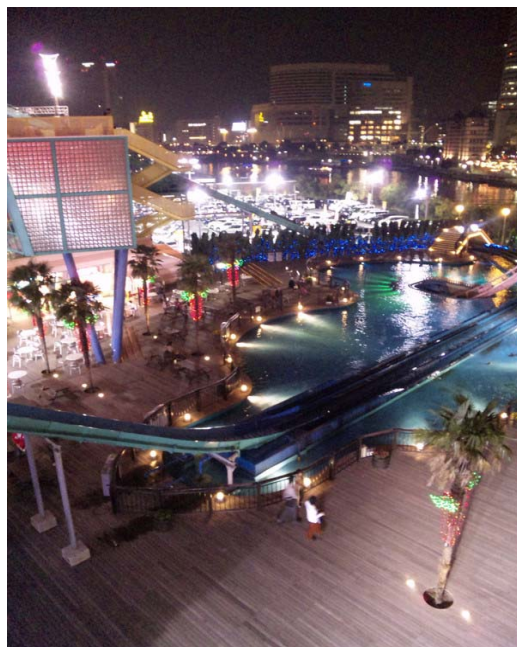
＜日本-小山＞

＜日本-日光（鬼怒川）＞

世界の隅々まで無限な色に変化していく。日が沈むに従って風景が様々な色に変化してゆく。

＜日本-福岡県＞

＜日本-福岡県＞

夕日が一瞬の美しさなら、夜の都市の光は夢とリラックスの楽しさとその美しさだ。輝くネオンが下にいる人々の生活を照らす。

＜日本−横浜＞

＜日本−横浜＞

ざわめく大都市で一人の孤独を味わうのも一種の幸せ。大都市の情熱が夜をまぶしく染めていく。

その情熱や人々の視線をすべて無視し、一人の自由な孤独を十分に味わおうじゃないか。

<日本-福岡県>　　<日本-福岡県>

雨、一晩やまなかった。町中紅葉でいっぱい。身に染みる冷たい風の向こうには冬はもう遠くない。　今年が暖冬らしい、でも一瞬の喜びは冬の寒さを完全に消せない。

ため息が瞬間に氷に変わって、風と共に去っていき、この冷たいクリスマスイブに。

＜日本-福岡県＞

花びらが舞いあがる季節を遠くから望み、ぐっと暖かい気持ちになれた。

＜日本-福岡市＞

「終わり」

著者紹介：

徐　爽　（中国語読み：XU　Shuang　日本語読み：JYO Sawa）
出身：中国・遼寧省・撫順市
個人履歴：
2003.09~2007.09 大連海洋大学・理学院・情報と計算科学専攻　理学学士学位取得
2008.01 日本に来た
2008.04~2010.03 横浜国立大学・環境情報学府・情報メディア環境学専攻　工学修士学位取得
2010.04　Ｆ社（株）・ネットワークプロダクト部・第一ソフト部（ＫＳ工場 11F）　に配属 ed
2010.11~　新人研修のため、QNT（Ｆ社博多ネットワークテクノロジーズ）に出向 ing
趣味：水泳、バスケットボール、旅行、撮影、絵画、料理作り、映画鑑賞、UFO キャッチャー(大好き!)．．．
具体的に言うと。。
　水泳：5 歳から水泳クラスに 1 年間勉強した。
　　　　（＋α)Cheung さんのお陰で第四の泳法―バターフライ泳ぎも習得した^^
　バスケットボール：大学時代バスケットボールサークルに入った
　旅行：子供時代からのゆめー“世界一周旅行[171]”、座右の銘[172]ー“挫折をバネに生きよ[173]”
　撮影：スタイル[174]―“夕日を追え[175]”“瞬間の美しざを捉える[176]”

171 环游世界
172 人生格言
173 生命在于折腾
174 個人作風

…

UFO キャッチャー：熱中した。お金がいっぱい出した。家にオモチャをいっぱい置いてしまった→　　　引越しには超タイヘン！（涙）
人生態度：楽しく生きてる生物

175　追逐夕阳
176 捕捉瞬间的美好

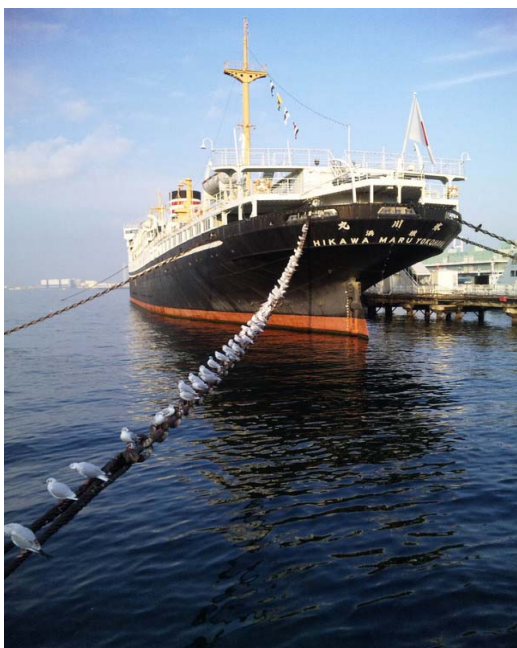
时·光电影

徐爽

数十载的人生犹如一篇流水账，在无规律的自然规律中存在其逻辑性，起起落落便是它的法则，很多事情许多年后总是会让人恍然大悟世事种种间的神奇连带性和不可违定律。没人可以说面对所有事自己都是智者，也没有注定一生的败笔角色，最终归属何处 我们只能预测而从不随任何人的意志转移。

总是在思想低潮时反省现在的自己做了些什么并在生命终结时回想一生可以坦然的对自己说它有意义。不愿像伟人般的活着，不奢望自己会对社会做出多么伟大贡献， 只是希望可以用一生的时间去探求可知世界里生命的神奇，对于我来说，来过这个世界活着可谓有意义。

所以，我爱上了旅行。踏遍可以涉足的任何角落，留下生命的点点滴滴。

每年记忆中的夏都充满了斑斓的色彩。也许是因为出生在盛夏的七月，对这个季节有着难以言表的特殊眷恋，它也是留下最多美丽回忆的季节。

＜日本-横滨＞　　＜日本-箱根＞

夏总会让人不由自主地从心底涌出一股热情，驱使着我走到世界的每一个角落去追逐天空的颜色。

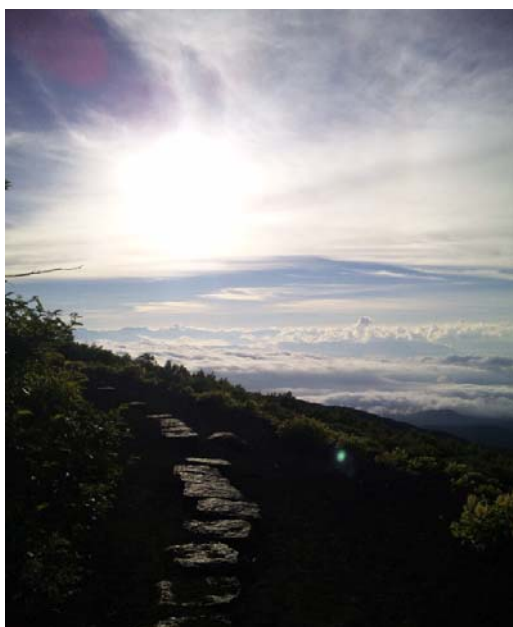
＜泰国-普吉岛＞　　＜泰国-普吉岛＞

身在异乡的自己总是有许许多多的瞬间不由自主地感伤，一种莫名的无归属感尤然而生。也许自己也并不知道原因，只是能隐约的感觉到心底似乎被什么牵绊着思绪，在每每一个人安静的时候。。。

那就让自己的身体放松，幻想自己此刻悬浮于深海，有如回归母体般的舒服，感受生命的神奇。

＜韩国-釜山＞　　　　＜韩国-釜山＞

遥望远方，在你面前的是不同的风景，而重要的是此时此刻我们得到了些什么。

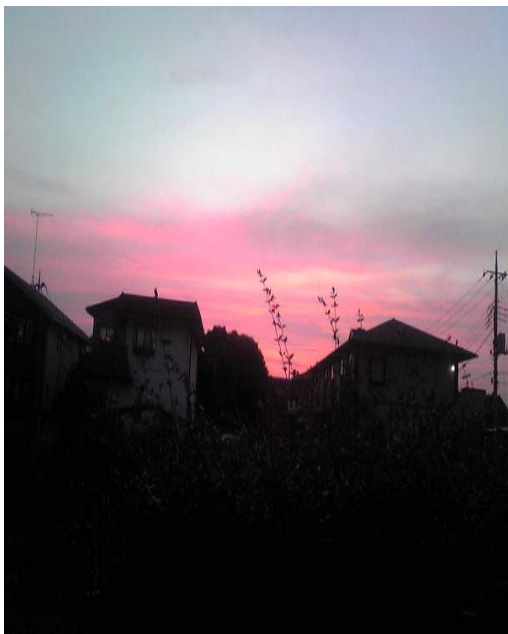
天空的云来的漫不经心，河水像油画一样安静。你站在远处看风景，而你又装饰了别人的风景。

＜日本-富士山＞　　　　＜日本-群马＞

秋，一季金黄带着淡淡的忧伤。如此美丽的季节里，赤橙黄绿之间洒下五色夕阳。

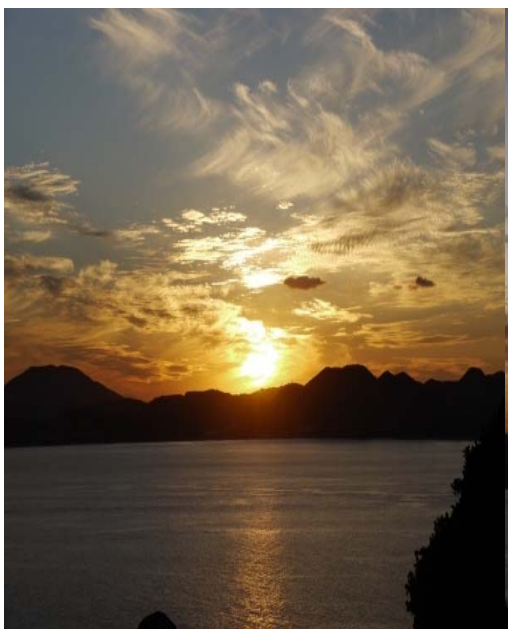
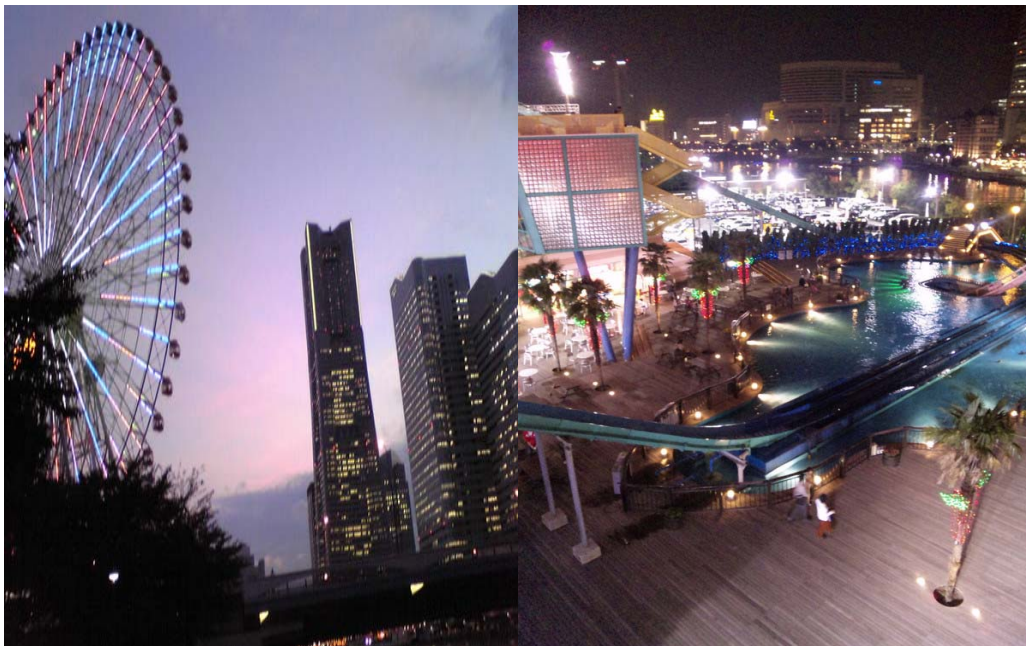
<日本-熊本>

在海的另一端独自呻吟，渐渐远去。驰骋着一阵风，远远的漂离我的视野。

<日本-福冈>

日落时分是最美的瞬间，带走所有疲惫，唤醒无限遐想。

＜日本-小山＞　＜日本-日光＞

它变幻出无限色彩，在世界的不同角落，有待你去追寻。

＜日本-福冈＞　＜日本-福冈＞

如果说夕阳是瞬间的美好，那夜就成了都市的狂欢。梦幻与诙谐化为它的美丽，在扑朔迷离的霓虹下照亮人们的脸。

＜日本-横滨＞　＜日本-横滨＞

在纷扰的大都市的人群里享受一个人的孤单也是一种幸福。试着用激情来渲染夜的黑，在每个绚烂的夜里。无视身边所有人的目光，贪婪的享受一个人的自由。

＜日本-福冈＞　＜日本-福冈＞

雨，彻夜未停。散落的红叶洒满街景，刺骨的寒风蕴意着冬的到来。

你说，这是一季暖冬，瞬间的欢愉却带不走一季的寒冷。

我在空气里叹息，瞬间变成冰凌随风飘走，在这寒冷的圣诞夜里。

＜日本-福冈＞

远远地眺望飞花飘絮的季节，一丝暖意涌上心间。。。

＜日本-福冈＞

--完-

作者简介：

徐爽

・出身：

　　中国/辽宁省/抚顺市

・个人履历：

2003.09~2007.09 大连海洋大学/理学院/信息与计算科学专业入学，理学学士学位取得

2008.01 留日

2008.04~2010.03 横浜国立大学/环境情报学府/情报媒体环境学专业入学，工学硕士学位取得

2010.04 Ｆ公司（株）/网络商品部/第一软件部(ＫＳ工场11楼) 配属ed

2010.11~至今 QNT（Ｆ公司博多网络技术公司）新人培训ing

・爱好：

游泳、篮球、旅行、摄影、油画、烹饪、看电影、玩UFO娃娃机 （I am loven it !!!）...

具体地说...

游泳：5岁时学习了一年游泳

（＋α）在Mr.Cheung的指导下，学会了第四式—蝶泳 ^^

篮球：大学时代参加过篮球部

旅行：小时候的梦想－「环游世界」、人生格言－「生命在于折腾」

摄影：个人喜好—「追逐夕阳」、「捕捉瞬间的美好」

…

玩UFO娃娃机：热衷ed。投入过大量财力，现今家中布满了娃娃→搬家时非常辛苦！（555）

・人生态度：享受生活，体味人生。

春の花・夏の林・秋の葉

24　春の花・夏の林・秋の葉　（**Zhou LJ、Denny Ho**）

春は、花が咲き誇れる季節です。夏、秋は、旅行やレジャーに最適な時期です。

私たちは、日本で撮影した花や木、及び自然の風景写真をアルバムに編集しました。皆様に自然の美を楽しんでいただくと共に、中国本土での農村教育のために協力を呼びかける事に力になれれば、幸いと思っております。

2010 年 10 月 1 日

春花 夏林 秋叶

春天是百花齐放的季节，夏秋也是旅游休闲的好时候。

我们将对日本拍摄的花木和自然风光稍做编辑，希望为您带去美丽的同时，也以我们微薄之力呼吁大家为中国的农村教育出力。

2010 年 10 月 1 日

春

梅

山花

花

夏

箱根の宿

箱根の川

林

尾瀬の湖　　尾瀬の山林　　尾瀬の湿地

秋

京都の紅葉　　　　秋の金閣寺

建物と自然の融合

高尾山

三千院の庭

著者の思い

何故、タイトルの「春の花　夏の林　秋の葉」の中に冬がないでしょうか？

理由は「中国の貧しい地域にいる子供たちは既に『冬』の中で暮らしているから」という思いです。

中国の農村教育へのご協力の呼びかけは、希望を与える季節のみ載せたいと思っております。

作者之言

为什么题目“春花　夏林　秋叶”当中没有冬季？

因为作者联想到中国贫困地区的小孩们像生活在寒冬里。

为了呼吁大家为中国的农村教育出力，作者只把寄于希望的季节的内容和照片登载。

著者紹介：

Zhou LJ
中国桂林市出身、2003年7月来日、2006年日本企業に入社。
簡約主義者（簡単、平凡な生活を求める）。
好きなこと：品茶
休日の過ごし方：
　旅行に行かないときに、近くのショッピングセンターに行くことが多い。
　料理教室に通ったり、買い物や映画を見たりして、ゆっくりと過ごします。
最近はまっていること：
　2歳の姪ちゃんを喜ばせるため、いろんなプレゼントを選んであげることです。
　（例えば、多分大人の物まねが好きな年と思いますが、
　　2～4 歳の子供用の歯ブラシでも、彼女は興味津々です。）

Denny Ho
香港出身、1985 年 4 月来日。1988 年日本企業に入社。
好きなこと：買い物（インタネットショッピング）
休日の過ごし方：
　１歳８ヶ月の子供と一緒に遊んだり、録画したテレビ番組を見たり、
Ｓｋｙｐｅで海外にいる親族とネット通信（ Video Phone ）すること。
最近はまっていること：
　特になし。

作者介绍：

Zhou LJ

出生于中国桂林市，2003年7月 来到日本。2006年进入一家日本企业工作。
简约主义者（追求简单而平静的生活）。
喜好：品茶
如何渡过假日：
　　不旅行的时候，经常到附近的购物中心。
有的时候上烹饪课，有的时候买东西，看电影，轻轻松松的渡过。

最近热衷的事情：
　　为了哄刚2岁的侄女，挑选了不同的礼物送给她。
　　（可能是刚好在喜欢模仿大人动作的年龄，
连2～4岁儿童专用的牙刷、她也很感兴趣。）

Denny Ho

出生于香港，1985年4月来到日本。1988年进入一家日本企业工作。

喜好：买东西，(网上购物)

如何渡过假日：
　　跟１岁８个月的小孩玩。看预先录下的电视节目，通过Ｓｋｙｐｅ与海外的亲戚在网上视频对话，聊天。

最近热衷的事情：
　　没有什么特别热衷的。

文集の背景に関する質問と回答
(Frequently Asked Questions and Replies)

25　文集の背景に関する質問と回答 [178]　（編集委員）

問１：本文集の著者の中に、“有名人”がいると聞きました。何方でしょうか？
答え：第５章の著者の鄭さんの事です。鄭さんは、“在日華人名人録”に掲載された華人・華僑団体（早稲田大学中国校友会）の会長を務めたことがあります。

問２：本文集の中の作品がコンテストに入選（入賞）したことがあると聞きました。どのコンテストでしょうか？
答え：ページ１５４の漫画イラストです。正確に言うと、講談社のイラストコンテストへの投稿の作品が選ばれました。ところが初選迄で残念な結果になりました。しかし二回戦（敗者復活選）にエントリーされたので希望が持てます。結果は２０１３年２月に発表されます。

問３：2012 年 12 月 12-16 日に、文集の中の一部の写真を「総合文化展」に出展されたと聞きました。その総合文化展の主催はどの団体でしょうか？
答え：神奈川県にある某企業の労働組合です。

問４：写真の撮影者は誰でしょうか？
答え：『華通会』文集の著者です（２０人の中の３人）。

問５：『華通会』はどのような組織でしょうか？
答え：　「華通会」は神奈川県にある某企業の中国出身社員が主体になって組織されています。会員の中には、中国出身社員の家族や OB 及び日本人もいます。
　様々なイベントを通じて会員の間、会員と日本社会との交流を促進することを目的とする非営利のボランティア団体です。

問６：文集の題名は何でしょうか？　文集のページ数はいくらでしょうか？
答え：題名は、「ここで、めぐり逢う　～二十人の旅物語～」です。
合計は約３８０ページ、１５万文字以上。

[178] (Frequently Asked Questions)

問７：文集は、何語で書かれているのでしょうか？
答え：日本語と中国語がメインです。どの文章にも、日本語の表記があります。

問８：文集への寄付や将来収益のある場合は、どう利用されますか？
答え：経費を除き、全て中国本土の「小学校の建設」及び「農村教育」に寄付されます。

問9：『香港中文大学校友会　中国教育基金』を寄付先に選択された理由は何でしょうか？
答え：『香港中文大学校友会　中国教育基金』に寄付する理由は、この団体の管理方法と実績がよいこと。
　管理方法が良いというのは、「寄付金を香港中文大学の給料などに使わない」、「寄付金をボランティアの旅費などに使わない」など。　つまり、寄付金はなるべく、小学校の建設や農村の小学生に使うこと。
　実績が良い一例として、本校友会が建てた小学校などは、2008 年５月の四川大震災でも死傷者がゼロでした（第一章の写真をご参考ください。）[179]。
　2010 年５月の第一回編集委員会に、編集委員が当「教育基金」を提案しました。2010年10月の第三回編集委員会で、編集委員が調べた所、当「教育基金」の実績と管理の良さを再確認して、全員が賛成しました。

問 10：誰が文集を編集していますか？
答え：編集委員が１２名います。主に華通会のメンバーです。その他、原稿のチェックに協力してくれる人がいます。

---

179 プレス・リリース資料（中国語版のみ）：
http://www.oaa-cuhk.org/newsletters/winter08/index.htm
http://www.cu.xbd.org/file.php/1/camp_book/XBD_CAMP_BK_090920_23_s_F_s_s_U_090918_0057_pubilc_version.doc

关于文集背景的一问一答

编辑委员

问 1：听说有名人参与文集的共同创作，是哪一位呢？
答：第五章的郑先生曾是“在日华人名人录”中华侨团体“早稻田大学中国校友会”的会长。

问2：听说文集中有美术漫画比赛入选作品。是哪一作品呢？
答：是第１５４页的漫画。正确来说，是日本讲谈社美术漫画比赛的参赛作品。可惜首轮赛未能入选。第二轮赛于明年 2 月发表。因为未发表，暂时不能公开。

问3：听说于2012年12月12-16日，文集里的部分图片曾参展于综合文化展。请问该“综合文化展”是哪个单位主办的？
答：神奈川县的某机构的工会。

问 4：那些照片是谁拍摄的呢？
答：是『华通会』文集里的三位作者。

问 5：『华通会』是什么组织？
答：『华通会』是以神奈川县的某机构的华人员工为主的民间团体，也包括家属和日本人的朋友。

问6：该文集名为何？有多少页？
答：名为“相逢此地　～　二十人的旅日故事”。共３８０页、全文超过１５万字。

问7：该文集是以何语言书写？
答：主要是日文和中文。而所有文章皆有日文版。

问8：文集捐款和将来的收益将作何用途？
答：2011 年 10 月编辑委员会，决定出版文集，净收益全数拨捐香港中文大学校友会联会教育基金会旗下「小扁担励学行动」，扶助中国贫困农村发展基础教育。

问9：为何选择拨捐「香港中文大学校友会中国教育基金」？
答：主要是因为该基金有良好的管理系统和建校成绩。

良好的管理包括："捐款不会用作香港中文大学的员工的薪水"，"捐款不会用作的义工的旅费" 等。

建校成绩的其中一个例子是：2008年四川省大地震后，该基金建设的学校完全无恙。由该基金资助建筑的小学校舍中没有伤亡报告。（可参考第一章的图片，和该会2009年9月18日的月报）

2010年5月第一次编辑委员会时，部分委员曾建议考虑该基金。同年10月第三次编辑委员会时，出席的所有委员一致通过拨捐该基金。

问10：谁负责编辑文集？
答：有十二位编辑委员。主要是华通会会员。另外有几位日本的朋友协助校对原稿。

後書き・謝辞

26　後書き・謝辞　（編集委員代表）

編集委員代表　張子誠

本文集は発足して以来、華通会の同輩及び日中友好関係に関心のある友達より広く支持を得て、二十数件の貴重な文章を頂く事ができました。

原稿を作成している途中で、東日本大震災に遭い、日程が一時狂ってしまい、最初に予定した時期より随分遅れてしまいました。それで編集委員たちが焦っていた時、共同著者でもある ZH 先輩が、「突発事情が起きた時は、日程を無理に合わせる必要はありません。時間よりも、文章の内容と質（レベル）を注視しなさい。」と励ましてくれました。

この熱烈な言葉を頂き、作業ペースを少しずつ戻し、難関を乗り越えて、完成段階に来ています。

やっと、後書きと謝辞を書く所までたどり着きました。

文集の謝辞を書くために、、いろいろな例文を調べました。大体は、「〇〇さんに深く感謝します。」「△△さん熱心な指導をありがとう」などの表現が多いです。しかし、私たちは文集を編集する時に、これらの「〇〇さんに感謝」の言葉より、もっと深く、もっと大切な体験がありました。

文集の質を向上させるため、投稿文章を友達に見てもらって、意見収集を行いました。

ある若い著者が書いた学生時代の経験談について、日本人の友人から次のようなコメントを頂きました：

「ある文章の中に、留学生がアルバイト先でいじめられた記述があります。バイト先の XX さんの悪口を言っているように見えます。読者の気持ちを良くするため、お世辞などの言葉も書かなきゃ。。。」

このコメントを、編集委員たちは真剣に受け止めて、周りの人達に意見を聞きました。

まず、五人の日本人に問題の文章を読んでもらいました。結果は、四人が「セーフ」、一人だけが「アウト。バイト先でいじめられた事を書かないほうが良い。」とのコメントをもらいました。

編集委員たちは苦慮しました。読者の気持ちを優先するか？それとも、事実を優先するか？

ノン・フィクション文章なので、『事実』を書かないと意味がないと皆が感じました。編集委員たちは相談した後、著者の本意を尊重し、文章の本来の姿を採用することに決めました。

さらに、東京大学の先輩が卒業論文の謝辞に書いた内容を思い出しました。その先輩は、普段と違う表現で自分の来日経歴をこう書きました：

”１９８０年代後半日本に留学に来る時、お婆さんはこう言いました『日本人は皆が悪い人だ。行くのをやめなさい。』と。　今８年間経て、私が大学院を卒業する時、お婆さんはもうこの世にいません。彼女に『今の日本は違うよ』と伝えたくてもできません。

この内容を見た瞬間に、何と『単刀直入』、『大胆不敵』な表現だと強く思いました。あまりにも唐突すぎて、日本人に悪い印象を残す心配はありませんか？　自分の指導教官に対して、失礼になりませんか？

実は、この先輩は大の親日家であり、中日・日中友好のため、いろいろ活躍されています。彼は、日本の社会を信じて、日本の将来に期待しているので、本音を言ったのではないでしょうか？　『言葉がきつい』だけで、悪意があるとは限りません。先輩は日中友好関係に深い関心を持っているこそ、この話を書いたのだと思います。

ここからは、普通の謝辞と同じ書き方にさせて頂きます。華麗な文面にはなっておりませんが、心からの深い敬意と謝意を表したいと思います。

原稿の校正にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導して下さった今村直美、加藤百合子、高橋洋子、黒沢昭子、伊沢裕美，各氏に感謝いたします。 共同著者である鎌田孝昭氏よりは終始熱心なご指導を頂きました。

写真を撮影してくれた徐爽氏、インタビューに応じて下さった鄭夢豊氏、インタビュアを担当してくれた田洪涛氏に感謝の意を表します。

矢島氏には、編集のあり方や考察の方法など、細部にわたりご指導をいただきました。

最後に、香港中文大学、香港大学の諸君と共同で製作を進め、多くの刺激と示唆を得たことを記して、諸君にお礼を申し上げたいと思っています。

あらためて、編集委員一同より華通会の皆さまに感謝いたします。

以上

后记与鸣谢

编辑委员代表张子诚

本文集从计划筹备以来，得到华通会会员与关心中日两国友好关系的朋友的支持，总共收到二十来篇内容丰富精彩的文章。

2011 年 3 月 11 日，正当编辑顺利进行中，日本的东北地区发生了大地震和海啸，编辑委员无论在工作上或是生活上都变得更加忙碌了。很多编辑的进度大受影响，无法于原定日期完成。正当几位编辑委员有点着急的时候，共同作者兼前辈张放先生跟我们说：「有突发事情时，不必盲从计划，应该以文章的内容和质量为重。」。由于得到前辈的鼓励，按部就班，终于排除万难，到达了完成的阶段。

应该是写后记与鸣谢的时候了。

为了写「鸣谢」，参考过一些书本，一般都是写几句「深深地感谢某人。」「谢谢某某的指导。」等等的话。事实上我们的创作过程中，在这些“谢谢某人“的文字的背后还有更多令人难忘的回忆。

曾经有一位朋友提出这样的评语：
「在某文章的某一段中，作者描写留学生在打工时受欺负的事，好像在说谁谁的坏话。既然读者是中国人和日本人，至少要写一点讨好两方面的话题。」

我们都非常重视这项评语，向身边的朋友问意见，并请教了五位日本人。结果四位认为没有问题，只有一位提议不要写该段关于留学生受欺负的事。

编辑委员商量过，认为应该以事实为重。如果是事实的话，我们应该接受。结果通过采用该文章，并不作任何修改，以尊重作者的原意。

收到上述的评语，让我想起东京大学的一位前辈在毕业论文中「鸣谢」的开头，用不平常的方式表达了他来到日本的经历和感想。

「１９８０年代末,来日本留学之前,祖母曾说过：『日本人都不是好人,你不要去吧！』如今来日本留学已经过去八年，大学院毕业那年,祖母永远的离开了我们。想向她解释一下『现在日本的情况已经不同。』也不可能了。。。。」

看了前辈的话，当时的感觉是他的说法那么直言不讳，是否太唐突了？会不会给日本人留下不好的印象？包括自己的指导老师。实际上，那位前辈是『亲日派』，并一直致力于增进中日两国友好关系。我认为前辈不但没有恶意，而是真正关心中日两国友好关系，对日本的社会有信心，并对日本将来的发展抱有希望，才吐露自己的感想。

最后还是用惯常的鸣谢书写方式感谢大家的支持。虽然朴实无华,却都是发自内心深处的话。

感谢今村直美老师、加藤百合子老师、高桥洋子老师、黑泽昭子老师、伊泽裕美女士对原稿校正提供的宝贵意见和协助，以及共同作者镰田孝昭先生由始至终的支持和热心的指导。

同时谢谢香港中文大学、香港大学的几位学弟学妹的参与。他们于编辑过程中提供了不少的创作灵感。

代表编辑委员特别感谢为文集提供插图照片的徐爽小姐、于百忙中抽空接受采访的郑梦丰先生、及担任并记录采访内容的田洪涛先生。

最后感谢矢岛女士对原稿的仔细审查。并再次谢谢华通会各位的支持。

中国本土での農村教育のために協力を呼びかける事に力になれれば、幸いと思っております。

華通文友会

編集：華通文友会
（华通文友会）
2012年4月